業務資料No.502

移住地概要

昭和53年度版

国際協力事業団

JICA LIBRARY
1019617[8]

国際協力事業団

受入月日 '84. 3. 22	600
	23.4
登録No. 111260	EES

はしがき

現在の「移住地概要」は、昭和４９年３月に改訂されたものであるが、この間、移住先国の社会情勢および移住地の諸事情もかなり変化しているところから、現状に即さない点も多々あるので、可能な限り最近の移住地情報の蒐集に努めるとともに、その後の新設移住地を加え、改訂したものである。

なお、部分的に若干不充分な面もあろうと思われるので、今後の改訂課題としたい。

本資料が移住関係諸機関の方々の参考となれば幸いである。

昭和５３年１０月

移住海外事業部長

目　　次

ブラジル国　政治・経済・社会 …… 1

ベレーン支部管内 …… 3

北伯　第1トメアスー移住地 …… 4

第2トメアスー移住地 …… 8

第2トメアスー移住地入植状況 …… 8

サンルイス近郊 …… 12

モンテ・アレグレ移住地 …… 17

ベラビスタ移住地 …… 20

アルタミーラ移住地 …… 24

グアマ移住地 …… 28

アマパー移住地 …… 31

トレーゼ・デ・セッテンブロ移住地 …… 34

キナリー移住地 …… 38

エフゼニオ・サーレス移住地 …… 42

アカラ移住地 …… 46

レシーフェ支部管内 …… 50

中伯　ピ　オ・１２世移住地 …… 51

ピウン移住地 …… 54

プナウ移住地 …… 57

リオ・ボニート移住地 …… 60

ウナ移住地 …… 64

カーボ移住地 …… 68

イツベラ移住地 …… 71

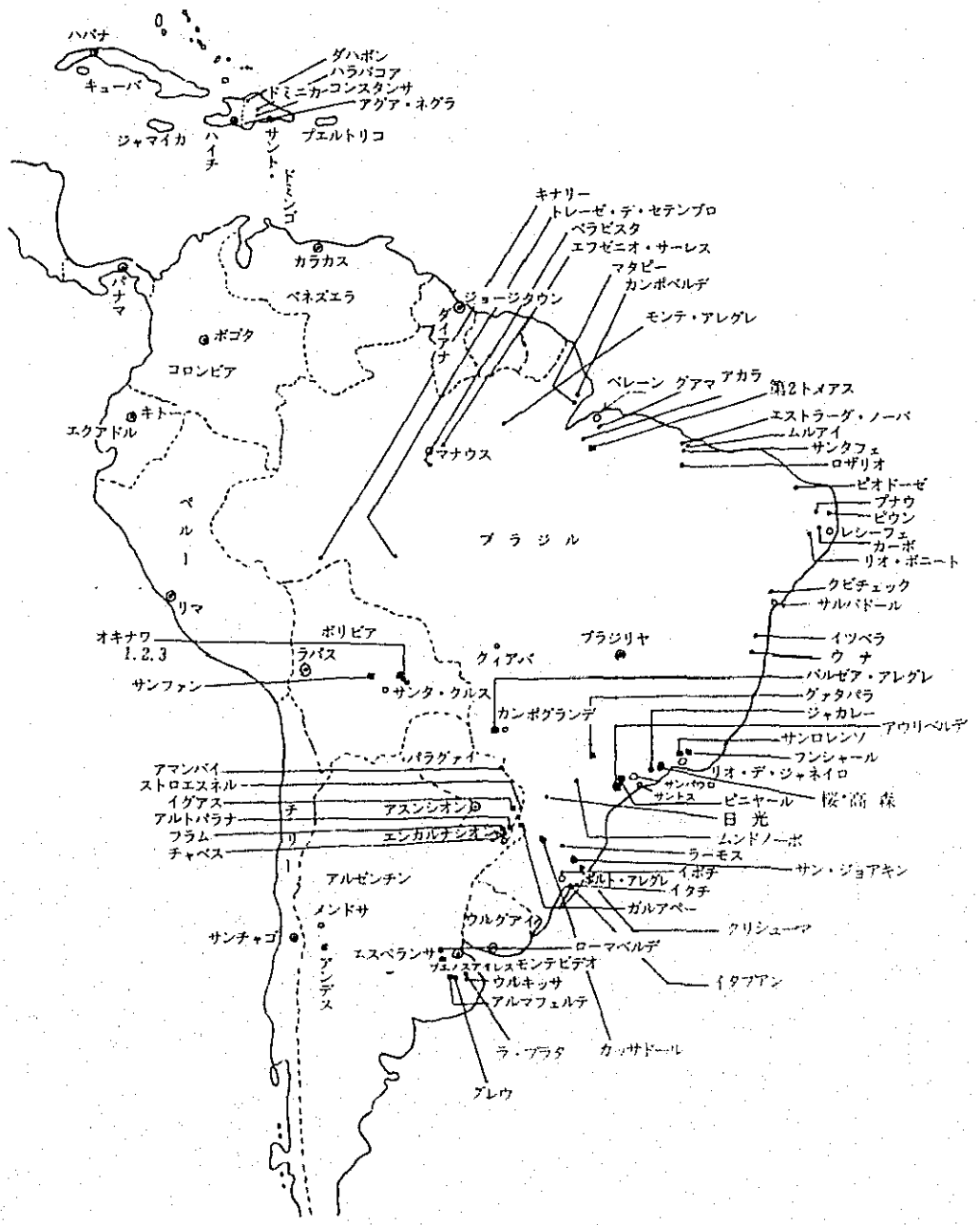
クビチェック移住地 …… 74

ガビラーバ移住地 …… 77
タペロア移住地 …… 80
リオ・デ・ジャネイロ支部管内 …… 83
南伯　フンシャール移住地 …… 84
サンロレンソ小移住地 …… 86
サンパウロ支部管内 …… 89
南伯　ジャカレイ移住地 …… 90
グァタパラ移住地 …… 94
ピニヤール移住地 …… 99
バルゼア・アレグレ移住地 …… 103
ムンドノーボ移住地 …… 107
日光移住地 …… 110
桜・高森移住地 …… 114
アウリベルデ移住地 …… 117
ポルト・アレグレ支部管内 …… 122
南伯　ラーモス移住地 …… 123
イボチ移住地 …… 127
イタチ移住地 …… 130
イタジャイ移住地 …… 133
カッサドール移住地 …… 136
バジェー移住地 …… 139
クリシューマ移住地 …… 142
サン・ジョアキン移住地 …… 145
イタプアン移住地 …… 148
アルゼンチン国　政治・経済・社会 …… 151
ブェノス・アイレス支部管内 …… 153

ガルアペー移住地 …… 154
アンデス移住地 …… 157
エスペランサ移住地 …… 162
アルマ・フェルテ移住地 …… 164
ローマ・ベルデ移住地 …… 167
マルコス・パス移住地 …… 170
エル・パット移住地 …… 172
セラージャ移住地 …… 175
エル・チャニヤール移住地 …… 178
ラ・プラタ移住地 …… 181
グレウ移住地 …… 184
ブェノス・アイレス市近郊移住地 …… 186
パラグアイ国　政治・経済・社会 …… 188
アスンシオン支部管内 …… 190
フラム移住地 …… 191
チャベス移住地 …… 196
イグアス移住地 …… 199
イグアス移住地入植状況 …… 203
アルト・パラナ移住地 …… 204
アルト・パラナ移住地入植状況 …… 209
ラ・コルメナ移住地 …… 210
ストロエスネル移住地 …… 214
アマンバイ移住地 …… 217
ボリビア国　政治・経済・社会 …… 222
サンタ・クルース支部管内 …… 224
サンファン移住地 …… 225

オキナワ第1移住地 …… 230
オキナワ第2移住地 …… 236
オキナワ第3移住地 …… 241
ドミニカ国　政治・経済・社会 …… 246
サント・ドミンゴ支部管内 …… 248
ダハボン移住地 …… 249
コンスタンサ移住地 …… 252
ハラバコア移住地 …… 256
アグアネグラ移住地 …… 259

移住地位置図


ハバナ
キューバ
ダハボン
ハラバコア
ドミニカ
コンスタンサ
アグア・ネグラ
ジャマイカ
ハイチ
サント・ドミンゴ
プエルトリコ
カラカス
パナマ
ベネズエラ
ボゴタ
コロンビア
エクアドル
キト
ペルー
リマ
キナリー
トレーゼ・デ・セテンブロ
ベラビスタ
エフゼニオ・サーレス
マタピー
カンポベルデ
ジョージタウン
ダイアナ
モンテ・アレグレ
マナウス
ベレーン
グアマ
アカラ
第2トメアス
エストラーグ・ノーバ
ムルアイ
サンタフェ
ロザリオ
ピオドーゼ
ブナウ
ピウン
レシーフェ
カーボ
リオ・ポニート
ブラジル
クビチェック
サルバドール
イツベラ
ウナ
バルゼア・アレグレ
グァタパラ
ジャカレー
アウリベルデ
サンロレンソ
フンシャール
リオ・デ・ジャネイロ
サンパウロ
サントス
ピニヤール
桜・高森
日光
ムンドノーボ
ラーモス
サン・ジョアキン
イポチ
ポルト・アレグレ
イタチ
ガルアペー
クリシューマ
ローマベルデ
イタプアン
モンテビデオ
ウルキッサ
アルマフェルテ
カッサドール
ラ・プラタ
ブレウ
ボリビア
ラパス
ブラジリヤ
クィアバ
オキナワ
1.2.3
サンファン
サンタ・クルス
カンポグランデ
パラグァイ
アマンバイ
ストロエスネル
イグアス
アルトパラナ
フラム
チャベス
アスンシオン
エンカルナシオン
チリ
アルゼンチン
メンドサ
サンチャゴ
アンデス
ウルグアイ
エスペランサ
ツエノスアイレス

ブラジル国

〔政　治〕

ブラジルの政治的独立は，他のラテンアメリカ諸国に比べ若干おそく1822年達成された。1822年のポルトガル本国よりの独立以来，地方地主の勢力関係の上に立つボス政治が中央の政治を牛耳っていたが，1930年（昭和5）革命で勝利を得たゼツリオ・バルガス政権が，旧来の陋習を破るべくあらゆる近代化への道に努力した。その後何度も政権が変ったが，この近代的民主政治の流れは1964年（昭和39年）の軍事革命政権樹立まで継続した。

第二次世界大戦後，ブラジルの工業化は急速に進み，サンパウロ，リオ等の工業地帯の実業家達は経済力をたくわえ，政治的発言力も強くなり都市の労働者階級の政治的意識も高まってきた。しかし広汎な工業開発や，首都ブラジリア建設に見られるような大胆な投資を敢行し，かつ放漫な経済政策のあったことも原因し，財政的な破綻をきたし，巨大なインフレーションをひきおこした結果，軍事革命政権の成立を招来したのであった。1969年（昭和44年）メジン大統領就任以後，実際の政治経済担当者に文官技官（テクノクラート）を積極的に採用し，専ら経済政策を優先させインフレ抑圧と経済成長率上昇に努力した。その結果100％を越えるインフレ率も，1973年（昭和48年）には13％台に下がり10％を越える経済成長率を3年連続して成し遂げ，ブラジルの奇蹟とまで言われたが，オイルショック以降，国内石油消費量の86％を輸入に頼るブラジル経済も影響を受け，かつ石油危機によって生じた先進諸国の不況から，ブラジルの輸出が振わなかったことゝ相まってインフレの再燃を余儀なくされ，この抑圧こそブラジル経済の当面する課題の一つとなっている。

ブラジルは代議制による連邦共和国で，広汎な自治権を有する22州と1連邦都4直轄領からなっている。国家の組織は行政，立法，司法の三権分立制をとっているが，軍事革命政権以来行政権が立法，司法に対し優位を占めている。

連邦の行政権は大統領が行使し，その任期は5年である。各州の地方行政は連邦憲法の定める諸原則に従い，広汎な自治権を有し政治機構は三権分立となっている。

上院下院とから成り，上院議員の定数66名，下院議員は州ごとに登録された有権者数に応じ夫々決められる。

政党は，ARENA（全国革新同盟）とMDB（ブラジル民主運動）とがあり，最近の中央地方両分野における野党MDBの著しい進出にもかゝわらず，未だ国会での勢力分野は前者の与党が強く，また共産党は非合法である。

〔経　済〕

ブラジルの奇蹟と呼ばれた経済成長の結果，1976年における国民1人当り国内総生産は1,178ドルに達し経済成長率は8.8％を達成した。アルゼンチンやメキシコと並んで工業化を促進し，先進国の仲間入りを目ざして努力しているが，極端な地域格差がその経済発展を阻害していることも否めない。

（農　業）　ブラジル経済に占める農業部門の地位は，生産性が低く輸出競争力が弱い上政府の工業化優先策により次第に低下して来ているものの，重要性はいぜんとして大きい。2億9,414万ヘクタールの農牧地帯は，主として東南部，南部及び中西部に偏っているが，小麦以外は国内で自給できる。最近の農業生産面

で特徴的なことは，コーヒー生産の頭打ち傾向に対し，大豆，サトウキビ，トウモロコシ，棉花等の生産増加が著しいことで，ブラジルの農業生産はコーヒーから食糧に転換し始めたといえる。

小農生産，移動農業，地域格差，低生産性等の問題を抱え，農業の近代化を目ざして政府は重点施策を打ち出している。即ち農地改革，補助金的な融資の促進，改良種子の配布，農業知識の普及サービス，市場開拓，流通機構の整備などである。

（工　業）　ブラジル経済の近年の目ざましい発展は工業が軸となっている。1964 年の革命政権成立以来 14 年間に，工業生産は粗鋼が 300 万トンから 1,100 万トンに，自動車は 17 万台から 100 万台にと飛躍的な発展を示し，飛行機や兵器も生産するようになり 1977 年度輸出総額 121 億ドルのうち工業製品は49 億ドルを占めるに至った。又特に注目すべきは，埋蔵されている鉱物資源の開発に伴う各種の生産計画である。急激に伸びている鉄鋼需要に対しアマゾンの鉄鉱山の開発，或はボーキサイト鉱床の発見による壮大なアルミニウム製錬計画，或は一貫したパルプ生産等々多種多様である。また石油の掘削事業も近年急ピッチで進められている。

〔社　会〕

ポルトガル人は，ブラジル最初の植民者でこの国の根幹をなす民族であるが，それ以前に土着のインディオが存在し，その後アフリカから導入された黒人が加ってこの国民の土台を形成した。１９世紀に入ってからイタリア，スペイン，ドイツ等の欧州移住者，また２０世紀に日本人等アジア人も移住しこれらが混在し新しい型のブラジル人が生じつつある。国語はポルトガル語でまた国民の大部分はカトリックを信奉している。そして国民性は潤達寛容で人種的偏見はうすい。

初等，中等教育あわせて８年間が義務教育年限で，高等教育は３年，大学は３～６年である。国の優先施策として政府が力を注ぎ取り組んでいるのは文盲問題であり，その効果が顕著で現在では文盲率は 16 ％に低下している。国土面積は 851 万２千Km²　１億１千万人の人口を抱え人口抑制策はとっていない。サンパウロ，リオ等の大都市に人口が集中する傾向にあり，公害過密問題が生じている。

広い国土は豊かな資源に恵まれているので，国民は楽天的で陽性で社交性に富んでいる。リオのカーニバルは黒人が中心の祭りであるが世界的に有名で，スポーツはフットボールが盛んである。

食事は南部では米とパンが常食であるが，北部ではマンジョカが多く，またうずら豆に似たフェジョンを食する習慣がある。

I　ベレーン支部管内

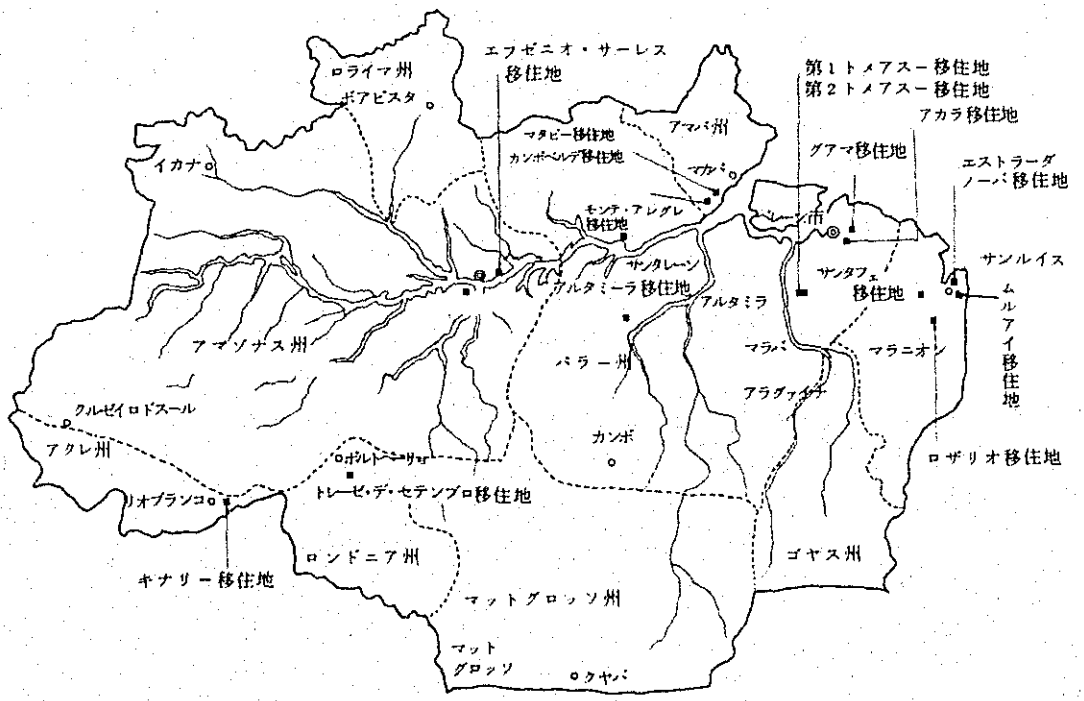
支部機構

ベレーン支部（ベレーン市）

- マナウス支所（マナウス市）
- 第2トメアスー事業所（第2トメアスー移住地）
- アマゾニア熱帯農業総合試験場（　〃　）

管轄州

パラー，アマゾナス，アクレ，マラニヨン，ピアウイの5州，アマパ，ロライマ，ロンドニヤの3直轄州及びゴヤス州北部



移住地名　第1トメアスー

1　地区概要

所在地	所在地	パラー州トメアスー郡 MUNICIPIO DE TOMÉ－AÇU, ESTADO DO RARÁ
	管理者	トメアスー産業組合
	入植開始年度	昭和4年

経緯	経緯	昭和4年南米拓植株式会社の移住地として発足，戦前352家族の入植をみたが営農上の失敗やマラリヤの発生等により退耕者多く，89家族が定着，戦後ピメンタの栽培に成功，飛躍的発展をとげた。現在約1万トンを生産し，北米・ヨーロッパ・アルゼンチンに輸出している。戦前移住者の大部分は会社から土地分譲を受けて入植したが，戦後は戦前組の農場へ雇用契約終了後，雇用主の援助又は事業団融資等により独立するケースが多かった。入植者の営農は，殆んどピメンタ単作であったが病害問題が起り，他地区への移転，地区内奥地への飛地栽培など代替地を求めて，人の動きも激しかった。1973年前後から，カカオ，マラクジャ，メロン，マモン等が導入され，多角経営にと移行。現在は生活，営農共に安定している。

自然条件	位置	W 48°50′　S 1°50′
	地形	標高11～30m（平均20m）概ね平坦地区内をアカラ河の支流クシュー川及びアカラミリ川が横断している。
	地質・土壌	ラテライト系の肥沃度中程度の土壌で，表土は比較的有機質に富む暗灰色砂壌土，埴壌土。
	植生・林相	熱帯性原生林に覆われ，アカブー，マサロンドウーバ，ジャラナその他の有用材も若干混在している。
	気候	熱帯性の高温多湿なるも，（年間平均27.2℃）ベレン周辺よりは乾湿の変化が顕著である。雨期は12～5月，乾期は6～11月，平均年間降雨量2,500㎜。

社会条件	交通	道路網の開発が進むにつれ，往年唯一の交通路であった270Kmの水路（アカラ川）が廃れ気味となり，又一昔前に盛んであった空路テコテコ便も客が少なくなったため，定期便を廃線としている。 一方，陸上交通は，北へはトメアスー→コンコルヂャ→ブジャルー→（フェリーで渡河）→サンタ・イザベル→ベレンに至る全長約220Kmの州道PA140号線と，トメアスー→コンコルヂャ→（フェリーで渡河）→クワレンタオイト→ベレン・ブラジリア国道→ベレンに至る全長約320Kmの州道PA252号線の2本と，南へは第2トメアスー入植地経由，パラゴミナスでベレン，ブラジリア国道に接続の全長約100Kmと合計3本があり便利である。定期バスも1日6便運行している。

社会条件	市場	最寄りの市場のベレン市は，人口77.6万人（1975年調査I.B.G.Eより）を擁する赤道下としては世界最大の都市で，産物の大半がここで消費，又は州外移出や国外輸出がされている。 トメアスーの主産物であるピメンタやカカオは，大半が輸出向けで，北米，ヨーロッパ，アルゼンチン等が主な市場となっており，メロン，マモン，マラクジャ等は，ベレン市で消化されない分が，サンパウロ，バイヤ，フォルタレーザ等広く南伯諸都市を市場としている。
	医療・教育	昭和49年11月には州立病院が完成され，医療業務に当っている外，ベレン援協の日系医師が定期的に巡回している。域内に小学校が4校，中学校が1校ある。
	治安	州政府派遣の警察官がトメアスー町に常駐しており，トメアスー郡全体の治安を管轄下においている。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）										
	年度度	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	戸数	29	77	71	6	6	6	6	30	35
	人員									
	年度	37	38	39	40	41～52		現地入植者	合計	定着数
	戸数	4	1	1						252
	人員									1.437

昭和53年3月末

総面積	50,000ha
ロッテ面積	25ha
電気・飲料水	49年11月アグアブランカ地区に発電所が完成。 各地区において配電工事中（3相3300ボルト60サイクル）飲料水は10m～20m程度の深さで水を得ることが可能であり，自家掘り井戸で賄っている。
地区内道路	幹線は砂利道の州道，支線は盛土である。
主なる事業団援護施設	小学校1
組合等所有施設	組合事務所本館1（3階レンガ建），倉庫4，乾燥機1，発電施設1，給水施設1，機械修理所1
車輌・機械等	大型貨物トラック4，普通トラック3，タンクローリー1，乗用車2

3 営農

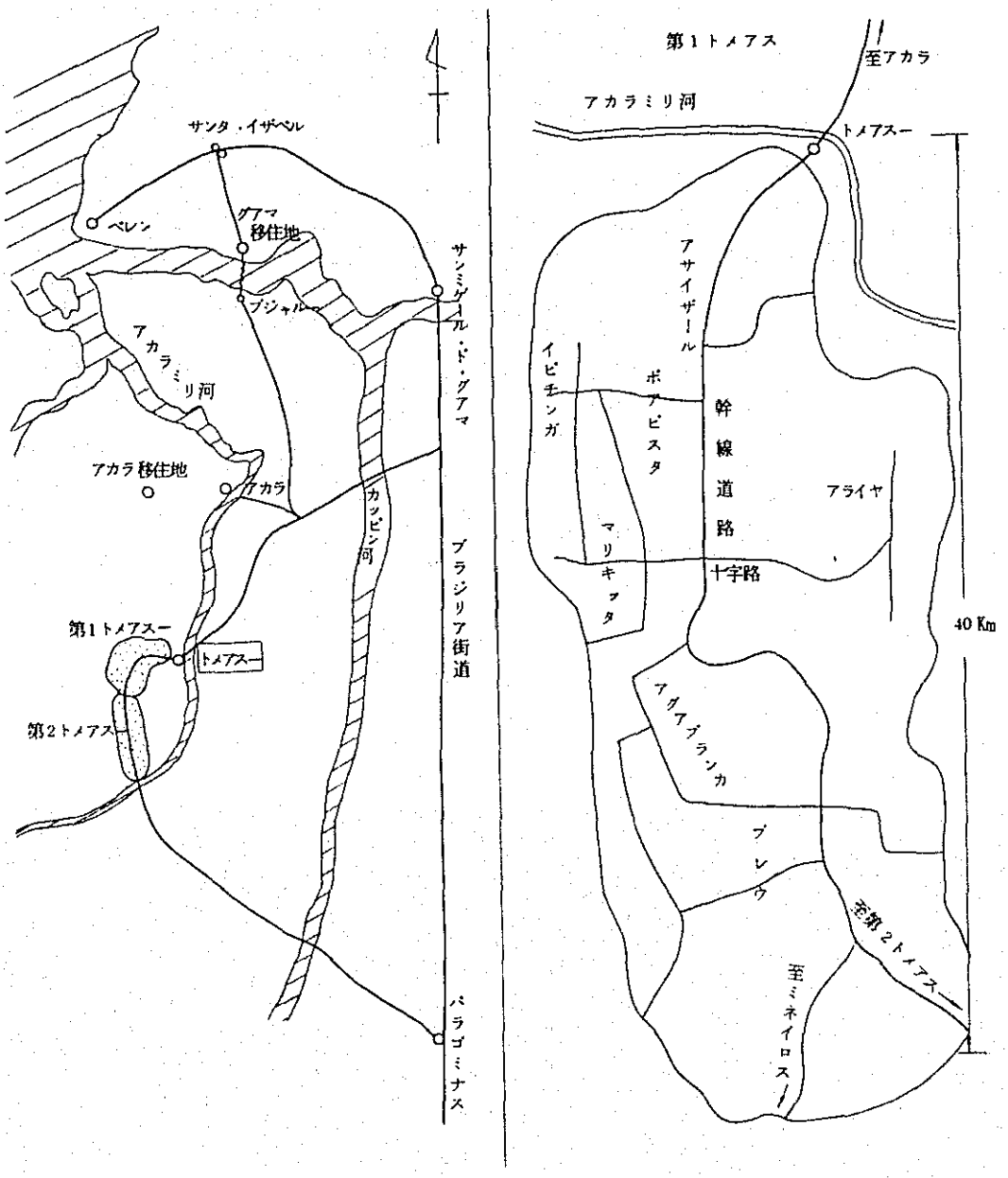
主作目	胡椒，カカオ，マラクジャ，マモン
営農状況	従来トメアスー地区の営農は胡椒の単一栽培によりなりたって来たが，根腐病，胴

	枯病等の病害の関係から，あらためて当地の農業経営の検討がなされ，その第1段階としてカカオの導入がはかられ，昭和49年来現在140万本が栽植されている。またトメアスー～パラゴミナス間州道PA256号線や，トメアスー～ベレン間州道PA252号線及びPA140号線の完成による影響でベレン市場を対象としたそ菜や養鶏，又遠く南伯市場を対象とした熱帯果樹など，近郊農業の様相も加味して農業形態が多彩となっている。
農機具等の普及状況	トラクター1,1台，トラック0.7台，乗用者0.4台，乾燥機0.1台，エンジン1.5台，トレーラ0.3台（昭和52年度調べ農家1戸当平均）
営農の指導機関	トメアスー産業組合農事部 パラ州農村信用援護協会（EMATER－PARÁ） 事業団アマゾニア熱帯農業総合試験場
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	トメアスー産業組合を通じ，ベレン市をはじめ，国内ではサンパウロ，バイヤ，フォルタレーザなど，国外では北米，ヨーロッパ，アルゼンチン等世界各地に輸出されている。
農家所得（1戸当り平均 52年度）	5,257千円（263,469 Cr$）

4 組織活動

自治会	「トメアスー文化協会」を組織しこの下に各地区会があり，教育・文化・衛生・土木・治安等の事業を行っている他に，トメアスー青年会，二世会，4Hクラブ，婦人会等がありそれぞれ地区全域で活動を行っている。
（郵便）	A Associação Cultural do Tome－Açu a/c C.A.M.T.A Caixa Postal 39, Belém－Pará Brasil
農協	「トメアスー産業組合」はトメアスー十字路地区に本部を置き集荷調整購買所，肥料部，農機部の諸施設を設置し他に農事部，運輸部がある。 ベレン支店は海外市場との取引，銀行関係胡椒輸出購買品の仕入れ等またサンパウロ支店は胡椒の国内販売，商品の仕入れ渉外等の業務を行っている他ベレン市のCEASA（パラー中央卸場）に売店を設置，そ菜，鶏卵などを販売している。 又，組合法の改正により，郡部からの組合加入が可能となったことから，ベレン近郊にも組合員が増加，これを対象とした事務所，大型倉庫をカスタニャール市に建設するなど，活発な動きを見せている。組合員342名である。
（郵便）	A Cooperativa Agricola Mixta de Tome－Açu Caixa Postal 39, Belém－Pará Brasil

5 地 区 略 図


サンタ・イザベル
ベレン
グアマ移住地
ブジャルー
アカラミリ河
アカラ移住地
アカラ
カッピン河
第1トメアスー
トメアスー
第2トメアスー
サンミゲール・ド・グアマ
ブラジリア街道
パラゴミナス
第1トメアス
至アカラ
アカラミリ河
トメアスー
アサイザール
イビチンガ
ポアビスタ
幹線道路
アライヤ
マリキッタ
十字路
40 Km
アグアブランカ
ブレウ
至第2トメアス
至ミネイロス

移住地名　第2トメアスー

1　地区概要

所在地	所在地	パラー州トメアスー郡 MUNICIPIO DE TOMÉ－AÇU, ESTADO DO PARÁ
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	昭和34年トメアスー産組は，同移住地入植30周年の記念事業として，後続移住者を受入れ，ピメンタの増産を図ることを目的とし，新たな移住地の創設を計画した。この事業は，その後旧移住振興会社が引継ぎ，昭和35年末旧パラー州有地の譲渡を受け，直営移住地として移住地の建設が始まった。この移住地の問題は，ピメンタの単作に近い営農形態であり，この価格に相当な変動があるため，経営が不安定な面もあることから，最近はカカオ，畜産，香料作物等を組み合わせた経営が研究されている。現在地区内に事業団第2トメアスー事業所，アマゾニア熱帯農業総合試験場，及び直営診療所がある。

自然条件	位置	W 48°20′　S 20°30′
	地形	第1トメアスーに同じ
	地質・土壌	第1トメアスーに同じ
	植性・林相	第1トメアスーに同じ
	気候	第1トメアスーに同じ

社会条件	交通	トメアスーに隣接し，特に昭和48年移住地内にトメアスー～パラゴミナス間州道PA256号線が敷設された事から道路事情は第1トメアスーに準ずる。バスの定期便は1日1便である。
	市場	第1トメアスーと同じ
	医療・教育	事業団直営の診療所があり，医師1名，看護婦3名が常駐していて，救急車1台が配置されている。ベレン援協よりの巡回診療も随時実施されている。マラリア等の風土病は近年殆んど発生を見ていない。 地区内には事業団交付金で建設した小学校が2校あり（4年制），教師8名が配属されている。生徒は自転車，徒歩等で通学。中学校は地区外トメアスー町に1校あり，事業団貸与のスクールバスで通学，他はベレン市に寄宿通学している。就学状況は一般に良好であり高校進学者も近年増えている。また大学進学者も毎年2～3名が出ている。
	治安	地区内3カ所に警察官が3名（うち州警官1名）常駐しており，事業団より治安用オートバイ各1台が貸与されている。治安状況は良好である。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	戸数		8	2	4	17	11				1
	人員		37	16	23	72	42				2
	年度	47	48	49	50	51	52	現地入植者合計定着数			
	戸数	5	2		5	3					130
	人員	17	8		17	12					507

昭和53年3月末

主なる出身県名	青森	宮崎	栃木	秋田	東京	山形	群馬	広島	その他	合計
戸数	27	20	7	6	7	5	5	5	48	130

総面積	25,800 ha			
ロッテ面積	25 ha			
分譲条件及び価格	（一括払）250,000円 （分割払）頭金25,000円　4年据置5年払　年賦金45,000円			
分譲可能面積	22,000 ha			
分譲状況（ha）	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	12,137.4	9,862.6	411	3,389
地権交付	421ロッテ中　取得済225ロッテ　手続中7ロッテ			
電気・飲料水	電気は自家発電（110ボルト使用），飲料水は13m～25mの深さで水を得ることが可能であり，自家掘り井戸で賄っている。水質良く水量は豊富。電化は目下INCRAにて農村電化計画に折り込むべく検討中。			
地区内外道路	47年に第2トメアスー～パラゴミナス間州道PA256号線が開通し，続いて域内及び第1トメアスー幹線道路，ブジャルー経由州道PA140号線等が次々と巾員10m位砂利舗装で完成し，道路状況は良好となっている。域内支線も事業団の手により砂利舗装している。			
主なる事業団援護施設	小学校2，教員宿舎4，診療所1，医師宿舎1，看護婦宿舎1，警察屯所3，移住者宿泊所3			
車輌	救急車1，治安用オートバイ3，営農改善用ブルトーザー2，トラック2，ショベルローダー1，トラクター3，スピードスプレヤー2，グラスタンク3，その他トラクターのアタッチメント			
組合・自治会等所有施設	組合支所1，公民館1，青年会館1，総合グラウンド1，出荷場1，組合ガソリンポスト1，			
車両・機械等	精米機1			

3 営　　農

主作目	胡椒，マラクジャ，カカオ，マモン
営農状況	一時期活況を呈したピメンタは病害の蔓延と昨年（昭和52年）来の世界的不況のため若干停滞気味ではあるが，需要度の大きいこと，安いなりにも価格が安定していること等の利点により，依然基幹作物となっている。一方ピメンタの跡地に植付けたマラクジャ，カカオ等が好況で，幹線道路添いの耕地は殆んどこれらでうまっている。
農機具等の普及状況	トラクター0.8台，トラック0.5台，乗用車0.3台，トレーラ0.4台，薬剤散分機0.3台，チエンソー0.8台，エンジン1.1台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	アマゾニア熱帯農業総合試験場，協力機関として北伯農業試験場，パラー州農村信用援護協会（EMATER－PARÁ）トメアスー産組農事部等
利用金融機関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	トメアスー産業組合を通じ，ベレン市をはじめ，国内ではサンパウロ，バイヤ，フォルタレーザなど，国外では北米・ヨーロッパ・アルゼンチン等世界各地に輸出されている。
農家所得（1戸当平均昭和52年度）	2,508千円（125,680 Cr $）

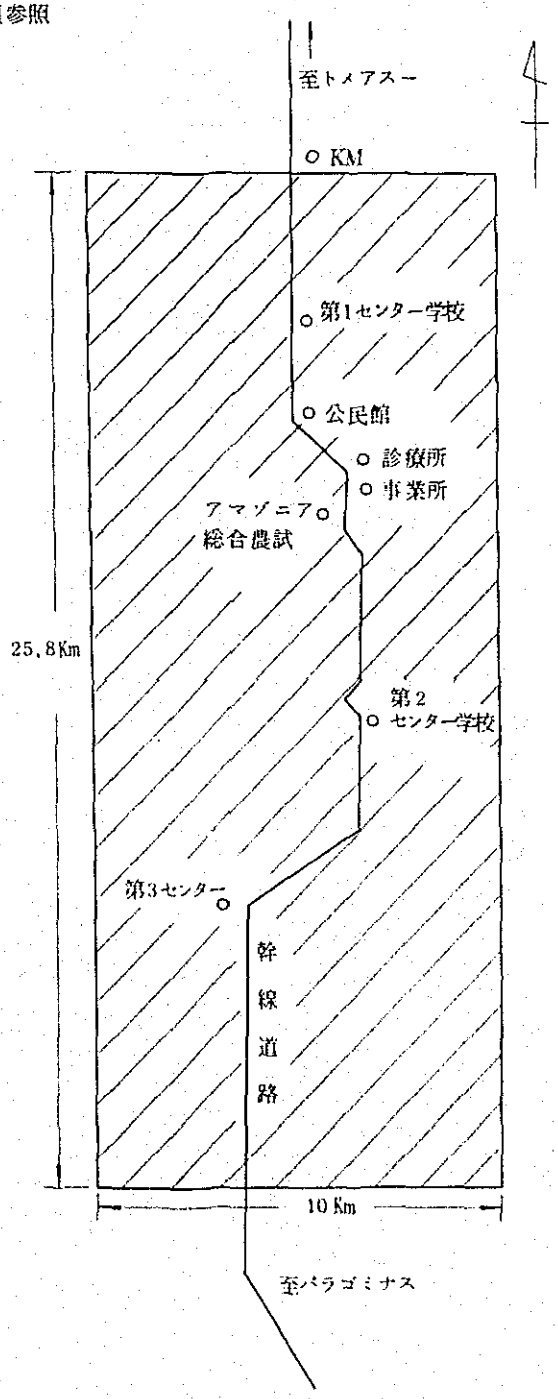
4 組織活動

自治体	「第2トメアスー自治会」を組織し，教育・文化・医療・衛生・治安・防疫・産業等の事業を行っている。 他に，第2トメアスー青年会，婦人会があり，それぞれ地区全域で活動を行っている。
農協	第2トメアスー入植者の殆どはトメアスー産業組合に加入している（第1トメアスーを参照）
農業振興協会	1976年9月16日発足，当団貸与の大型農機具の運用により，農業の機械化とその振興に活躍中。
（組織への連絡方法）	ベレーン支部気付。

5 地 区 略 図

移住地位置図

第1 トメアスーの項参照

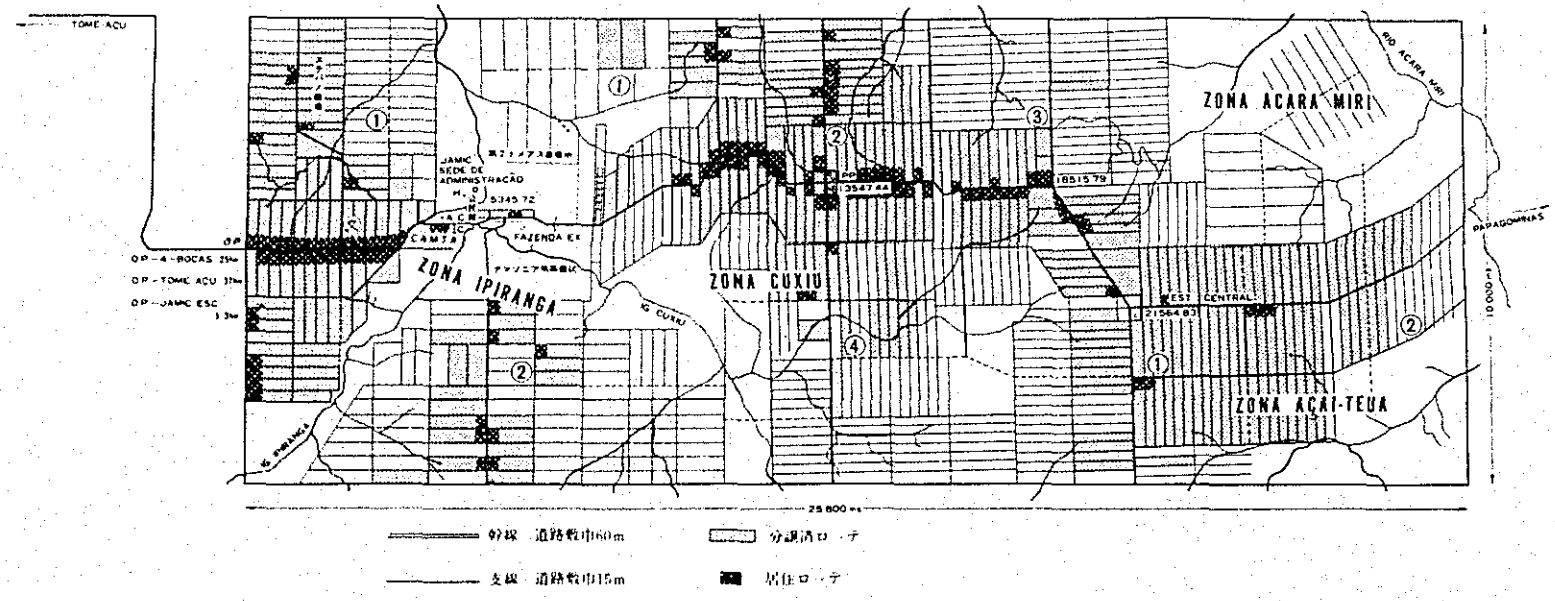


COLÔNIA DAINI TOMÉ-AÇU

AREA 25.800 HECTARES

ESCALA 1 ; 100.000

第２トメアスー移住地入植状況〔1974年(昭和49年) 3月末現在〕



移住地名　サンルイス近郊（マラニオン）

1　地区概要

所在地	所在地	マラニオン州 ESTADO DE MARANHÃO
	管理者	州，集団独立
	入植開始年度	昭和39年度

経緯	経緯	マラニオン州政府は市民に蔬菜，鶏卵等食品を豊富に供給する事を目的として，日本人移住者導入を計画した。 昭和35年7月に，ロザリオに19家族が入植したのが，マラニオン州への日本人移住の始まりである。そして翌年昭和36年，ムルアイ地区にマラニオン州と日本政府との協定による養鶏移住者10家族が入植した。 その後，ロザリオ地区より転住し，サンタフェ，エストラーダ・ノーバ地区等に分散して，トマトを中心とした蔬菜栽培が営まれるに至った。現在もなお，サンルイス市に対する蔬菜類の供給を主とした営農を行っている農家が大部分であるが，近年南伯との道路の開通に伴い，他州よりの生産物の移入が頻繁となり，経営が一般的に苦しい。

自然条件	位置	W 44°16′　S 2°31′
	地形	一般に台地状の平坦地である標高4m
	地質・土壌	一部高台には，粘土量の多い所もあるが，全体的に第3紀層に属する砂壌土で透水性が良い。 強酸性 pH＝4
	植性・林相	殆どが再生林で，ババスーヤシが相当数あるが，他は灌木林で乾燥型植生である。
	気候	雨期1月～6月　乾期7月～10月 最高平均気温33.5℃　最低平均気温21.5℃　年間平均気温26.5℃　年間平均降雨量1,818mm

社会条件	交通	国道BR316号線の開通により，海岸環状線の宿場的存在となり，交通は便利である。パラー州よりここを経由，リオ・デ・ジャネイロ，サンパウロに至る定期バスも運行している。
	市場	道路事情もよくなり，市場開拓も可能となったが，生産力がなく旧態然としてサンルイス市（人口40万人）のみを市場としている。
	近傍主要都市	サンルイス市，人口40万人　西北西最も遠い，ロザリオ地区から陸路80Km
	医療・教育	各地区内に医療施設はなく，サンルイス市の医療機関を利用している。 サンルイス市には慈善病院，州立病院，中央マラニオン病院，ポルトガル病院，精

社会条件		神病院，産院，結核療養所等の医療機関ならびに事業団特約医制度を実施している。 又各地区に学校施設がなく全員サンルイス市にバス通学している。
	治　　安	警官は駐在していないが，治安は概ね良好である。

2　入　植　状　況

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数						19	10					
	人員						111	52					
	年年	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合	計	定着数
	戸数				1								46
	人員				3								224

昭和53年3月末

主なる出身県名	高知	長崎	愛媛	宮城	熊本				その他	合計
戸数	7	4	8	3	3				21	46

ロッテ面積	10～30ha
分譲条件および価格	州有地　実費有償
地権取得	取得17名
電気・飲料水	電気は導入されていない，ただし自家発電の農家がある。 飲料水は，井戸水（素堀井戸）を利用しており，水質は良い。
地区内道路	私道，郡道，州道，国道があり交通は良好である。
主なる施設車両	な　し

3　営　　農

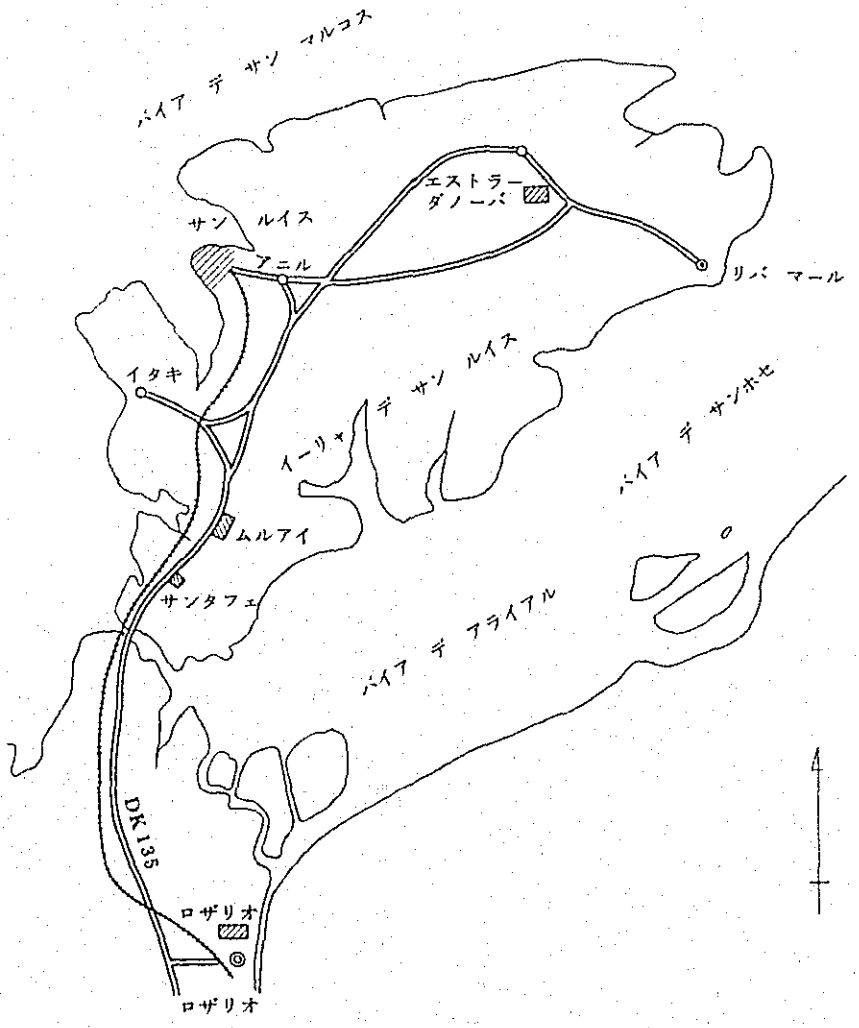
主作物	トマト，その他の蔬菜，養鶏，胡椒，ココ椰子
営農状況	典型的な近郊農業形態であり，トマト蔬菜農家が殆どで，2戸養鶏専業の農家である。この2戸は安定しているが，蔬菜農家は市場が小さいため永年作物の切り換えが急務である。ただ，最近ココ椰子を導入するものがあり，南部の病害と見合せて有望である。
農機具等の普及状況	トラクター0.2台，トラック0.6台，動力噴霧器0.6台，乗用車0.2台，エンジン2.3台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレン支部，州農務局，農村信用援護協会
利用金融機関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	仲買人および直売を行っている。
農家所得（1戸当り平均　昭和52年度）	1,239千円（62,095 cr$）

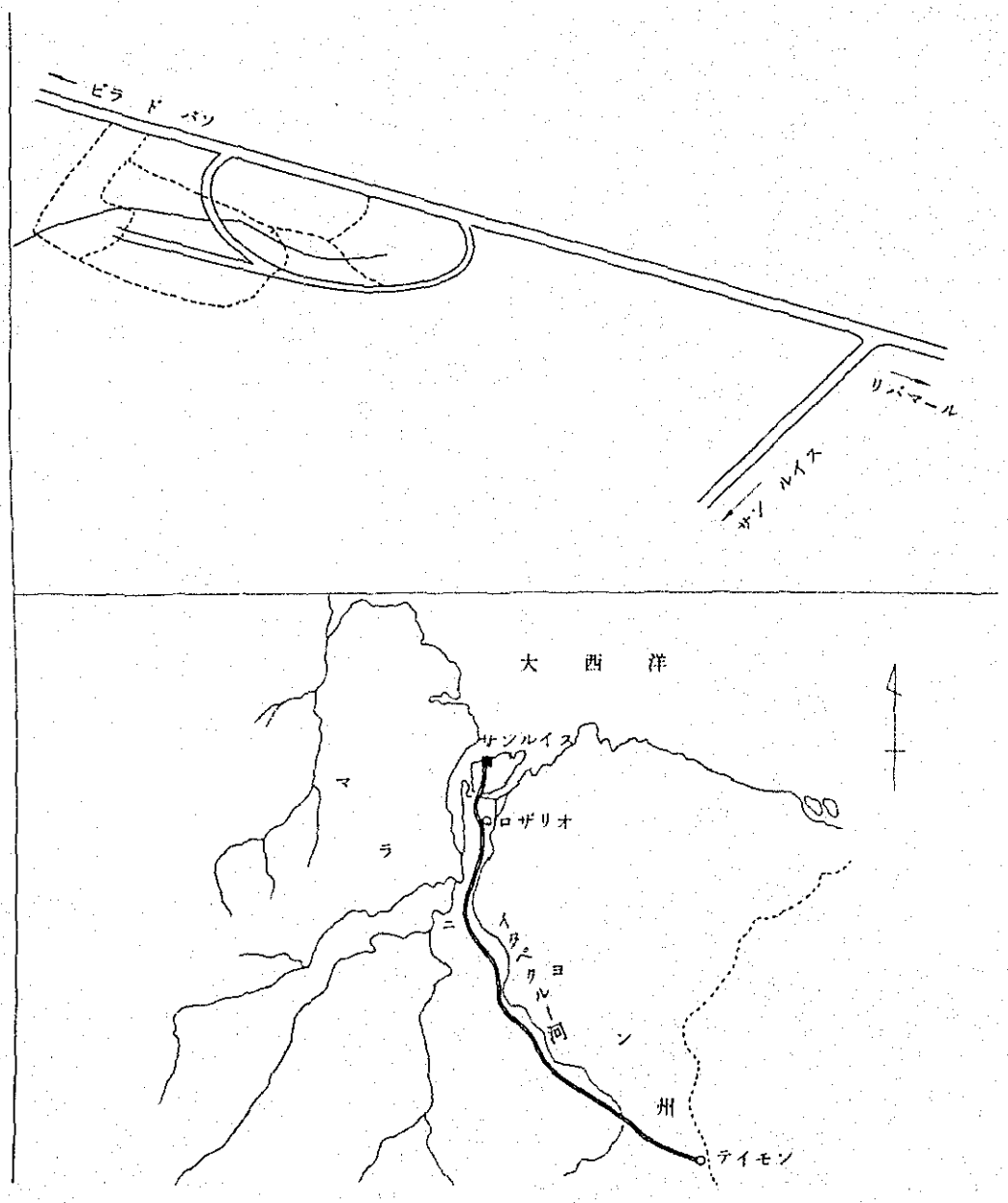
4 組織活動

自治会　ロザリオ，エストラーダ・ノーバ，サンタフェ，及びサンルイス近郊の邦人とともに昭和43年に「マラニョン州日系自治会」を結成。

農協　邦人の農協はない。

5 地区略図




ビラ ド パリ
リバマール
ガ ー ルイチ
大 西 洋
サンルイス
ロザリオ
マ
ラ
ニ
イタペクルー河
ヨ
ン
州
テイモン

移住地名　モンテ・アレグレ

1 地区概要

所在地	所在地	パラー州モンテアレグレ郡モンテアレグレ町 MUNICIPIO DE MONTE ALEGRE EST. PARÁ
	管理者	連邦政府（INCRA）
	入植開始年度	昭和28年

経緯	経緯	日本人受け入れは，昭和28年（1953年）から開始された連邦直営の混合移住地である。日本人入植者は日本から直来の他，ベルテーラ・ゴム園からの転住で，一時は相当数に達したが，市場が狭くまた，充分な子弟への教育が行われない等の理由から，他へ多数の転住者を出した。本移住地は牧畜（肉牛），ピメンタに雑作を組み合わせた営農を行っており，アマゾン開発の影響もあって，かつての遠隔地と言う感覚が少なくなって最近は安定している。

自然条件	位置	W 0°54′　S 2°00′
	地形	起状に富んだ丘陵地で，丘陵間に平坦地や2～3の川が流れている。
	地質・土壌	テーラ・ロッシャが散在しており，地味は良い。
	植生・林相	奥地には熱帯性林が繁茂し，有用林も比較的多い。
	気候	雨期　1～6月，　乾期　7～12月 年間平均降雨量 1,301.5㎜，　気温平均最高 37.8℃ 平均最低 19.0℃，　年平均 28.1℃

社会条件	交通	地区よりモンテアレグレ町間は，無舗装であるが雨期でも交通の途絶することはない。アマゾン南岸のサンタレーン市までは，水路 109 Km，定期便で8時間かかる。水路で 650 Kmのベレン市には，定期船が週3回程度運行されている。飛行便は大型機が週に一往復している他に，小型機（テコ・テコ）もベレンより直行している。
	市場	モンテアレグレ市場及びサンタレーンその他へ出しているが，現地商人に販売を余儀なくされている。 たゞしピメンタはベレンの商社を通じ輸出されている。蔬菜はサンタレーンおよびマナウスへ出荷販売している。
	近傍主要都市	モンテアレグレ町人口2千人　西方　陸路 38 Km サンタレーン市　人口 10 万人　南西方　水路 109 Km ベレーン市　人口 77.6 万人　東方　水路 650 Km
	医療・教育	移住地内に小学校があるが，教師（1名）が無資格なため，1～2年のみで，3年生以上は全員モンテアレグレ町へ寄宿している。モンテアレグレ町には，町立小学校1，教会立小学校1，中学校2がある。移住地内には医療施設はないが，当団で

社会条件		は毎年巡回診療を実施している。モンテアレグレ町に連邦病院が昭和35年に開設されているが，医師がいなく看護婦のみなので，重病人はサンタレーンへ送っている。
	治安	移住地内に警官は常駐していないが，治安は良い。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	28	29	30	31	32	33	34	〜	38	39	40	41
	戸数	24	43				3		〜	2		1	1
	人員	160	264				19		〜	2		1	1
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49〜52	現地入植者	合計	定着数	
	戸数			1		2				59	136	25	
	人員			1		2		2		354	806	120	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国内	ボリビア国	アルゼンチン国	帰国	その他
率（%）	100				

主なる出身県名	高知	群馬	東京	長崎	熊本	北海道	その他			合計
戸数	3	2	3	3	2	2	10			25

総面積	360,000 ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件および価格	ブラジル植民農地改革院（INCRA）の分譲条件による
地権取得	取得21ロッテ　申請中8ロッテ（但し非居住者を含む）

電気：飲料水	電気は導入されていないが，自家発電の農家がある。飲料水は井戸水を使用しており水路は良く量も豊富である。
地区内道路	移住地事務所が機械で道路補修をしているが，テーラ・ロッシャのアサイザル地区は雨期ともなると交通困難となる。
組合等所有施設	モンテアレグレ農業開発総合組合事務所1，倉庫1
車両	トラック1

3 営農

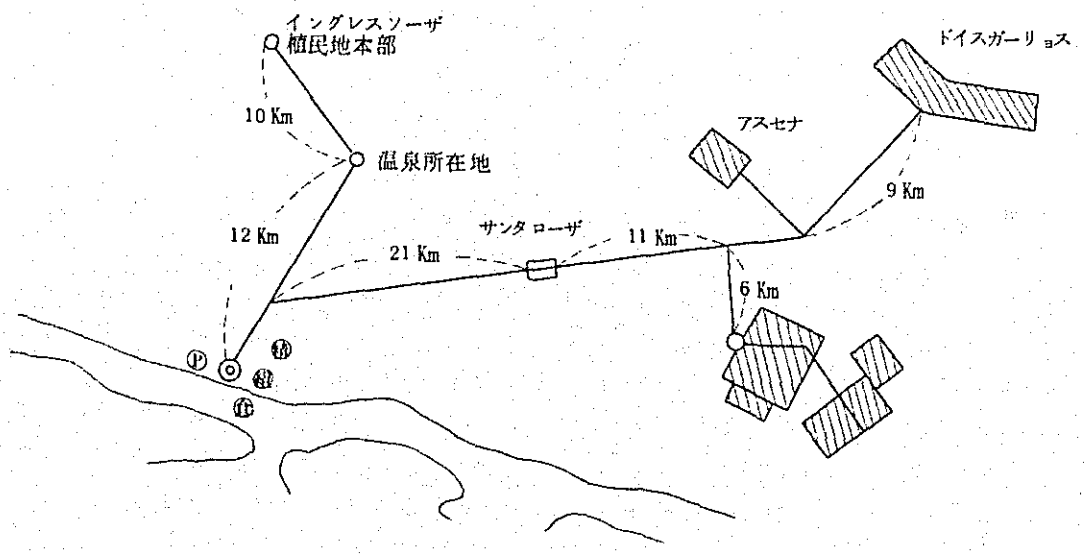
主作目	胡椒，野菜，牧畜（肉牛）
営農状況	牧畜，ピメンタを組合わせた営農形態であるが，起伏がはげしいため大面積にピメンタ栽培する事が困難であり市場も遠い。
農機具等の普及状況	トラクター0.7台，トラック0.6台，乗用者0.3台，耕耘機0.4台，脱粒機0.7台発電機0.2台，エンジン1.5台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）

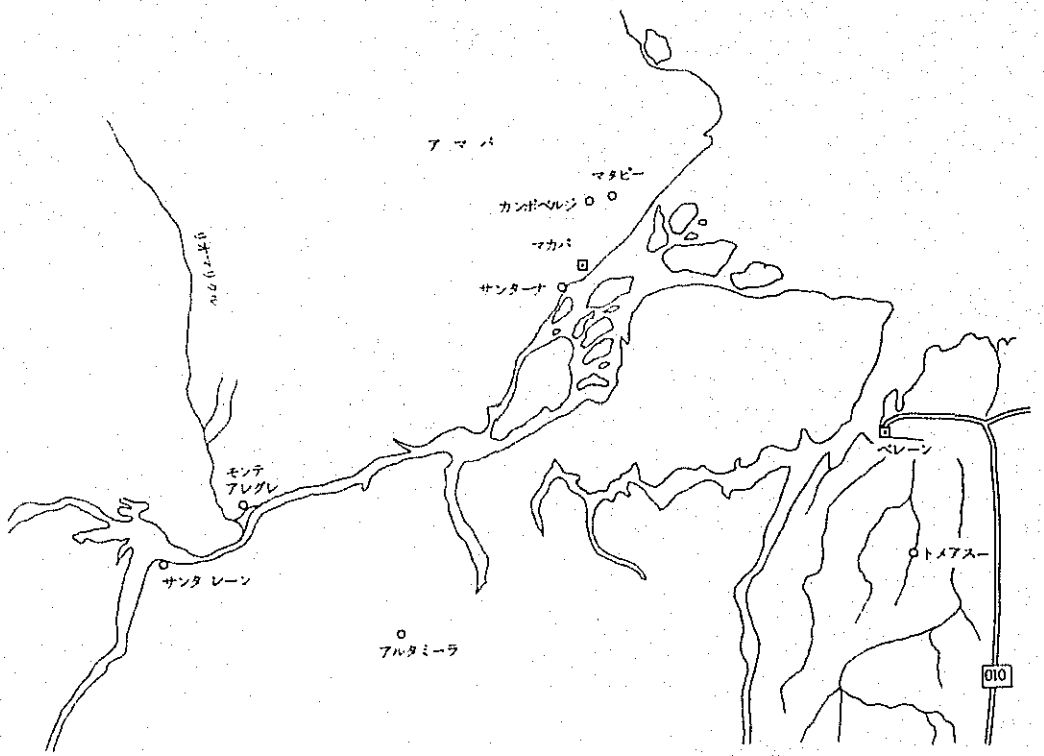
営農指導機関	事業団ベレン支部
利用金融機関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	一般に仲買人と農協を経由してベレン商社に出荷している。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,373千円（68,810 cr $）

4 組織活動

自治会	サンタローザ農牧協会が自治会の役割を果している。
農協	モンテ・アレグレ農業開発総合組合（法定1977年改名） 他にサンタローザ農牧協会（牧畜主体）がある。
（郵便）	Á Cooperativa Integral de Reforma Agrecola de Monte Alegre Pará BRASIL

5 地区略図





移住地名　　ベラビスタ

1　地区概要

所在地	所在地	アマゾナス州マナウス郡及びマナカプルー郡 MUNICIPIO DE MANAUS, MUNICIPIO DE MANACAPURU,　州都 マナオス市より移住地本部まで約 100 Km（マナオス市対岸）
	管理者	従来連邦政府が管理していたが昭和49年より州政府が管理することとなった。
	入植開始年度	昭和28年（1953年）

経緯	経緯	アマゾン中流地域の開発を目的として創設された連邦直営の混合移住地で，日本人の入植は昭和28年から開始され，翌29年までに153家族が入植したが，営農形態が確立されておらず，受入態勢も整っていなかったことから多くの転出者を出した。転出者の多くは，ベレン近郊地域および南伯方面へ移転した。 その後昭和37年に「アリアウ地区」に14家族を受入れた本移住地は，昭和42年マナウス地区の自由貿易港化のため，マナウス市の人口急増，経済活動の活発化とともに養鶏事業による鶏卵・鶏肉の市場供給，蔬菜の需要増大等により，急速に安定

経緯		して来ている。最近はグァラナの値上りもあって，グァラナの新植熱も盛んであるが，自由港化によるマナウス市の目覚しい経済成長は，ジャンボ機発着可能の第2国際空港建設まで及んでおり，アマゾン開発基地としてマナウス市の発展とともに，その食糧供給基地として移住地の将来は明るい。

自然条件	位置	W 60°0′　S 3°08′
	地形	第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と，段丘をきざむ谷とからなる標高12～20mで，傾斜やや急，地質は第3紀層の砂岩，頁岩段丘をきざむ谷底の沖積層。
	地質・土壌	土壌はラテライト土壌で砂質土。土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す。崖端に一部テーラ・プレックがあり，高台は概ね，テーラフィルメで一般に強酸性土壌である。
	植生・林相	熱帯降雨林地帯に属し，直径1m以上の巨木が散在し，林相はやゝ疎である。
	気候	雨期12～5月，乾期6～11月，気温年間平均31.4℃，最高温度37.8℃ 最低気温22.6℃，年間平均降雨量2,100㎜

社会条件	交通	州都マナウス市の対岸，ペレイラ港より15Km地点にある移住地本部を中心に，邦人が入植している。カカオペレイラ，カルデロン，アリアウの3地区が，T字型に展開しているマナウスよりの距離は，直線にして約100Kmで，その間に流れる河巾6mのリオネグロには，昭和47年9月よりフェリーボートが就航し，現在1日に5便ある。港より移住地区を8m幅砂利道が貫通，定期バス便（カカオペレイラ～マナカプル市）1日1往復，但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は庭先よりトラックにてそのまま積換えないで，マナウス市場に直接出荷している。
	市場	消費市場　マナオス市　人口50万 ボリビア，ペルー，コロンビア，ベネズエラ等は勿論，遠くソヴィエト，北欧との貿易（主として輸入）拠点ともなっており，日本船も月1便の割合で入港している。その上，工業団地に建設された弱電気，軽工業関係の組立工場に働く人達で急速な人口増加をもたらし，農産物の需要力を一段と高めたため，特にそ菜類は恒常的欠乏状態にある。 自由港地域として非関税とされる商品は，一般雑貨の外，カメラ，テレビ等の耐久消費財も含まれるが，酒，タバコ，香水その他ぜい沢品は除外され，乗用車も除外される。農業生産用機械等は当然免税であり，この点生産者には有利である。
	医療・教育	マナウス市より，INCRAによる定期巡回診療があるも急患はその都度マナウス市に船で送る。マナウス市に事業団特約医がおり，マナウス援協の巡回診療班も来る。 INCRA経営の小学校が3校あり，日本人子弟38名，教師5名 小・中学校の就学状況は良好（就学率85％） マナウス市には，事業団援助による寄宿舎がある。
	治安	地区内カカオペレイラ地区に警察屯所がある。治安状況は良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	24	102		4				2	1	14	1		
	人員	148	579		21				2	1	84	1		
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
	戸数			1				1	1	2		153	31	
	人員			1				2	5	19		863	179	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転任先	ベレン近郊	トメアスー	マナウス近郊	他のアマゾン地域	南伯	その他	帰国
率（%）	14	9	21	7	33	3	13

総面積	15,000 ha
ロッテ面積	平均 50 ha
分譲条件及び価格	無償（但し，測量その他諸経費自己負担）
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	電気は各戸自家発電，飲料水は 10 m内外の堀抜井戸また湧水を利用。水質は普通。
主なる事業団援護施設・車両	トラック 2台，木造船 1船，精米機 1台
組合等所有施設・車両等	なし

3 営農

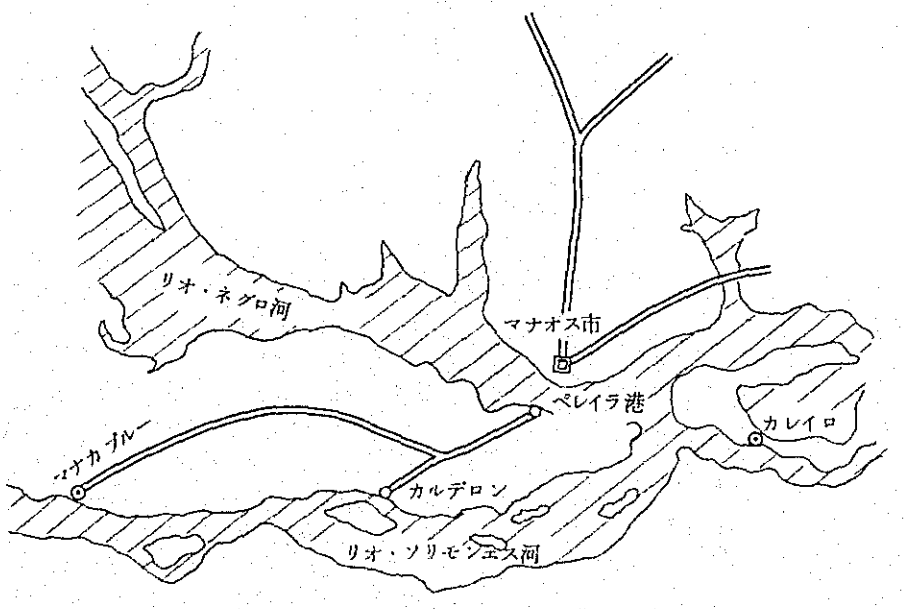
主作目	胡椒，グァラナ，養鶏，果樹，野菜
営農状況	マナウス市の人口増加がもたらす市場要求に応じて，鶏卵，鶏肉，そ菜，果実など，種類，量ともに増大し，エフィゼニオ，サーレス入植地と並んで食糧基地的重要な役割を果している。 短期間で生産できる農産物の需要増大は，一方で永年性作物への意欲に微妙に影響し，一時旺盛であったグァラナ熱も下火となっている。
農機具等の普及状況	トラクター 0.3 台，トラック 1.8 台，乗用車 0.8 台，揚水ポンプ 0.7 台，発電機 0.4 台，動力噴霧器 0.9 台，エンジン 1.3 台（昭和52年度調べ農家 1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレン支部及び同支部マナウス支所，協力機関としてアマゾナス州農村信用援護協会カカオペレイラ駐在員事務所等
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	個人別またはグループ別に，夫々が特約店（卸商，小売店，スーパーマーケット，ホテル，食堂等）を有し，週 1 ～ 3 回定期的に出荷する方法がとられている。市場はマナウス市である。

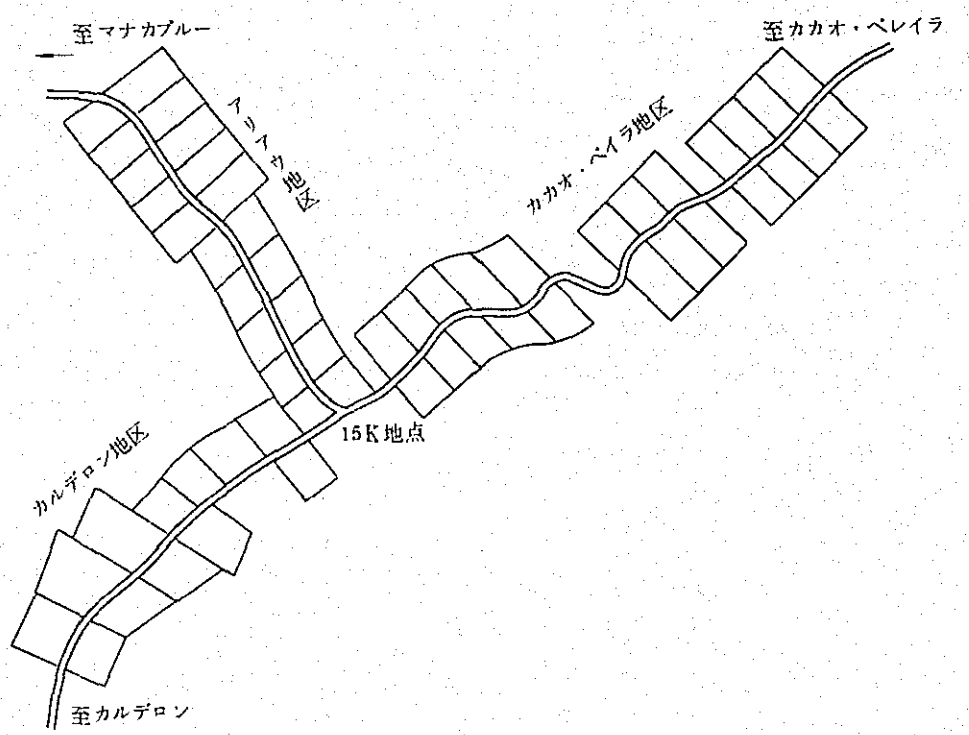
農　家　所　得 （1戸当り平均 昭和52年度）	4,386千円（219,779 cr $）

4　組　織　活　動

自　治　会	ベラビスタ自治会（任意団体）現在会員31戸179名〔近郊も含む〕 当地日系社会の中心組織として，移住地社会の発展向上のため文化活動を中心とした活動を行っている。
農　協 （郵　便）	組合は昭和47年解散 事業団マナウス支所気付

5　地　図　略　図（ベラビスタ）





移住地名　　アルタミーラ

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	パラー州アルタミーラ郡及びプライニャ郡 MUNICIPIO DE ALTAMIRA e Prainha, de Estado de Pará
	管　理　者	連邦政府　INCRA
	入植開始年度	昭和45年

経緯	経　　緯	以前は全く未開の原始林地帯であったが，政府により国家統合計画が実施されるに伴い，INCRA（ブラジル植民農地改革院）は，同計画によって建設されたトランスアマゾニカ道路沿線を5分幅し，造成された植民地の1つである。アルタミーラ郡への日本人入植は，1962年ベレン近郊からの転住が最初で，同移住地への入植は昭和45年からである。移住者は入植歴も浅いこともあって，営農形態は確立されておらず，指導機関が推奨する作物として，サトウキビ，陸稲，トウモロコシ，フェジョン，大豆，マンジョカ，コーヒー，胡椒，牧畜等となっている。

自然条件	位置	W 52°13′　S 3°12′
	地形	波状形の起伏に富んだ地形を呈し，シングー川，イリリ川に注ぐ小川が多数入り込んでいる。高台は平坦を呈している。
	地質・土壌	テーラロシア土壌が広く分布しており，この他赤黄色ポドソルも分布している。 テーラロシア pH＝5.9～6.7
	植生・林相	常緑熱帯雨林に被われ，多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
	気候	雨期12～6月，乾期7～11月，気温平均最高30℃以上，平均最低20～21.4℃，年間降雨量1,696㎜

社会条件	交通	アルタミーラ～マラバー間1日3往復，アルタミーラ～イタイツーバ間にバスが1日1往復，また移住地内Km 112地点まで1日1往復がある。トランスアマゾニカ道路も，アマゾン開発の大動脈として活用されつつある。完全な飛行場があり，ジェット機の発着も出来る滑走路を持っている。飛行機便は毎日ある。
	市場	アルタミーラ及び近傍都市が消費市場であるが，市場の狭さ及び品不足による価格上昇のあった場合，サンパウロ物が流入し，市場がかく乱される。
	近傍主要都市	アルタミーラ市　人口1万人　東北東　陸路　90 Km サンタレーン市　人口10万人　北東　陸路 590 Km
	医療・教育	移住地内のアグロポリスに，週1回一般医師，1回歯科医の診療がある。手術及び重病の場合は，アルタミーラ市のSESP（特別衛生局）経営の病院を利用している。アルタミーラ市にはこの他個人病院1，薬局2がある。 教育について，移住地子弟は近くのアグロポリスまたはアグロビラの小学校に通学し，中学以上は町に寄宿する必要がある。アルタミーラ市及び郡には，小学校5，中学校1，師範学校1，高等学校（夜間）1がある。

2　入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数												
	人員												
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	50～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数				1	3	14	4	3				33
	人員				6	18	74	24	18				131

昭和53年3月末

総面積	201,200 ha（造成済のみ）
ロッテ面積	100 ha
分譲条件および価格	ブラジル植民農地改革院（INCRA）の分譲条件による有償
地権取得	全戸取得済

電気・飲料水	市内には電力会社があり，配線は市内全域に完了している。 入植者の大部分は，湧水，小川等の水を飲料水としている。
地区内道路	地区内にトランスアマゾニカ道路が通っている。
主なる施設車両	なし

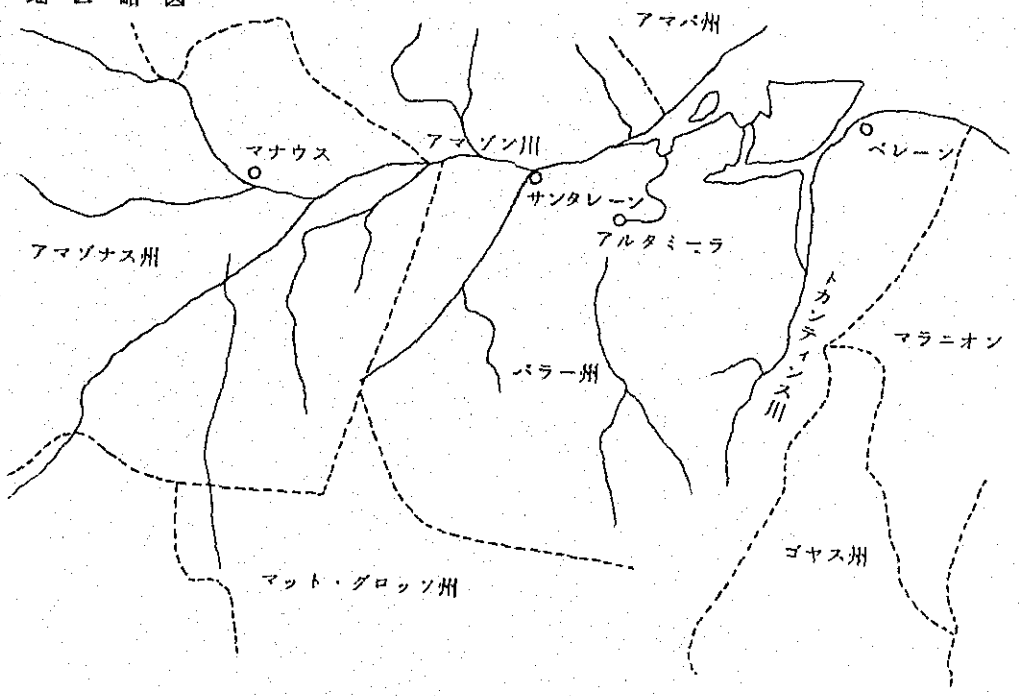
3 営農

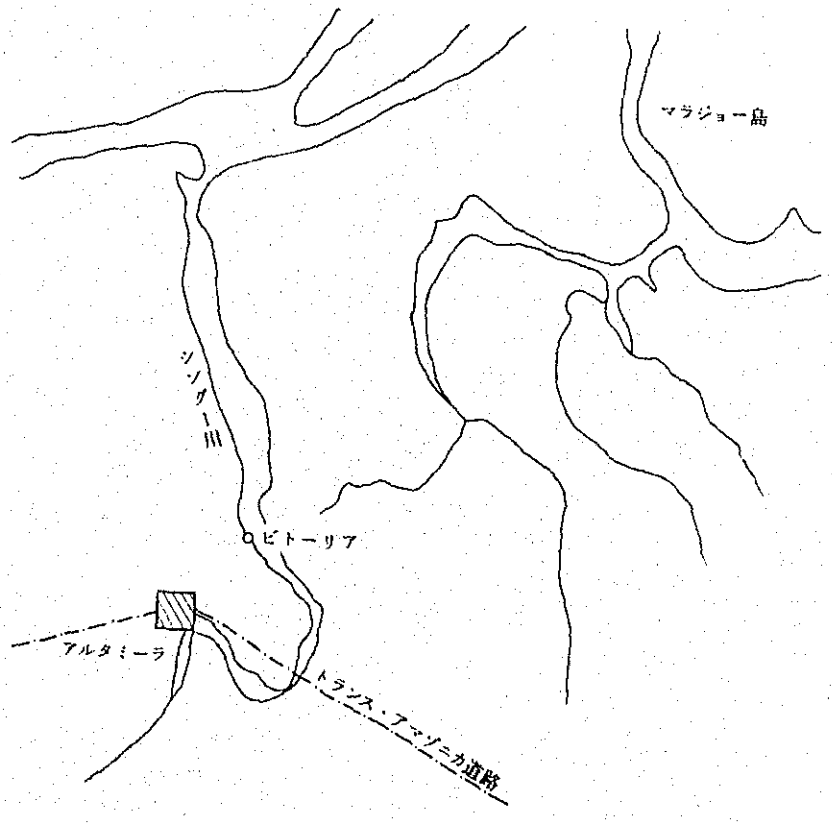
主作物	陸稲，甘庶，フェジョン，マンジョカ，タバコ，トウモロコシ，胡椒，バナナ，コーヒー
営農状況	一部の入植歴の古い農家は，胡椒を主体に安定した営農を行っているが，入植歴の浅い農家は，未だ安定の域に達していない。土地が肥沃である事から近い将来農業生産地域としての発展が期待されている。
農機具の普及状況	トラクター0.6台，トラック0.6台，乗用車0.2台，発電機0.4台，揚水ポンプ0.9台，エンジン1.2台（昭和52年度調べ1戸当り平均）
営農指導機関	INCRA，パラ州農村信用援護協会（EMATER－PARA）事業団ベレン支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	甘庶は同地INCRAで全量買上げ（製糖工場），穀類はCIBRAZEMで全量買上げ，そ菜類はアルタミーラ市又はサンタレーン市で商人に卸す。従って若干出るサンタレーン分を除いては，域外に販売する必要なし。
農家所得 （一戸当り平均 昭和52年度）	1,991千円（99,776cr$）

4 組織活動

自治会	従来の統一自治会「アルタミーラ日本人会設立準備会」が2つに分れ，市街地を中心とした「アルタミーラ日伯文化協会」会員16名と，入植地を中心とした「トランス アマゾニカ プライーニャ日伯文化協会」会員15名が，1978年1月誕生した。
農協	なし
（郵便）	（アルタミーラ日伯文化協会） Ilmo. Snr. ISAO KITAGAWA Rua Djalma Dutra 2558 Altamira Pará BRASIL. （トランス アマゾニカ プライーニャ日伯文化協会） Ilmo. Snr. YOSHITEN KUGA Caixa Postal 111. Altamira Pará BRASIL.

5 地 区 略 図


アマパ州
マナウス
アマゾン川
サンタレーン
アルタミーラ
ベレーン
アマゾナス州
トカンティンス川
マラニオン
パラー州
ゴヤス州
マット・グロッソ州


マラジョー島
シングー川
ビトーリア
アルタミーラ
トランス・アマゾニカ道路

移住地名　グ　ァ　マ

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	パラー州サンタイザベル郡，イニヤンガッピー郡 MUNICIPIO DE SANTA ISABEL, E INHANGAPI EST, PARA ベレン市南方グァマ河沿いに上流 48 Km，陸路サンタイザベル経由約 80 Km
	管　理　者	連邦政府（INCRA）
	入植開始年度	昭和31年（ 1956 年）

経緯	経　　緯	グァマ河（アマゾン河の支流）沿いに創設された連邦直営の混合移住地で，当初，連邦としてはアマゾン地帯開発の一環としての大穀倉地帯の造成を考えたものであった。この地区への入植は，昭和30年ベルテーラゴム園からの転住者を皮切りに日本からも 100 戸以上が移住したが，連邦が行うことになっていた排水溝の建設等基本的工事が果されなかったため，移住者の多くが転出した。現在残留している移住者の営農は，タカジョース地区においてはマラクジャ，カカオ，養鶏，蔬菜等の組合せ，ペルナンブーコ地区はピメンタ，マラクジャ，カカオを主体に蔬菜，牧畜を一部に組合せた経営であり，両地区とも順調に発展している。

自然条件	位　　置	W 48°5′　S 10°30′
	地　　形	標高 0 ～ 20 m　アマゾン河支流のグァマ河右岸 標高 10 m前後の高台である。また，河沿に 500 m前後の低湿地が分布している。
	地質・土壌	高台は，黄色ラテライト土壌で比較的砂が多い。
	植生・林相	再生林　一部原始林，常緑熱帯雨林に被われ，多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
	気　　候	雨期 1 月～ 6 月　　乾期 7 月～ 12 月 年間平均最高 31.8 ℃，平均最低 22.2 ℃ 年間降雨量 2,186 mm

社会条件	交　　通	ベレンまで出荷は陸路で約 1 時間であり，移住地本部まで陸路 62 Km アスファルト舗装の州道が昭和 49 年開通した。
	市　　場	ベレン市が消費市場。蔬菜・果実類はベレン市へ出荷する。胡椒はベレン市の商社を通じ輸出している。
	医療・教育	移住地内にはペルナンブーコ，センター，タカジョースに各 1 小学校がある。就学児童 64 名。中学校以上はサンタイザベル市あるいはベレン市に寄宿通学している。 INCRAの簡易診療所 2 ケ所（センター及びペルナンブーコ）があるが看護婦のみ駐在している。地区外ではベレン市のアマゾニア援協病院等を利用している。

治　　安	常駐警官はいないが治安状況は良好。

2　入　植　状　況

入植戸数と人員（内地）	年度	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	31	97		1	1	1						
	人員	105	605		5	5	5						

年度	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合　計	定着数
戸数	1							3	135	47
人員	1							18	744	242

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ベレン近郊	他のアマゾン地域	南　伯	そ の 他	帰　国
率　（%）	58	24	14	4	

主なる出身県名	熊　本	宮　崎	福　島	山　形	福　岡	三　重	その他	合　計
戸　　数	7	7	13	6	4	4	6	47

総　面　積	33,510 ha
ロ ッ テ 面 積	25 ha
分譲条件及び価格	ブラジル植民農地改革院（INCRA）分譲条件に準ずる有償実費負担。
地 権 取 得	取得（日系）44名（53年4月末現在）
電 気 ・ 飲 料 水	電気の導入はないが自家発電の農家が多い。飲料水は素堀井戸。水質は良好。
地 区 内 道 路	タカジョース地区　：地区入口より移住地本部まではアスファルト舗装。 ペルナンブーコ地区：近年整備よく良好。 カ ラ パ ル 地 区：道路なく水路による。（カラパル地区に在住者1戸のみ）
主なる施設車輌	なし

3　営　　農

主　作　目	胡椒，蔬菜，マラクジャ，カカオ
営 農 状 況	ピメンタ病虫害が一番大きな問題であり，ここ2～3年特に被害が見られ転住する者が増えているが，一方，跡地を利用してカカオ，マラクジャ等が栽培されている。
農機具等の普及状況	トラクター1.0台，トラック0.6台，乗用者0.5台，耕耘機1.1台，動力噴霧器0.8台，発電機0.7台，エンジン1.6台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営 農 指 導 機 関	事業団ベレーン支部，パラ州農村信用援護協会（EMATER－PARA）
利 用 金 融 機 関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	ベレン市の一般商社および個人商人に出荷している

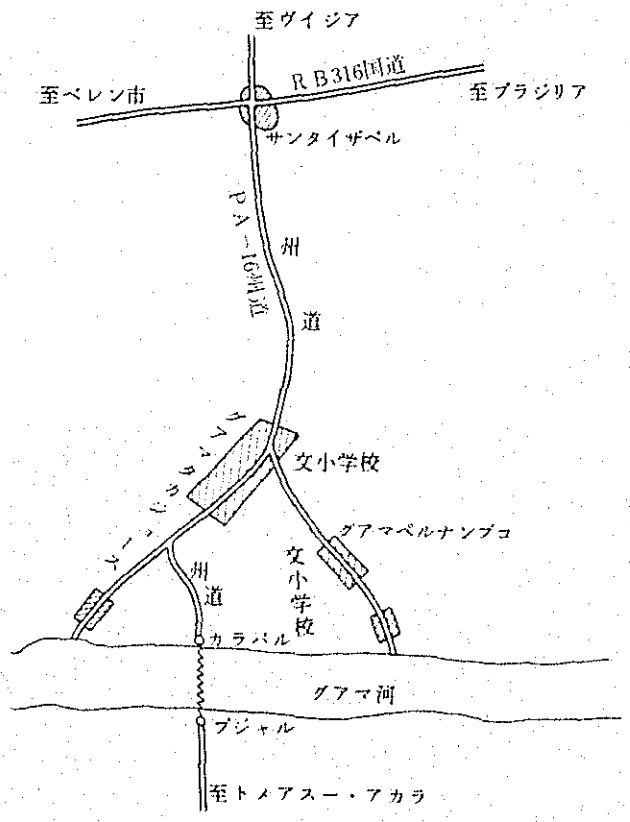
農　家　所　得 （1戸当り平均 昭和52年度）	7,363千円（368,968 Cr$）

4　組　織　活　動

自　治　会	グァマ・タカジョース日本人会とグァマ・ペルナンブーコ日本人会がある。
農　　協	サンタイザベル農業協同組合がある。

5　地　区　略　図

アカラ移住地を参照。



移住地名　　アマパー（マタピ，カンポベルディ，
サンターナ，マカパ市周辺）

1　地区概要

所在地	所在地	アマパ直轄州マカパ郡　MUNICIPIO DE MACAPA, TERRITORIO FEDERAL DO AMAPA'
	管理者	直轄連邦政府（INCRA）
	入植開始年度	昭和28年度

経緯	経緯	マタピはアマパ直轄州の農業振興，およびマカパ市への食料供給の目的をもった直轄州直営移住地として創設された移住地である。日本人の入植は，昭和28年29年にかけておこなわれ45世帯が入植した。だが，当地でゴムの植付強制から資金的に困難になり多数の転住者を出した。その主は，マカパ市近郊，ベレン市近郊，トメアスー，サンパウロ方面への転住である。 一方カンポベルデは。昭和32年マサゴン移住地より昭和37年転入し，ICOMI鉱山従業員に対する野菜を供給する目的で営農されていたが，その後ICOMI鉱山の縮少等もあり現在2戸のみ在住している。 現在，移住者はICOMI鉱山（マンガン鉱山），BRUMASA（合板会社）等向けに蔬菜養鶏に従事している。他に胡椒，蔬菜栽培，養鶏をしているが成績は芳しくない。

自然条件	位置	W 51°2′　S 0°1′
	地形	花崗岩片麻岩その他の古期岩類の石礫からなる洪積世の石礫層の台地は極めて平坦だが，谷をのぞむ所は急な傾斜になっている。
	地質・土壌	土壌は砂礫質のラテライト化，pH＝4.2，テーラ・フィルメ地である。
	植生・林相	草地帯と森林地帯との分岐地点にあたる森林の中に位置している。
	気候	雨期1～8月，乾期9～12月，年間平均降雨量3,000㎜，気温平均最高33.5℃，平均最低21.5℃，年平均25.5℃

社会条件	交通	マカパ市～セーラ・ナブイウ鉱山間230Kmには ICOMI鉄道が走っておりマタピ移住地はその中間に位置している。又，カンポベルデ移住地北岸縦断道路が貫通している。マカパ市から移住地入口までは草原で，雨期にも交通不能になることはない。 マカパ市～ベレン市間には毎日2便の航空便がある（約1時間）。
	市場	マカパ市 ICOMI鉱山，BRUMASA合板会社その他発電道路工事会社を対象としている。
	近傍主要都市	マカパ市人口15万人南東マタピーより陸路120Km
	医療・教育	地区内に簡易診療所の施設があり医師は常駐している。マカパ市には連邦内科病院

社会条件		（127ベッド），産院（17ベッド）の他に最新の設備をもったICOMI鉱山経営の病院がある。また当団の特約医制度実施中である。 地区内に州立小学校1校があり，上級の中学校・高校はマカパ市にあり，寄宿通学している。
	治安	警察は駐在しており治安は良い。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	29	21		7	1	1		3	2				
	人員	177	123		42	1	1		3	2				
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計		定着数
	戸数											64		30
	人員											349		172

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国内	ボリビア国	アルゼンチン国	帰国	その他
率（%）	92.3			3.4	4.3

主なる出身県名	鹿児島	福島	宮城	熊本	福岡	広島			その他	合計
戸数	9	5	2	5	3	1			5	30

総面積	4,875 ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件および価格	有償INCRA基準に準ずる
電気・飲料水	電気は導入していない。ただし自家発電の農家もある。飲料水は井戸（素堀）水を利用している。水質は良好である。
地区内道路	カンポベルデ移住地区をペルトラルノルテ国道が開通している。
主なる施設車輌	なし

3 営農

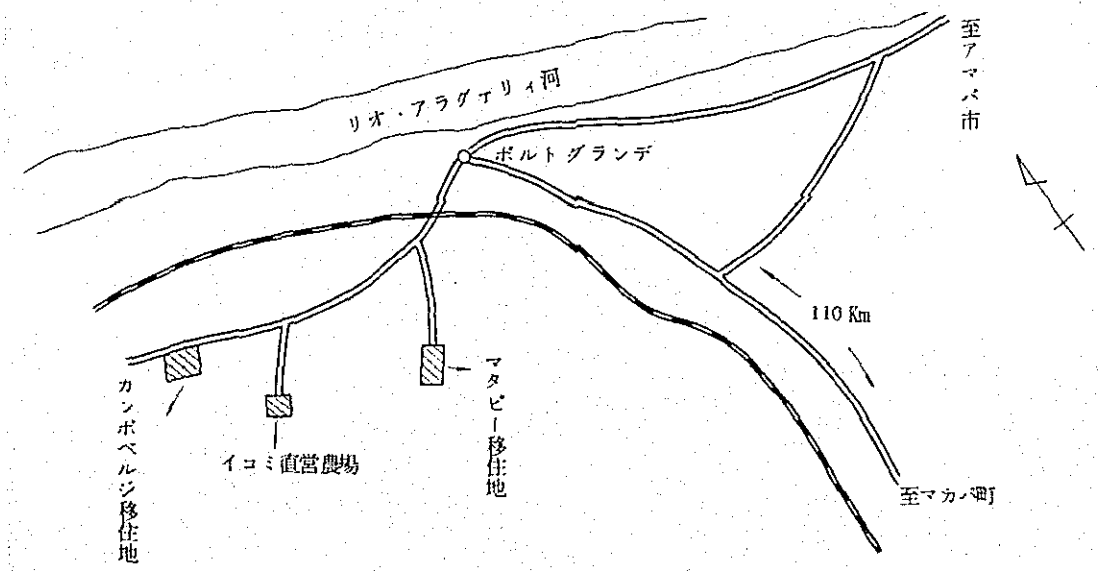
主作目	蔬菜，養鶏，胡椒，果樹
営農状況	養鶏と胡椒を営農している農家は1戸のみで一応安定している。他は蔬菜栽培のみであり永年作目による産地形成を計る事が急務である。
農機具等の普及状況	ブルドーザー0.2台，トラック2.5台，トラクター0.7台，乗用車0.8台，耕耘機1.2台，動力噴霧器0.2台，発電機0.2台（昭和52年度調べ マカパー周辺農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレーン支部，州農務局，農村信用援護協会（EMATER－AMAPA）
利用金融機関	銀行 事業団

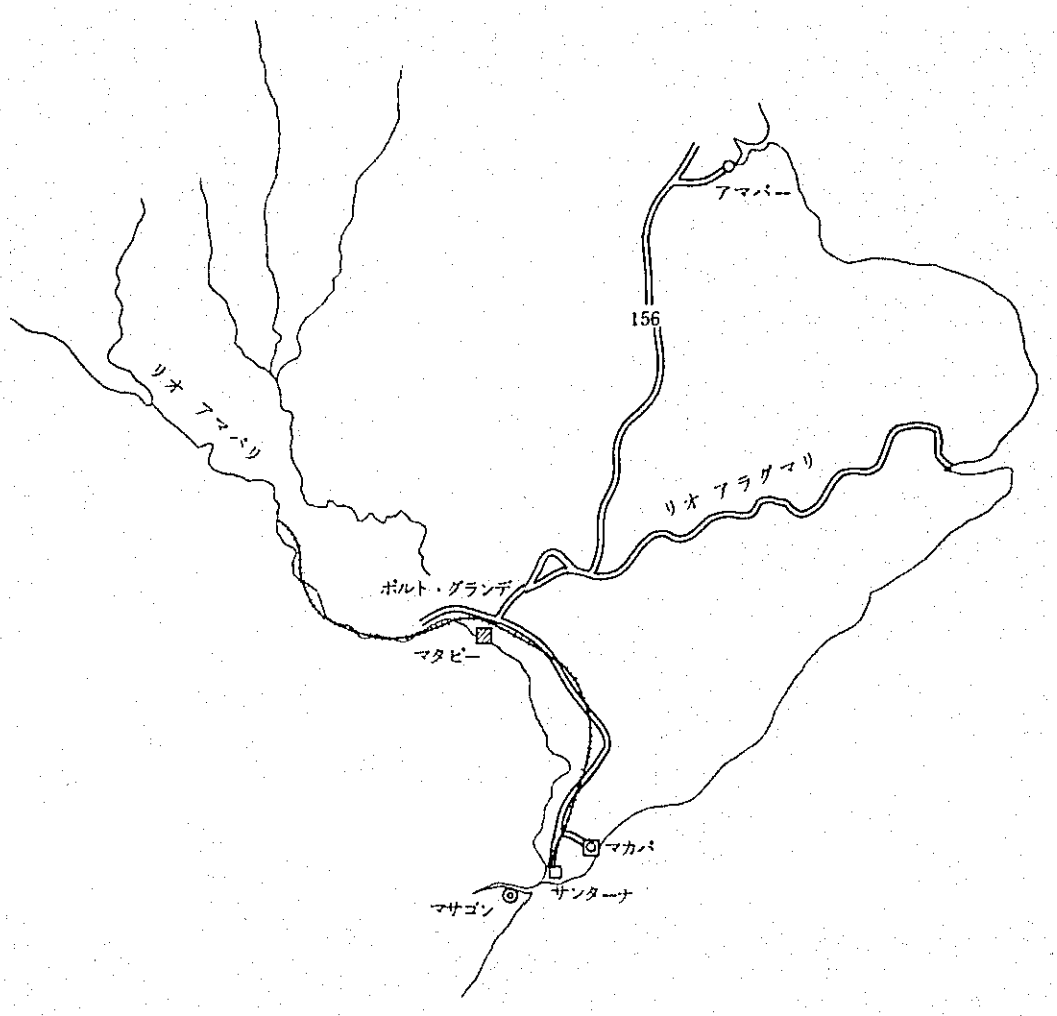
主作物の販売取扱機関並に主市場	仲買人および市場で直売している。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,918千円（96,125Cr$）

4 組織活動

自治会	アマパー州邦人全体でアマパー日本人会が結成されている。
農協	なし

5 地区略図





移住地名　　トレーゼ・テ・セッテンブロ

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	ロンドニア・直轄州　TERRITORIO FEDERAL DE RONDONIA
	管　理　者	直轄州政府
	入植開始年度	昭和29年

経緯	経　　緯	同州の農業振興並びにポルトベーリョ市の市場供給を目的として，昭和28年に直轄州直営で創設された混合移住地である。日本人移住者は昭和29年に初めて入植した。その後間もなくゴム園失火の為転住者を出し，混迷苦闘の状態であったが，ポルトベーリョ市の発展に伴ない同地区の鶏卵，ブロイラー，蔬菜等の農産物の需

経緯		要も伸び，漸く基礎が固まりつつある。一方，国道364号線の開通により，南伯産物の移入も増加しつゝあり，これに対応するため，永年性作物や畜産等の多角経営が検討されている。

自然条件	位置	W 63°00′　S 8°00′
	地形	第三紀層段丘地域で平坦な段丘をさざむ谷，標高12～20 m傾斜急である。
	地質・土壌	地質は第三紀層の砂岩，頁岩，段丘をさざむ谷底の沖積層，土壌はラテライト土壌で砂質土，土色は黄褐色から褐色を呈す崖端に一部テーラ・プレッタ黄色土があり高台はテーラ・フィルメ，一般に強酸性土壌である。
	植生・林相	熱帯降雨林地帯に属し，樹高30 mを越す巨木も見られ建築用材豊富，林相密で深い。
	気候	雨期11～4月，乾期5～10月，気温平均最高38℃，平均最低15℃，平均年間降雨量2,292 mm

社会条件	交通	ロンドニア州都ポルトベーリョ市より同地区入口まで9 Km，日本人耕地まで11 Km あり，その間は事業団貸与トラック，農務局トラック定期便および日本人入植者の農産物出荷（個人車）が毎日走っている。
	市場	ポルト・ベーリョ市を市場とし，入植者が生産する卵，および蔬菜は同市場で夫々100％，70％を占るようになっている。
	近傍主要都市	ポルトベーリョ市人口15万人，陸路9 km。マナウス市人口62万人，航路約800 km
	医療・教育	地区内には医療施設はなく，ポルト・ベーリョ市の慈善病院等を利用している。また，年1回事業団嘱託医が巡回診療を行っている。 地区内には公立の小学校があり，教員宿舎（2棟）も設けられている。また，ポルトベーリョ市には小・中・高・大学（現在計画中）があり，私学は寄宿設備もある。通学には，往復共商業車を利用している。また日系子弟就業児童は全員ポルト・ベーリョ市に通学するが，自治会が委託する伯人経営通学バスをもって通学し，午前・午後2往復運行されている。
	治安	地区内に警官1名が常駐しており，この外最近日本人入植者2世の内2名が正式に警察官としての資格を与えられ，日本人入植地区内の治安に従事している。治安には不安はない。

2　入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	29							2				
	人員	174							8				
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数										31	31	22
	人員										182	182	131

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ボリビア国	アルゼンチン国	パラグアイ国	ブラジル国内	その他
率 (%)				100	

主なる出身県名	熊本	山形	東京				その他	合計
戸数	5	3	2				12	22

総面積	1,570 ha			
ロッテ面積	30 ha			
分譲条件および価格	無償（但し測量その他諸経費自己負担			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	730 ha			
	（注）日本人のみ			
地権取得	取得 27 ロッテ			
電気・飲料水	電気はきていないが一部の家庭（10戸）では自家発電を行っている。飲料水は井戸（素堀 約10m）の水を利用しており水質は良である。			
地区内道路	無舗装であるが道路状態は良好である。 連邦政府ないし郡の機械により年2回補修をするが，その際入植者は賦役を提供している。			
主なる事業団援護				
施設	なし			
車輌	なし			
組合等所有				
施設	なし			
車輌機械	なし			

3 営農

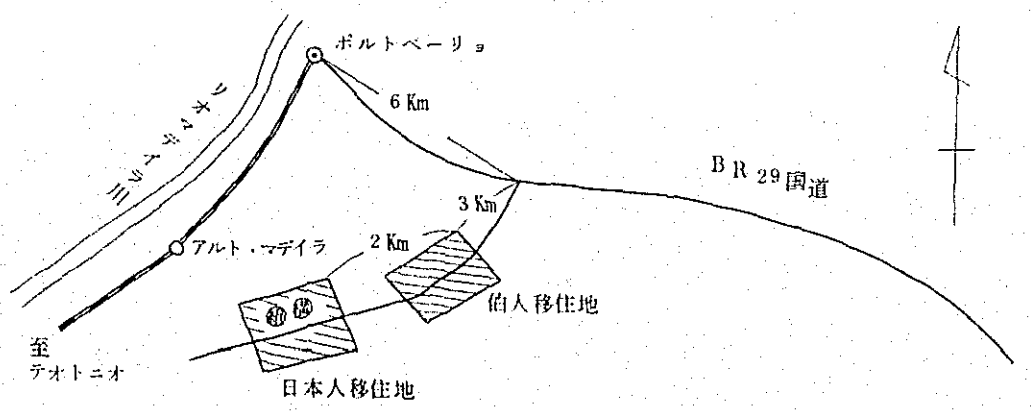
主作目	養鶏，野菜，胡椒，果樹（柑橘類）
営農状況	ポルト・ベーリョ市の食料基地として重要な地位を占め，かつ州政府からモデルコロニアとして注目されている移住地である。移住地の営農形態は養鶏蔬菜を基幹作目とし，その生産物は仲介業者を通さず直接販売，有利な経営を行っており経済的に安定し豊かな移住地を形成している。しかしポルト・ベーリョ市に限られた狭隘な市場のため，規模の拡大が望めなかった当地も，最近のアマゾン開発の波にのり，流通網が整備されつゝあることから胡椒，果樹，グアラナ等の永年性作物の導入，さらに第2第3圃場の確保，そして牧畜を加えた多角営農が検討されている。
農機具等の普及状況	トラック 2.6台，トラクター 1.1台，乗用者 0.9台，耕耘機 0.9台，揚水ポンプ 0.8台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレーン支部及び同支部マナウス支所，アマゾナス州農村信用援護協会ポル

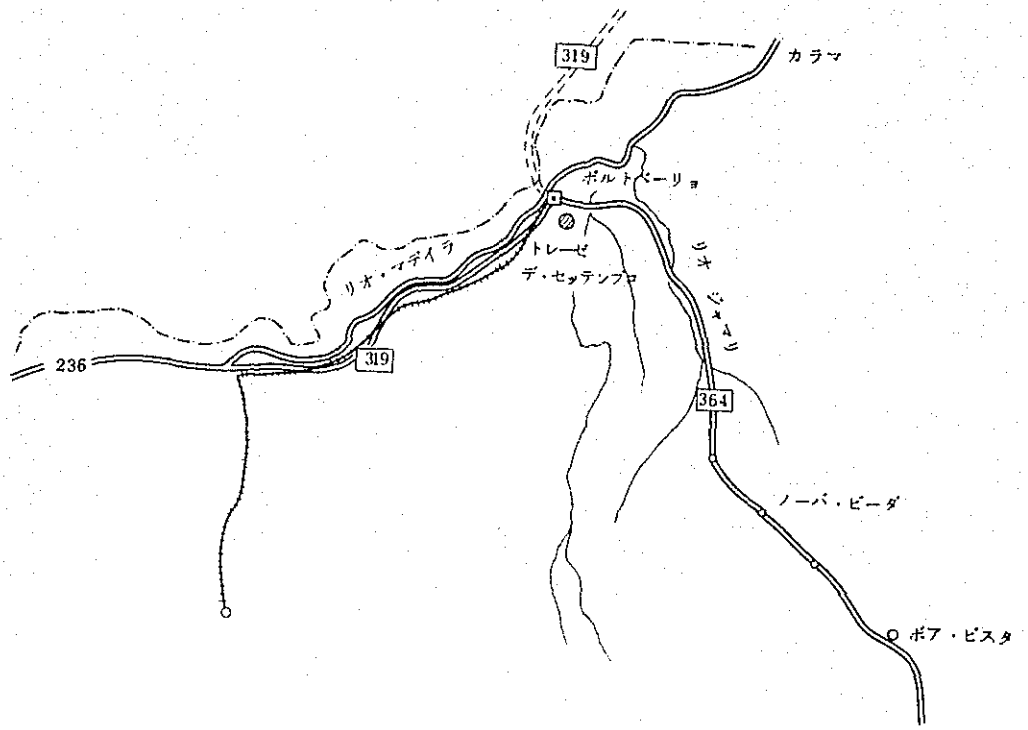
	ト・ベーリョ支所
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	移住者各自がポルト・ベーリョ中央市場に売場を持ち自家生産物を販売している外夫々が特約店（ホテル，食堂，スーパマーケット，軍隊等）に配達している，その他グァヂャラミリン，ウマイタ，マリコレ等の地方都市にも仲介業者を通じ販売されている。
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	7,158千円（358,733 Cr$）

4 組織活動

自治会	昭和43年「トレーゼ・デ・セテンブロ日本人会」を結成。
農協	なし　但し養鶏農家のみで任意団体として養鶏組合（組合員7名）を結成している他ロンドニア畜産組合に1名が加入している。

5 地図略図





移住地名　キナリー

1　地区概要

所在地	所在地	アクレ州，リオ・ブランコ郡 ESTADO DO ACRE
	管理者	州政府
	入植開始年度	昭和34年

経緯	経緯	昭和28年アクレ直轄州（現在のアクレ州）の農業振興を目的として同移住地が創設され，昭和33年および34年に最初の日本人農業移住者13家族が入植したが，市場の狭小さが決定的な要因となって，間もなく8家族が転住していった。その後，更に1名転住。現在，日本人移住者は3家族となってしまったが，リオ・ブランコ市を市場として養鶏並びに短期作の米，フェジョン，マンジョカ，野菜，落花生等を栽培している。短期作については，精米精粉等の加工販売に主力が置かれつつある。

自然条件	位置	W 67°00′　S 9°00′
	地形	極めて平坦な波状地。地区内に小川が数本流れている。
	地質・土壌	第3紀層を母岩とするラテライト土壌にして黄色または暗赤褐色の埴土。一部に，テーラ・ロシア地帯がある。地味肥沃で一般に酸性。
	植生・林相	自生するカスタニア・ド・パラー（パラー栗）の巨木が相当見られ，植生の繁茂は良く，林相は密で深い。
	気候	雨期11月～4月，乾期5月～10月，気温平均最高31.7℃，平均最低15.4℃ 平均年間降雨量1,679㎜

社会条件	交通	アクレ州首都のリオ・ブランコ市まで陸路で28Kmあり，移住地入口までの24Kmは完全舗装道路。移住地入口より各自耕地まで約4Km程度は未だ無舗装なため雨期になると道路状況が悪くなるが，トラック，ジープによる通行であれば通行不可能となることはない。自動車での所要時間約30分。リオ・ブランコ～ボルト・ベーリョ間に1日2往復，バスが運行している。
	市場	リオ・ブランコ市のみで，生産物は商人が庭先まで買付に来る。昭和45年に中北伯難民が約500家族地区周辺に入植営農したため，一時雑穀の市価が下落したこともあるが，現在，アマゾン開発ブームは国道，州道の急速な拡充と相まって当地区まで押し寄せており，市の人口も急増傾向にあり市場の将来に不安はない。
	近傍主要都市	リオ・ブランコ市　人口20万人　陸路28Km
	医療・教育	地区内に診療所はないが，州衛生局の看護婦が必要に応じて派遣，また，事業団嘱託医が年1回巡回診療をも行っている。また，リオ・ブランコ市内には日系医師（南伯出身）が開業しており，伯人間においても評判が高く，日本人移住者はいずれも同日系医師の診療を受けている。 地区内に公立小学校があるだけであるが，リオ・ブランコ市には小学校，中学校，高校，師範学校，大学がある。大学は専門学部によってはマナウス市およびベレーン市まで出なければならない。
	治安	地区内に連邦警察職員1名常駐しており，治安は良好である。

2　入植状況

入植戸数（と内地人員）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数					13							
	人員					81							
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数	
	戸数										13	3	
	人員										81	15	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ボリビア国	アルゼヴチン国	パラグァイ国	ブラジル国内	その他
率　（%）				100（10戸）	

主なる出身県名	熊本	長崎	徳島					合計
戸数	1	1	1					3

総面積	1,500ha			
ロッテ面積	30ha			
分譲条件および価格	（アクレ直轄地政府と駐ベレーン領事との契約）無償。			
分譲条況	分譲済面積	未分譲面積	道路，市街地等利用地	除地
	150 ha			
地権取得	全戸申請中　（含1戸3ロッテ申請者）			
電気・飲料水	飲料水は10 m内外の堀抜井戸を利用しており，水質は良好である。			
地区内道路	雨期の1～4月までは地区内のみの道路状況が悪化するが，従来の様に交通困難となる事は少なく，地区内の道路も州提供の機械で補修をしている。			
主なる事業団援護				
施設	なし			
車輌	なし			
組合等所有				
施設	なし			
車輌機械	なし			

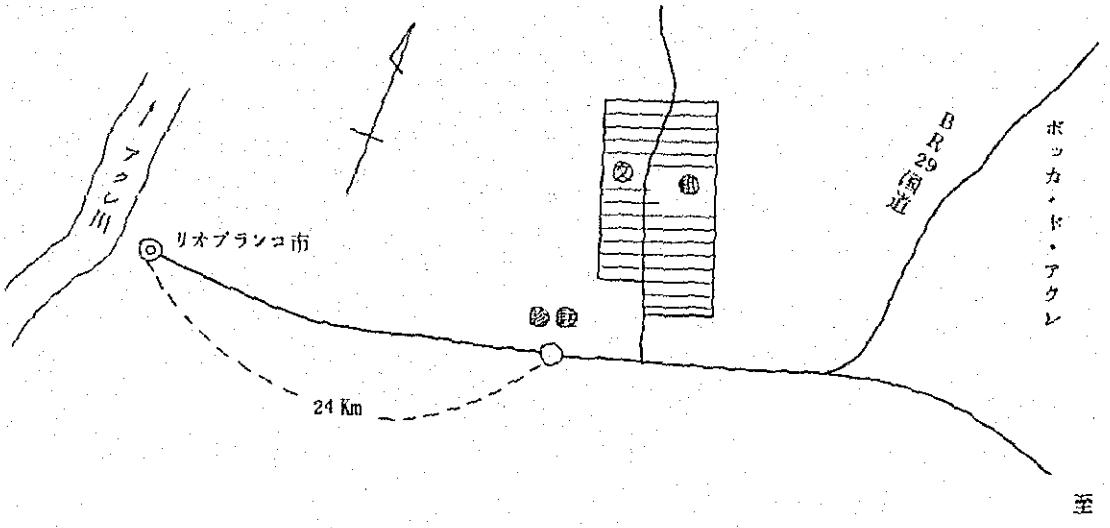
3　営農

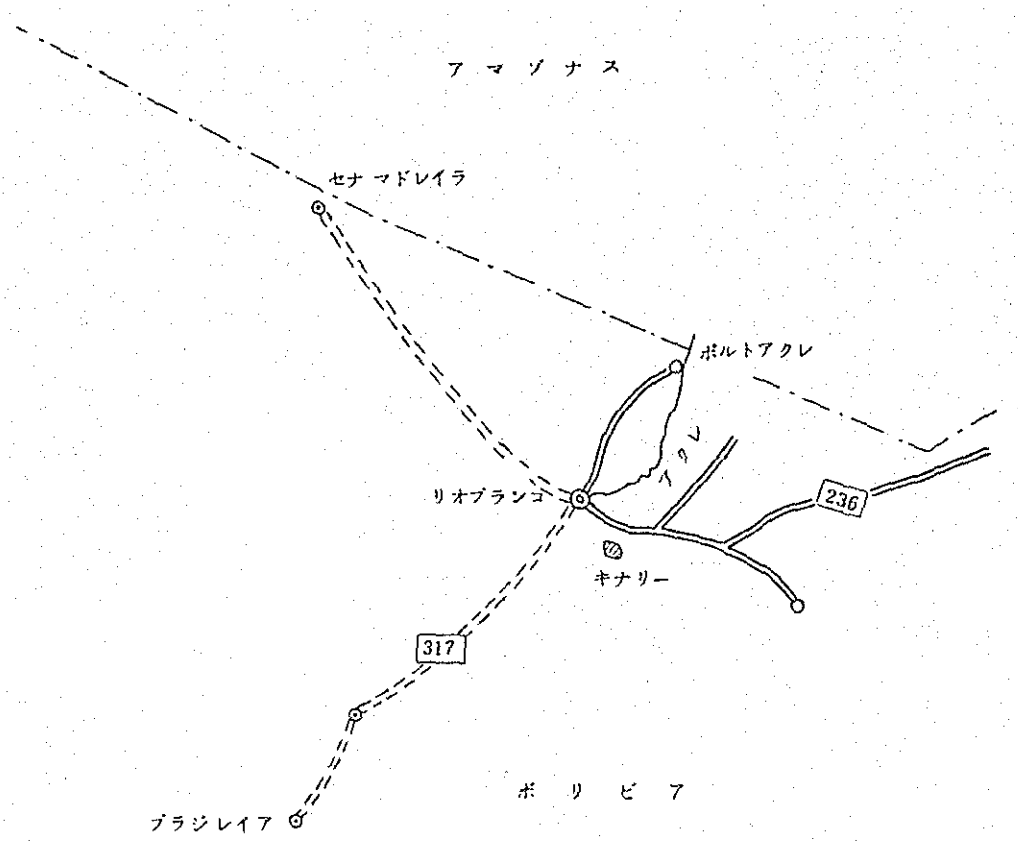
主作目	米，蔬菜，養鶏
営農状況	米，フェジョン等の雑作を主作目とし，これに蔬菜を組合せた営農形態で営農を行っていたが，リオ・ブランコ市の人口増加と経済発展により養鶏，蔬菜が有利となったため雑作と養鶏，蔬菜を組合せた営農形態に移行し，経済的に安定して来ている。将来の営農の発展方向として永年作目（牧畜，胡椒）の導入が検討されている。
農機具等の普及状況	
営農指導機関	事業団ベレーン支部，アクレ州農村信用援護協会アクレ本部
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並びに主市場	移住者各自が夫々特約店（卸売店，小売店，ホテル，食堂等）を有しそれらに出荷している。なお，1戸はキナリー町に店を持ち直売をとっている。主なる市場はリオ・ブランコ市およびキナリー町。
農家所得（1戸当り平均）昭和52年度	

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし

5 地区略図





移住地名　エフゼニオ・サーレス

1　地区概要

所在地	所在地	アマゾナス州マナウス郡 MUNICIPIO DE MANAUS, ESTADO DO AMAZONAS
	管理者	従来は州政府であったが，昭和49年より連邦政府（INCRA）に移管された。
	入植開始年度	昭和33年（1958年）

経緯	経緯	アマゾナス州の農場振興，およびマナウス市への生鮮食料品の供給を主目的として，州が創設した日伯混合の移住地である。日本人の入植は昭和33年から開始された。この移住地の営農は胡椒を中心に，蔬菜，養鶏等を組合せたものである。地区内を縦貫するアスファルト道路があるため極めて恵まれた立地条件にあり，移住者の経済も順調にのび，現在ほぼ営農生活の安定をみるに至っている。 しかしながら，アマゾン開発の進展と共に南伯との道路が開通し安価な南伯農産物の流入が漸増の傾向にあり従来型営農の転換を強いられようとしている。

自然条件	位置	W 60°00′　S 3°10′
	地形	標高 50～100m の起伏に富む地形で，地区内の起伏はかなり大きい。
	地質・土壌	第3紀層を母岩とするラテライト土壌で，灰褐色および灰橙色の礫を含まない粘土含量の高い重粘な土性で土層は深いテーラフィルメ地帯である。一般に酸性は強い。
	植生・林相	熱帯降雨林に被われ，多様な樹種が幾重にも重って構成される原始林を形成し，有用材も多く林相は比較的密である。
	気候	雨期12月～5月，乾期6月～11月 気温平均最高 27.8℃　平均最低 22.6℃ 平均年間降雨量 2,100 mm

社会条件	交通	移住地内をアスファルト舗装のマナウス～イタコチアラ州道が走っており，移住地中心部までバスの便がある（1日5回往復）。その外農協出荷のトラック便も頻繁にあり利用できる。
	市場	消費市場，マナオス市人口 62万，ボリビア，ペルー，コロンビア，ベネズエラ等への貿易拠点となっており，近年「ZONA FRANCA（非関税地域）」の指定を受けたことから経済は活気を呈しており，移住地も諸々の恩恵を受けている。
	医療・教育	マナウス市には医療施設が完備されており，又事業団特約医がおり，診療は無料で入院は市価より 30%安くなっている。マナウス日伯援協による巡回診療も年2回実施されている。移住地には5年制小学校が2校あり，教師3名，助手1名が教育に当っている。中学はマナウス市の中学に寄宿就学させている。中学への就学率は 98%に達している。
	治安	治安状態は良好でアマゾン州警察の管轄内にある。

2　入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	17	6	16	17	2	2						
	人員	108	30	95	95	9	5						
	年度	45	46	47	48	49	50～53	現地入植者		合計	定着数		
	戸数						2	6		68	45		
	人員						2	32		376	252		

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ベレン近郊	トメアスー	他のアマゾン地域	南伯	その他	帰国
率（%）				38	38	24

主なる出身県名	石川	長崎	熊本	福岡	青森		その他	合計
戸数	9	8	7	5	3		13	45

総面積	3,408.6 ha
ロッテ面積	25 ha
分譲条件および価格	INCRA極北事務所のマナウス奥地開発計画対象地域で，原則として土地購入は競争入札制によることとなっている。既住入植者については優先権を認め，INCRA所定の土地代計算を行い価格決定している。（平均土地価格×面積×土地係数×占有期間係数×土壌条件係数）＋測量費等の直接経費
地権取得	取得32ロッテ，申請中59ロッテ
電気・飲料水	昭和52年3月に事業団の援助により農村電化が完成した。飲料水は，事業団の援助の共同井戸を利用している。
地区内道路	全戸アスファルト舗装の州道沿いにあり極めて恵まれている。
主なる事業団援護施設	深井戸4基，水槽2塔，その他揚配水設備
組合等所有施設	事務所兼販売所，共同販売所（在マナウス事業団貸与），倉庫，車庫，乾燥場，鶏解体処理場，ガソリンスタンド，職員住宅，労務者住宅等各1棟，車輌3台，土地10,000 m² この他自治会が自治会館1棟。

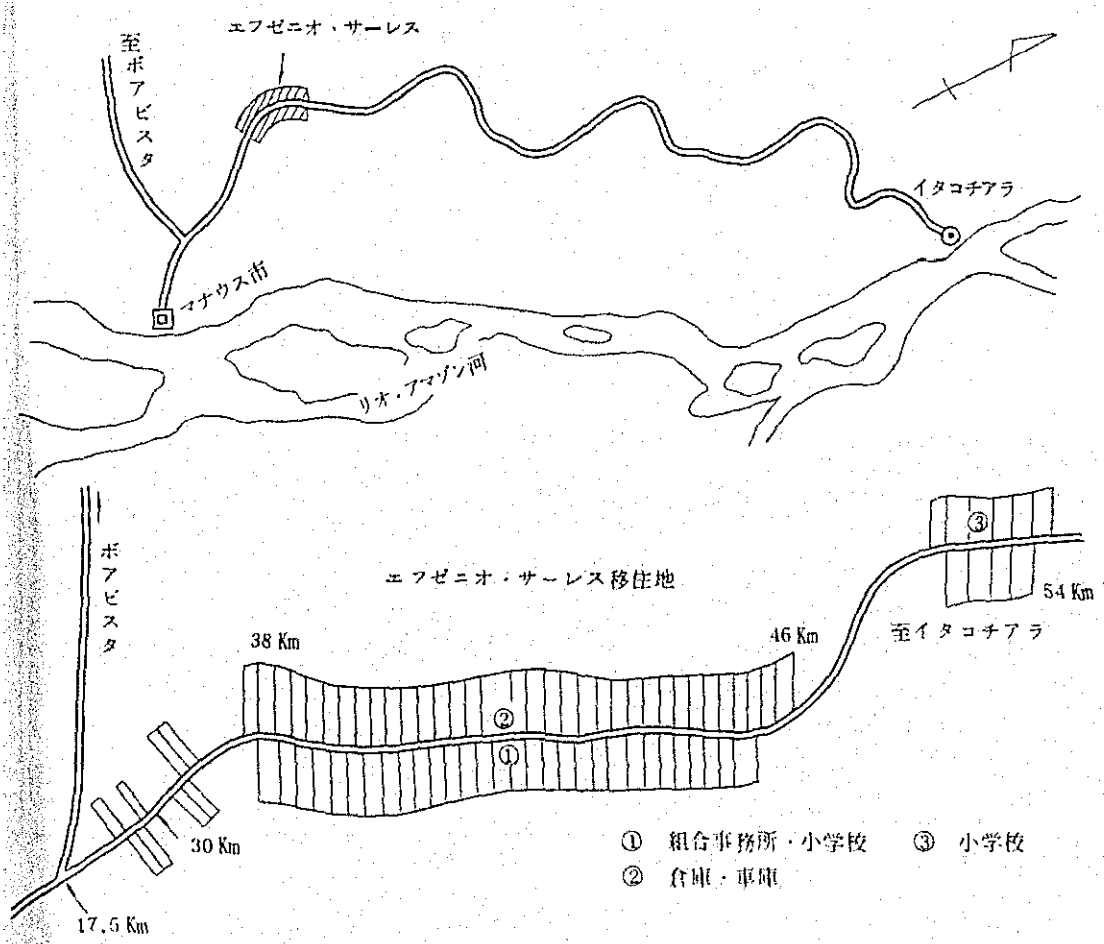
3 営農

主作目	養鶏，果樹，蔬菜
営農状況	マナウス市の発展に伴い鶏卵鶏肉，蔬菜等の市場要求が強まり，これに対応してアスファルト道路で結ばれ好的な立地条件にある当移住地の営農は養鶏，蔬菜に重点を置いた営農が進められてきた。経済的には豊かであるが，市場変動をまともにかぶり易い養鶏，蔬菜を基礎とする営農形態は必ずしも安定した営農であるとはいえず，蔬菜，鶏卵市場の停滞低迷と生産資材の高騰（飼料，肥料等）等により，現在は必ずしも容易な条件下になく従来の営農に反省が加えられ，胡椒グアラナ果樹等の永年作物の導入意欲が高まっている。
農機具等の普及状況	トラクター0.3台，トラック0.6台，耕耘機1.0台，乗用者0.8台，動力噴霧器1.5台，揚水ポンプ0.5台，チェンソー0.5台（昭和52年度調べ1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレーン支部，同支部マナウス支所，アマゾナス州農村信用援護協会本部。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	組合員は農協，非組合員は夫々特約業者を通じ販売市場はマナウス市である。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	3,413千円（171,048 Cr $）

4 組織活動

自治会	エフィゼニオ・サーレス自治会（任意団体）を昭和40年4月に結成，現在会員47戸272名。 移住地社会の発展向上のための文化活動を中心とした活発な活動を行っている下部組織に婦人部，青年部を有す。
農協	昭和34年4月26日マナウス農業協同組合（任意）として発足。 昭和39年4月7日公認組合，エフィゼニオ・サーレス農業協同組合となり，事業は販購買事業，信用事業，加工機事業で活発な行動を行いアマゾナス州唯一のものであり，マナウス市の発展とともに今後の発展が期待される。現在組合員38名。

5 地区略図



移住地名　ア　カ　ラ

1　地区概要

所在地	所在地	パラー州アカラ郡 MUNICIPIO DE ACARÁ, ESTADO DO PARÁ
	管理者	州政府
	入植開始年度	昭和34年（1959年）

経緯	経緯	グァマ移住地からの転住者受入地として，アカラ郡が州有地の解放を受けて創設した移住地で，別名「パーエス・カルバーリョ植民地」ともいう。 昭和35年に，グァマ・ペルナンブコ地区からの転住者23戸を中心に入植した。この移住地の営農は，大半が胡椒の単作であるが，胡椒の適地であることもあって比較的安定している。数年前よりトメアス，ベレン近郊からの転住者が増えつつある。

自然条件	位置	W 48°25′　S 1°15′
	地形	第3紀層段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷からなる地帯である。
	地質・土壌	地質は砂岩，頁岩。土壌はラテライト化土。 pH＝4.2で酸度強
	植生・林相	熱帯雨林で有用材，アカプー，カスタニア樹等巨木が密生する。
	気候	雨期12月～6月，乾期7月～11月 年間平均気温 25.6℃ 年間降雨量3,077.5㎜
社会条件	交通	昭和47年9月，ベレン市からブラジリア街道経由州道1号線と，昭和49年10月ベレン市グァマ～ブジャル～トメアス～アカラ線が開通し，陸路による外部連絡が可能となり，ベレンとの間に1日1往復のバス便もある。
	市場	アカラ町は人口5,000人程度のため，ベレン市を主な消費市場としている。
	医療・教育	移住地内に小学校が2校ある。教師は3名，就業児童は35名で域外通学者8名を含め就学率100％，中学はベレンにあり13名が寄宿通学（就学率100％）。アカラ町に診療所があるが，医師は常駐していない。看護婦1名が駐在，年2回程度のベレン援協による巡回診療がある。
	治安	常駐警官なくも，治安状態良好。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	戸数	33	20		2						
	人員	15	133		8						
	年度	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数	
	戸数									71	
	人員									289	

昭和53年3月末

主なる出身県名	福岡	北海道	山形	宮崎	山口	熊本	その他	合計
戸数	10	17	11	6	4	6	17	71

総面積	ha
ロッテ面積	50 ha
分譲条件等	グァマ移住者を主体とする既入植者が州と個別契約し，転入植したもので州有地の無償払い下げを受けた。
地権取得	全員取得済
電気・飲料水	電気は導入していないが，自家発電を殆どの農家で利用している。飲料水は良質の井戸水。
地区内道路	州が建設した道路に沿って入植，良好。 移外道路は陸路（アカラ～サンミゲル・ド・グァマ～ベレンとアカラ～ブジャル～グァマ～ベレン）が開通。但し，途中2カ所フェリーボートで渡る。
主なる事業団援護施設	なし
組合等所有施設	なし

3 営農

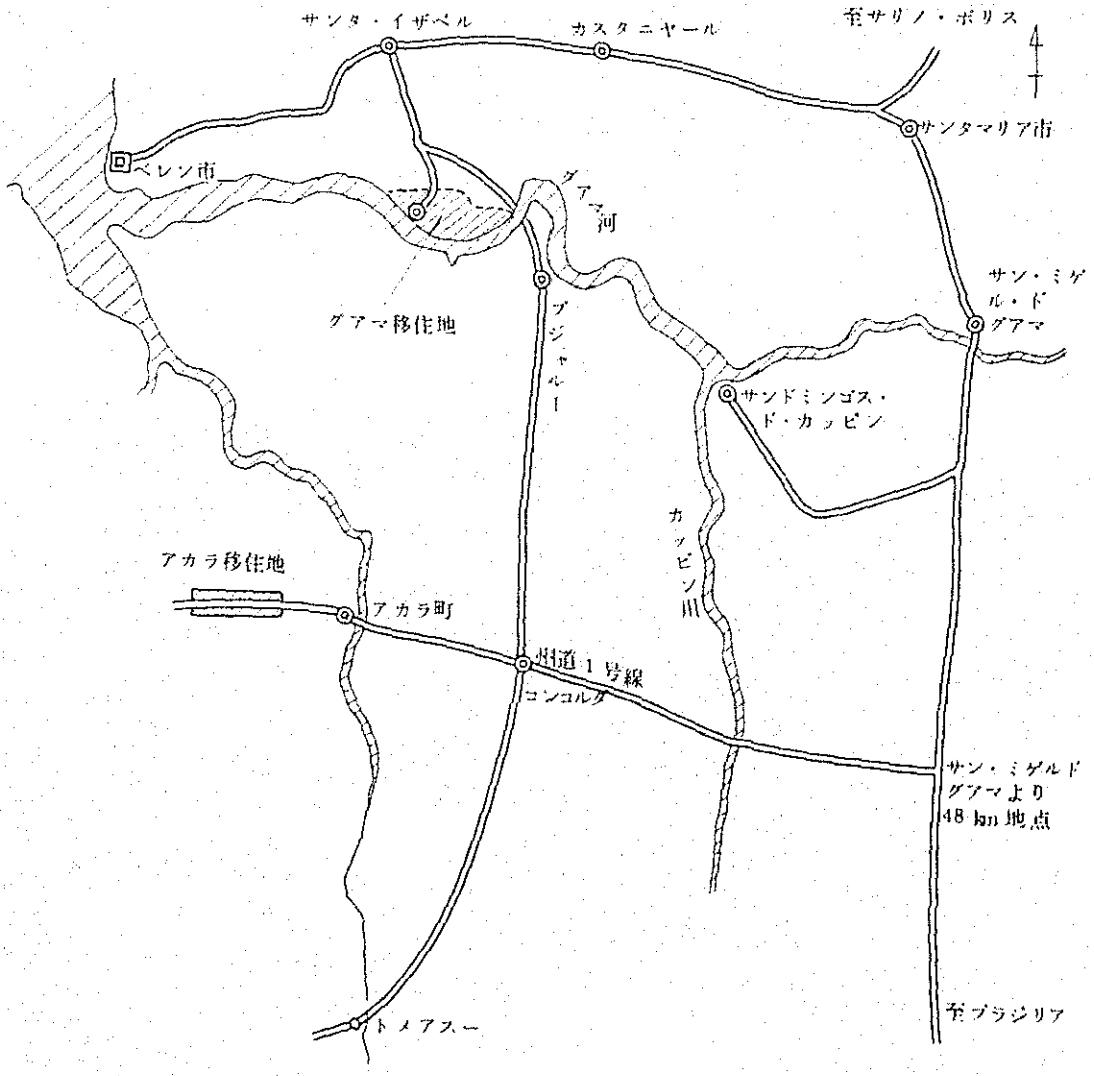
主作目	胡椒
営農状況	胡椒と単作の営農型態であるが，胡椒好況の波にのって一応安定しているが第2第3作物の開発が必要である。
農機具等の普及状況	トラクター1.2台，トラック0.4台，乗用車0.4台，動力噴霧器0.8台，トレーラ0.5台，エンジン1.5台，薬剤散布器0.8台，チェンソー0.8台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレン支部，同支部アマゾニア熱帯農業総合試験場，パラー州農村信用援護協会（ACAR－PARA）
利用金融機関	銀行，事業団

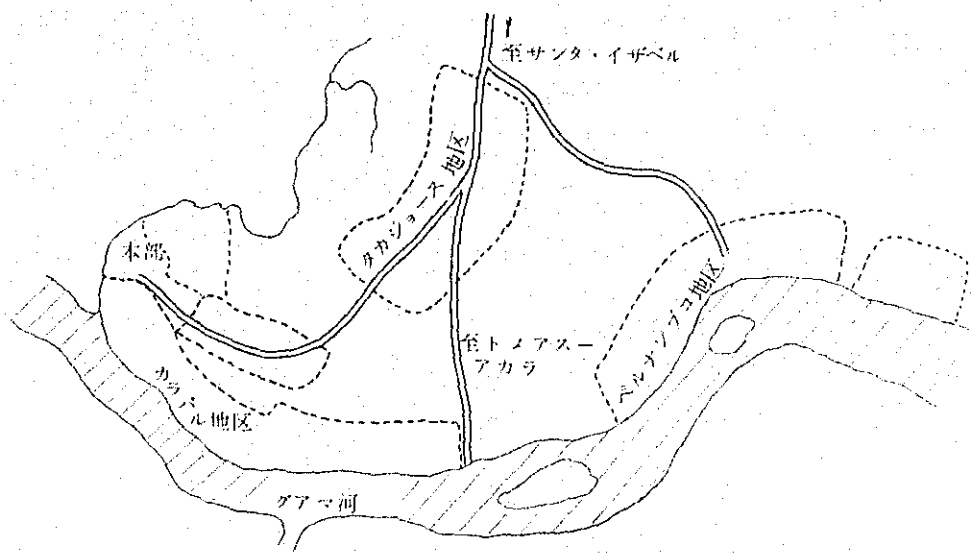
主作物の販売取扱機関並びに主市場	胡椒はベレン市の一般商社
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	5,312千円（266,184 Cr$）

4 組織活動

自治会	アカラ日本人会がある。
農協	日本人の農協（任意）があるが活動は肥料の共同購入程度である。最近トメアスー産組に加入する者が増えている。

5 地区略図（アカラ及びグァマ）





グアマ移住地

II　レシーフェ支部管内

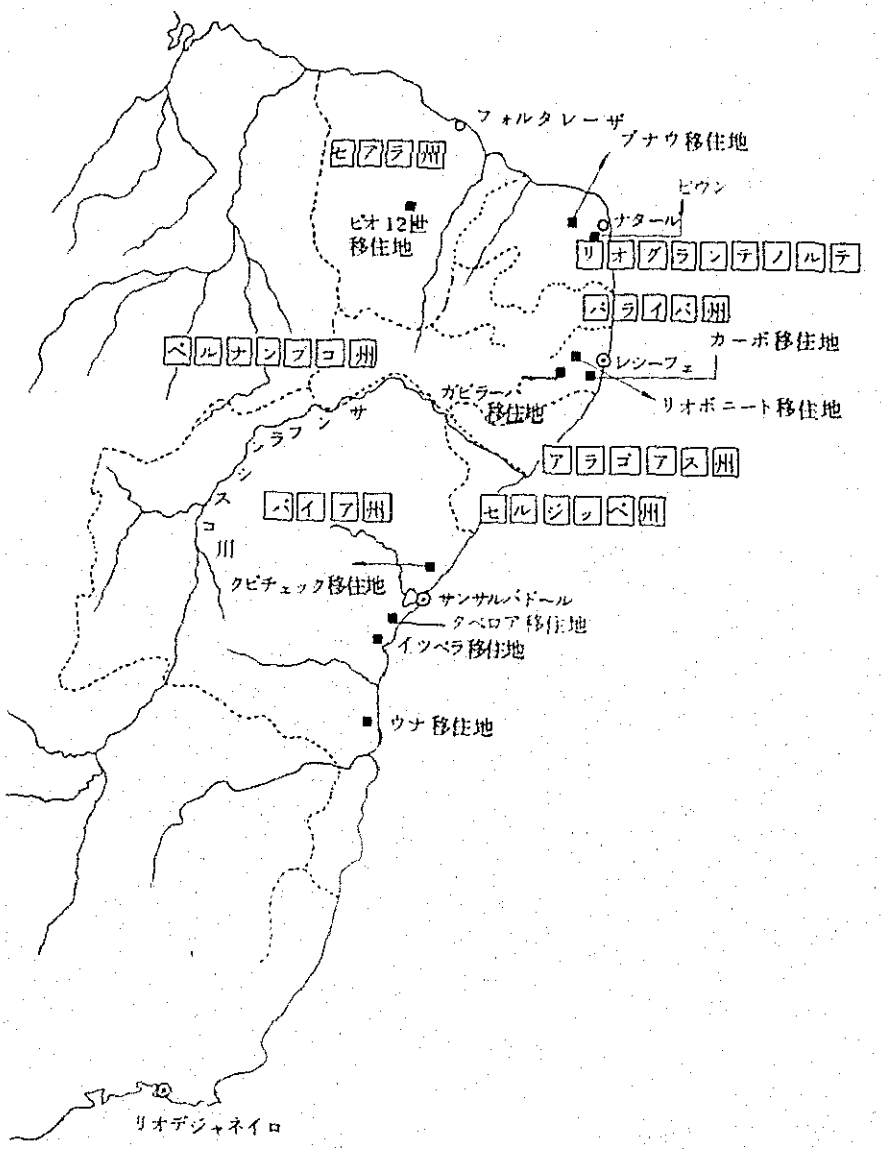
支部機構

レシーフェ支部（レシーフェ市）

サルバドール出張所（サンバドール市）

管轄州

セアラ州，ペルナンブコ州，リオグランデノルテ州，パライーバ州，アラゴアス州，セルジッペ州，バイア州



移住地名　ピオ12世

1 地区概要

所在地	所在地	セアラ州パカツーバ郡ピオ12世 PIOXII, MUNICIPIO DA PACATUBA, ESTADO DA CEARÁ
	管理者	昭和50年に地権が交付され，同時にINCRAも引き上げた。
	入植開始年度	昭和35年

経緯	経緯	東北地方に集約的近代農業を普及させると共に，フオルタレーザ市へ蔬菜を供給する必要があるどの，カンピナ・グランデでのカトリック教会会議の提唱により，連邦政府が私有農場を買収して，連邦直営として創設した混合移住地であったが，昭和48年INCRAの引き上げに伴ない郡に編入された。日本人は昭和34年日本直来の8世帯，レシーフェからの現地入植1世帯の計9世帯。 この地域は有名な乾燥地帯で，灌漑水に頼る営農であるため，水の配分が問題である。 そのため一部転出者が出たが，現在残っている6戸は蔬菜に養鶏を組み入れた営農を行っている。

自然条件	位置	W 38°48′　S 4°10′
	地形	標高30～40mの高台地，緩傾斜地，低地より成る大波状地形。
	土質・土壌	花崗岩系母岩から成る植壌土または砂質土。
	植生・林相	開墾地，森林，疎林，貯水池。
	気候	年平均気温。 平均最高気温29.3℃，平均最低気温24.3℃ 雨量800～1,000㎜。

社会条件	交通	移住地～ガイウバ間砂利道8Km，雨天通行差支えなし。 ガイウバ～フオルタレーザ　完全舗装52Km　バス便多い。 〃　鉄　道37Km
	市場	フオルタレーザ市
	近傍主要都市	フオルタレーザ市　セアラ州都人口約90万人　60Km ガイウバ町　人口2～3千人　8Km フオルタレーザにはSUDENE（東北伯開発庁）の工業開発計画地として，工場大団地がある。
	医療・教育	ガイウバ町には医師が在住している。 フオルタレーザ市には総合病院あり，日系の二世医師が在住している。 地域内に農村小学校1校あり，日本人入植者子弟は全員，フオルタレーザ市に寄宿

		し，フオルタレーザ市内の小・中学校に通学している。
	治　　安	良好　ガイウーバ町警察管下

2　入　植　状　況

52年末現在　　入植累計　10戸（うち現地入植1戸）

退耕累計　4戸

現　　在　6戸　24名　昭和53年3月末

主なる出身県名	長　野	鹿児島						合　計
戸　　数	5	1						6

総　面　積	1,390 ha
ロッテ面積	1ロッテ約20 ha
分譲条件及価格	本地券交付条件は土地，家屋を含め，約7,000 Cr $ 10年の分割払い可
地　権　取　得	全戸取得済
電気・飲料水	電気中心地区のみ配電ずみ。 飲料水は深井戸完成
地区内道路	雨天通行支障なし。
地区内主要施設	小学校1

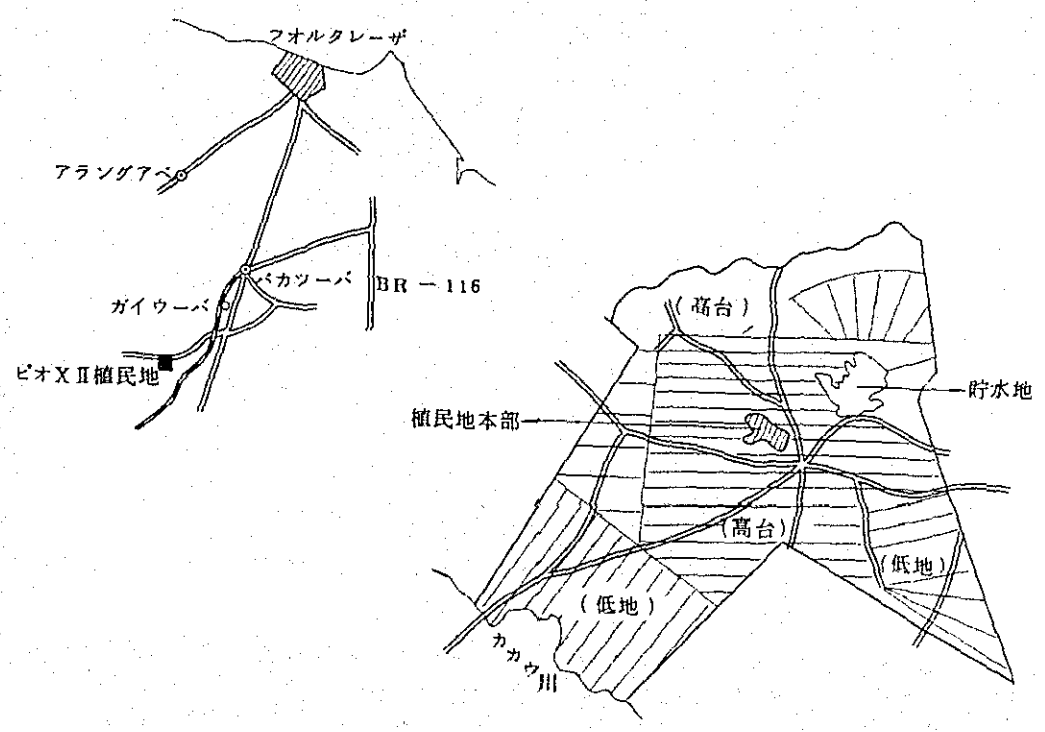
3　営　　農

主　作　目	養鶏，メロン，西瓜，陸稲，マラクジャ
営農状況	昭和41年，事業団の指導融資により鶏を導入し，これを主体としている。また貯水池の農業用水を利用して蔬菜を，雨期には陸稲も栽培している。 果樹類は試作段階にある。
農機具等の普及状況	トラック0.4台，揚水ポンプ2.2台，乗用車0.4台，トラクター0.4台，粉砕機0.2台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並主市場	各農家が，個別に自家所有の車両でフオルタレーザ市の食料品店，レストランなどへ直接販売している。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,286千円（58,313 Cr $）

4 組織活動

自治会	ピオドーゼ日本人会を組織している。
農協	ピオドーゼ農協はあるが，邦人の参加は少ない。 僅かに購買事業がみられる程度である。

5 地区略図



移住地名　ピ　ウ　ン

1　地区概要

所在地	所在地	リオ・グランデ・ノルテ州，ニシア・フロレスタ郡（ナタール市北西22Km） MUNICIPIO DA NISIA FLORESTA, ESTADO DA RIO GRANDE DO NORTE
	管理者	連邦（INCRA）
	入植開始年度	昭和31年

経緯	経緯	地域の農業技術の向上と，州都ナタール市への蔬菜，果実の供給を目的として，日本人と伯国人を混合入植させるべく計画。昭和31年創設された州と連邦の共営移住地である。 入植当初はメロンが大当りし，前途に大きな希望がもたれたが，昭和35年に集中豪雨があり一時移住者は動揺し，更に昭和45年8月家長の集団交通事故が発生，転住が続いて現在は3戸となっている。

自然条件	位置	W 35°10′　S 5°55′
	地形	河岸の湿地帯とそれに連なる緩傾斜の高台地。
	地質・土壌	低地は有機質の多い黒泥質土壌，台地は砂質土。
	植生・林相	低地は湿地帯草類。高台は疎林。附近高台に椰子園あり。
	気候	年平均気温 26.3℃，平均最高気温 30.0℃，平均最低気温 21.6℃ 年間降雨量 1,400mm。 雨期2～8月　乾期9～1月

社会条件	交通	移住地～ナタール市間は，完全舗装道路でバスその他車輌交通ひんぱん。 ナタール～レシーフェ間も，完全舗装道路で，バスその他車輌の交通が非常に多い。（バス5時間）
	市場	ナタール市が主な出荷先であるが，市場狭少なため，乾期はレシーフェ市にも出荷している。（主として個人出荷） ナタール市は近年発展が著しく将来性はある。
	近傍主要都市	ナタール市　州都　人口約 27万人　22Km レシーフェ市　ペルナンブコ州首都　人口約140万人　400Km
	医療・教育	地区内に診療所があり，毎週内科医，歯科医が出張していたが，INCRA移管後は中断している。 ナタール市には各種医療機関が完備している。 地区内に小学校が1校あるが，日本人子弟は全員在ナタール市の「生徒の家」から市内の小・中・高校に通学している。

治　　安	良好。ナタール市警察官下。

2 入植状況

入植累計　11戸（うち現地入植2戸）

退耕累計　8戸

現　　在　3戸　14名（昭和53年3月末）

主なる出身県名	神奈川	長　野	茨　城		合　計
戸　　数	1	1	1		3

総　面　積	3,300 ha
ロッテ面積	1ロッテ 50 ha 台地　47.0～47.5 ha 低地　2.5～3.0 ha
分譲条件及価格	1975年本地券交付，土地，家屋含み約8,000～9,000 Cr$ 分割払可。
地権交付	全戸取得済
電気・飲料水	全戸配電済み。 飲料水は素堀共同井戸で水質良好，水量豊富。
地区内道路	砂道。雨期通行支障なし。
地区内の主要施設	INCRA事務所1，小学校1，工芸学校1，修理工場1，クラブ1

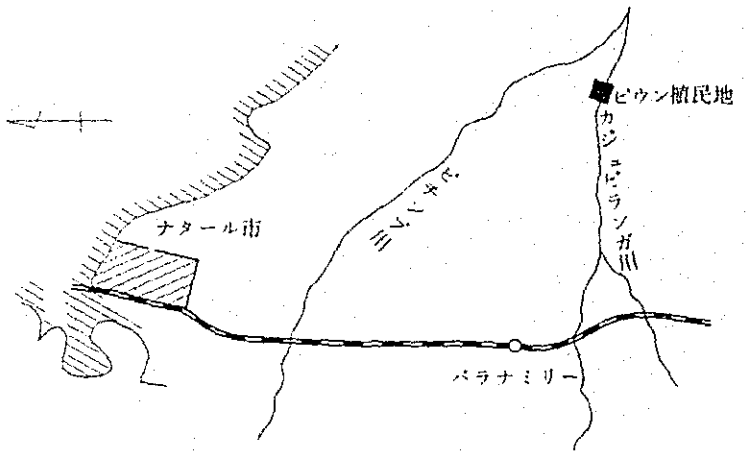
8 営　　農

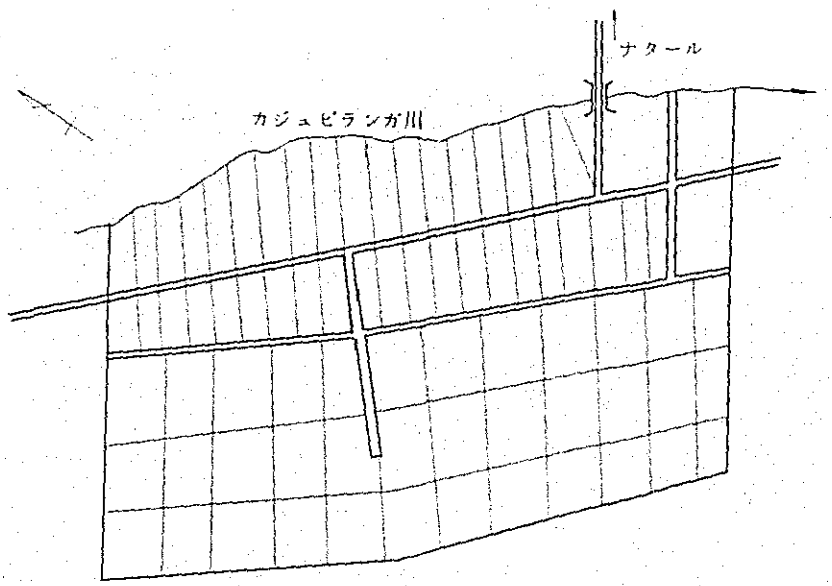
主　作　目	バナナ，西瓜，メロン，グラジオラス
営農状況	1ロッテ50haの90%は砂質土の台地で占め，住宅周囲にココヤシ，カジュウが僅か植えられているにすぎず，営農は低地約5haの1部が利用されているのみである。雨期は陸稲のみで，乾期の西瓜，メロン，グラジオラス等が中心である。家長の老令化や他地区への転住，子弟の農業以外への就業等により，営農の発展は余り期待できない。
農機具等の普及状況	脱穀機0.5台，発動機0.5台，動力噴霧機1.0台，耕耘機1.5台，乗用車1.0台，揚水機1.0台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	ナタール市，レシーフェ市
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,822千円（82,591 Cr$）

4 組織活動

自治会	北伯日本人連合自治会（ピウン日本人会）
農協	ピウン農協（伯人との混合，法定）に加入しているが，殆ど活動していない。

5 地区略図





移住地名　プ　ナ　ウ

1　地区概要

所在地	所在地	リオグランデ　ノルテ州　トーロス郡（ナタール市北方86Km） MUNICIPIO DO TOUROS ESTADO DA RIO GRANDE DO NORTE
	管理者	ピオ12世財団（当初はリオグランデ　ノルテ州）
	入植開始年度	昭和34年

経緯	経緯	先に日本人を受け入れたピウン移住地の成績（蔬菜栽培）が極めて良かったため，リオグランデ　ド　ノルテ州に於ける第2の移住地として，昭和33年創設した州直営の混合移住地である。 日本人は昭和34年および35年に13世帯が入植した。 日本人の入植当時は，INIC扱いの州直営であったが，後「ピオ12世財団」に移管され分譲条件が変った経緯がある。 入植者は当初しばらくは順調であったが，その後連続災害に見舞われたため一世帯を残して他は転出した。 転出者は，レシーフェ近郊，カーボ，リオ・ボニート移住地へ移転した。

自然条件	位置	W 35°30′　S 35°15′
	地形	地区東辺をフォンセッカ川が北から南に流れている。 地区南・西・北部は低い緩波状形の丘地で，これらに囲まれた中央に平坦な低地がある。
	地質・土壌	丘地は砂質土で肥沃でない。 低地は黒色の有機質にとむ沖積土。土層3～5m。 pH 5～5.5
	植生・林相	丘地はカジュー，アンガーバ等が自生している。地区内に椰子園もある。低地は草原。
	気候	年平均気温 26.2℃，平均最高気温 29.4℃，平均最低気温 20.6℃ 年間雨量 1,500mm　雨期2～8月，乾期9～1月

社会条件	交通	トーロス～プナウ～セアラミリン間砂利道 定期バス1日1回 セアラミリン～ナタール間完全舗装 バスその他車輌の交通多い。
	市場	ナタール市 乾期には他州ジョンペソア市，レシーフェ市等にも出荷
	近傍主要都市	セアラミリン　人口約5千人　南方　30Km ナタール市　リオグランデ　ド　ノルテ州都　人口約35万人

社会条件		セアラミリン経由　南方　60 Km トーロス　人口約3千人　　北方15 Km
	医療・教育	医　　療 移住地市街地に診療所あり（準看護婦常駐），毎週医師がセアラミリンより出張診療。セアラミリンに総合病院（産院が主体），ナタール市に各種医療施設完備。 教　　育 地区内に農村小学校1校（4年制有資格女教師1名） セアラミリンには中学校があり，大学はナタール市にある。
	治　　安	良好　トーロス警察管下

2　入植状況

入植累計　14戸（うち現地入植1戸）

退耕累計　13戸

現　　在　1戸　4名　昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ州	ペルナンブロ州	バイア州	リオグランデドノルテ州	帰国
率　(%)	15（2戸）	23（3戸）	23（3戸）	15（2戸）	23（3戸）

主なる出身県名　熊本県1戸

総面積	907 ha（51ロッテ）
ロッテ面積	1ロッテ低地7 ha　丘地5～8 ha
分譲条件及価格	（当初）低地7.5 ha　丘地4.5 ha　計12 ha　金額130 Cr$　を2年据置8年分割払い （現行）低地7 ha　丘地5～8 ha無償贈与
地権取得	取得済 地権交付は条件付（第3者への転売禁止条項）であるため担保権設定および退耕する場合は，財団の承認を必要とし，財団が保証および買取り（地上権）を行う。
電気・飲料水	電気　なし 飲料水は水道
地区内道路	丘地，低地とも良好，雨期通行支障なし
地区内主要施設	診療所1，学校1，事務所1，車庫兼修理所1

3　営　　農

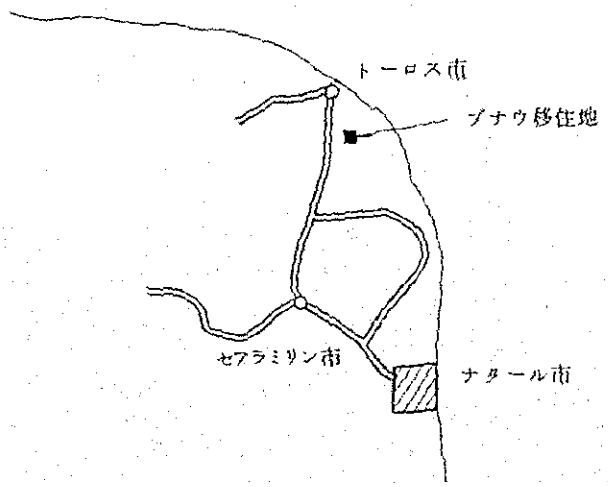
主作目	米，バナナ，蔬菜類
営農状況	ピウンと同様，低地を利用して米，バナナ，蔬菜類を栽培している。

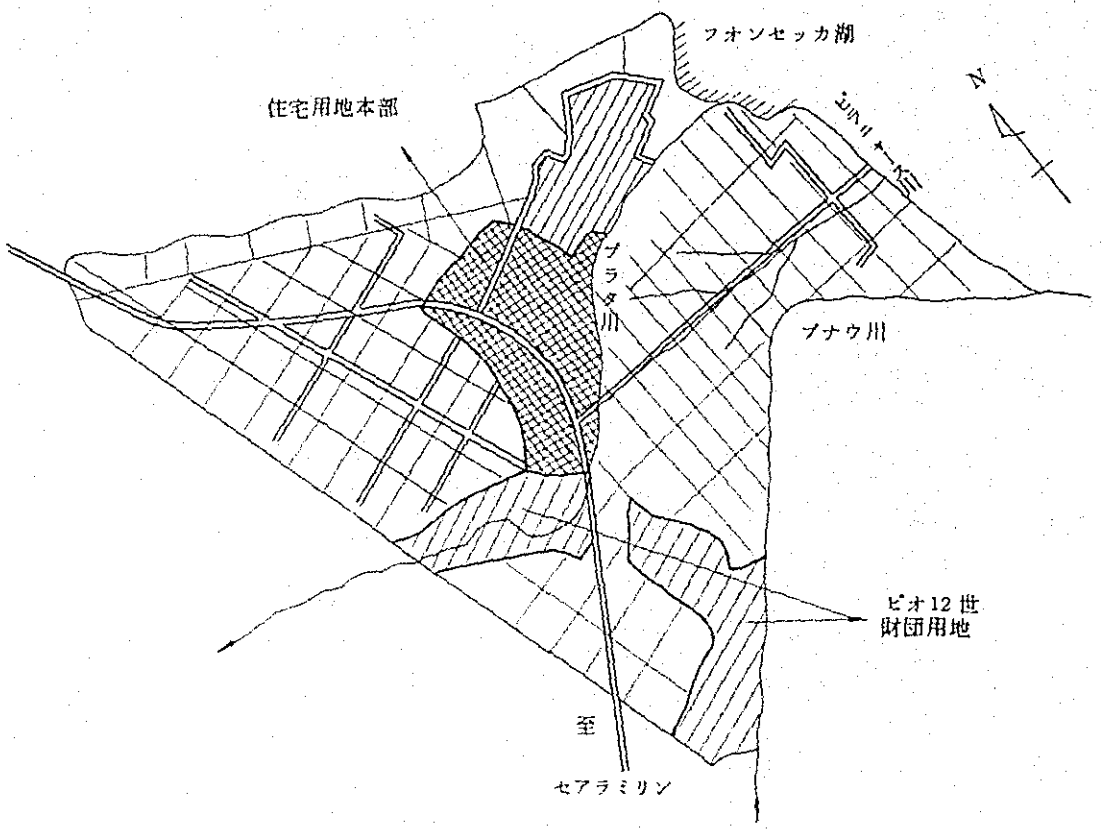
農機具等の普及状況	トラック 1.0 台，オートバイ 2.0 台，薬剤散布器 4.0 台 （昭和52年度調べ 1戸当り平均）
営農指導機関	農業改良普及機関（州），事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	トラックを所有し大部分の生産物はナタール中央卸市場へ販売している。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	3,869 千円（ 175,419 Cr$ ）

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし

5 地区略図





移住地名　　リオ・ボニート

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	ペルナンブコ州ボニート郡 MUNICIPIO DO BONITO, ESTADO DO PERNAMBUCO
	管　理　者	郡に編入
	入植開始年度	昭和33年

経緯	経　　緯	昭和31年パライーバ州で開催された，東北伯カトリック司教会議の決議により，東北伯地域の経済および社会の発展と東北伯人の定着，更にはレシーフェ市の食糧供給地帯とする目的で，INIC（現INCRA）が創立したものである。 日本人に対しては，特に夏季乾燥期に標高の高い土地を利用しての，蔬菜栽培が期待されていた。 日本人は昭和33年に5世帯，昭和35年に9世帯が日本からの直来で入植した。

経緯		その後貸与物件（車輌）の利用をめぐって感情的な対立が生じ転出する者が出た。 逆にプナウ移住地からの転出者が入植する等，一時的移転が激しかったが，結局，現在日本人は16世帯が入植している。移住地は昭和48年INCRAの引き上げにともない都に編入された。 営農面では，当初マラクジャの栽培により極めて順調に伸びていたが，値下りにより蔬菜に転向した。 現在柑橘，マラクジャ，グラビオラ等永年作物を中心にキャベツ，ニンジン，西瓜等を組合化した経営に転換，営農は急速に進んだ。

自然条件	位置	W 35°41′　S 8°29′
	地形	全体として起伏の多い丘陵地，渓流各所にあり。
	地質・土壌	高地部砂壌土，低地部（谷間）は植壌土～壌土
	植生・林相	森林多い（主として再生林）
	気候	年平均気温　23.4℃ 平均最高気温　32.5℃　　平均最低気温　16.0℃ 年間降雨量　1,436㎜ 雨期3～8月　　乾期9～2月 区別は比較的明確
社会条件	交通	レシーフェ～ベゼーホス間は舗装，ベゼーホス～ボニート間はまだ舗装されていない。 レシーフェ市～ボニート市は定期バス1日3往復。 ボニート移住地は無舗装で，雨期の車輌通行は不能。
	市場	主体はレシーフェ市，一部カルアルー市 ボニート農協のポスト（レシーフェ市中央市場内および市場直売所）がある。
	近傍主要都市	レシーフェ市　州都人口約120万人　130㎞ ボニート市　人口約1万人　7㎞
	医療・教育	医療　地区内に診療所がある。 ボニート市には無料診療所のほか，FUN RURAL（農業救済基金）の診療所がある。 また厚生省直轄病院（内・外・産婦人科）は，移住地の管理人の証明により診療無料 教育 地区内に農村小学校1校（4年制） 小学校 中学校　ボニート市 高校
	治安	良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	33	34	35	36	37		40	41	42	43
	戸数	5		9							
	人員										
	年度	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数	
	戸数							13	27	15	
	人員									62	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	レシーフェ近郊	バイヤ州	サンパウロ
率 % （戸）	58（7戸）	33（4戸）	9（1戸）

主なる出身県名	福岡県	長野県			その他	計
戸数	5	4			6	15

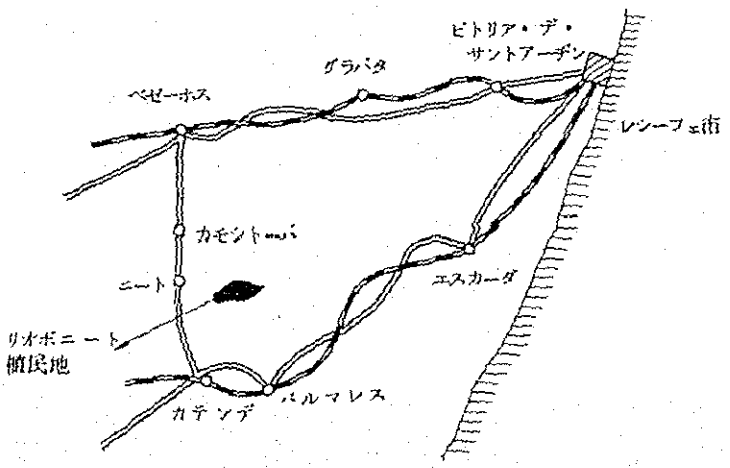
総面積	1,380 ha
ロッテ面積	1ロッテ約25 ha
分譲条件及び価格	1975年本地券交付 9,000～10,000 Cr$
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	全地区電化済
	飲料水は各戸素堀井戸，水質良好，水量豊富。
地区内道路	良好 幹線8 m巾 支線6 m巾
地区内主要施設並に車輌等	小学校1，農協事務所1，売店1，倉庫1，修理工場1，製材所1，診療所1

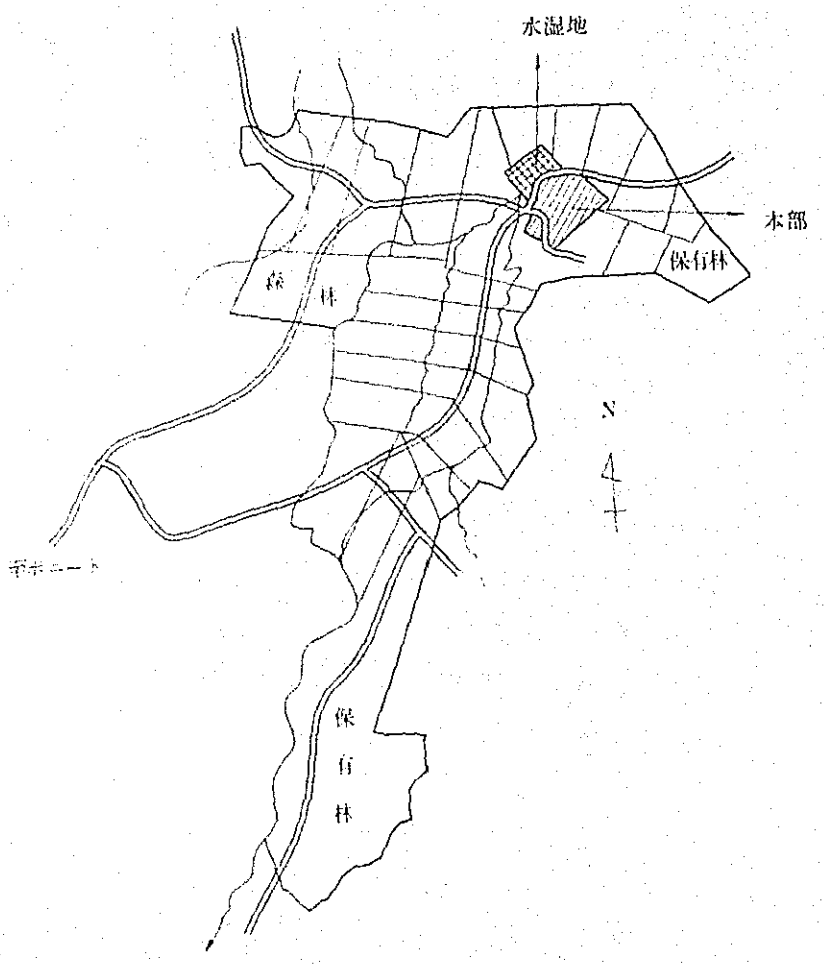
3 営農

主作目	バラ，西瓜，蔬菜，柑橘
営農状況	地区は比較的急な傾斜地が多くすべての作物は灌漑により栽培されている。
農機具等の普及状況	発動機0.5台，動力噴霧機1.9台，乗用車0.6台，トラクター0.3台，トラック0.7台，揚水機2.7台（昭和52年度調べ 農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	レシーフェに農協販売所があり大部分はそこへ出荷。
	ポニート町のフェイラやマラクジャ加工会社への出荷もある。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,419千円（64,339 Cr$）

4 組織活動

自治会 農協	昭和45年　リオ・ボニート共栄会結成 レシーフェ近郊カルピーナ在住日本人，カーボ移住地日本人とともに，中伯産組（任意）を組織していたが，法定組合の発足により解散した。 昭和46年　リオ・ボニート法定組合結成 活動は運輸，販売を行っている。





移住地名　ウ　ナ

1　地区概要

所在地	所在地	バイヤ州ウナ郡 MUNICIPIO DA UNA ESTADO DA BAHIA
	管理者	連邦（INCRA）
	入植開始年度	昭和28年

経緯	経緯	昭和16年バイヤ州が民有地を買収し，州内農業者の定着を目的として創設した移住地であったが，昭和24年連邦直営となった。 昭和28年になってこの地方の農業振興を考え，日本人農業者の受入れを認めることになったものである。日本人移住者は入植後まもなく一部の煽動者により事件を

経緯		起し，15世帯の離脱者を出した。 内10世帯はイツベラ移住地へ，5世帯はジャイーバ移住地へ移転した。 残留家族はゴムの植栽を中心としたが，近年カカオ・胡椒等を取り入れた経営が実施されている。

自然条件	位置	W 39°6′　S 15°20′
	地形	派状地形，小河川およびその流域低湿地，傾斜地および高台から成る。
	地質・土壌	低地は有機質に富む土壌。傾斜地および高台地は第三紀層の砂質土または砂質土壌
	植生・林相	熱帯降雨林地帯
	気候	年平均気温24.8℃，平均最高気温31.0℃，平均最低気温16.6℃ 年間降雨量2,224㎜ 雨期4～8月，乾期9～3月

社会条件	交通	ウナ移住地～イタブナ間　砂利舗装道，毎日バス4往復 イタブナ～サルバドール間　定期バス毎日ひんぱん，所得8～10時間 ウナ～イレウス間　直通道路建設中 イタブナ，イレウスに空港あり，移住地内にテコテコ発着場あり。
	市場	イタブナ市，ウナ町
	近傍主要都市	イタブナ市　人口約2万人　130㎞ ウナ町　人口約5千人　10㎞ イレウス市　人口約1万人　イタブナ経由160㎞ サルバドール市　州都人口約120万人　640㎞
	医療・教育	地区内に診療所，薬局あり。医師，看護婦が常駐している。 教育 地区内に5年制の小学校あり。 中学校はウナ町，イタブナ市 高校　〃 大学進学希望者はイタブナの高校に寄宿，通学している。 大学はサルバドール市
	治安	良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数	38	1	4	8										
	人員														
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計		定着数		
	戸数									23	74		31		
	人員												138		

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ近郊	イツベラ	クビチェック	その他
率（%）	80	9	6	5

主なる出身県名	北海道	京都	東京	その他		合計
戸数	9	5	5	12		31

総面積	5,494 ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件及価格	募集要領では土地代CR$30～45，3年据置10年分割（5年以上定住者）であったが現在なお未確定
分譲状況	満植
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	センター地区は，ウナ町より送電々化済。またロッテ内電化は，伯国銀行より3年据置4年均等払いを条件とする資金導入で電化される予定
地区内道路	良好
地区内の主要施設	小学校2，会館1，倉庫1，修理工場1，売店1

3 営農

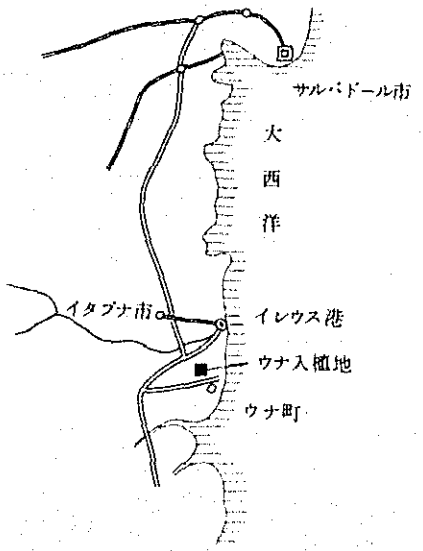
主作目	ゴム，マンジョカ，トマト，マラクジャ，胡椒，カカオ
営農状況	ゴムは，昭和44年頃から，病虫害により次第に採液量が低下しているので，抵抗性品種への更新が進められている。また胡椒，カカオ等の導入も盛んであるが，収入にまだ結びつかず短期作でカバーしており資金繰は楽ではない。
農機具等の普及状況	発動機0.3台，乗用車0.3台，耕耘機0.4台，トラクター0.4台，トラック0.3台，（昭和52年度調べ 農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部，協力機関としてカカオ栽培地帯農業振興審議会（CEPLAC）
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主な市場	ゴム等永年作物については，仲買人に庭先販売をしている。

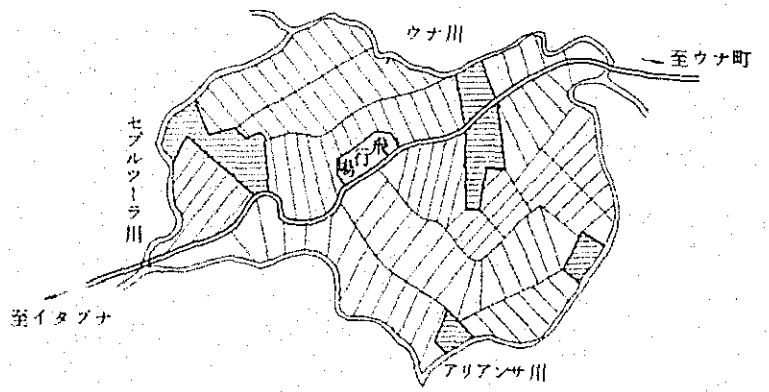
農　家　所　得 （1戸当り平均 昭和52年度）	△601千円（△27,259Cr$）

4　組　織　活　動

自　治　体	ウナ日本人会は昭和46年解散し，ウナ日伯文化協会を設立
農　協	伯人混合の法定ウナ農協がある。

5　地　区　略　図





移住地名　カ　ー　ボ

1　地区概要

所在地	所在地	ペルナンブコ州カーボ郡 MUNICIPIO DE CABO DE PERUNAMBUCO
	管理者	ペルナンブーコ州公社
	入植開始年度	昭和40年

経緯	経緯	ペルナンブコ州政府は，土地を持たない農民に土地を与え生産意欲を向上させるため，昭和38年レシーフェ南方30Kmの不良甘蔗耕地を接収し，州直営の移住地として創設した。 この移住地に対し，ブナウ移住地の転出者，レシーフェ近郊分益農の日本人合計12家族が昭和39年から41年にかけて入植した。 現在，当移住地で農業を営んでいる者は5戸である。

自然条件	位置	W 35°7′　S 8°20″
	地形	標高13 m　緩傾斜の起伏に富む。
	地質・土壌	砂糖キビ廃園あとのやせ地。下層に不透性粘土盤層あり 永年作適地に乏しい。
	植生・林相	砂糖キビ畑の跡地に入植した。
	気候	年平均気温26.1℃，最高平均28.9℃，最低平均23.5℃，雨量1,957㎜ （観測地　オリンダ）

社会条件	交通	移住地入口近くを，レシーフェ～サルバドール間国道（BR101号線完全舗装）が通っている。
	市場	レシーフェ市，カーボ市 専業農家4戸は自家用車で出荷する程度
	近傍主要都市	レシーフェ市　州都人口約120万人　35Km カーボ市　人口約5万人　徒歩20～30分
	医療・教育	医療：移住地内には特になし カーボ市，レシーフェ市に各種医療施設完備 教育：地区内に小学校　1 小学校・中学校・高等学校共日本人子弟はカーボ市に徒歩通学している。 大学はレシーフェ市　3名医学部に在籍中
	治安	良好

2 入植状況

入植累計　12戸 ブナウ・リオボニート退耕者及びレシーフェ近郊分益農

退耕累計　7戸 レシーフェ市内

現在戸数　5戸　19名　昭和53年3月末

総面積	3,500 ha
ロッテ面積	1ロッテ 50 ha
分譲条件及価格	土地代3,300Cr$ 据置なし10年分括又は一括払い（同額）
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	電化済
	飲料水は井戸水および河川水を利用
地区内道路	整備がおくれており，降雨が続くと車輌の通行が非常に困難となる。
地区内の主要施設	なし

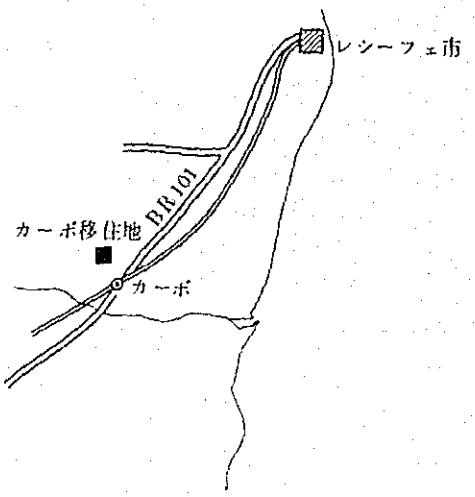
3 営農

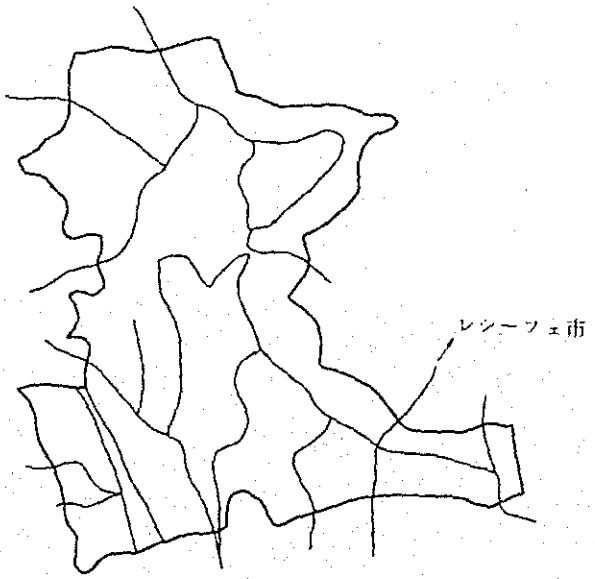
主作目	柑橘，ゴヤバ，キュウリ，グラジオラス，鶏卵
営農状況	水年作と短期作，短期作専作，養鶏短期作等の営農類型に分類できるが，地力が悪く水害にも屢々見舞われやすい立地にあり，営農の向上は緩慢ではあるが，都市近郊（レシーフェまで30 Km）にある有利さを生かしている。
農機具等の普及状況	発動機1.3台，動力噴霧機0.3台，耕耘機1.0台，トラクター0.3台，トラック0.3台，揚水機2.0台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並に主市場	レシーフェおよびカーボのフェイラへ自家所有の車輌で直接輸送。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,129千円（51,210 Cr$）

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし

5 地 区 略 図





移住地名　イ　ツ　ベ　ラ

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	バイア州イタブナ郡 MUNICIPIO DA ITABUNA ESTADO DA BAHIA
	管　理　者	ブラジル植民農地改革院（INCRA）
	入植開始年度	昭和28年

経緯	経　　緯	昭和29年に，州内農業者の定着を目的として創立された州政府の移住地である。日本人の入植は，ウナ移住地の事件で離脱した15世帯のうち，10世帯が昭和28年入植した。当時この移住地は正式に開設されていなかった。入植者は転住後間もなく，マラリアの流行が猛威をふるい，8世帯が離脱したが，その後他からの転住者もあり，現在19世帯になっている。 これ等の入植者は，丁字，油椰子，カカオ等の他蔬菜を栽培し，今日に至っているが，最近は試作試験の結果，胡椒栽培に適していることが判明したので，これを取り入れた多角経営を行っている。

自然条件	位　　置	W 39° 15′　S 13° 45′
	地　　形	標高160～230 m，起伏の多い山陵地，水流に恵まれている。
	地質・土壌	第3紀層砂岩母材，鉄分の含有多く壌土ないし砂質壌土。
	植生・林相	原生林，再生林あり，林相は相当厚く有用材も含まれる。
	気　　候	最高平均気温27.8℃，最低平均気温20.2℃ 雨期2～7月，乾期8～1月　平均年間降雨量2,100 mm

社会条件	交　　通	移住地よりイツベラ町まで10 Kmで，州都サルバドール市へは，西方ガンドウ町を経て国道101号線により通じている。 サルバドール市より国道101号の州道545号分岐点迄250 Kmは完全舗装，バレンサ市およびガンドウ町経由はそれぞれ未舗装であるが，道路整備は良好である。
	市　　場	イツベラ町，バレンサ市，サルバドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	イツベラ町　人口5千人　陸路10 Km バレンサ市　人口2万人　陸路52 Km サルバドール市　人口1,007千人　海上130 Km
	医療・教育	イツベラ町に病院があり，バレンサ市にも入院可能の病院がある。小学校は移住地内にある。中学校・高校はイツベラ若しくはバレンサにある。
	治　　安	概ね良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	28	32	44	45	46	48				49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	10	6	2	3	1	2					7	31	19
	人員													80

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ近郊	バイア州	サンバドール市	その他	帰国
率（%）	10（11戸）	10（1戸）	10（1戸）	70（7戸）	0

主なる出身県名	福島	福岡	三重	青森			その他県	合計
戸数	2	2	2	2			11	19

総面積	5,000 ha
ロッテ面積	25ha
分譲条件および価格	25ha当り6,500Cr$ 5年分割払，1時払可能。
分譲状況	満植
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	地区内に電気が導入され燈火用，動力用に使用されている。飲料水は30m程度堀削すると飲料水が得られるが，現在は河川水，湧水を利用している。
地区内道路	砂利道路および盛土である。
主なる事業団援護	
施設	なし
車両	なし
機械	なし
組合等所有	
施設	なし
車両	なし

3 営農

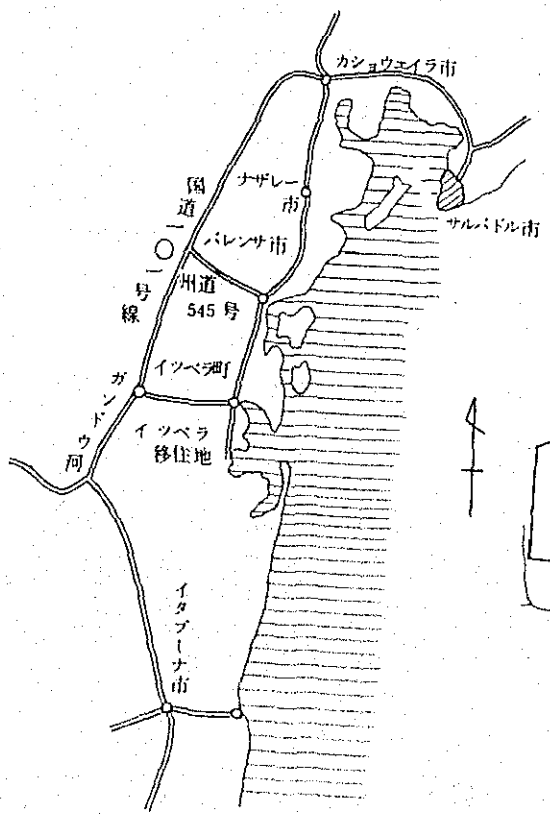
主作目	胡椒，丁字，マラクジャ，トマト
営農状況	丁字，胡椒（混植）を基幹作物とし，トマト等の短期作を副作物として経営している上位農家，短期作を主体とする下位農家とあり，その較差は大きい。
農機具等の普及状況	トラクター0.4台，トラック1.0台，乗用車1.0台，乾燥機0.5台，脱粒機0.5台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部，協力機関としてカカオ栽培地帯農業振興審議会（CEPLAC）

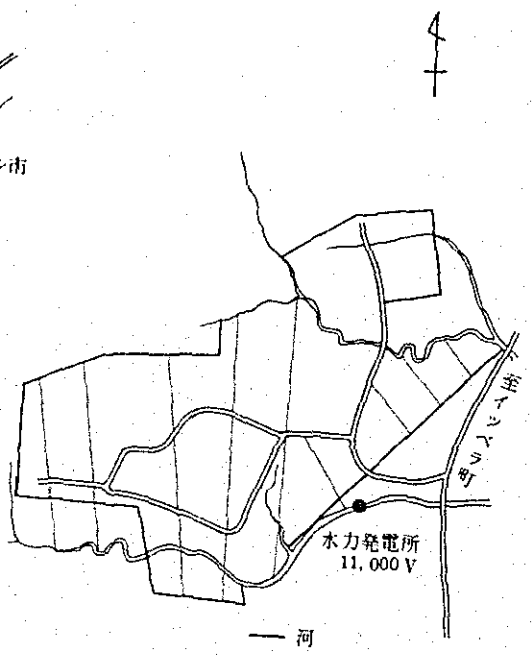
利用金融機関	銀行
主作目の販売取扱機関並びに主市場	サルバドール市およびサンパウロ市に個人出荷している。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	3,501千円（158,755 Cr$）

4 組織活動

自治会	「イツベラ日本人会」があり全戸が加入している。
農協	なし

5 地区略図





移住地名　クビチェック（JK）

1 地区概要

所在地	所在地	バイア州マタ・デ・サンジョアン郡 MUNICIPIO DA MATA DE S・JOÃO ESTADO DA BAHIA
	管理者	郡に編入
	入植開始年度	昭和35年

経緯	経緯	サルバドール市およびフェーラー・デ・サンターナ市を中心とした地域への生鮮食糧の供給，州内農業者の定着を目的として，連邦及び州が共営で創設を計画した移住地であるが，他地域の日本人移住者の優秀な成績を知るに及んで，日本人の優秀な農業技術を公開し，バイア州の農業振興をはかるべく考慮し，日本人の導入を追加計画したものである。 日本人の入植は昭和33年に始まり，今日までに123世帯が入植したが，道路問題，経営不振等により多く転出し，現在約半数に減じている。 問題の道路は昭和44年に整備され，また経営は一時蔬菜（トマト）にかたよりすぎ，収入が思わしくなく困窮におち入った者もあったが，最近は柑橘，胡椒，マラクジャ等の永年作物に養鶏，花卉を組み入れた経営が多くなって来ており，経営は平均的に上昇する傾向にある。

自然条件	位置	W 38°30′　S 12°40′
	地形	標高は90 m～100 m　緩やかな起伏のある丘陵地
	地質・土壌	第3紀砂岩母材，植壌土ないし砂壌土
	植生・林植	林相は厚く，再生雑木林
	気候	最高平均気温 28.3 ℃　最低平均気温 22.2 ℃ 雨期3～8月　乾期9～2月，平均年間降雨量1,800 mm

社会条件	交通	移住地よりマタ・デ・サンジョアン市まで6 Km，マタ・デ・サンジョアン市～サルバドール市間は鉄道および道路が通じている。道路は舗装され所要時間約2時間。
	市場	サルバドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	マタ・デ・サンジョアン　人口7千人　陸路6 Km サルバドール市　人口138万人　陸路82 Km
	医療・教育	地区内に診療所兼病院がある。小学校は地区内4校，中学校はマタ・デ・サンジョアンにあり，高校・大学はサルバドール市にあり，寄宿通学している。
	治安	概ね良好。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	33	34	35	36	37	38		39～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	5	49	25	30		1			9	119	66
	人員											272

昭和53年3月末

退耕者の主なる転出先	バイヤ州	ゴヤス州	その他		帰国
率（%）	30	5	60		5

主なる出身県名	愛媛	長崎	福岡	青森	鹿児島	新潟	東京	宮城	その他県	合計
現戸数	16	11	10	6	3	3	3	2	12	66

総面積	4,900ha			
ロッテ面積	イタピシリカ地区 25ha　ルンダ地区 20ha			
分譲条件および価格	Cr$ 400～500　　2年据置　10年分割払			
分譲状況	分譲面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	4,900ha			
地権取得	全戸取得済			
電気・飲料水	中心地区は配電されている。飲料水は20m～30m掘削すると飲料水が得られるが，殆んどは河川水，湧水を利用している。			
地区内道路	砂利道路および盛土であるが，雨期は道路状況が極度に悪化し，車の運行は不可能となる。			
主なる事業助援護				
施設	なし			
車両	なし			
機械	なし			
組合等所有				
施設	事務所1，作業所1，孵卵場1，診療所1，鶏肉処理場1，種鶏場，飼料配給設備機械一式			
車両	小型トラック2，コンビ1，トラクター1			

3 営農

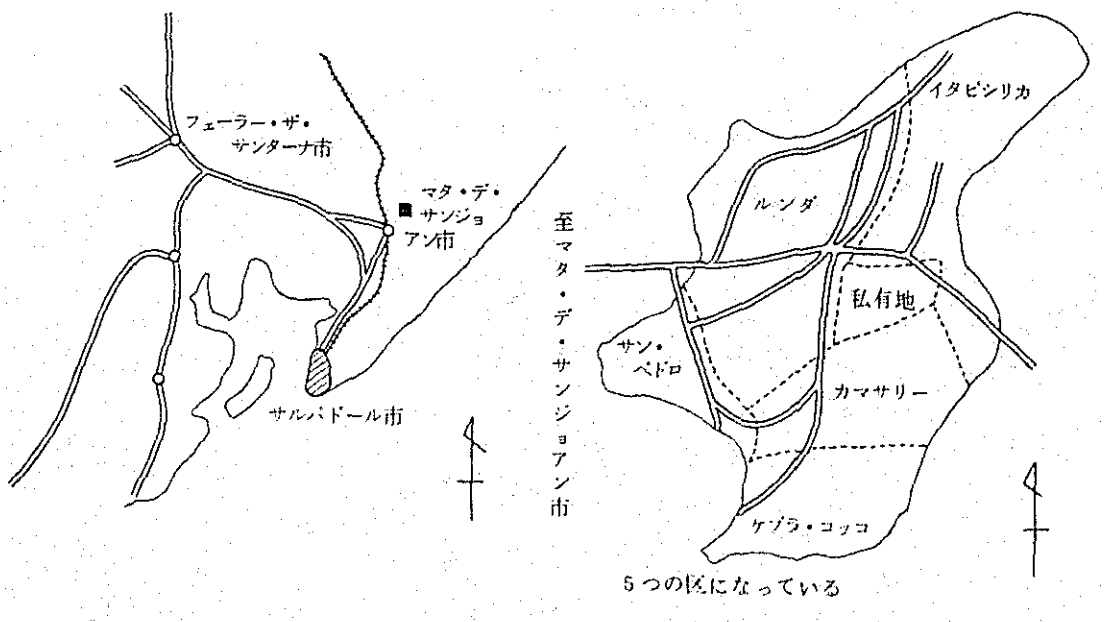
主作目	胡椒，トマト，花卉，柑橘，蔬菜，マラクジャ
営農状況	サルバドール市へ89Kmの近郊に立地していて，蔬菜，花卉の農業が中心で，一部に胡椒，柑橘園，養鶏が導入されている。しかし青年層に農産物仲買業をするものが多いので自家労力が分散している。

	現在，農産物仲買業の専業化とあわせ，専業農家の分化が進み現地営農は比較的向上している。
農機具等の普及状況	発動機 2.3台，動力噴霧機 1.3台，耕耘機 0.2台，トラック 0.4台，乗用車 0.4台，揚水機 1.6台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作日の販売取扱機関並びに主市場	仲買業を営む移住者子弟が仲買をし，サルバドール市に出荷するほか，うち3戸がマッタデサンジョアン市でも直売する。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	1,401千円（63,503 Cr$）

4 組織活動

自治会	「J・K自治会」があり64戸が加入している。
農協	「J・K農協」（決定）があり，全戸組合員である。
	鶏卵事業が順調に伸びつつある。

5 地区略図



移住地名　ガビラーバ

1 地区概要

所在地	所在地	ペルナンブコ州バッハ・デ・ガビラーバ郡 BARRA DE GABIRABA, MUNICIPIO DO BONITO, ESTADO DE PERUNAMBUCO
	管理者	ペルナンブコ州公社
	入植開始年度	昭和42年

経線	経線	南伯から転住してきた日本人により昭和42年入植が始まったが営農は思わしくなく現在わずかに3戸（不在地主1戸）

自然条件	位置	W 35°45′　S 8°20′
	地形	全体として起伏の多い丘陵地
	地質・土壌	高地部砂壌土，低地部は植壌土ないし壌土。
	植生林相	主に再生林
	気候	リオ・ボニート移住地とほぼ同じ

社会条件	交通	カモシン市よりガビラーバ町に入る道は良くない，レシーフェ市～カビラーバ町間はバスの運行1日2往復　レシーフェ市まで車で約2時間半
	市場	主にレシーフェ市
	近傍主要都市	レシーフェ市，ボニート市，カモシン市
	医療・教育	学校はカビラーバ町に小学校1，カモシン市に中学校1，カルアルー市に大学1があり，あるいはレシーフェ市に出て教育を受けている。 医療はカモシン市に産院，カルアルー市に総合病院がある。
	治安	良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度								現地入植者	合計	定着数
	戸数								5	5	2
	人員										7

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ近郊	レシーフェ市	リオボニート	その他	帰国
率（%）	33（1戸）	33（1戸）	33（1戸）		

主なる出身県名	広　島	群　馬	（石川）		合　計
戸　　数	1	1	(1)		2

総　面　積	ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件および価格	Cr $3,300 据置なし 10年分括または一括払い。
地　権　取　得	全戸取得済
	地代支払中1名
電気・飲料水	電化済
	飲料水は井戸を利用
地区内道路	雨期は交通遮断することがある。
主なる施設・車輌	な　し

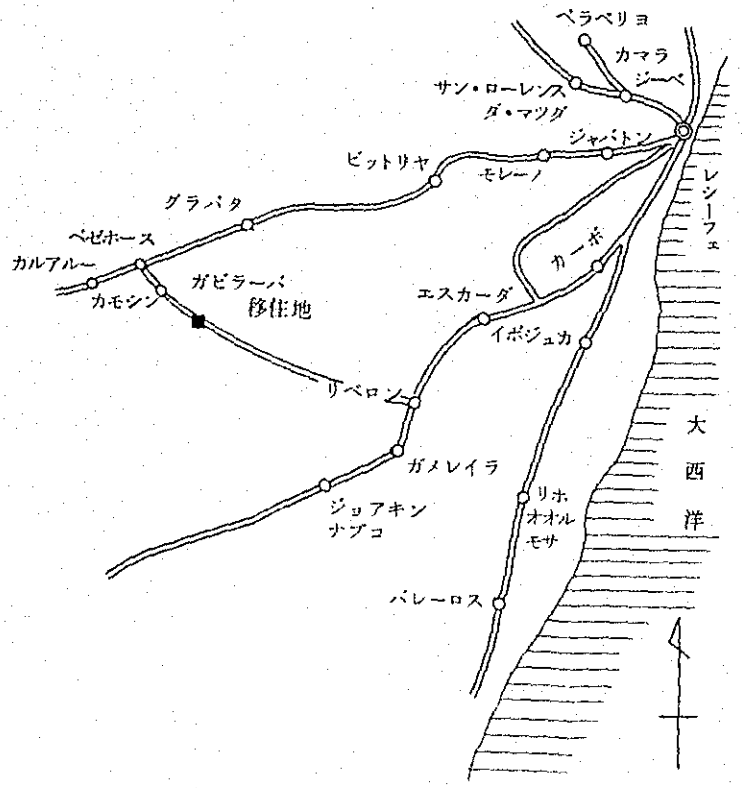
3　営　　農

主　作　目	花卉，蔬菜，柑橘，牧畜
営農状況	蔬菜栽培により資金の回転を計りつつバラ，グラジオラス，バナナ，柑橘へと営農を切り換えつつある。
農機具等の普及状況	動力噴霧機，発動機，揚水機，トラクター
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀　行
主作目の販売取扱機関並びに主市場	主にレシーフェ市に個人出荷
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	7,093 千円

4　組織活動

自　治　会	な　し
農　　協	な　し

5 地区略図


ペラベリョ
カマラ
ジーペ
サン・ローレンス
ダ・マツダ
ジャバトン
ビットリヤ
モレーノ
グラバタ
ペゼホース
カルアルー
カモシン
ガビラーバ
移住地
カーボ
エスカーダ
イボジュカ
リベロン
ガメレイラ
ジョアキン
ナブコ
リホ
オオル
モサ
バレーロス
レシーフェ
大
西
洋

移住地名　タペロア

1　地区概要

所在地	所在地	バイア州タペロア郡 MUNICIPIO DA TAPEROA, ESTADO DA BAHIA
	管理者	タペロア郡
	入植開始年度	昭和45年

経緯	経緯	ベレーン支部第1トメアスー移住地に入植していた一部農家が,同移住地に胡椒の病害が大発生したため，新しく胡椒栽培を求めて，各地を調査した結果，当移住地と同一自然条件下のイッペラ移住地で胡椒，丁字が立派に栽培されているのをみて，第1トメアスー移住者を中心とする転住者のみによって形成された移住地である。これらの転住者は，第1トメアスー移住地における豊富な胡椒栽培経験と，イッペラ移住地で成功した丁字栽培技術を生かし，従来当地域で見られなかった栽培農業をはじめたところ，タペロア郡及びニーロペッサニア郡居住のブラジル人も注目し，こうして同移住地に積極的に入植をはじめた。 現在入植者戸数は，第1トメアスー移住地からの入植者と他地域からの入植者を加えて，日本人は34戸とブラジル人10数戸が入植し，タペロア混合移住管理委員会を組織し自主的管理体制をとっている。

自然条件	位置	W 39°3′　S 13°6′
	地形	海岸山脈標高40～180 m にあり，水流に恵まれている。
	地質・土壌	壌土，ラトゾールの大型粒状をもつ，土壌構成はきわめてよいが肥沃地でない。
	植生・林相	原生林，再生林あり，林相は相当厚く有用材も含まれている。
	気候	イッペラ移住地とほぼ同じ

社会条件	交通	州都サルバドール市より国道101号線と州道545号分岐点迄250 Kmは完全舗装，州道545号によるバレンサ市経由タペロア間は，未舗装であるが道路整備は良好である。サルバドール～バレンサ間は1日3～4回のバス便あり。1日4便のエア・タクシーの便もある。
	市場	バレンサ市，サルバドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	バレンサ市人口2万人　陸路24 Km サルバドール市　人口1,007千人　陸路約300 km
	医療・教育	現在入植者は概ねタペロア町内に居住している。同町には入院治療可能な病院がある。さらに大型施設病院での診療を要するものであれば，最寄都市バレンサ市にサンタ・カーザ病院がある。 タペロア町に小学校，州立中学校があり，高等学校はバレンサ市に普通高校・商業高

		校・師範学校がある。
	治　　安	概ね良好

2　入　植　状　況

入植戸数と人員（内地）	年　度	45	46	47	48	49	50～52		現地入植者	合　計	定着数
	戸　数								34	34	34
	人　員										121

昭和53年3月末

主なる出身県名	宮　城						その他県	合　計
戸　　数	10						24	34

総　面　積	1,500 ha
ロ　ッ　テ　面　積	30～130 ha
分譲条件および価格	平均 3,000～4,000 Cr$／ha
分　譲　可　能　面　積	個人取引による（タペロア移住地は集団化による任意移住地）
地　権　取　得	全戸取得済
電　気　・　飲　料　水	イツベラ発電所から送電されているが，農耕地迄は導入されていない。近い将来パレンサ市より引込みの計画がある。電力および飲料水については，大部分の者がタペロア市内に居住していることから完備している。
地　区　内　道　路	砂利道および盛土である。昭和49年度，州道路局が道路舗装を実施したため，極めて良好，近い将来国道に直結する計画
主　な　る　施　設　車　輌	な　し

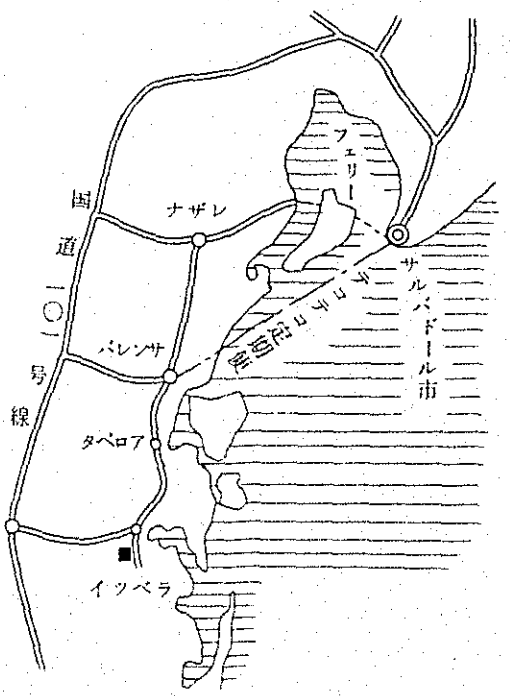
3　営　　農

主　　作　　目	胡椒，デンデヤシ，丁字，オールスパイス，カルダモン，なおセイロンニッケ，マカダミアナッツを試作中。
営　農　状　況	
農機具等の普及状況	トラック 0.5台，乗用車 0.7台，耕耘機 0.1台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営　農　指　導　機　関	事業団レシーフェ支部，カカオ栽培地帯農業振興審議会（CEPLAC）
利　用　金　融　機　関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	市場はサルバドール市であり胡椒はサンパウロ市に出荷している。
農　家　所　得（1戸当り平均 昭和52年度）	559千円（25,336 Cr$）

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし

5 地区略図



Ⅲ　リオデジャネイロ支部管内

支部機構

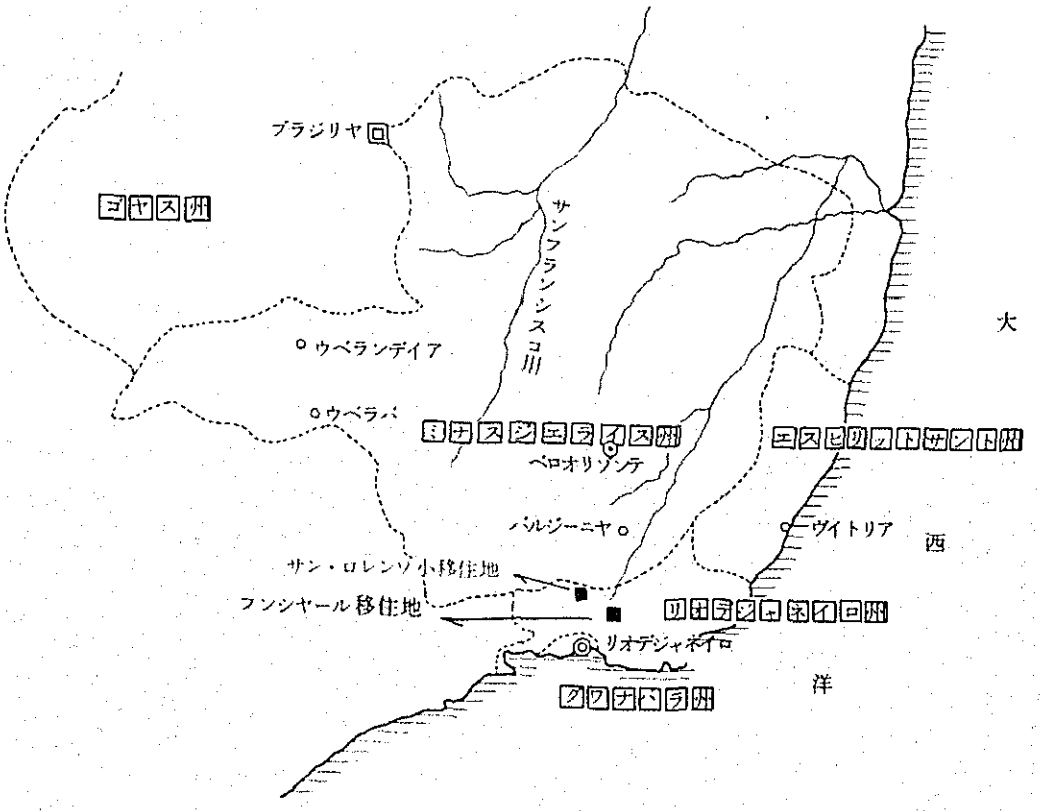
┌リオデジャネイロ支部（リオデジャネイロ市）
└ブラジリヤ出張所（ブラジリヤ）

主要都市移住地間の距離

フランシャル移住地ーリオデジャネイロ市　85 km

管轄州

リオデジャネイロ州、グワナバラ州、エスピリットサント州、ミナスジェライス州、（除く三角ミナス）ブラジリヤ連邦区、ゴヤス州南部



移住地名　　フンシャール移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	リオ・デ・ジャネイロ州　カショエイラス・デ・マカク郡 COLONIA FUNCHAR MUNICIPIO DE CACHOEIRAS DE MACACU ESTADO RIO DE JANEIRO リオ・デ・ジャネイロ州リオ・デ・ジャネイロ市の北東 100 Km
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和 34 年

経緯	経緯	蔬菜，果樹，養鶏等を中心とした都市近郊型の集約農業を行う移住者を受け入れる移住地として昭和 34 年旧移住振興会社が購入した事業団直営の移住地である。 入植は昭和 35年からはじまった。 入植者はリオ・デ・ジャネイロ市を市場として果樹，ゴヤバ，柑橘，マラクジャ等の永年作物の栽培及び養鶏に従事している。

自然条件	位置	W 22° 60′ S 42° 50′
	地形	平坦地と数十米の山地が混在し復雑な地形で，利用できる土地は概ね 70 % 内外である。
	地質・土壌	台地は壌土ないし砂壌土。低地は粘土質或いは場所によっては砂壌土で石が多い。
	植生・林相	大体再生林，低地の部分に混地性草木がある。
	気候	乾期 5 ～ 10 月，雨期 12 ～ 3 月であるがその区分は不明瞭。 年間平均気温 23.6 ℃（最高 28.8 ℃，最低 19.8 ℃） 年間降雨量約 1,817 mm

社会条件	交通	カショエイラス・デ・マカク町（人口約 1.1 万人）まで 11 Km　リオ・デ・ジャネイロまで約 85 Km
	市場	大消費都市リオ・デ・ジャネイロを対象としており，立地条件は良好である。
	近傍主要都市	リオ・デ・ジャネイロ市人口約 510 万人　85 Km ニテロイ市　　人口約 45 万人　75 Km ノーヴァ・フリブルゴ市人口約 12 万人　58 Km
	医療・教育	カショエイラス・デ・マカク町には総合病院 1 と保健所が 2 ケ所あり，特別な病気についてはノーヴァ・フリブルゴ市，またはリオ・デ・ジャネイロ市の病院を利用する。 移住地内には 4 年生までの農村小学校がある。卒業した子弟の多くはカショエイラス・デ・マカク町の中学校（ 4年 ）に通学し，更に上級学校を希望する者は，同町の実業高校またはリオ・デ・ジャネイロ市，ノーヴァ・フリブルゴ市の高校に入学

	している。
治　　安	治安上の問題は少ない

2. 入 植 状 況

入植戸数と人員（内地人）	年　度	36	37	38	39	40～52	現地入植	合　計	定着数
	戸　数	42	4	1	1		7	55	35
	人　員								167

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ州	そ の 他	
率（%）	10	90	

主なる出身県名	北 海 道	福　岡	山　口	そ の 他	合　計
戸　数	12	11	3	9	35

総　積	1.015 ha			
ロッテ面積	1ロッテ 11.3 ha			
分譲条件及価格	一括払 805,000円　分割払頭金 80,5000円 4年据置 5年分割払　利息 12 %			
分譲可能面積	840 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等	除　地
	840	0	32	143
地権取得状況	76ロッテ中取得 41ロッテ　未取得 35ロッテ			
電気・飲料水	1970年（昭和45年）電化工事完成，事業団半額補助。飲料水は各戸 10 m以外の井戸を利用し動力ポンプで給水。			
地区内道路	土道であるが，雨期でも運行可能			
地区内主要施設並	ゴヤバ加工工場，公民館（事業団補助）			
所有車輛機械等				
事業団貸与	小学校 1 ゴヤバ加工機械一式			
組合等所有	倉庫車庫兼宿舎 2棟			

3. 営　　農

主　作　目	ゴヤバ，柑橘，レモン，アバカテ，マラクジャー，養鶏
営農状況	果樹主体型，養鶏主体型の二つの営農類型に固まりつつあり，農家一戸当り平均耕作面積普通畑 0.99 ha，樹園地 5.37 ha，鶏雛 931羽，成鶏 2,322羽であり，昭和52年度農家経済調査農業粗収入は，農家平均 13,242 千円となっている。
農機具等の普及状況	耕耘機 0.2台　動力噴霧機 0.4台，乗用車 0.3台，揚水ポンプ 0.4台（昭和52年度調べ農家 1戸当り平均）

営農指導機関	事業団リオデジャネイロ支部およびコチヤ産組の専門技術員
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	コチア産業組合 リオデジャネイロ市，ニテロイ市一部サンパウロ市
農家所得（一戸当り平均）昭和52年度	3,970千円（198,964 Cr $

4. 組織活動

自治会	フンシャール文化体育協会（公認団体）
農協	大半がコチア産業組合リオ単協に加入している。

移住地名　サンロレンソ小移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	リオ・デ・ジャネイロ州ノーバ・クルブルゴ郡カンポ・コエーリョ地区，及びサン・ロレンソ地区
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和50年度

経緯	経緯	雇用，借地，分営農の独立を目的として設定された，ブラジルで最初の小移住地である。

自然条件	標高	1,100 m～1,200 m
	地形	海岸山脈の山腹に位置し，全体的には移住地入口より中心部までは平たんな地形をなし，先に進むに従い急勾配となる。前方に標高約2,000 mの山波を見る。
	地質・土壌	表土はやゝ黒色を呈し，可成りの有機質を含み肥沃である。
	植生	平たん部は牧草原野，丘陵部は原生林
	気候	気温0℃～30℃，年間雨量約1,500 mm高地であり，南緯22°であっても可成り涼冷地である。近隣はリオ・デ・ジャネイロの避暑地として有名である。 排水・平たん地は降雨が滞水することがある。

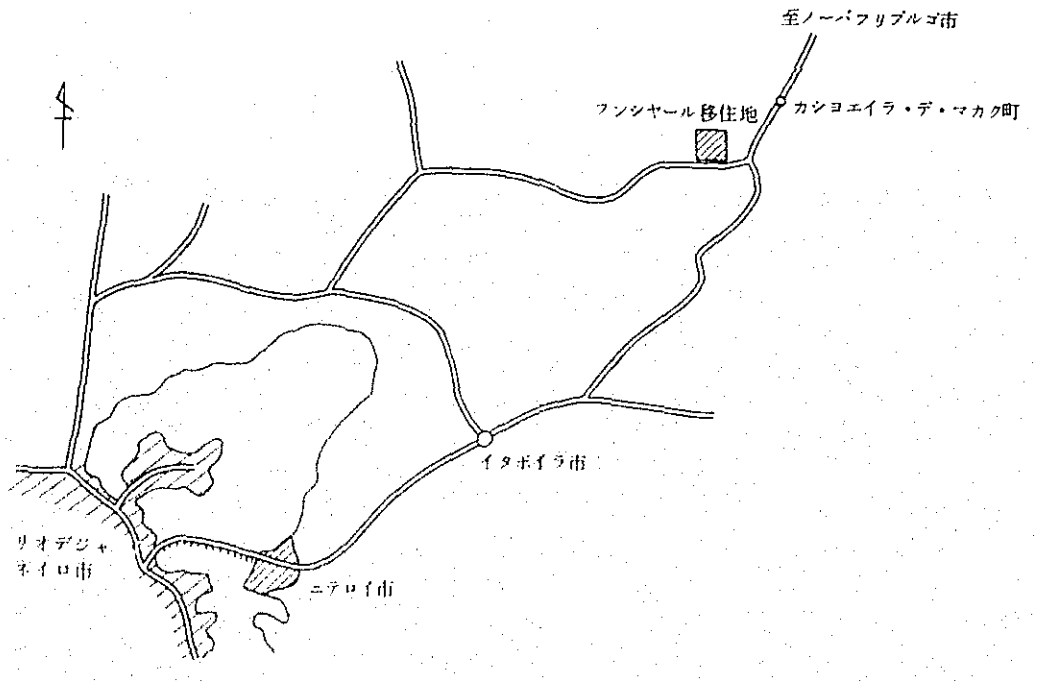
社会条件	交通	ノーバ・フリブルゴまでの交通は至便であるが，ノーバ・フリブルゴ～小移住地間（40 Km）は定期バスが運行せず，車を使用している。
	近傍都市	リオ・デ・ジャネイロ市から150 Km，海岸山脈を登りつめたところに，リオ・デ・ジャネイロ州の雄都人口50万人のノーバ・フルブルゴ市があり，観光地，避暑地

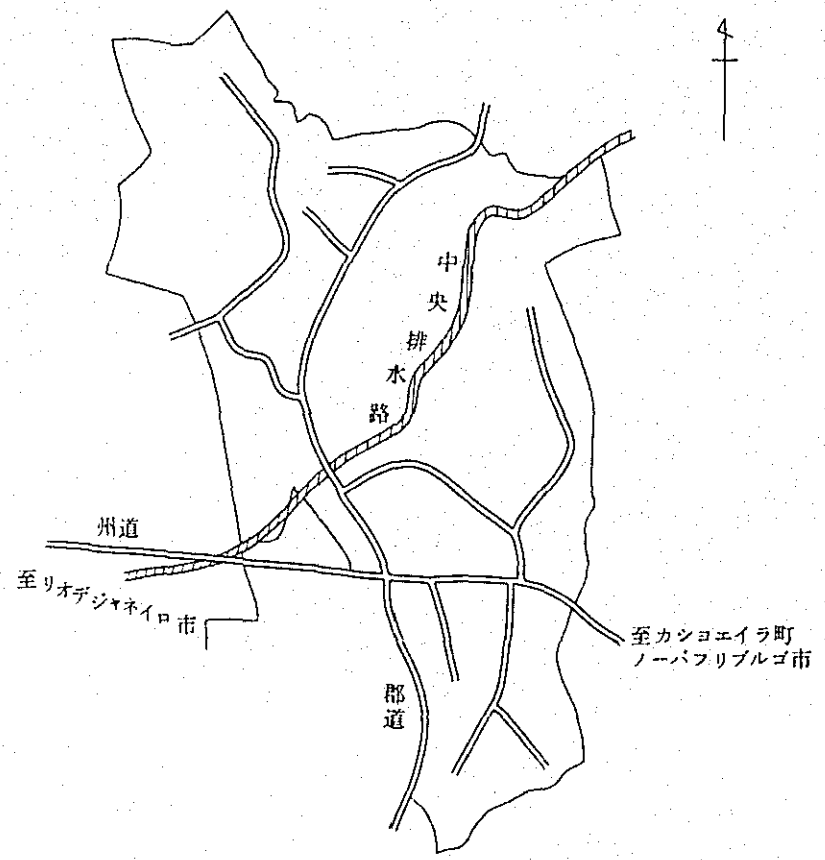
社会条件	公共施設	として有名である。小移住地からは40 Kmの位置にある。 小移住地内近辺にはなく，小移住地入植者及び近隣在住者は，全ての公共施設に恵まれているノーバ・フリブルゴに依存している。

2. 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	50	51	52	計
	戸数	3	3	0	6
	人員				

総面積	168 ha
ロッテ面積	27.9 ha
分譲条件及価格	一括払 4,007,667円　分割払頭金 400,700円 3年据置　5年分割払利息 12 %
分譲状況	全区分譲済
地権取得状況	全戸未取得
地区内道路	土道である。




中央排水路
州道
至リオデジャネイロ市
至カシロエイラ町
ノーバフリブルゴ市
郡道

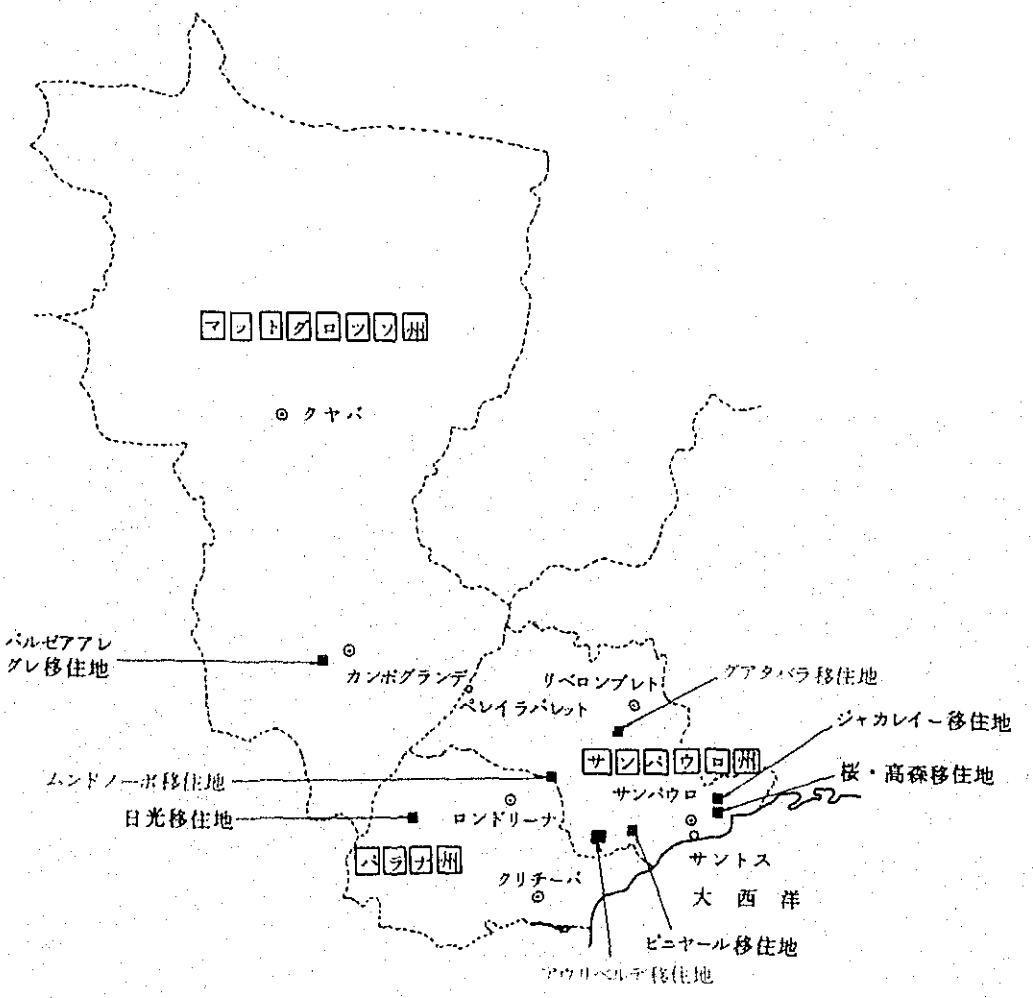
Ⅳ　サンパウロ支部管内

支部機構

サンパウロ支部（サンパウロ市）
- グアタパラ事業所（グアタパラ移住地内）
- パルゼア・アレグレ事業所（パルゼア・アレグレ移住地内）
- チエテ事業所（ペレイラ・パレット市）
- ロンドリーナ出張所（ロンドリーナ市）
- ブラジル農業移住センター（ジャカレイ移住地内）
- ブラジル工業移住センター（サンパウロ市）

管轄州

サンパウロ州，パラナ州，マットグロッソ州，ミナスジェライス州の一部（三角ミナス）



移住地名　ジャカレイ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州ジャカレイ郡 COLONIA, JACAREI MUNICIPIO DE JACAREI, ESTADO DE SÃO PAULO 州都サンパウロ市より 67 Km
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和36年（1961年）

経緯	経緯	蔬菜，果樹，養鶏等を中心とした近効農業を行う移住者の受入地として，昭和34年に旧移住振興会社が取得・造成した移住地である。移住者の受入れは昭和35年からはじまった。営農はサンパウロ市並びにリオデジャネイロ市を一部市場とした果樹，養鶏，花卉を中心に行っている。

自然条件	位置	W 46°O′　S 23° 15′
	地形	北部および南東部に 40 ～ 130 m の丘陵あり，この丘陵に挟まれた中央部は盆地でパラテイ河が貫流している。
	地質・土壌	丘陵地：花崗岩系，砂壌土および壌土 低　地：沖積性植壌土
	植生・林相	丘陵地，果樹園，低地は蔬菜用地
	気候	年平均気温　19.5 ℃ 年間降雨量　1215.9 mm 乾期 4 ～ 9 月　雨期 10 ～ 3 月　年により降雹あり

社会条件	交通	移住地入口から各都市への道路は完全舗装。 バス便はひんぱんで，サンパウロまでの所要時間は 1 時間半。
	市場	サンパウロ市およびリオデジャネイロ市の青果市場等。
	近傍主要都市	ジャカレイー市　人口7万人　8 Km，サンパウロ市　人口720万人　67 Km，モジダスクルーゼス市　人口 16万人　40 Km。
	医療・教育	ジャカレイー市に病院がある。移住地内に事業団補助により建設した小学校が 1 校あり，教師 4 名が教育に当っている。中学校，高等学校へはジャカレイー市にバス通学をしている。大学はサンパウロにあり，寄宿通学している。
	治安	良好である。

2. 入 植 状 況

入植戸数（と内人員）	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	33	2					1			
	人員	176	9					4			

年度	45	46	47	48	49	50～52	現地入植	合計	定着数
戸数					1		32	69	50
人員					6		165	360	190

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	ジャカレイ	サン・ジョゼ・ドス・カンポス	モジダスクルーゼス	その他
率（%）	36	22	15	8	19

主なる出身地名	長野	熊本	広島	山形	その他	合計
戸数	6	4	4	2	34	50

総面積	613 ha
ロッテ面積	5.9～8.2 ha（平均6 ha）
分譲条件及び価格	一括払並びに分割払い 分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。 1ロッテ（標準6 ha）860,000円相当伯貨
分譲可能面積	535 ha（83ロッテ）

分譲状況（ha）	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	535	0	25	53

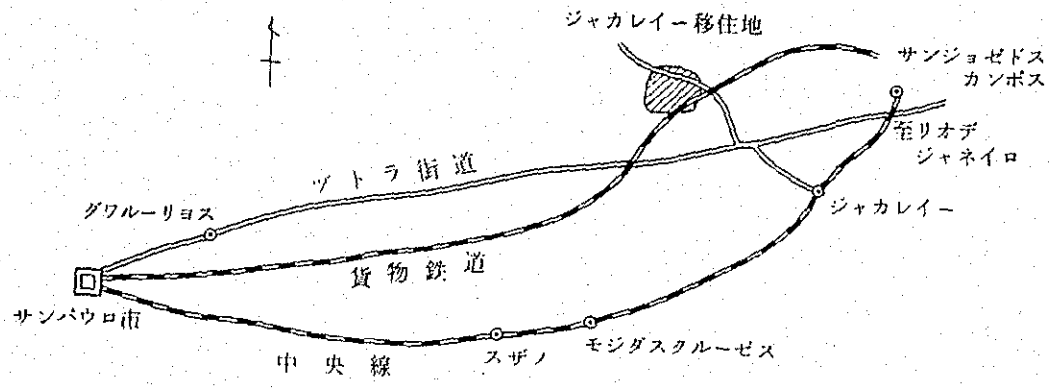
地権取得	83ロッテ中取得済52ロッテ，申請中1ロッテ，未取得30ロッテ
電気・飲料水	昭和46年度（施行は昭和47年）事業団補助により電化 飲料水は素掘井戸で水質は良好である。
地区内道路状況	良好とは言えない。雨期には通行困難な箇所がある。
地区内主要施設並所有機械車輛等	
事業団貸与	小学校1棟　教員宿舎1棟
組合所有等	なし
その他	移住地内に事業団の農業移住センターがある。

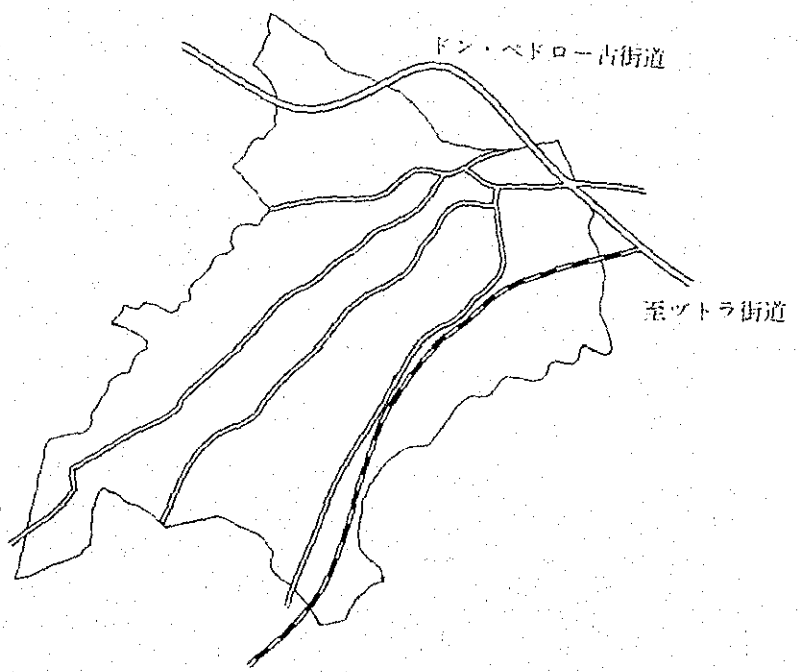
3. 営　　農

主　作　目	養鶏（採卵・肉鶏）果樹（イタリヤブドウ，柑橘，柿等）花卉（カーネーション，グラジオラス，バラ，キク）蔬菜
営　農　状　況	養鶏，果樹，花卉を主体とした近郊型営農で，昭和52年度における一農家当り平均耕地作付面積は普通畑3.9 ha，樹園地0.9 ha，農業依存度92.9％，農家1戸当り家族労働人数2.8人。
農機具等の普及状況	発電機0.1台，洗卵選別機0.2台，耕耘機0.6台，乗用車1.3台，トラック0.4台トラクター0.5台，ポンプ2.0台（昭和52年度調べ，農家一戸当り平均）
営農指導機関	特になし，コチア産業組合ジャカレイー倉庫の指導を時に受ける。
利用金融機関	銀行，事業団，組合
主作物の販売取扱機関並に主市場	コチア産業組合 主にサンパウロ市場で一部リオデジャネイロ市場
農家所得（一戸当り平均昭和52年度）	4,326千円（191,910 Cr $）

4. 組　織　活　動

自　治　会	移住地内住民で構成している中央パラテイ日本人会（昭和37年1月結成）がある。
農　協	コチア産業組合の組合員でジャカレイー倉庫利用
（郵　便）	℃ Centro de Imigração Agricola no Brasil (JAMIC) Caixa Postal no 87, Jacarei, São Paulo, Brasil CEP－12300


ジャカレイー移住地
サンジョゼドス
カンポス
至リオデ
ジャネイロ
ツトラ街道
グワルーリョス
ジャカレイー
貨物鉄道
サンパウロ市
中央線
スザノ
モジダスクルーゼス


ドン・ペドロー古街道
至ツトラ街道

移住地名　　グァタパラ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州リベロンプレット郡 NUCLEO COLONIAL GUATAPARA', RIBEIRÃO PRETO, EST. DE SÃO PAULO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和36年度（1961年）

経緯	経過	当初，全国拓植農協連が山形，茨木，長野，岡山，山口，島根，佐賀の7県（各県拓連）から資金的協力を得，コチア産組と協約してグァタパラ耕地の一部を購入することとして，旧移住振興会社に代理取得を依頼した。その後，造成，分譲に関するすべての事業を移住振興会社が行うことになり，全拓連，コチア産組はそれぞれ日本国内と伯国内でのあっせんおよび指導，生産物の販売等で協力することとなった。移住は昭和36年から開始されたが，移住者は当初前記7県からあっせんされた（後全国対象にあっせんが行われたが7県以外からの内地移住者はない）。営農は，低地を利用しての水田および蔬菜作と，丘地を利用しての柑橘，雑作栽培を予定したが，必ずしも順調に進展せず，現在では営農型態が変り養鶏養蚕，果樹の導入がはかられ，これらの組み合わせで進められている。

自然条件	位置	W 47°55′　S 21°30′
	地形	約60%が大波状形丘地，40%がモジグワス河の低地である。
	地質・土壌	丘地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成るテーラロシア，ミストラーダ PH 4～4.5 低地は黒泥土および泥炭土（強酸性）部分的に白色砂壌土。
	植生・林相	丘地　小灌木林または草地 低地　河に沿って原生林密生
	気候	年平均気温 22.6 C 平均最高気温 31.8 C　平均最低気温 13.3 C 年間雨量 1128 mm 雨期10月～3月　乾期4月～9月

社会条件	交通	移住地～リベロンプレット市間　急行バス等頻繁　所要時間1時間 リベロンプレット～サンパウロ市間　急行バス等頻繁　所要時間5時間 グアタパラ町～サンパウロ市間　鉄道　約7時間
	市場	サンパウロ市，リベロンプレット市，その他周辺の各都市 主として共同出荷であるが一部個人出荷および庭先販売

近傍主要都市	(1) グァタパラ町　人口約2千人　陸路，郡道 12 Km 無舗装であるが雨天通行可 (2) リベロンプレト市　人口約 26 万人　陸路 50 Km サンパウロ州北部の中心都市 (3) アララクアラ市　人口約 11.5 万人　陸路 35 Km 果樹加工工場など多い (4) サンカルロス市　人口約 10 万人　陸路 45 Km 大学が多い (5) リオクラーロ市　人口約 9 万人　陸路 100 Km (6) サンパウロ市　人口約 720 万人　陸路 285 Km 以上(2)以下は各都市間完全舗装
医療・教育	移住地内に診療所があるが医師は常駐して居らず，グァタパラ町の病院より定期的に通院している。これに対し事業団より特約医謝金を助成している。 また歯科医は，週に一回リベロンプレット市より来診している。 隣接農場（ファゼンダ　グァタパラ）には医師が常駐している。 リベロンプレット市には，総合病院 3，個人病院も多数ある。 移住地内には 4 年制の小学校 1 あり教師 4 名。 5年生以上の義務教育の大部分，並びに高校生，大学生はリベロンプレット市，その他の都市に通っている。 日本語学校は，週 2 回程度移住地内で有志の教師により開かれている。 大学　リベロンプレット市（医大），ピラシカーバ市（農大），サンカルロス市（工・法大）その他各種の大学あり。
治安	移住地内に事業団補助による警察署建物あり。治安は良好である。 文化会で治安部を組織している。

2. 入植状況

入植戸数と内人員	年度	昭和 36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	16	26	40	32	1				
	人員	83	135	210	146	5				
	年度	45	46	47	48～52	現地入植	合計	定着数		
	戸数			11		36	162	116		
	人員			48		178	805	588		

昭和 53 年 3 月末

退耕者の主なる転住先	ブラジリア	サンパウロ	リベロンプレット	帰国	その他
率（%）	31	28	7	21	13

主なる出身県名	茨城	山形	長野	島根	岡山	山口	佐賀	その他	合計
戸数	30	24	18	16		6	5	3	116

総面積	7,294 ha
ロッテ面積	低地3 ha　丘地6 ha（雑作）　2 ha（柑橘）　1.5 ha（宅地）
分譲条件及び価格	一括払及び分割払（頭金10％以上残額は4年据置5年払，利息12％） 150万円 交換分合後 低地 3 ha　600,000円 低地 3 ha　300,000円 丘地 6 ha　506,400円 丘地 2 ha　168,800円 丘地 1.5 ha　225,000円 丘地 1.5 ha　126,000円 上記円換算伯貨
分譲可能面積	4,871 ha（1,228ロッテ，全拓連分譲地750 ha含）

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	3,856	1,015	541	1,864

地権取得	916ロッテ中　取得済184ロッテ，申請中53ロッテ　未取得679ロッテ
電気・飲料水	昭和44年事業団補助により電化完成。 その後交換分合により移転した丘地の一部は未電化。 飲料水は主として自家用井戸（15m位）による。一部共同簡易水道。 公共施設用水は深井戸（120m位）昭和45年度事業団補助により建設
地区内道路	総て土道である，状態は普通。 交換分合後の丘地道路が整備されていない。 低地道路は，雨期劣悪となる。
地区内主要施設並びに機械車輌等事業団貸与	事業団事業所　1　所長宿舎　1　職員宿舎　1 小学校　1 診療所　1 警察官宿舎　1 揚排水機を含む灌漑施設 ブルドーザ　3（小松D 50，2キャタピラD4，1 ドラクター　6（ホイールタイプ　4，クローラタイプ　2， ドラグライン2 コンバイン（大型自走）1 （以上）水利組合に貸与
組合所有	コチア産組事務所　1　販売所　1　飼料配合所　1

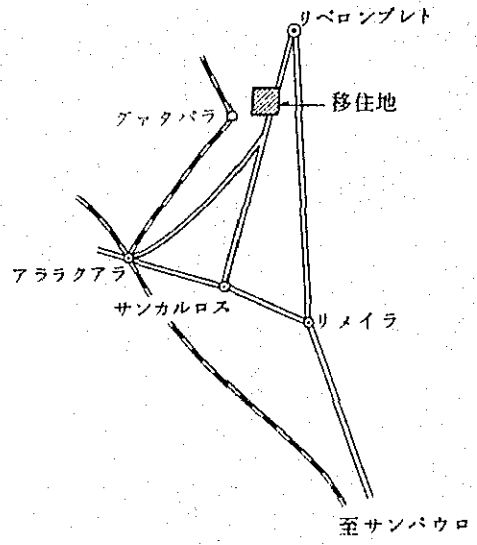
その他	精米所（水利組合所有） 野球場 全拓連農場並びに各種建物施設および車輛，機械等。 宿舎：3　（土地購入以前のもの）

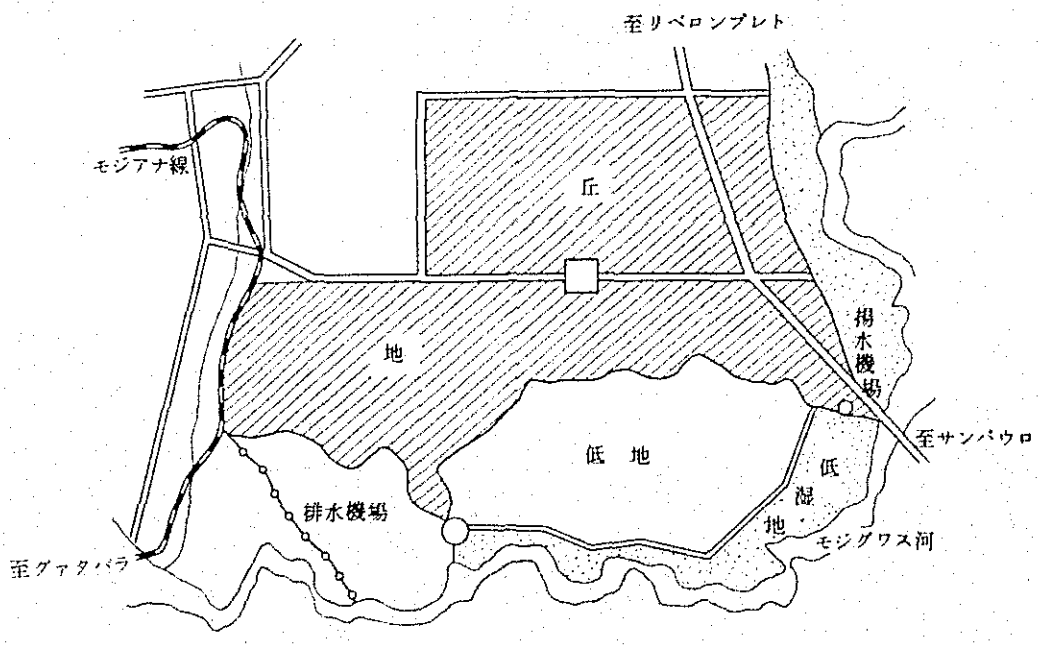
3．営農

主作目	養鶏（採卵），養蚕，米，トウモロコシ，柑橘，パイナップル，雑作
営農状況	米作，養鶏，養蚕を中心とした3つの営農に分類され，最近養鶏，養蚕の専業化が進んでいる。 昭和52年度の農家当り平均耕作面積水田2.6 ha，普通畑5.8 ha，樹園地6.9 ha，農業依存度93.9％，1家族当り労働人数2.7人
農機具等の普及状況	動力噴霧機0.4台，田植機0.2台，洗卵選別機0.2台，トラクター0.9台，コンバイン0.3台，乗用車0.5台（昭和52年度調べ農家一戸当り平均）
営農指導機械	事業団サンパウロ支部，及び同支部グァタパラ事業所。協力機関としてカンピーナス（200 km）ピラシカーバ農大等研究機関，並びにコチア産業組合，ブラ拓製糸等がある。
利用金融機関	銀行，事業団，組合 （コチア産業組合）
主作物の販売取扱機関並主市場	鶏卵　コチア産業組合 繭　ブラ拓製糸，ミナス・シルク 果樹　各種加工場 米　庭先販売
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	1,493千円（66,273 Cr $）

4．組織活動

自治会	グァタパラ文化会が昭和43年に結成され，活動は盛んである。
農協	コチア産業組合中央会，聖北単協（法定）に加入。 下部組織としてグァタパラ部落会，その下部に養鶏，蔬菜等の出荷組合が夫々ある。また水利組合があり低地耕作者が加入している。この水利組合には，事業団貸与の営農改善用機械（ブルトーザ，トラクター，ドラグライン等）があり，賃貸している。
（郵便）	% JAMIC－Imigração e Colonizaçao Ltda. Caixa Postal no 42, Ribeirão Preto, São Paulo, Brasil CEP－14130


リベロンプレト
移住地
グァタパラ
アララクアラ
サンカルロス
リメイラ
至サンパウロ


至リベロンプレト
モジアナ線
丘
地
揚水機場
至サンパウロ
低地
低湿地
モジグワス河
排水機場
至グァタパラ

移住地名　ピニャール移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州サンミゲルアルカンジョ郡 FAZENDA DO PINHAL MUNICIPIO DE SÃO MIGUEL ARCANJO, ESTADO DE SÃO PAULO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	蔬菜，果樹，養鶏を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として，昭和37年旧移住振興会社が取得，造成した移住地である。この移住地の指導は事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっている。 営農は養鶏を営むものは殆どなくなり，果樹（イタリヤブドウ・モモ等）蔬菜が中心となってきている。

自然条件	位置	W 47° 45′　S 23° 50′
	地形	緩波状形，丘陵部はやゝ平坦その他はゆるやかな傾斜（5～7°） 谷間に小川数本あり。
	地質・土壌	頁岩を母材とする土壌で植壌土が主体。丘陵部にテーラロッシャ系の土壌が部分的にある。
	植生・林組	40％が再生林，20％が灌木林，40％が畑地および放牧地。
	気候	年平均気温 18.1℃ 平均最高気温 26.9℃　平均最低気温 7.2℃ 年間雨量 1,293.4 mm 雨期 12～4月　乾期 5～11月

社会条件	交通	移住地～各都市間　バス便頻繁 サンパウロ市より国道経由で大部分アスファルト，一部砂利舗装。 所要時間　車で2時間半，バスで4時間。
	市場	主としてサンパウロ市，その他近隣都市
	近傍主要都市	サンパウロ市　人口約 720万人　陸路 163 Km イタペチニンガ市　〃 7万人　〃 60 Km ソロカバ市　〃 21万人　〃 100 Km ピエダーデ市　〃 3万人　〃 80 Km ピラールドスール市　〃 1万人　〃 22 Km サンミゲールアルカンジョ市　人口約 1万5千人　陸路約 20 Km

社会条件	医療・教育	移住地区内には医療施設なし 最も近い町ピラールドスール市並びにサンミゲールアルカンジョ市（事業団特約医あり）に2，3の病院がある。 地区内には小学校1校（木造） 教師3名，日語学校1校あり。 中学校は，ピラールドスール市並びにサンミゲールアルカンジョ市にバス通学。 高等学校，大学はソロカバ市並びにサンパウロ市で，寄宿により通学している。
	治安	良好 警察並びに裁判所はサンミグルアルカンジョ市管下

2. 入植状況

入植戸数（内地と人員）	年度	昭和 37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	3	7	4	3	1			
	人員	14	31	23	11	3			
	年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数						55	78	43
	人員						215	297	228

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	未入植	帰国	その他
率（%）	28	15	10	47

主なる出身県名	福井県	富山県	福島県	千葉県	その他	合計
戸数	17	3	3	2	18	43

総面積	755 ha			
ロッテ面積	1ロッテ 10.5～12.4 ha 平均 12 ha			
分譲条件及価格	一括払並びに分割払い 分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。 1ロッテ（標準12 ha） 657,000円相当伯貨額			
分譲可能面積	727 ha （60ロッテ）			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	727	0	28	0
地権取得	60ロッテ中取得済49ロッテ，申請中3ロッテ，未取得8ロッテ			
電気・飲料水	昭和45年度事業団補助により電化 飲料水は各戸素堀井戸で良好 公共用地飲料水は昭和49年事業団補助により200 mの深井戸掘削。			

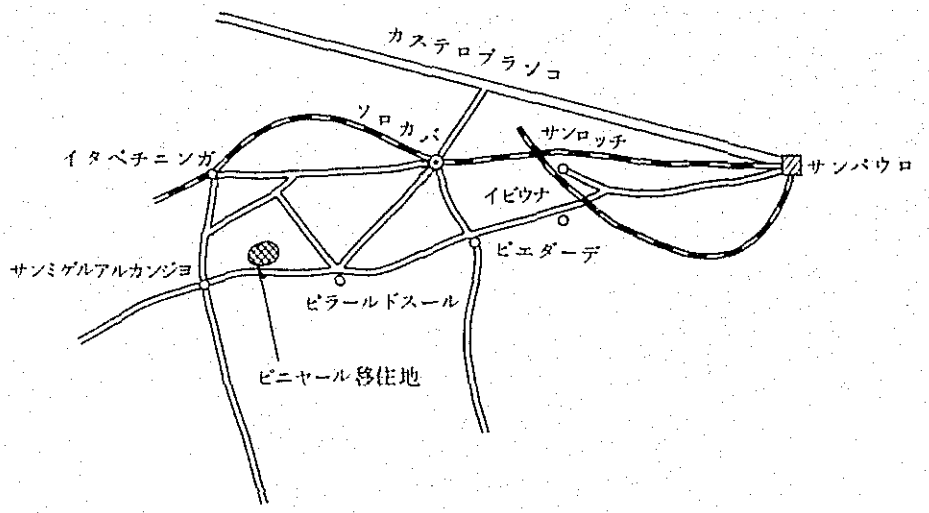
地区内道路	全部土道である。雨期に一部悪路となる。
地区内の主要施設並に機械車輛等	
事業団貸与	教員宿舎（練瓦）1，倉庫1，公共用地深井戸
組合所有	組合事務所並販売所　1棟

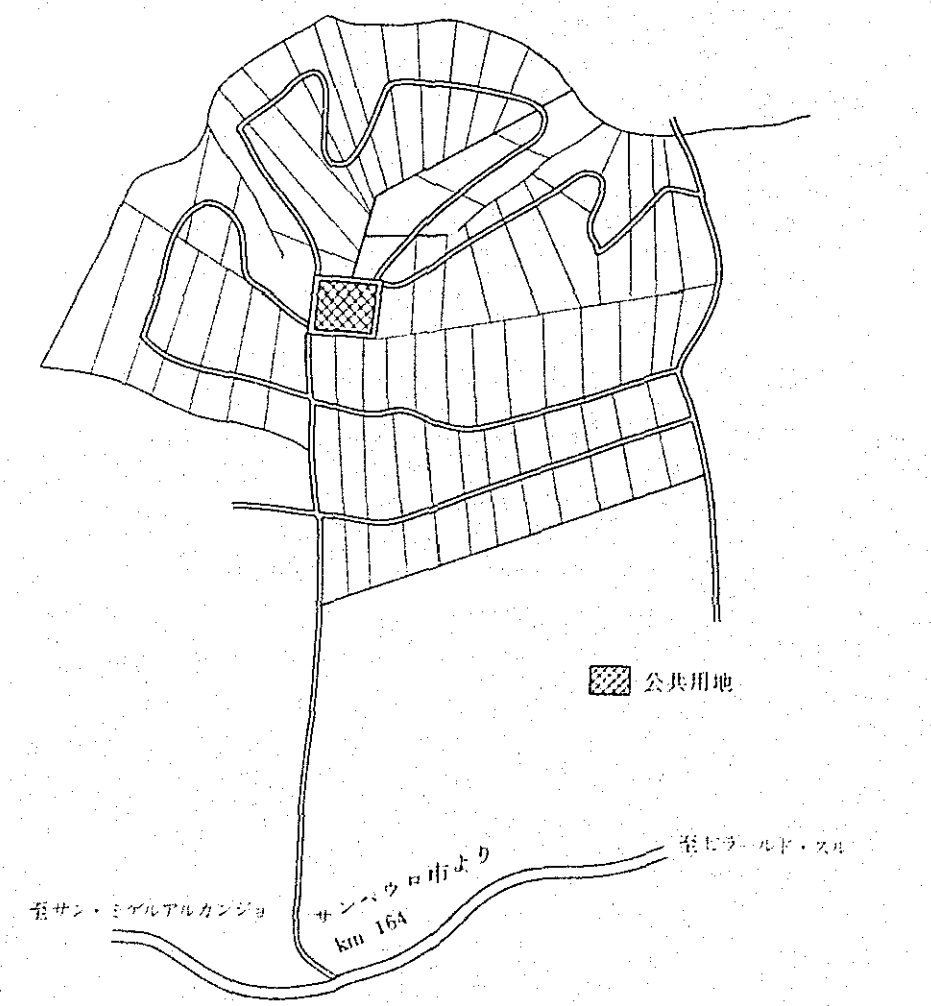
3. 営農

主作目	果樹（イタリヤブドウ，桃，柑橘）蔬菜（トマト，ニンジン，ピーマン）
営農状況	果樹（イタリヤブドウ）専業農家がほとんどで，一部トマト，ニンジン，ピーマンとの組合せによる営農を営む。昭和52年度一農家当り耕作面積平均は普通畑7.4 ha，樹園地4.4 ha，農業粗収入平均　　千円，農業依存度99.2％，農家の家族労働人数2.5人である。
農機具等の普及状況	発動機0.1台，動力噴霧機1.1台，耕耘機0.5台，トラクター0.5台，ポンプ1.1台，車輛0.8台（昭和52年度調べ農家一戸当り平均）
営農指導機関	南伯産業組合指導部，事業団
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に市場	南伯産業組合中央会，ビニヤール単協
	主にサンパウロ市場，一部近傍都市
農家所得（一戸当り平均 昭和52年）	2,687千円（119,203 Cr $）

4. 組織活動

自治会	ビニヤール自治会（昭和44年結成）全戸加入
農協	南伯産業組合中央会のビニヤール単協に全戸が加入している。
（郵便））	Caixa Postal no 80, São Miguel Arcanjo, São Paulo, Brasil CEP－18230


カステロブランコ
ソロカバ
サンロッチ
イタペチニンガ
サンパウロ
イビウナ
ピエダーデ
サンミゲルアルカンジョ
ピラールドスール
ピニヤール移住地


公共用地
至ピラールド・スル
サンパウロ市より
km 164
至サン・ミゲルアルカンジョ

移住地名　　バルゼア・アレグレ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	ブラジル国マットグロッソ州テレーノス郡 FAZENDA VARZEAALEGRE, MUN. DE TERENOS, EST, DE MATO GROSSO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和33年

経緯	経緯	昭和32年，邦人自営農受入地として旧海外移住振興会社が，購入造成した移住地である。入植は昭和33年から開始され山口県の人が多い。 当初はバナナ及び米を中心にした営農に従事したが思わしくなく，その後養鶏を導入し柑橘，アバカシなどの果樹と組み合わせての経営は順調である。

自然条件	位置	S 20° 26′　W 55° 00′
	地形	北部は平坦地，南部は緩傾斜丘陵地
	地質・土壌	主に砂壌土，砂質土，若干のテーラロッシャ地帯が斑点状に散在。
	植生・材相	いわゆるカンポセラード地帯である。原始林や再生林が散在するが有用材乏しく，草生地帯も極めて少い。
	気候	年平均気温 24.7 ℃ 平均最高気温 34.0 ℃　平均最低気温 10.0 ℃ 降雨量　1313 mm 雨期 10月～3月　乾期 4月～9月　区別は明瞭。

社会条件	交通	鉄道はノロエステ線の駅が地区内に2ケ所あり，カンポグランデ市まで約1時間 テレーノス市まで約30分 1日に2便ある。 カンポグランデ市からサンパウロ市間 1,043 Km には，鉄道，バス便，航空機が利用される。 鉄道　毎日2，3回で　30時間 バス　夜行含めて毎日6往復　13時間 航空機　毎日2本，時により3本　1時間半
	市場	カンポグランデ市，クヤバ市（13万人），サンパウロ市
	近傍主要都市	テレーノス町（人口9千人）　距離　20 Km カンポグランデ市（人口18万人）　〃　45 Km

社会条件	医療・教育	移住地内には医療機関はない。 カンポグランデ市にカトリック教団経営慈善病院（サンタカーザ） 私立病院 事業団特約医（日系）あり 移住地内に小学校1校（事業団建設） 中学校，高等学校，大学は何れもカンポグランデ市にあり寄宿している。
	治安	良好 警察署はテレーノス市にカンポグランデ警察署の分署あり，裁判所はカンポグランデ市にある。

2. 入植状況

入植戸数（内地人員）	年度	昭和33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	8	9	24									
	人員	37	41	129									
	年度	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植	合計	定着数	
	戸数						1			50	92	45	
	人員						2			254	463	231	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	カンポグランデ	サンパウロ	ロンドリーナ	カンピーナス	その他
率（%）	40	16	8	8	8

主なる出身県名	山口県	広島県	島根県	大阪府	その他	合計
戸数	29	3	2	2	9	45

総面積	36,472 ha
ロッテ面積	25 ha（小型ロッテ） 370 ha（大口ロッテ）
分譲条件及価格	一括払い並に分割払い 小型ロッテの分割払いは頭金10%以上4年据置5年均等払い，大口ロッテは頭金30%以上据置なし6年払い。但し土地代全額について，全期間年12%の利息を加算する。 小型ロッテ（標準25 ha） 682,000円相当伯貨額 大口ロッテ（標準370 ha） 10,332,000円 〃
分譲可能面積	18,587 ha（146ロッテ）
分譲状況（ha）	分譲済面積 12,932 / 未分譲面積 5,655 / 道路市街地等利用地 633 / 除地 17,252
地権取得	取得131ロッテ中，取得済57ロッテ，申請中2ロッテ，未取得71ロッテ

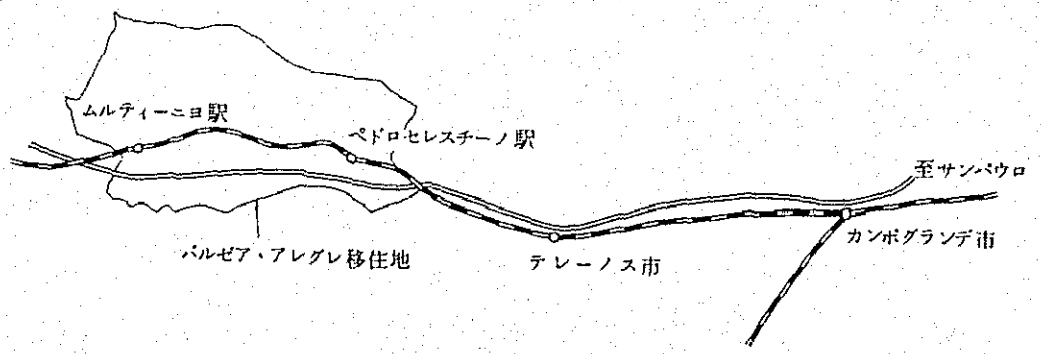
電気飲料水	電　気　昭和53年電化工事中，事業団補助。 飲料水　入植者は素堀井戸，公共団地並に市街地の組合団地の事業所，学校，組合などは鉄道用水道を借用利用している。
地区内道路	土道であるが良好 地区内に国道BR 262号（アスファルト）が通っている（カンポグランデ～アキダウアナ～ボリビア国境）。
地区内主要施設	
事業団貸与	小学校1　事業所1　職員室舎2　教員宿舎1
組合所有	倉庫2　飼料配合所1　組合共同販売所1
その他	公民館

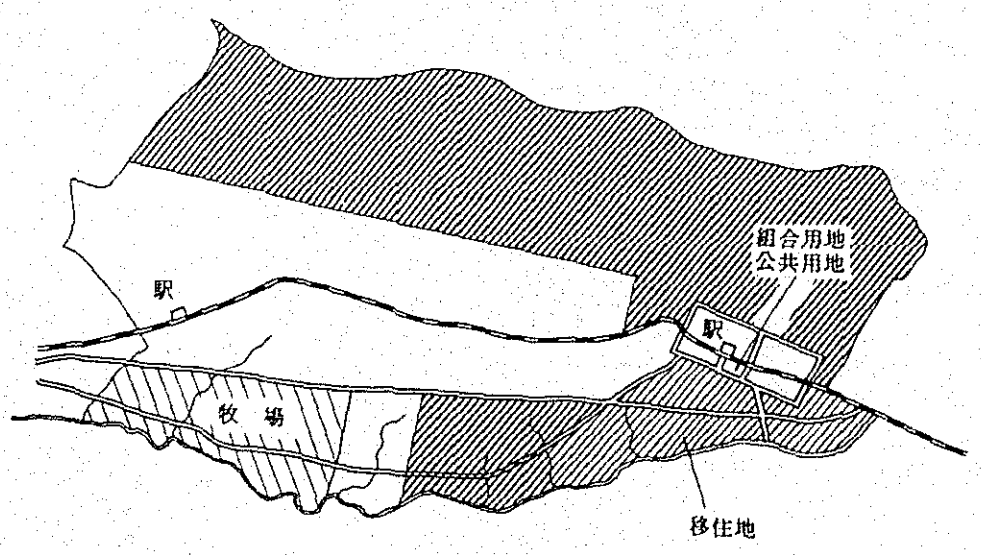
3．営　　農

主作目	養鶏　25万羽 果樹　柑橘 　　アバカテ 　　パイナップル
営農状況	養鶏専業農家がほとんどで，一部蔬菜，果樹を組合せた複合経営を営む。昭和52年度における一農家当り耕作面積平均は，普通畑9.2 ha，樹園地2.8 ha，農業依存度79.2％，家族労働人数平均2.2人である。
農機具等普及状況	発動機1.4台，粉砕機0.1台，耕耘機0.5台，洗卵選別機0.6台，トラクター0.8台，乗用車0.8台，トラック0.6台，発電機0.9台（昭和52年調べ，農家一戸当り平均）
営農指導機関	事業団サンパウロ支部，および同支部バルゼアアレグレ事業所，また農協が鶏卵専門の取扱いであり，サンパウロ農協中央会に加盟しているので，同会の養鶏技師を招いて時々技術指導を行っている。 協力機関としてカンポグランデ市，並にカンポグランデ市～テレーノス市間にIP-EAOがある。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	バルゼアアレグレ産業組合（鶏卵），カンポグランデ市，クヤバ市一部，サンパウロ市。 果樹については商人或は個人直接カンポグランデ市。
農家所得（一戸当り平均　昭和52年度）	1,356千円　（60,150 Cr $）

4. 組織活動

自治会	パルゼア．アレグレ日伯文化体育協会（昭和53年結成）
（郵便）	% JAMIC, Caixa Postal No. 752, Campo Grande, Mato Grosso CEP－79100
農協	パルゼアアレグレ産業組合（法定）昭和37年設立されたが，未加入は7戸ある。 主な業務 鶏卵販売事業（対象地域カンポグランデ市クヤバ市一部サンパウロ市） 飼料供給事業 職員数　36名 事務所　カンポグランデ市 なお，移住地内に購買部（日用品販売）飼料工場などあり
（郵便）	Caixa Postal no 379, Campo Grande, Mato Grasso, Brasil CEP－79100





移住地名　ムンドノーボ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州オウリーニョス郡 BAIRRO MUNDONOVO, MUNICIPIO DE OURINHOS, ESTADO DE SÃO PAULO
	管理者	オウリニオス産業組合
	入植開始年度	昭和36年

経緯	経緯	サンパウロ産業組合中央会，傘下のオウリニオス産業組合が，旧ムンドノーボ耕地を買収し，組合員となる日本人移住者を受け入れるために創設した移住地で，移住者は昭和36年および37年に，日本から17世帯現地から7世帯が入植した。入植者は旧耕地から引継いだコーヒーを中心に養鶏，落花生，トウモロコシ等を組み合わせた経営に従事した。その後果樹（柑橘等）を導入し近時養蚕も手がけている。

自然条件	位置	W 49°53′　S 22°　57′
	地形	緩傾斜波状地の高台及び緩傾斜の台地
	地質・土壌	テーラロシアに微細砂の混じった土，保水力に優れ極めて肥沃
	植生・林相	一部に原始林地帯があるが大部分は既耕地
	気候	年平均気温 26 ℃ 平均最高気温 34 ℃　平均最低気温 12 ℃ 年間雨量 1200 − 1500 mm

社会条件	交通	移住地〜オウリーニョス市間　砂利道良好，自転車，トラック等 オウリーニョス市〜サンパウロ間　完全舗装バス，頻繁 所要時間 8時間　鉄道 1日1便
	近傍主要都市	オウリーニョス市　人口約 5.4 万人　北東　7 Km サンパウロ市　人口約 720 万人　南東方向　380 Km
	医療・教育	移住地内には医療施設なし オウリーニョス市に医療施設完備 移住地内に小学校 1校 中学校・高校はオウリーニョス市通学
	治安	良好 オウリーニョス警察管下

2. 入 植 状 況

入植戸数（内地人員）	年 度	昭和36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	8	8							
	人 員	43	41							
	年 度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合 計	定着数	
	戸 数						9	25	16	
	人 員						43	127	74	

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	マリンガ	イタヘイバー	帰 国
率 （%）	50	12.5	12.5	25

主なる出身県名	愛 媛	北海道	長 崎	その他	合 計
戸 数	3	3	2	8	16

総 面 積	239 ha
ロッテ面積	10 ha
分譲条件及価格	一括払い 652 cr $ 分割払い 渡航前に 391 千円 2年目より毎年 210 千円相当伯貨を3年間に支払う。
地 権 取 得	全戸取得済
電気・飲料水	電気・水道共に一応備わっている。 ただし一部に他人のロッテの井戸から水を借りているものもある。
地区内道路	土道であるが良好
地区内主要施設	小学校1校

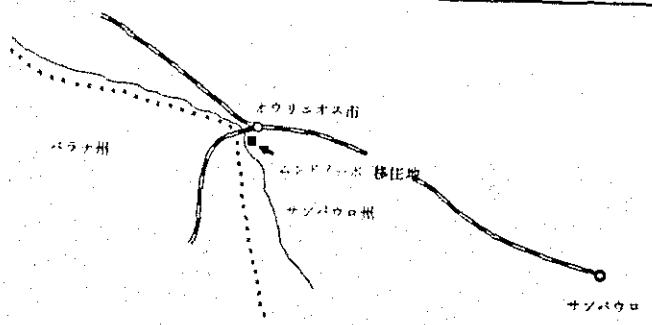
3. 営 農

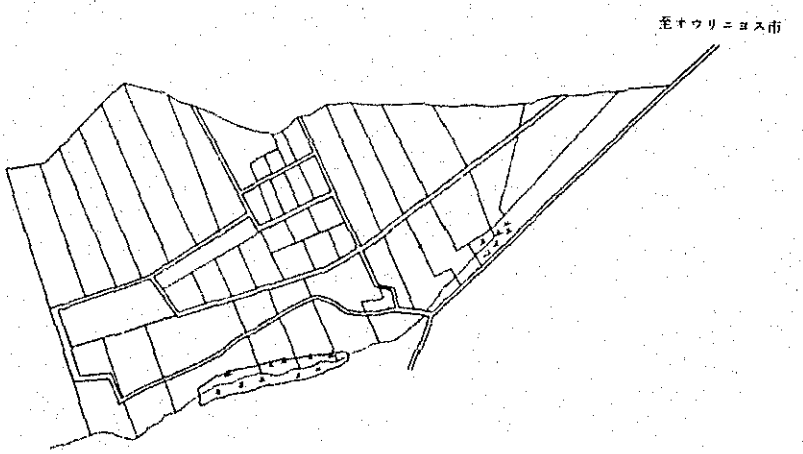
主 作 目	果樹，養鶏，養蚕，蔬菜，雑作
営農状況	主要永年作目のコーヒーがサビ病で打撃を受け，果樹の中で期待されていたポンカンの市場値がふるわずこれといった基幹作目がない。 しかしイタリヤブドウは健全で好成績を挙げている。 鐘紡，神戸生糸など製糸会社の進出により，昭和48年末より養蚕の導入を5戸からはじめ，これらの進出企業，事業団などの応援を得て桑の育成，蚕の飼育を開始し成績がよい。
農機具等の普及状況	散布機0.4台，耕耘機0.3台，トラクター1.1台，ポンプ0.43台，粉砕機0.3台，トラック0.5台，乗用車0.7台 （昭和52年調べ，農家一戸当り平均）

営農指導機関	事業団サンパウロ支部，事業団助成による専門家が年数回個別指導に当っている。 移住地近傍には特になし。 また，サンパウロ産業組合中央会より，時々果樹関係の営農指導員がまわっている
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並主市場	オウリニオス産業組合
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	8,380千円（149,964 cr$）

4.組織活動

自治会	特になし
農協	オウリニオス市にオウリニオス産業組合があり，これに全戸が加入している。 （法定） オウリニオス産業組合は，サンパウロ産業組合中央会に加入している。 販売，購売，運輸業の事業を行っている。
（郵便）	Caixa Postal nº 100，Ourinhos，São Paulo，Brasil CEP － 19900





移住地名　日　光

1. 地区概要

所在地	所在地	パラナ州マリアエレーナ郡 COLONIA NIKKO MUNICIPIO DE MARIA HELENA, ESTADO DE PARANÁ
	管理者	Associação Cultural e Esportiva de Vila Formosa
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	戦後の雇用移住者が，協同して事業団から土地購入資金の融資を受けて，集団的に独立した地区である。経営の主体はコーヒーであるが，最近は果樹に力を入れている。

自然条件	位置	W 53° 30′　S 23° 50′
	地形	緩やかな起伏のある波状地，地区内に小川が2－3本ある。
	地質・土壌	テーラロシャミスタ砂壌土。　PH 6.5
	植生・林相	原生林（潅木，喬木が密生）
	気候	年平均気温　24 ℃ 平均最高気温　33 ℃　平均最低気温　17 ℃ 年間降雨量　1,200 ㎜以外

社会条件	交通	移住地～マリアエレーナ　バス1日3便　所要約1時間 〃　～ウムアラマ　〃　2便　〃　2時間 〃　～ドラジーナ　〃　3便　〃　30分 〃　～　ロンドリーナ　〃　1便　〃　7時間
	近傍主要都市	マリア・エレーナ市　人口　約5.4万人　25 Km ウムアラマ市　〃　16万人　40 Km ドラジーナ市　12 Km ロンドリーナ市　〃　28万人　350 Km
	医療・教育	地区内に医療機関なし ウムアラマ市に，サン・ルカ病院（総合）他あり，事業団特約医がある。 地区内に小学校1校 （校舎は郡，教員宿舎は事業団建設）日語学級を開設している。 中学校・高校はウムアラマ市で寄宿
	治安	良好，マリア・エレーナ警察署管内

2. 入 植 状 況

入植戸数（内と人員）	年度	昭和 37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数								
	人員								
	年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数						62	62	32
	人員						319	319	222

昭和 53 年 3 月末

退耕者の主なる転住先	パラナウムアラマ	サンパウロ近郊	パラナロンドリーナ	パラナダァイーラ	パラナマリンガ	その他
率（%）	35	19.5	13.2	7.6	7.6	17.1

主なる出身県名	高知	愛媛	鹿児島	その他	合計
戸数	6	2	2	22	32

総面積	904.9 ha
ロッテ面積	1ロッテ約12.10 ha （56ロッテ）
分譲条件及価格	契約の当事者並びに入植者団体と地主との契約 土地代は ha 45～75 cr S 4年分割 （但し入植当時の価格で現在は減額）
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	昭和51年事業団補助により電化 飲料水は各戸井戸水利用　水質良好
地区内道路	土道 雨天通行は可能だが極端に悪路となる部分がある。
地区内の主要施設	収納倉庫
事業団貸与	公民館
その他	小学校（耶建設）

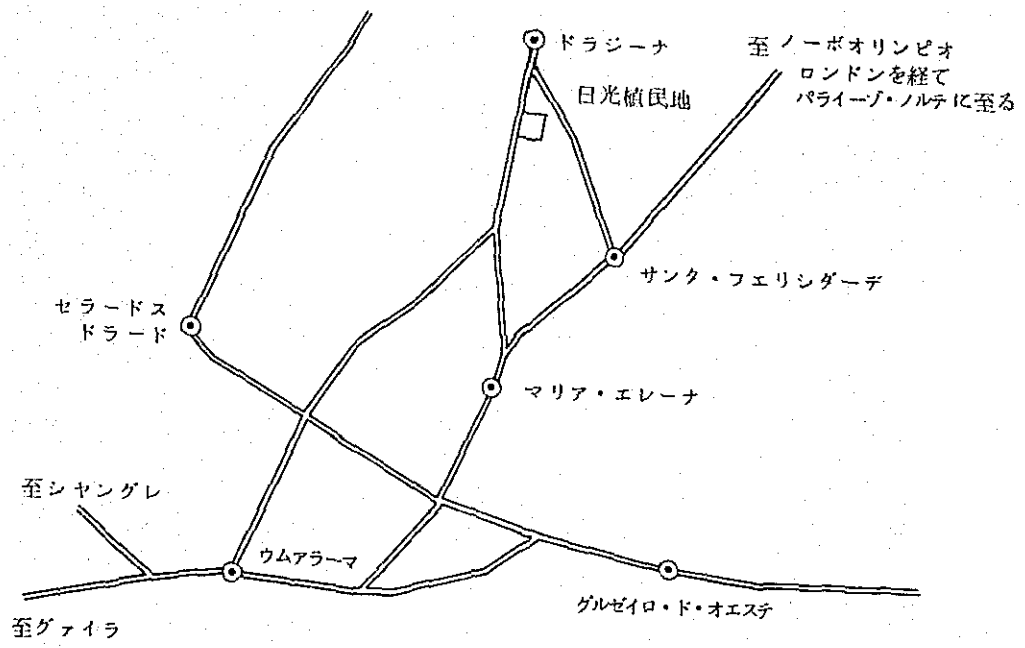
3. 営　　農

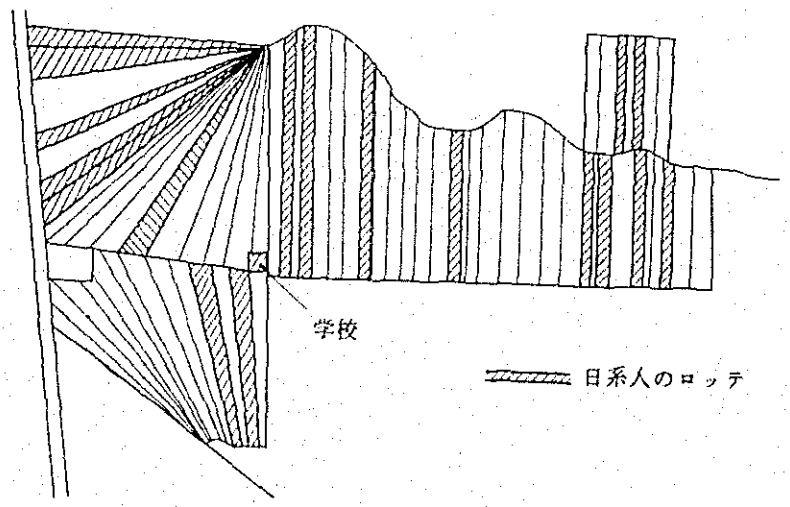
主作目	コーヒー，果樹（イタリヤブドウ）雑作　養鶏
営農状況	コーヒーを主体に落花生，大豆，フェジョン等短期作を組合せた営農がおこわれているが，最近，果樹（イタリアブドウ）養蚕の導入が図られている。昭和52年度の農家一戸当り耕作面積平均は普通畑4.9 ha，樹園地25.9 ha，農業依存率100%農家当り労働人数平均3.3人である。
農機具の普及状況	動力噴霧機1.4台，耕耘機0.2台，トラック0.8台，乗用車0.3台，チエンソー0.6台，トラクター0.5台（昭和52年調べ，農家一戸当り平均）

営農指導機関	事業団サンパウロ支部。移住地並びに近傍には特になし。南伯産業組合中央会よりの専門家による指導が時にある。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売機関	主産物は南伯産組に出荷。
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,183千円（96,901 crS）

4. 組織活動

自治会	日光植民地日本人会，昭和38年結成49年Associação Cultural e Esportiva de Vila Formosa として登録
（郵便）	Caixa Postal no 225，Umuarama，Paraná，Brasil，CEP － 87500
農協	南伯産業組合に全戸が加入している。 その下部組織として日光植民地生産物出荷組合，昭和38年9月設立，（任意）がある。 南伯産組はウムアラマに事務所及び倉庫をおく。


ドラジーナ
至ノーボオリンピオ
ロンドンを経て
パライーブ・ノルテに至る
日光植民地
サンタ・フェリシダーデ
セラードス
ドラード
マリア・エレーナ
至シャングレ
ウムアラーマ
グルゼイロ・ド・オエステ
至グァイラ


学校
日系人のロッテ

移住地名　桜・高森

1、地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州グワラレーマ郡 COLONIA CEREJEIRA ESTRADA GUARAREMA KM6, BAIRRO GOIABAL, MUNICIPIO DE GUARAREMA, ESTADO DE SÃO PAULO
	管理者	Sociedade dos Agricultores da Cerejeira （桜農組）
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	日系コロニアの有力者足立小平治氏が，昭和35年伯人耕主の土地の委任を受けて日本人移住者に，分譲することとなった。当初同氏の出身県である岐阜県から受入れたが，後全国から受入れることとなった。入植者は日本直来と現地からとあわせて78世帯となった。

自然条件	位置	W 46°05′　S 23°20′
	地形	緩い起伏の丘陵，小川，谷川，湧水等豊富
	地質・土壌	壌土
	植生・林相	再生林を含む草原地帯
	気候	年平均気温 17℃ 年間降雨量 1,500mm

社会条件	交通	近傍各都市へバス便が頻繁にある。
	市場	サンパウロ市並びにリオデジャネイロ市
	近傍主要都市	サンパウロ市　人口　約720万人　57Km ジャカレー市　〃　7万人　12Km モジダスクルーゼス市　〃　16万人　30Km グアラレーマ市　〃　1.6万人　6Km
	医療・教育	移住地内に医療機関はないが，グワラレーマ市に州立病院がある。 移住地内に小学校1校（事業団建設・木造）教師2名， 日語学校（専任教師1名）。 中学校並に高等学校はグワレーマ市，ジャカレイ市にバス通学
	治安	良好　グワラレーマ警察署管下

2. 入 植 状 況

入植戸数と人員（内地）	年度	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	39	0	4	3	1			
	人員	171	0	19	11	3			
	年度	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数						98	145	78
	人員						469	673	429

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	モジダス クルーゼス	スザノ	サンパウロ	帰国	その他
率（%）	20	10	60	10	10

主なる出身県名	岐阜	長野	広島	その他	合計
戸数	51	20	6	1	78

総面積	200 ha
ロッテ面積	1ロッテ約5 ha
分譲条件及価価	一括払い Ⓐ 52万円 Ⓑ 28.8万円 分割払い 頭金残金は1年以内。
地権取得	取得済。 一部分割払未了の者が494号法律（1971年10月1日付法律5709号）の制限にかかり未取得である。
電気・飲料水	電化自力で済み，一部事業団融資。 飲料水 井戸 （但し，桜地区の極く一部に水のないロッテあり）。
地区内道路	良好。
主要施設事業団貸与	小学校 倉庫 日本人会館，教員宿舎。

3. 営　　農

主　作　目	花卉（バラ，グラジオラス）
営農状況	露地バラの栽培専業農家がほとんどで，一部柑橘との複合経営および養鶏を営む。
農機具の所有状況	な　し。
営農指導機関	事業団サンパウロ支部，協力機関としてコチヤ産組等。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱	花卉は主として個人。
機関並に主市場	蔬菜，鶏卵，鶏肉，果実は主として組合。 サンパウロ市・リオデジャネイロ市。
農家所得 （一戸当り平均） 昭和　年度	

4. 組織活動

自治会	桜・高森日本人会（昭和44年結成）全戸加入
農協	コチア産業組合ジャカレイ倉庫加入 Sociedade dos Agricultores da colonia Cerejeira （法定）
（郵便）	℃ CAC—Cooperativa Agricola de Cotia Caixa Postal nº33, Jacarei, São Paulo, Brasil CEP — 12300

移住地名　　アウリベルデ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州カッポンボニート郡 Núcleo Auriverde, municipio de Capão Bonito, Estado de São Paulo
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和53年

経緯	経緯	青年既移住者独立用及び本邦からの入植者を対象として，昭和52年に事業団が取得，造成した移住地である。入植者の受入れは昭和53年より始まった。

自然条件	位置	W 48°24′　S 24°02′
	地形	南部が高く（標高750 m）北部，西部に向かって約50 mの標高差がある。地区内に3本の小川が流れており波状形地が3ケ所にわかれてある。
	地質・土壌	粘板岩系を母岩とするLatsol Velmelho Escuroと呼ばれる赤色植壌土
	植生・林相	20 haの再生林の他は牧野，畑地である。
	気候	年平均気温　20.1℃ 年間降雨量　1,453.2 mm 乾期　4～9月　雨期　10～3月

社会条件	交通	移住地入口から各都市への道路は完全舗装
	市場	カッポンボニート市，サンパウロ市等
	近傍主要都市	カッポンボニート市（人口3.3万人）　距離　6.5 Km ソロカバ市（人口20.8万人）　〃　133 Km サンパウロ市（人口720万人）　〃　245 Km
	医療・教育	カッポンボニート市に病院がある。また同市に小学校，中学校，普通高校，商業高校，師範学校がある。
	治安	良好

2. 入植状況

入植と戸人数員	年度	52	53	現地入植	合計	定着数	
	戸数			2(5)	2(5)	2((5)	
	人員			6(22)	6(22)	6(22)	

昭和53年3月末

( )内は　〃　4月末現在

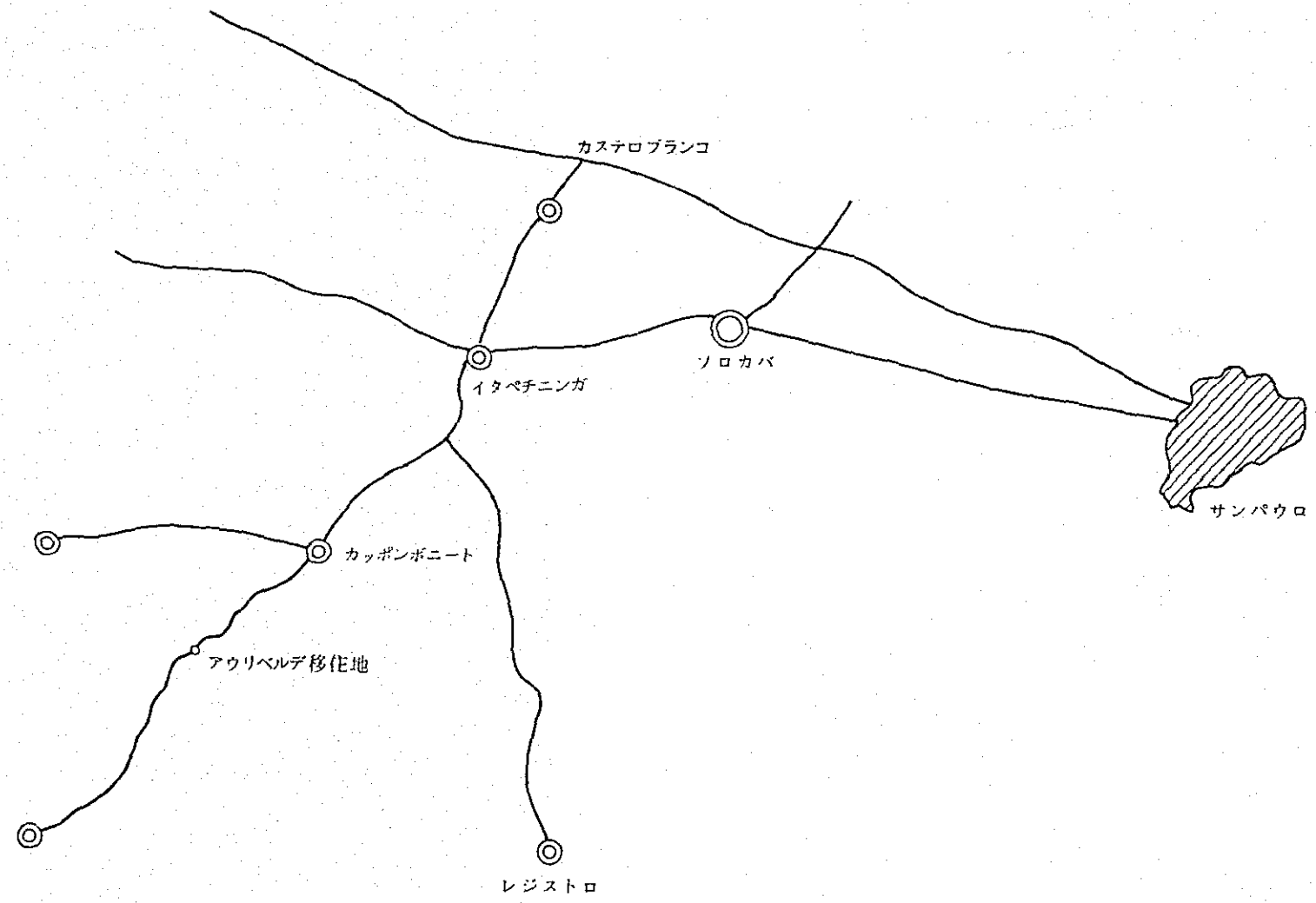
総面積	418 ha
ロッテ面積	15 ha
分譲条件及び価格	一括払いまたは頭金20%以上および4年据置5年払いの分割払い。 但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する 1ロッテ(標準15 ha) 5,137,000円相当伯貨額
分譲可能面積	395 ha (26ロッテ)
分譲状況	分譲済面積 / 未分譲面積 / 道路市街地等利用地 / 除地 30(75) / 365(320) / 8 / 15 昭和53年3月末 ( )内昭和53年4月30日現在
地権取得	0ロッテ
電気飲料水	電気は移住地入口から,保留地まで道にそって配線され,北側域外へ連絡している。 飲料水は素掘井戸で水質は良好である。
地区内道路状況	土道であるが良好
地区内主要施設	
事業団貸与	なし
組合所有等	なし
その他	保留地に旧地主の建物3棟

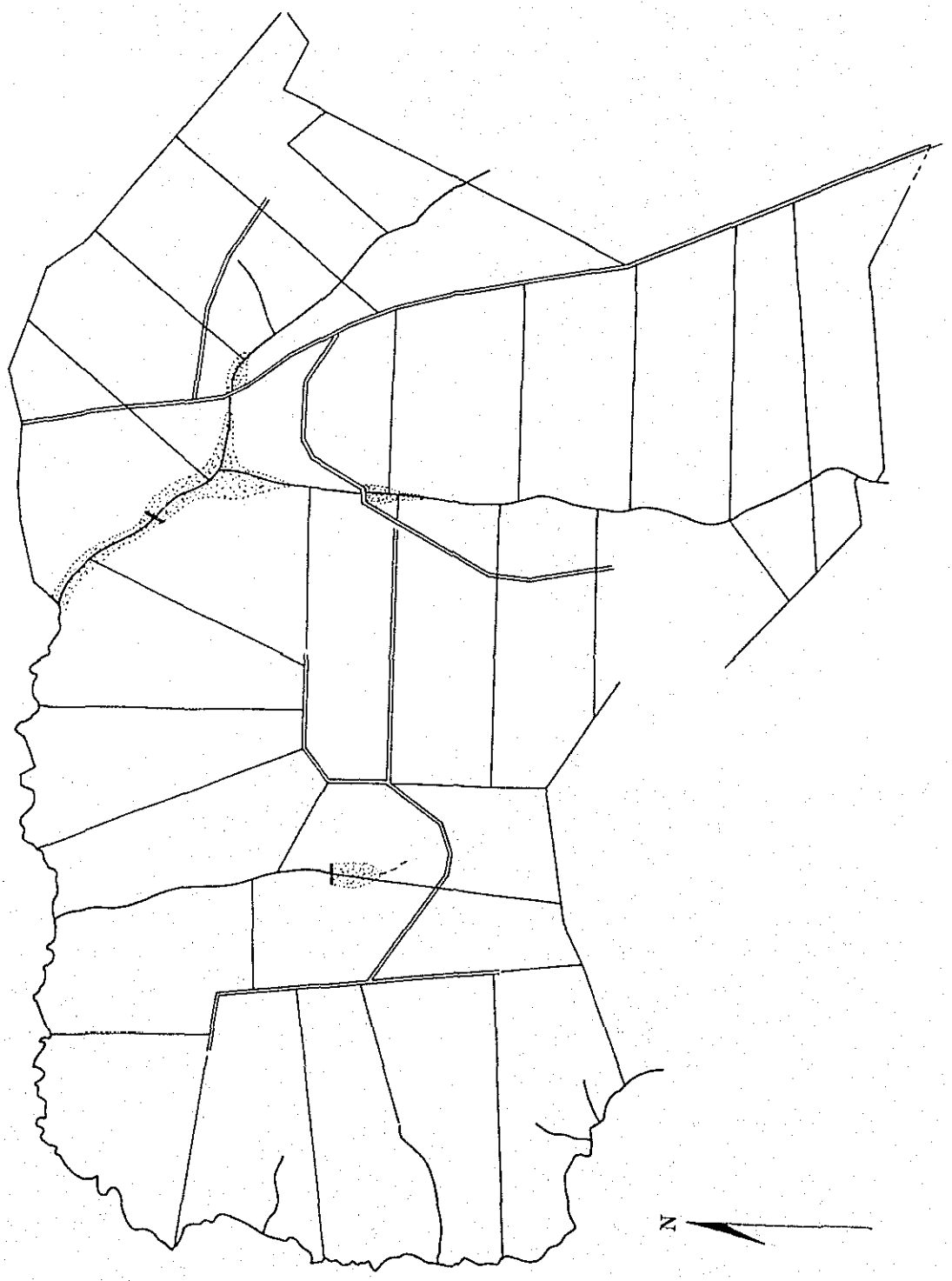
3. 営農

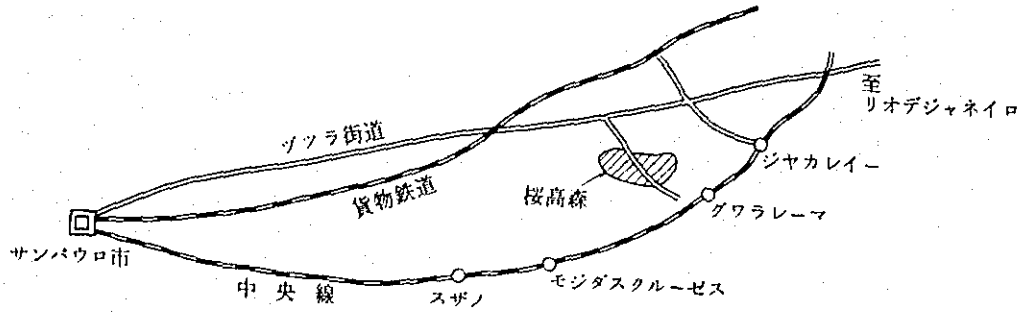
主作目	果樹,蔬菜,花卉を予定している。
営農指導機関	特になし,コチア産業組合カッポンボニート倉庫の指導を時に受ける。
利用金融機関	銀行,組合,事業団

4. 組織活動

自治会	カッポンボニート文化体育協会(Associasoo Cultural e Esportiva de Capão Bonito)
(郵便)	Caixapostal No18 Capão Bonito,de S.Paulo CEP - 18300
農協	コチア産業組合


カステロブランコ
ソロカバ
イタペチニンガ
サンパウロ
カッポンボニート
アウリベルデ移住地
レジストロ


N


至
リオデジャネイロ
ソソラ街道
ジャカレイー
貨物鉄道
桜高森
グワラレーマ
サンパウロ市
中央線
スザノ
モジダスクルーゼス

Ⅴ　ポルトアレグレ支部管内

支部機構

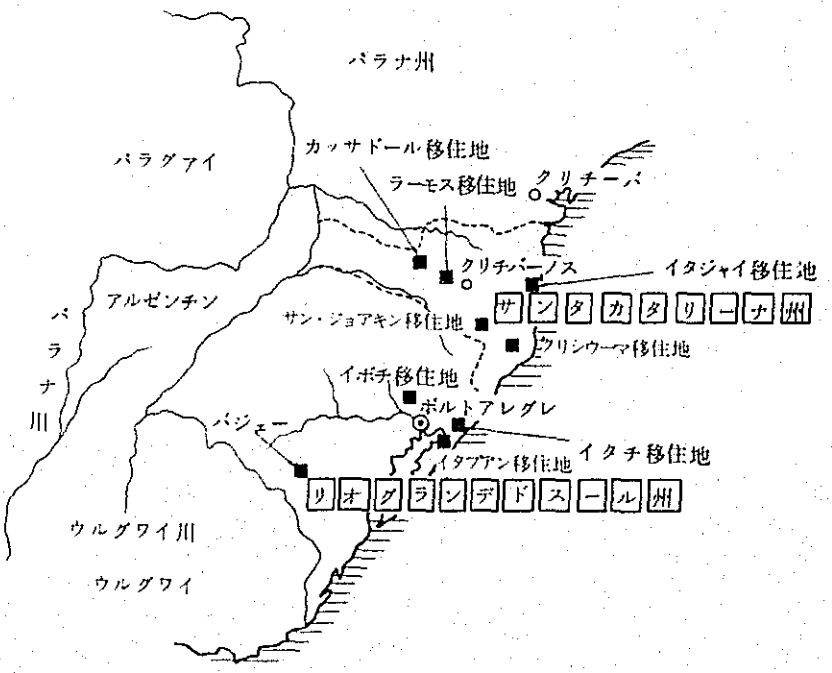
ポルトアレグレ支部（ポルトアレグレ市）

└─ ラーモス出張所（ラーモス移住地）

管轄州

リオグランデ・ド・スール州

サンタカタリーナ州



移住地名　ラ　ー　モ　ス

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	サンタカタリーナ州，クリチバーノス郡フレイ・ロジェリオ地区 DISTRITO DE FREI ROGÉRIO, CURITIBANOS, SANTA CATARINA
	管　理　者	サンタカタリーナ州農地改革院（IRASC）事業団（JAMIC）
	入植開始年度	昭和39年

経緯	経　緯	サンタカタリーナ州中山部地帯の農業振興のため，同地域に適する温帯果樹及びその他の農作物並びに小家畜の飼育に専門的技術を有する日本人を導入することとして，州直営で事業団と協定に基づいて創設した日本人入植枠70％，現地伯国人枠30％の混成移住地である。 日本人の入植は，昭和39年及び同40年に現地から16世帯，日本からは昭和42年以降今日まで3世帯が入植している。 営農構造は当初のネクタリン中心から，かなり変化して，現在では温帯果樹はリンゴ，桃を主体とする外，花卉生産，輸送果菜生産，ニンニク生産グループ等が出来て，それぞれの専業構造に分化しつつある。

自然条件	位　置	W 52°00′　S 27°30′
	地　形	傾斜4～7°の丘陵地帯で，地区内に細流多数。
	地質・土壌	母岩，玄武岩の壌土，植壌土，砂壌土，P.H　5～5.8
	植生・林相	未利用地は大部分再生林化し，灌木，雑草が繁茂している。現在殆んど自然原生林は残っていない。
	気　候	年平均気温　15～16°C 平均最高気温　24.5°C　　平均最低気温　9.1°C 年間降雨量　1,400～1,600㎜

社会条件	交　通	植民地～クリチバーノス市間　砂利道。 定期バス1日2往復のほか，入植者自家用車等がひんぱんに通っている。所要時間30分。 クリチーバ市～クリチバーノス市～ラージェス市～ポルトアレグレ市間　完全舗装。 クリチーバ市～クリチバーノス市　定期バス4～5便　約5時間。 クリチバーノス市～ラージェス市　定期バス4～5便　約2時間。 ラージェス市～ポルトアレグレ市　定期バス日に2回　7時間。
	市　場	モモ，リンゴ等果樹は，主市場サンパウロ市直接共同出荷，その他近傍都市が対象。 花卉類市場はポルト・アレグレ，その他はサンパウロ，クリチーバ及び近傍都市である。

社会条件	近傍主要都市	クリチバーノス市　人口約　2万人　約　23 Km ラージェス市　〃　12 万人　〃　107 Km ポルトアレグレ市　〃　100 万人　〃　450 Km クリチーバ市　〃　70 万人　〃　300 Km
	医療・教育	移住地内に医療機関なし。 ただし，クリチバーノス市に総合病院（フレイ・ロジェリオ病院）あり，事業団特約医契約を結んでおり割引価格である。 クリチーバ市，ポルトアレグレ市には各種医療設備完備。 移住地内に小学校（4年制）1校，事業団補助　教師2名。 中学校・高等学校はクリチバーノス市，ラージェス市，ポルトアレグレ市に通学或いは寄宿。 大学はクリチーバ市，ラージェス市，ポルトアレグレ市及びフロリアノポリス市。
	治安	クリチバーノス市警察管下にあり治安良好。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52
	戸数					3	2	5		1	
	人員					19	8	16		4	

年度	現地入植者	合計	定着数
戸数	72	83	64戸
人員			312人

昭和53年7月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ州	パラナ州	帰国	管内各地
率 (%)	42（8戸）	21（4戸）	11（2戸）	26（5戸）

連邦小麦植民地，サンジョゼー地区在住者を含む。

主なる出身県名	北海道	長崎県	山口県	沖縄県	その他	合計
戸数	17	8	5	4	30	64

総面積	1,137 ha（50ロッテ）
ロッテ面積	1ロッテ平均25 ha（12 haのロッテもある）
分譲条件及価格	土地代（含住宅資材代）Cr $ 1,997　3年据置　10年分割払い（無利子）。 44年9月以降　土地代 Cr $ 1,000　3年据置　5年分割払い（無利子）住宅資材は購入原価を8年後5年分割払い。
分譲状況	分譲済面積　未分譲面積　道路市街地等利用地　除地 1,114.5 ha　－　22.5 ha　－
地権取得	現地入植者（全員第一次入植）は土地代払込未了であるが，地権取得済（但し借地

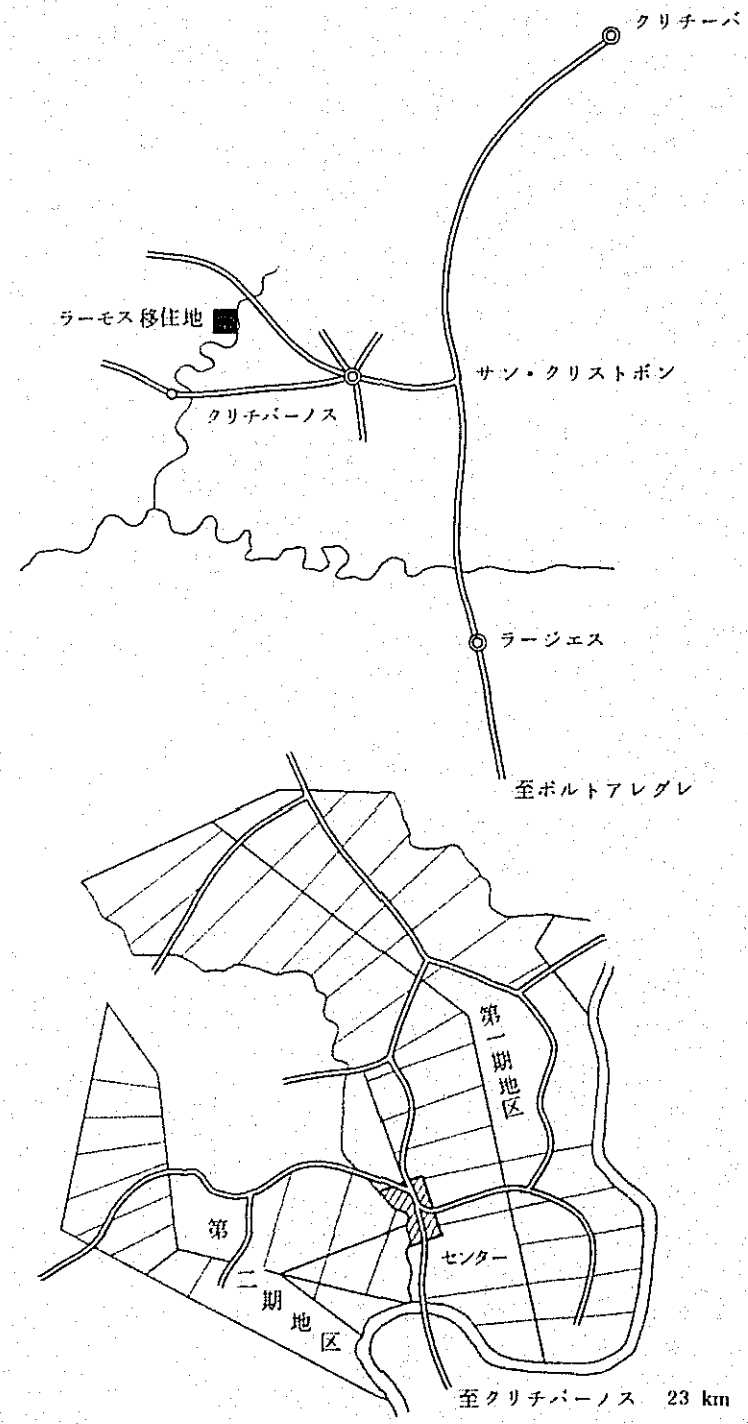
	売買権は13年後でないと認めない条件付）。日本人入植者は土地代払込完了時に地権取得確実。
電気・飲料水	電化は昭和52年度までに全戸完了。 飲料水は素掘井戸（7～8 m）水質良好，水量は豊富である。
地区内道路	起伏多く，ひんぱんな維持補修を要するが，市が政府の援助を受けてこれを実施している。 雨天通行にはやゝ困難な部分がある。
地区内主要施設 事業団貸与	小学校1　教員宿舎2

3 営農

主作目	油桃（ネクタリン），リンゴ，桃，果菜，カーネーション，菊，ニンニク
営農状況	花卉生産（カーネーション，菊）グループ，輸送果菜生産（トマト，ピーマン，人参，ビード等）グループ，ニンニク生産グループ及び温帯果樹としてリンゴ，桃，生産グループと，それぞれ専業に分化し，大部分安定した営農を行っている。
農機具等の普及状況	トラクター0.4台，乗用車0.8台，耕耘機1.1台，揚水ポンプ1.0台，動力噴霧機0.8台（昭和52年調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部，協力機関として国立試験場が近傍にあり（ビイディラ市60 Km）
利用金融機関	伯国銀行，州立銀行その他の市中銀行及び事業団。
主作物の販売取扱機関並びに主市場	主作物油桃はコチア，南伯両農協を通じサンパウロ市へ共同出荷している。
農家所得 （1戸当り平均 昭和52年度）	2,458千円（109,042 Cr $）

4 組織活動

自治会	クリチバーノス日伯文化協会（法定） ASSOCIAÇÃO CULTURAL BRASIL JAPÃO DE CURITIBANOS.
（郵便）	CAIXA POSTAL 184, CURITIBANOS-SC（〒89520）
農協	ラーモス移住地振興会（任意），クリチバーノス果樹研究会（任意）， ラーモス共同出荷組合（任意）


クリチーバ
ラーモス移住地
サン・クリストボン
クリチバーノス
ラージエス
至ポルトアレグレ
第一期地区
第二期地区
センター
至クリチバーノス 23 km

移住地名　イ　ボ　チ

1　地区概要

所在地	所在地	リオ・グランデ・ド・スール州イボチ郡及びドイス・イルモン郡 VALE DES PALMEIRAS, MUNICIPIO DE IVOTI, RIO GRANDE DO SUL
	管理者	集団独立
	入植開始年度	昭和42年度

経緯	経緯	リオ・グランデ・ド・スール州分益農移住者が中心となり，事業団の土地購入資金の融資を受けて，昭和42年集団的に土地購入独立した地区である。ブドウ，養鶏の組み合わせの営農からはじめたが現在では養鶏は全面的に取りやめ，ブドウの他柑橘，桃，スモモ，柿等の果樹，そ菜等の栽培が増えている。

自然条件	位置	W 51°10′　S 29°35′
	地形	谷から山頂まで 150～250 m あり，北西に傾斜をなす丘陵の一角にイボチ移住地がある。標高 200 m。
	地質・土壌	玄武岩，結晶片岩を母岩とする赤褐色ラテライトで有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生雑木林，アカシア・ネグラ植林地が大部分であったが，現在は殆んど全部が畑地となっており，ペッチン河沿いの共有地だけが雑木林で残されている。
	気候	年平均気温　21.1℃ 平均最高気温　26.3℃　平均最低気温　14.2℃ 年間降雨量　1,363.8 mm 降霜　冬期数回。

社会条件	交通	ポルトアレグレ市より完全舗装道路（BR 116）50 Kmでイボチ町に至る。
	市場	ポルトアレグレ市，サンパウロ市，リオ市。
	近傍主要都市	ポルトアレグレ市　人口　100万人　50 Km イボチ町　人口　5千人　3 Km サン・レオポルド市　人口　5万人　15 Km ノーボハンブルゴ市　人口　8万人　10 Km ドイス・イルモン市　人口　1万人　6 Km
	医療・教育	イボチ町，ドイス・イルモン市，ノーボハンブルゴ市に病院完備。 ポルトアレグレ市に各種医療施設完備。 移住地センター用地内に小学校がある。（但し3年課程までで，4年生以上はイボチ町の小学校に通う。）。 イボチ町に小学校，中学校。

社会条件		高校はノーボハンブルグ市その他各所にある。 大学はポルトアレグレ市，サン・レオポルド市その他各所にある。
	治安	良好。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数							2			55	57	45
	人員							2					239

昭和53年7月末

退耕者の主たる転住先	サンパウロ州	帰国	管内各地	その他
率 (%)	25（3戸）	33（4戸）	25（3戸）	17（2戸）

主なる出身県名	鹿児島県	北海道	山口県	熊本県	静岡県	その他	合計
戸数	14	5	5	3	3	15	45

総面積	257.53 ha
ロッテ面積	1ロッテ 5.84 ha
分譲条件及価格	数人の地主より独立期成会が一括購入（事業団の融資援助）事後各人に分割。
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	電化は州の補助を受け自力で導入。 飲料水は事業団補助により51年度に3ケ所の深井戸を掘削，良好な水質の飲料水が利用されている。
地区内道路	無舗装，雨天若干泥ねいと化す。
地区内主要施設事業団補助	深井戸3基。

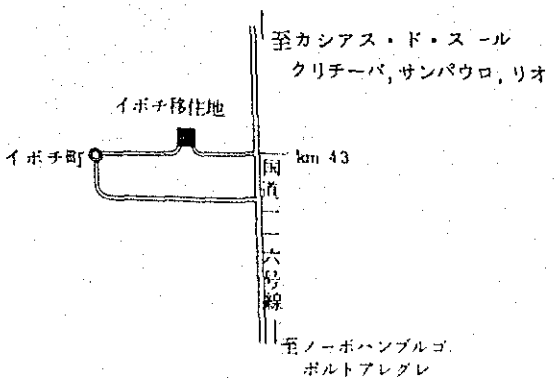
3 営農

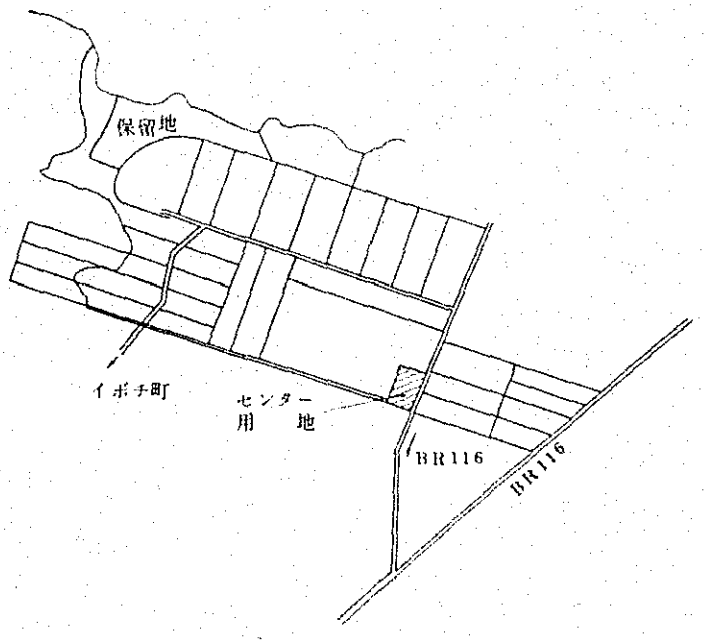
主作目	ぶどう，柑橘，桃，李，柿，蔬菜
営農状況	イタリア種，巨峰種などの生食用ぶどうを主体に柑橘，桃，李，柿等の果樹，及び蔬菜を組合せた営農を行っている。当初借入金に依存した経営で苦しかったが，ここ数年経営は飛躍的に好転してきている。
農機具等の普及状況	耕耘機0.6台，乗用車0.3台，トラック0.3台，動力噴霧機1.4台，エンジン0.7台，揚水ポンプ1.35台（昭和52年調べ農家1戸当り平均） なお共同防除機として，スピードスプレーヤー6台が事業団交付金で購入，イボチ農協に貸与されている。
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部

利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並主市場	ぶどうの50％はサンパウロ，リオ・デ・ジャネイロに農協による共同出荷，他はポルトアレグレ市へ出荷
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	2,620千円（116,256 Cr $）

4 組織活動

自治会	イボチ移住地日本人会（任意）
農協	イボチ農業協同組合（法定）
（郵便）	COOPERATIVA HORTIGRANJEIRA MISTA IVOTÍ LTDA. a/c NÚCLEO COLONIAL JAPONES IVOTÍ-RS（〒95170）





移住地名　イ　タ　チ

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	リオ・グランデ・ド・スール州オゾーリオ郡イタチ村 VILA ITATI, MUNICIPIO DE OSORIO, RIO GRANDE DO SUL
	管　理　者	集団独立
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経　緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益農移住者が中心となり，事業団の土地購入融資を受けて，昭和42年集団的に土地購入独立した地区である。

自然条件	位　置	W 50°25′　S 29°30′
	地　形	東は河どまりで，移住地の東半分はその河の冲積層の谷で，西半分は丘陵である。谷と丘陵の間に小川と低平地がある。
	地質・土壌	玄武岩，結晶片岩を母岩とする褐色のラテライトで，有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生雑木林
	気　候	年平均気温　17.9℃ 平均最高気温　21.7℃　平均最低気温　14.4℃ 年間降雨量　1,428 mm

社会条件	交　通	オゾーリオ市，ポルトアレグレ市とも完全舗装（BR 101）であるが，うち 12 Kmは簡易舗装である。バス便は直行 4 便運行している。
	市　場	ポルトアレグレ市が主市場，その他近傍都市。
	近傍主要都市	イタチ村　人口　500人　8 Km トーレス市　人口　2万人　60 Km オゾーリオ市　人口　2万人　70 Km ポルトアレグレ市　人口　100万人　170 Km
	医療・教育	医療：イタチ村は無医村，12Kmの国道BR 101号線入口のテーラ・デ・アレイア村に救急病院がある。 教育：小学校，中学校はイタチ村にあり，高校はトーレス市及びオゾーリオ市にある。
	治　安	良好

2 入植状況

入植戸数及び（内人員地）	年度	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数
	戸数						13	13	13
	人員						74	74	74

昭和53年7月末

退耕者　なし

主なる出身県名	福島県	熊本県	その他	合計
戸数	5	3	5	13

総面積	139.5 ha
ロッテ面積	1ロッテ平均 14 ha 但し一部入植者（6戸）は 9.6 ha 幅 26 m～40 m　奥行 3,500 m の長方形のロッテ
分譲条件及価格	43年転入者　7戸　ha当り　850 Cr $ 45年転入者　2戸　ha当り　1,200 Cr $
分譲状況	分譲済面積：139.5 ha 未分譲面積：－ 道路市街地等利用地：－ 除地：－
地権取得	全戸取得済
電気・飲料水	電気は導入されている。飲料水は井戸水を使用している。
地区内道路	郡道がイタチ村を環状に1周しており，砂利道であるが雨天でもバス運行中止はない。
地区内主要施設	花卉冷蔵庫兼集会場
事業団貸与	なし
組合所有	集会所

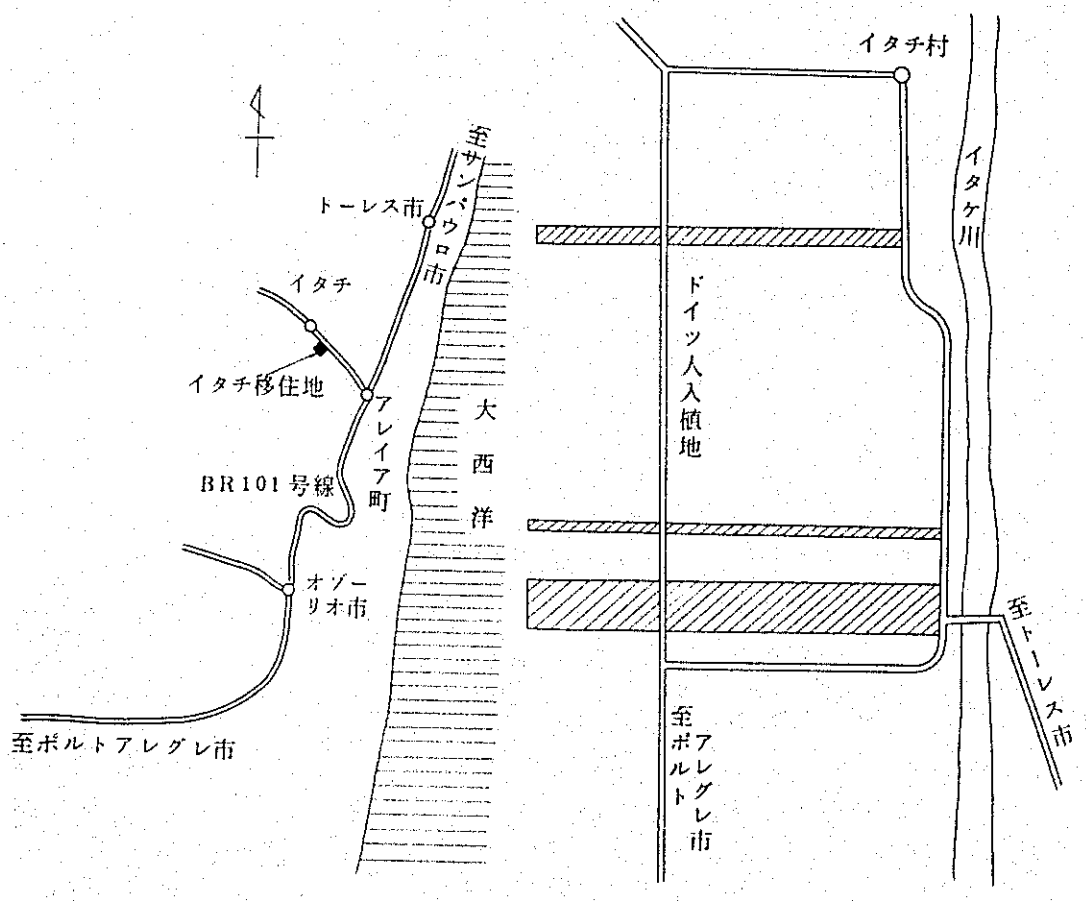
3 営農

主作目	トマト，ピーマン，キュウリ，柑橘，バラ，キク，カーネーション
営農状況	昭和52年度における1農家当り耕作面積平均は，普通畑2.6 ha，樹園1.3 haで市場に近いため蔬菜を中心とした近郊農業を営なんでいる。
農機具等の普及状況	トラック0.5台，乗用車0.2台，耕耘機1.0台，動力噴霧機2.0台，揚水ポンプ1.5台，エンジン1.0台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並主市場	ポルトアレグレ市，トーレス市，オゾーリオ市

農家所得 （1戸当り平均 昭和52年度）	2,868千円（127,217 Cr $）

4 組織活動

自治会	イタチ日本人会（任意）
農協	イタチ花卉共同出荷組合（任意）



移住地名　イタジャイ

1 地区概要

所在地	所在地	サンタ・カタリーナ州イタジャイ郡 NUCLEO COLONIAL "RIO NOVO" ITAJAI, SANTA CATARINA
	管理者	イタジャイ郡サンタ・カタリーナ州農地改革院（IRASC），事業団
	入植開始年度	昭和47年

経緯	経緯	昭和44年，ラーモス移住地ネクタリン祭の席上，IRASC総裁，州農務長官，当時のブラジル農業開発院（INDA）駐在官等より，近い将来沿岸地帯に日本人を主とする蔬菜園芸移住地を設定することについて，是非検討して欲しい旨要望があった。 その後昭和46年5月に至って，IRASCより正式にイタジャイ地区についての現地調査依頼があった。 従来，イタジャイを始めとする近傍主要都市における蔬菜生産には殆どみるべきものがなく，果菜類の90％はサンパウロ，パラナ方面からの移入品に頼ってきたが，鮮度が著しく落ちる上に高価であり，市民の食生活は極めて低調であった。 そこで，日本人を中心とする蔬菜園芸移住地を設定して，生産物を新設予定の市中央市場に直結させ，近傍主要都市の生鮮蔬菜類の供給を確立せしめるとの具体的構想を持つに至った。 市は土地の購入ロッテ造成，電気導入，住宅建設等をIRASCは，住宅建設費用の負担，州農業改良普及院（ACARESC）は営農相談，融資あっせん，当団は日本人入植者の選考をそれぞれ担当し，昭和47年に入植を開始したものである。

自然条件	位置	W 48°40′　S 26°55′
	地形	沿岸平坦低湿地　標高18 m
	地質・土壌	表層部は，100～150 cmの老朽有機物堆積， その下は水成岩を母岩とする砂質土と泥炭質粘土の混合土壌。
	植生・林相	広葉樹の中に有用堅木が混生する原生林で，50％程度は熟畑化している。
	気候	多雨温暖性気候　1971年(昭和46年）の観測結果， 年平均最高気温　27.66℃　年平均最低気温　16.48℃ 年平均相対湿度　76.52％ 年平均降雨日数145日で降霜は年数回，降雨量は1,589.8 mmである。

社会条件	交通	移住地～イタジャイ市間はBR101号線南下3 Km車で5分程度， BR101号線をひんぱんに通るバス便を利用。 BR101号線はフロリアノポリス市，ポルトアレグレ市およびクリチーバ市，サン

社会条件		パウロ方面に通じている。
	市場	イタジャイ市
	近傍主要都市	ジョインビレ市　人口約 8万人　BR 101 北上約 80 Km
		イタジャイ市　人口約 8万人　BR 101 南下約 9 Km
		カンポリウ市　人口約 3万人　BR 101 南下約 5 Km
		フロリアノポリス市　人口約 18万人　BR 101 南下約 85 Km
		ブルメナウ市　人口約 10万人　西方約 35 Km
		ブルスケ市　人口約 4万人　南西約 30 Km
	医療・教育	イタジャイ市まで3 Kmバス便よく，医療・教育の各施設が完備されている。
	治安	良好

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度							現地入植者	合計	定着数
	戸数							7	7	7
	人員							28	28	28

昭和53年7月末

退耕者　なし

主なる出身県名	北海道	熊本県	高知県	茨城県	合計
戸数	4	1	1	1	7

総面積	60 ha
ロッテ面積	1ロッテ 6 ha × 10 ロッテ
分譲条件及価格	1ロッテ価格　土地代　家屋建築費，造成費の合計　Cr $ 25,000
	分譲条件　2年据置　10年払い
分譲可能面積	60 ha
分譲状況	分譲済面積　未分譲面積　道路市街地等利用地　除地
	60 ha　—　—　—
地権取得	現在，州立銀行に担保として設定されているため，最終回銀行支払いにより確定地権となる。
電気・飲料水	電気は創設に当り導入されている。
	飲料水用水道完備。
地区内道路	リオ・ノーボ川沿いに幅員 8 mの公共道路が貫通している。

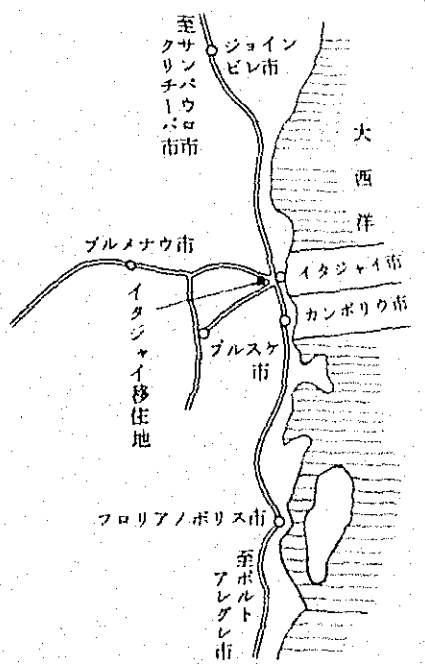
8 営　　農

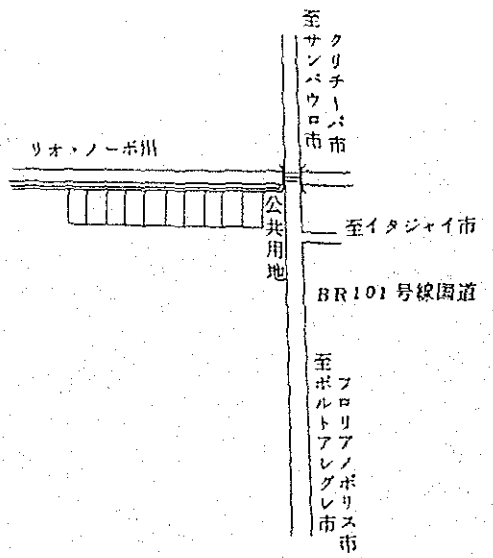
主　作　物	蔬菜（各種），ショウガ 花，主にバラ，グラジオラス
営　農　状　況	各種作目の周年出荷栽培を推進している。
農機具等の普及状況	乗用車0.7台，耕耘機1.0台，スプリンクラー0.2台，揚水ポンプ0.7台
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部，協力機関として農業改良普及協会（ACARESC）
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並びに主市場	販売は個人出荷 市場は近傍主要都市，ジョインビレ，イタジャイ，カンポリウ，フロリアノポリス，ブルメナウ，ブルスケ，クリチーバの各都市
農　家　所　得 （1戸当り平均 昭和52年度）	1,948千円（86,420 Cr $）

4 組織活動

自　治　会	イタジャイ日本人会（任意）
農　協	なし

5 地区略図　（移住地より近傍主要都市の略図）





移住地名　カッサドール

1　地区概要

所在地	所在地	サンタカタリーナ州カッサドール郡パイオル・ベーリョ地区 NÚCLEO COLONIAL PAIOL VELHO, MUNICIPIO DE CAÇADOR, SANTA CATARINA
	管理者	サンタ，カタリーナ州農地改革院（IRASC）
	入植開始年度	昭和48年3月

経緯	経緯	昭和45年頃，ラーモス移住地における日本人農家の果樹栽培状況を視察したカッサドール市長は，その成果に鑑み同郡内にも日本人を中心とした温帯果樹栽培を主とする小植民地を創設すべく，その可能性について検討を行い適地を物色した結果，農地改革に協力的な地主の所有地に決定し，市がこれを買上げIRASCの協力の下に移住地を設定した。一方日本人入植者の選考に当っては，在パラナ州サンパウロ州の希望者の中から，当団がカッサドール郡IRASCと協議の結果10家族を選定した。 即ち，昭和48年3月第1陣として9家族，翌49年3月1家族の合計10家族が入植した。現在，リンゴ，桃等の温帯果樹の植付管理に専念している。

自然条件	位置	W 51°00′ S 26°46′
	地形	概ね波状型パラナ松よりなる森林にはかなり強度の傾斜が見られるが，全体的に見ればほんの一部である。標高 900 m～1,100 m。
	地質・土壌	玄武岩を母岩とする砂壌土，有機質が比較的豊富，特に森林部には粗大有機質が堆積している。 PH 4.5～5.5
	植生・林相	雑木原生林（若干の有用木混生）と再生林および牧草地 大部分広葉樹，針葉樹はパラナ松の外2～3種で 極く一部，森林は密でない，現在は森林はほとんど残っていない。
	気候	年平均気温　16.8℃， 最高平均気温　22.4℃　　最低平均気温　10.9℃ 平均年間降雨量　1,576 mm　　降雨日数　120日。

社会条件	交通	移住地カッサドール市間は8Km。 カッサドール市からBR116号線まで60Kmは完全舗装。 BR 116号線は，ポルト・アレグレ市およびサンパウロ市，クリチーバ市に通じている。
	市場	果樹の大部分とトマトはサンパウロ市，及びリオ・デ・ジャネイロ市に出荷，

社会条件		その他は地元市場で充分である。
	近傍主要都市	カッサドール市　人口 5万人　移住地から同市まで8Km， ヴィディラ市　人口 3万人　移住地から同市まで50Km。
	医療・教育	移住地内に医療機関はないが，カッサドール市に公立総合病院があり，ポルトアレグレ市，クリチーバ市には各種医療機関がある。 カッサドール市に小学校，中学校，高校および専科大学（商科）がある。
	治安	良好，カッサドール市警察管下

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）													現地入植者	合計	定着数
	年度														
	戸数												14	14	13
	人員														51

昭和53年7月末

退耕者　帰国1

主なる出身県名	福岡	熊本	大分	静岡	東京	長野	長崎	茨城	青森	北海道	合計
戸数	2	1	1	1	1	1	1	2	2	1	13

総面積	275 ha			
ロッテ面積	1ロッテ　25 ha			
分譲条件および価格	土地代（含家屋）Cr $ 25,000 3年据置8年々賦無利子 通貨価値修正なし			
分譲可能面積	周辺に購入可能な私有地あり（時価ha当りCr $ 8,000～10,000）			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	275 ha			
地権取得	現在，州立銀行に担保として設定されているため，最終回銀行支払いにより確定地権となる。			
電気・飲料水	飲料水はロッテ毎に掘抜井戸施設あり 電気は架線方関係当局に申請中			
地区内道路	巾員6mの幹線道路			

3 営農

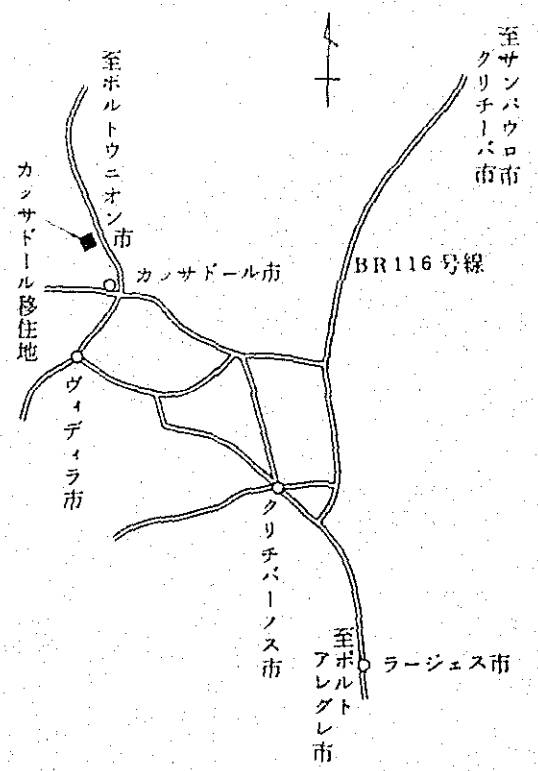
主作目	リンゴ，桃等温帯果樹，花卉，野菜
営農状況	リンゴ，桃等温帯果樹を中心に花卉，野菜を栽培，入植者出荷組合を中心に販売し次第に生産が軌道にのりつつある。
農機具等の普及状況	1戸当り平均所有台数 トラクター1.1台，トラック0.8台，乗用車0.9台，耕耘機0.8台，揚水ポンプ

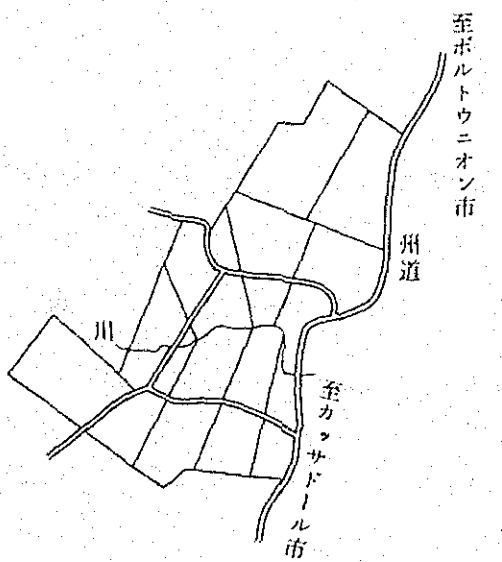
	1.3台，エンジン1.8台
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部，協力機関として州農業改良普及院（ACARESC）国立果樹試験場附属訓練センター（ヴィディラ市）があり，また市役所勧業課に州の改良普及技術員が常駐し指導にあたっている。
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	サンパウロ市，クリチーバ市に共同出荷。
農家所得（1戸当り平均 昭和52年度）	3,104千円（137,704 Cr $）

4 組織活動

自治会	カッサドール日本人会（任意）
（郵便）	CAIXA POSTAL 87, CACADOR-SC（〒89500）
農協	なし。

5 地区略図 （移住地より近傍主要都市略図）





移住地名　バ　ジ　ェ　ー

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	リオ・グランデ・ド・スール州バジェー郡フロレンサ村 VILA FLORENÇA, MUNICIPIO DE BAGÉ, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL.
	管　理　者	集団独立
	入植開始年度	昭和44年3月

経緯	経　　緯	バジェー市近郊に昭和36年4月，分益農として，外人農場に入植し，以来段階的に借地営農にきりかえた4家族が，土地を共同購入して各ロッテに分割し，従来の蔬菜単作に果樹を加え，営農を安定させる計画をたて事業団が融資等でバックアップした独立移住地である。

自然条件	位　　置	W 54°06′　S 31°20′
	地　　形	なだらかな波状地形，移住地の境界をなすバジェー川に向って，ゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	赤色プレリー土地帯に位置しているが，暗灰色味をおびた砂壌土である。心土層は白い粘土質で，表土は比較的浅く（40～50㎝程度）軽い土で流亡しやすい。保水力も決して強い方でない。特に燐酸分が貧弱であるが，PHは5.5～6.5である。
	植生・林相	既成の牧場の一部である。
	気　　候	ウルグアイ型気象で，高原内陸性の夏乾冬湿がはっきりしている。年平均温度17.7℃，平均最高温度23.6℃，平均最低温度12.5℃，雨量1,414㎜，降霜日数65日。

社会条件	交　　通	バジェー市中心街まで3Km，ポルトアレグレ市まで370Km，全線舗装されている。
	市　　場	バジェー市の目抜通りで，隔日移動朝市があるので直売小売を行うと共に，市内の蔬菜取扱業者に卸売りを行っている。 又，ぶどうは一部ポルトアレグレ卸市場に共同出荷して，委託販売を行っている。
	近傍主要都市	バジェー市は，ウルグアイ国境より60Kmの地点に存在し，軍事上重要性をもち国境守備連隊が配置されている。又，大農場に広く取り囲まれた市で，商業も活況を呈し，また市全体として極めて落ちついた雰囲気をかもしている。市内人口約8万人。
	医療・教育	各病院は整備されており，教育は高校まで完備され，大学は経済・経理大学がある。
	治　　安	良好。

2 入植状況

入植戸数（内地人員）	年度											現地入植者	合計	定着数
	戸数											4	4	4
	人員											18	18	18

昭和53年7月末

退耕者　なし

主なる出身県名	長崎										合計
戸数	4										4

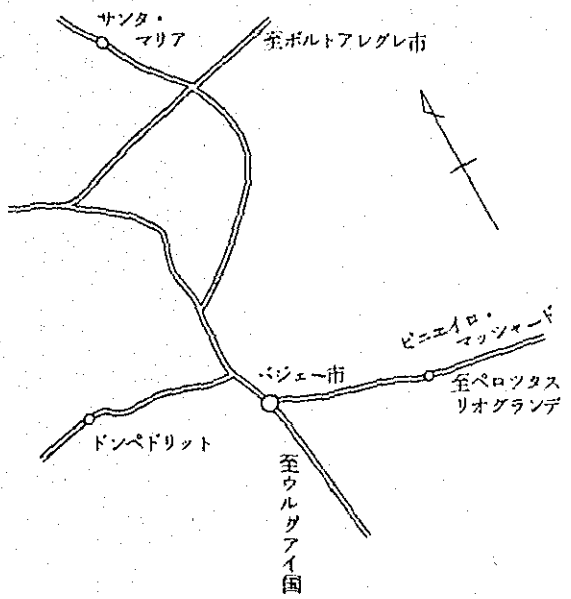
総面積	26 ha			
ロッテ面積	5 ha（3ロッテ），11 ha（1ロッテ）			
分譲条件および価格	ha当り2,000 Cr $で購入 周辺地価（時価Cr $ 100,000～150,000／ha）			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	26 ha	－	－	－
地権取得	全戸取得済			
電気・飲料水	電気は現在導入されていないが，都役所に申請中。 飲料水は各ロッテに掘抜き井戸を設備している。			
地区内道路	私道であるが，良好な状態である。			

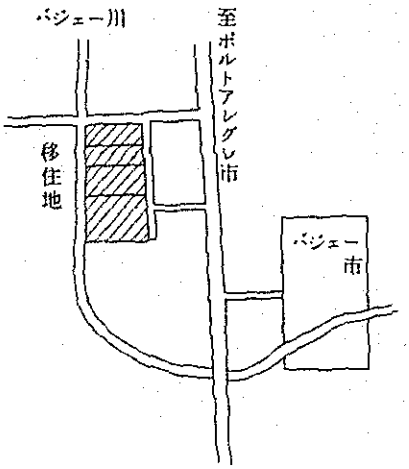
3 営農

主作目	トマト，ぶどう，チシャ，ニンジン
営農状況	市場はポルト・アレグレで比較的安定しているため，経営に無駄がなく営農の基礎が出来ている。
農機具等の普及状況	
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部 協力機関として，州農務局地区改良普及所。
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	バジェー市朝市での小売直売，およびぶどうのポルトアレグレ市場での委託販売。
農家所得（1戸当り平均 昭和　年度）	

4 組織活動

自治会	バジェー日本人会（任意）
農協	なし。





移住地名　クリシューマ（ファシナル）

1　地区概要

所在地	所在地	サンタ・カタリーナ州クリシューマ郡フォルキリーニャ FORQUILHINHA, MUNICIPIO DE CRICIÚMA, SANTA CATARINA ポルト・アレグレ市より国道101号線に沿って北に250Kmのヴィラノーバより西に20Km入った地点にクリシューマ市がある。
	管理者	クリシューマ郡役所，サンタ・カタリーナ州農地改革院（IRASC），事業団
	入植開始年度	昭和49年

経緯	経緯	クリシューマ郡は，炭坑関係者を中心として人口82,000人（1970年）の州内では屈指の経済成長をとげてきた工業地域であるが，近郊に野菜，果樹等の供給地がなく，これらの大部分をサンパウロ，ポルト・アレグレ方面から移入していたのが現状であった。 そこで郡当局はラーモス，イタジャイ，カサドール等協定入植地の例にみられるように，日本人中心の移住地を創設し，生鮮蔬菜類の供給ルートを確立するという構想をもつに至った。 1973年5月，IRASC及び郡当局は，従来のように，これを協定移住地としてJAMICを含めた3者の協定をもって設定することが最良の方法であるとの結論を得，具体的な検討に入った。以降3者の協定によって土地の選定，移住地計画の策定等検討を行なった結果1973年12月IRASC，郡当局，JAMICが協定書に調印し，ここにクリシューマ移住地の誕生を見るに至った。協定にもとづき，郡当局は土地購入，ロッテ造成電気導入，住宅建設，IRASCは住宅建設費の負担，融資斡旋，JAMICは日本人入植者の選考を夫々担当し1974年6月入植を開始した。

自然条件	位置	W 49°22′　S 28°40′
	地形	低いなだらかな丘陵と低地が小波状形に続く既成牧場地帯の一部
	植生・林相	
	気候	多雨温暖気候 年平均最高　25.5℃　年平均最低　13.6℃　年平均相対湿度　81.0％ 年降雨量　1,558.4 m/m

社会条件	交通	移住地からクリシューマ市の中心までは簡易舗装された州道24Km，クリシューマ市よりBR 101号線でポルト・アレグレ市までは270Km，フロリアノポリス市までは210Km，サンパウロは700Km，定期直通バスが利用できる。

社会条件	市場	クリシューマを中心とする近傍都市を対象に野菜を供給。
	近傍主要都市	クリシューマ市　人口　8万人　陸路　24Km（州道） ツバロン市　人口　5万人　50Km（州道） フロリアノポリス市　人口　18万人　210Km（BR 101 号） ポルト・アレグレ市　人口　100万人　330Km（　〃　）
	医療・教育	クリシューマ市内に4つの病院（600ベット）がある。 移住地より2Kmの地点に小学校あり，7Km地点のフォルキリーシャ村に小，中学校がある。また，クリシューマ市には高校から州立大学まで完備している。
	治安	良好。

2　入植状況

入植戸数と人員（現地入植）	年度				合計	定着数
	戸数				8	8
	人員				25	25

主なる出身県名	千葉	鹿児島	福岡	北海道	山口	合計
戸数	2	2	2	1	1	8

昭和53年7月末

総面積	100 ha
ロッテ面積	1ロッテ価格　50,000クルゼイロ（60㎡住宅付）
分譲条件	頭金なし，2年据置　8年々賦 利息，価値修正等郡負担
地権取得	現在，州立銀行に担保として設定されているため，最終回銀行支払いにより確定地権となる。
電気・飲料水	電気は創設と同時に郡により導入されている。 飲料水は郡当局により各戸に井戸掘削，水質良好。
地区内道路	クリシューマ市からバカリア市（リオ・グランデ・ド・スール州）に通ずる州道より，移住地の中央部を幅員8mの公共道路が貫通している。

3　営農

主作目	蔬菜（各種），トマト，ピーマン，キューリ，アルファッセ等
営農状況	各種作物の周年出荷栽培を行なっている。
農機具等の普及状況	
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部 協力機関として農業改良普及協会（ACARESC）

利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関	販売は個人出荷
主な市場	クリシューマ市
農家所得	

4 組織活動

自治会	クリシュウマ日本人会（任意）
農協	なし。

移住地名　サン・ジョアキン移住地

1　地区概要

所在地	所在地	サンタ・カタリーナ州サン・ジョアキン郡 MUNICIPIO DE SÃO JOAQUIN, SANTA CATALINA
	管理者	コチア中央農産組合
	入植開始年度	昭和49年度（1974年）

経緯	経緯	サンパウロ市コチア中央農産組合では，古くから国産リンゴ生産について多大の関心をもっていたが，ラーモス，カッサドール等の移住地でのリンゴ生産実績を踏まえ，組合の拓植事業の一部として入植地区を買収，1ロッテ25 ha に分割，主として有力組合員の2，3男分家用地として分譲したものである。 この間の土地代，住宅代等にかゝわる融資は，中央銀行から州立銀行に手当された原資による地域開発投融資々金によってまかなわれた。なお同移住地は一般にはサン・ジョアキン，コチア村とよばれているが，郡の積極的なコロニア誘致運動に呼応したもので，道路，電化等の諸環境整備には，郡独自の相当な援助をうけているようである。

自然条件	位置	W 49°50′　S 28°17′
	地形	傾斜4～5°の丘陵地帯で，ジェラル山脈の頂原野の一部である。各所に散在する低盆地沿いには無数の自然湧水源があり低地部は，かなり湿潤である。
	地質・土壌	玄武岩と結晶片岩を母岩とする壌土，埴壌土が中心でPHは4.5～6度で酸性はかなり強い。鉄，アルミナが比較的多く，燐酸の肥効能率は低い。石塊が多いので，樹木営農以外には適していない。
	植生・林相	町に近く便利な所で，パラナ松の伐採後相当の年月がたっているようで，現在までは殆んど完全な自然牧場として利用され，極く一部の急傾斜地以外は残存森林なく，草地は禾本科の自然牧草である。
	気候	1965～1975年の11ケ年平均（サン・ジョアキン果樹試験場 － 標高1,418 m 調べ） 年間平均気温 13.89℃　平均最高気温 18.83℃　平均最低気温 8.96℃ 降雨量 1,552.51 mm

社会条件	交通	植民地 － サン・ジョアキン市間5 Kmは砂利敷州道。 サン・ジョアキン市 → ラージェス市80 Kmは州道（将来アスファルト道路化計画中） → ボン・ジャルジン・ダ・セーラ町50 Km は砂利敷州道 → ボン．レチーロ町50 Km は砂利敷州道

社会条件		サン・ジョアキン市 → ラージェス市間定期バス 1日 4往復
	市場	果樹，輸送園芸産物は殆んど全部サンパウロ中央市場向け出荷され，コチア産組の委託販売である。（全員が組合員である。）
	近傍都市	サン・ジョアキン市　人口　1万人 ボン・ジャルジン・ダ・セーラ町　人口 2,000人 ボン・レチーロ町　人口 3,000人 ラージェス市　人口　12万人
	医療・教育	移住地内に医療機関，教育施設なし。 サン・ジョアキン市に総合病院（入院設備付）， 小，中，高校あり。 大学はラージェス市に商経単科大学がある。
	治安	サン・ジョアキン市警察管下である。日本人を歓迎している郡であり，しかも大部分が伯国生れの日系ブラジル人入植者であるので，他の戦後移住者中心の移住地以上に地域社会とは友好的であるように思われる。

2 入植状況

全戸現地入植者　27戸　108人　（昭和53年3月末）

主なる出身県名	ブラジル生れ	高知	福島	その他	合計
戸数	14	4	2	7	27

総面積	不詳 確認済（確定入植者 20戸分は 712.57 ha となっている。1戸平均 35.63 ha）			
分譲条件及び価格	分譲価格は ha 当り約 5,000.00 ～ 6,000.00 クルゼイロス，融資銀行の州立銀行利息は年 15 %，据置 3年，8ケ年払いである。			
地権取得	現在，州立銀行に担保として設定されているため，最終回銀行支払いにより確定地権となる。			
電気・飲料水	農村電化資金で大部分電化済，飲料水は各農家の個人業掘井戸を利用。			
分譲可能面積	ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
地区内道路	郡役所で必要に応じて補修している。			

3 営農

主作目	リンゴ（現在の栽培本数合計 318,000 本）
副作目	エンドウ，馬鈴薯（種子用），ニンニク，人参等
営農指導機関	コチア中央農産組合，サン・ジョアキン果樹試験場，州改良普及技師（ACARESC）

営　農　状　況	営農生産実績ー不詳（調査できず）
利用金融機関	銀　行

4　組　織　活　動

自　治　会	サン・ジョアキン日伯文化体育協会（法定申請中）
農　協	なし。

移住地名　イタプアン移住地

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	リオ・グランデ・ド・スール州ヴィアモン郡イタプアン村 VILA ITAPUÃ, MUNICÍPIO DE VIAMÃO, RIO GRANDE DO SUL
	管　理　者	リオ・グランデ・ド・スール州農務局
	入植開始年度	昭和50年度

経緯	経　緯	50年度に行われたイボチ移住地ぶどう祭りに招待した州農務長官より，上記地区で，かって州政府が造成した農地解放植民地の一部に未分譲地があるので，若し日本人農家が入植するのであれば，これを分譲してもよいとの下話があった。この情報は，いち早くPORTO ALEGRE市近郊の借地そさい農家に伝わり，入植したいとするグループが自然に出来上り，直接州との話合いで漸次入植するに至った。

自然条件	位　置	W 51°00′S 30°20′
	地　形	傾斜丘地から水平湿地となっており，この湿地区は延々と約3.5Km続いて，グワィベ川となっている。
	地質・土壌	傾斜丘地区は，全くの砂地で，降雨による表土流失がひどい，地味は最低の状態にある。 低湿地は，グワィバ河に対して湾形になった部分に，川の浮遊物が多年吹きよせられて集積されて出来たのではないかと想像される地質である。 地下水が非常に高く，溝を掘ると，そこに殆んどそのまゝ滞水するが，これは乾湿期の差，川の水位の上下とも密接な関係があるように思われる。
	植生・林相	丘地は貧弱な雑矯木林で，丁度セラードを思わせるものがある。現在殆んど切りつくされているので，ひどい侵蝕地となっている。草生はまばらな禾本科植物が主である。低湿地はカヤツリグサ，チリリカとよばれる湿生多年草が主である。
	気　候	最寄りのポルト・アレグレ市（45Km）の平均気候は次のとおりで，概ねこの数値に近いように思われるが，相対湿度がより高く，更に河面からの風が比較的弱いので，冬期にも殆んど目に映るような降霜がないのが特徴となっている。 年平均気温　19.3℃　　年降雨量　1,322㎜ 平均最高温度　24.5℃　　降雨日数　128日 平均最低温度　14.5℃

社会条件	交通	ポルト・アレグレ市より約30Kmのラミ地区まではアスファルト道路で，あとの15Kmは簡易舗装道路である。入植地より5Kmの地点からポルト・アレグレ向けバス1日数往復，ラミ地区からは30分おきにバス便がある。
	市場	ポルト・アレグレ中央卸市場
	近傍主要都市	ポルト・アレグレ市　45Km　人口　100万人　州首都 ヴィアモン市　30Km　人口　2.5万人
	医療・教育	移住地より3Kmの地点に農村小学校がある。（4年課程） その後はイタプアン町に本校がある。 中学以上は殆んどベレン・ノーボ村又はポルト・アレグレ市 医療関係は主としてポルト・アレグレ市又はベレン・ノーボ市（20Km）
	治安	地区に州のコロニア管理事務所があり，治安代行機関となっているが，これまでのところ問題は発生していない。

2　入植状況

全戸現地入植者　14戸　84人　（昭和53年7月末）

主なる出身県名	熊本	長崎	その他	合計
戸数	7	2	5	14

総面積	455 ha（但し日本人入植地区のみ 19ロッテ）
ロッテ面積	平均23.94 ha
分譲状況	満植
地権取得	据置なし，10年々賦で，土地代の完済をもって地権が与えられる。
電気・飲料水	現在電気はない。 飲料水は各自の手掘井戸であるが，水質は余りよくない。
地区内道路	州農務局のコロニア管理事務所で必要により補修しているが，砂利投入をせず地ならしだけのため，強雨時後は通行にかなり苦心している。

3　営農

主作目	近郊蔬菜園芸（特に葉野菜が中心） 何か適当な永年作目の確立が望まれるので，柑橘を高地に試作中である。
営農状況	入植が新しく経済調査を未だ行っていない。
営農指導機関	事業団支部
利用金融機関	事業団，銀行

4 組織活動

自治会	イタプアン日本人会（任意）
農協	なし。

アルゼンチン国

〔政　治〕

1610年スペインから独立し，1826年一応中央集権的な憲法が成立し「アルゼンチン共和国」の名称が決定した。その後，連邦主義派と中央集権派との争いが続き，大統領が次々と交代しパラグァイ戦争等を経て，19世紀末に政権は安定し豊富な農産物の輸出により，世界の富裕国の一つに数えられるに至った。その後1929年の世界恐慌の波を受け，軍事革命によって第二次世界大戦末期まで，地主階級による保守的政治体制が続いた。1946年第1次ペロン政権が誕生し，外国資本の排除と民族資本による自給自足体制の確立を目指し，強力に工業化を推進した。しかし，あまり急激な工業化政策，或は国有化政策はドル不足，激しいインフレをひき起した。1955年にペロンの独裁政治は幕を閉じたが，其の後の10年間に実に10回の政権交替があり，政治はいたって不安定で，したがって経済は沈滞し続けた。

かくの如き状況下で，1973年ペロンが国民の衆望を担って登場，政権の座に奇跡的にカムバックしたが，ペロン党が極右から極左まで包含する寄合世帯で内部抗争からテロ行為が続発，社会，政情不安がその極に達したゝめ，同政権の打ち出した社会主義寄りの経済外交政策と意欲的な経済開発計画はことごとく挫折した。1974年ペロン大統領は帰国後1年で死去し後継のマルチネス・ペロン夫人政権も，悪化をたどる財政・治安の建て直しを図れず，遂に1976年3月現ヴィデラ軍事政権の誕生を見るに至った。

現政権は，貿易統制を廃し，外国資本の導入を促すため外資法を改正するなど意欲的な政策を押し進めており，またテロ事件も次第に影をひそめ，加えて打ち続いたインフレも，やゝ沈静化しつゝあり，対外信用も徐々に回復するなど総じて経済，社会両面とも健全化傾向をたどりつゝある。

〔経　済〕

アルゼンチンの経済は，本来農牧業を基盤として発達してきたものであるが，第一次大戦後急速な工業化を進めたあまり，膨大な資本財と技術を必要とし，却って農牧業の停滞と輸出の減少をきたし，高賃金政策はインフレを誘発し，経済のバランスが崩され1950年代より悪化の一途を辿った。歴代の政権が苦慮してきたことは，経済成長を高めようとするとインフレが昂進し，インフレを押えようとすると経済成長が停滞するという悪循環であった。しかしながら，1976年の軍事政権誕生後，経済状態は順調に上向いており1977年には輸出総額56億ドル，輸入総額39億ドルと大幅な出超で，年度末の外貨保有高も40億ドルとその回復は著しい。主な輸出品目は小麦，食肉，羊毛，トウモロコシ，こうりゃん，皮革等で輸出総額の80％弱を占める。

（農　業）　農牧業部門のアルゼンチン国内総生産に対する寄与率は12～14％程度であり，就業人口比率も15～16％にすぎないが総輸出の80％を占める重要産業である。農牧生産の3/4はパンパ平原からのもので，この平原の生産能力は世界有数とみられているが，資本投入量の不足，労働人口の過少，経営の非効率等により，生産性は低い。主要農産物は小麦（並びにその他麦類）トウモロコシ，こうりゃん，ぶどう，牛肉等である。

林業資源は豊富で森林地帯は7000万haに及び，国際的に有名なタンニン原料に使われるケブラッチョ材は，世界第一の供給量を誇る。水産業は比較的新しい産業である。

（工鉱業）　歴史は新しいが，アルゼンチン経済に占める工業部門のウェイトは，1977年には36.5％以上に達している。近年発展の著しい部門は基礎金属，化学品，ゴム，プラスチック，金属機械部門

等である。工業の大部分は大ブェノスアイレスに集っており，生産額の70％を占める。鉱物資源量はぼう大であるのに開発状況は緒についたばかりで，国内総生産に占める比率もわずか1～2％にすぎない。中南部アンデス山脈から大陸棚にかけて巨大な油田が存在する可能性があると見られている。

〔社　会〕

南米大陸の南部の大半を占める面積279万6000平方粁，1977年の調査では人口2538万人，人口密度1平方粁8.4名で人口増加率は1.34％と少い。住民の殆どはヨーロッパ系で，スペイン系とイタリヤ系が半々であり人口の1/3がブエノスアイレス市及び周辺に集中しているのが特長である。アルゼンチンは南米に於いて最もヨーロッパ的な国で，ヨーロッパ的生活様式をそのまま移植した感がある。各種商業活動の実権がユダヤ系に握られており，その数は多い。国民の大部分が移住者の子孫で外国々籍をそのまま保持している一世も多く，国民としての自覚は確立されていないように思われる。

衛生設備はアルゼンチンの高い生活水準を反映して非常によく普及しており，病院の設備もよい。

宗教は国民の85％がカトリック教である。

教育は，初等教育7年が義務教育で中等教育5年，大学は5～6年である。文盲率はラテンアメリカ中最低で，男63％，女7.7％である。

演劇が非常に盛んな国で劇場はブエノスアイレスだけで30もある。またスポーツでは，フットボールが盛んである。

アルゼンチン国民もラテン系共通の国民性をもち，陽気である。

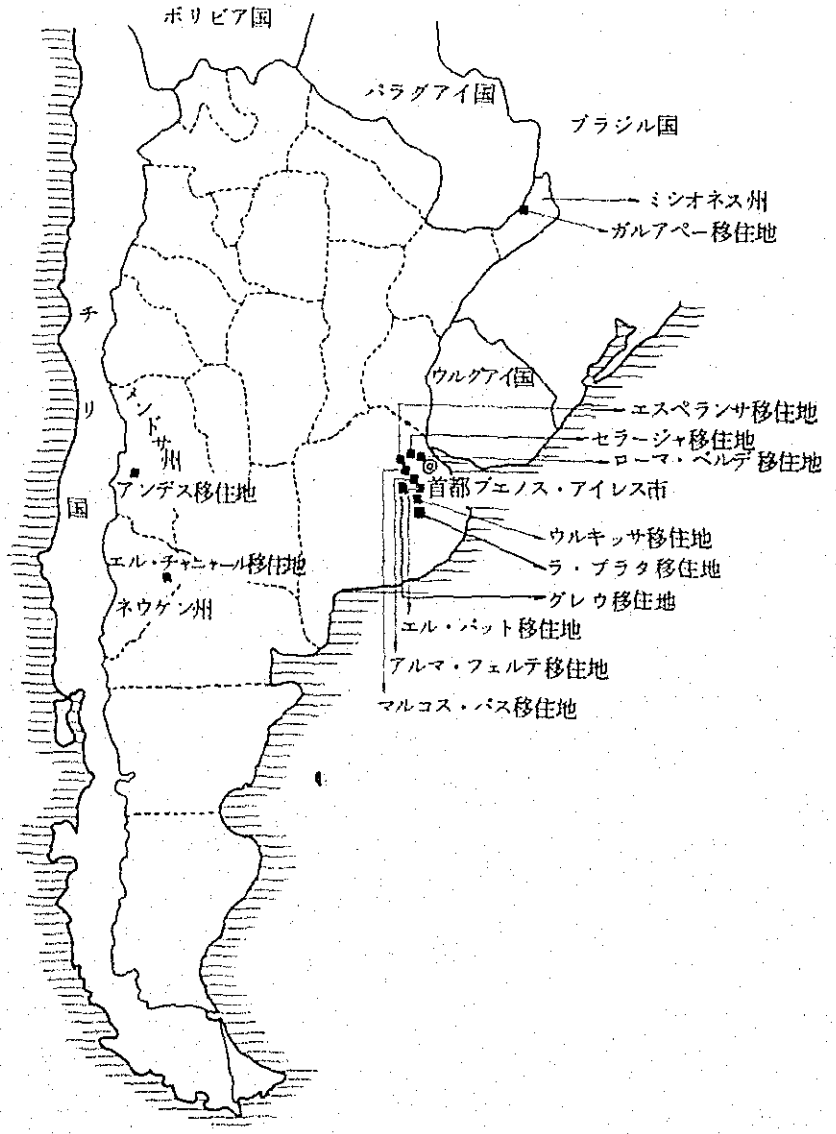
ブエノス・アイレス支部管内

支部機構

ブエノス・アイレス支部（ブエノス・アイレス市）
- ガルアペー事業所（ガルアペー移住地）
- アンデス事業所（アンデス移住地）

管　轄

アルゼンチン国全域



移住地名　ガルアペー

1 地区概要

所在地	所在地	ミシオネス州リベルタドール・ヘネラル・サン・マルティン郡 GARUHAPE, DEPARTMENTO GRAL. SAN MARTIN, PROVINCIA DE MISIONES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和34年

経緯	経緯	ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は　移住者（戦前約100世帯，戦後約80世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し，かなりの成功をおさめていたことから，亜国拓植協同組合（通称「亜拓」）が昭和30年Luis M. Garacino氏から220haの土地を購入し，家族ならびに青年呼寄の母体として，実習農場や種苗育成農場の経営をすゝめていた処，当地方の広大な土地を所有するGaracino氏は，日本人の勤勉さに目をつけ，同氏の所有土地を日本人に分譲し日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして，亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に，亜拓がアルゼンチン移民局に400家族の導入許可申請を行い，昭和32年1月11日移民局から400家族の導入許可を取得して（但し1州80家族導入を限度とする），旧日本移住振興KKが同年8月3日Garacino氏所有土地の一部3,110haを購入し，80家族の入植を目標とした移住地の造成が開始され，昭和34年5月日本から第1陣4家族が入植した。 その後，昭和40年までドミニカからの転住者12世帯を含めて84世帯が入植した。基幹作物としてとり入れた柑橘類にウイルスとみられる病害が発生したことで，相当の被害を受け退耕するものがあった。現在は温州ミカン，あるいは植林，タバコ等作目の転換を計っており，昭和49年8月25日電気も導入され安定の様相をみせつゝある。

自然条件	位置	W 54° 50′　S 26° 50′
	地形	アルトパラナ河畔にあり，河に向ってゆるく傾斜している波状陵地，標高250～300m。
	地質・土壌	母岩は玄武岩で，その風化土壌たるテーラロシアは地味良，一部砂質地あり。
	植生・林相	原生林・有用材木を含む。
	気候	雨期，乾期の別は判然としない。平均年間降雨量1,500mm。 内外最高平均気温33.3℃　最低平均気温8.5℃

	交通	ミシオネス州の州都ポサーダス市（人口約150,000人）より東北に160kmの国道12号線沿にあり，国道12号線はイグアスへの観光道路で舗装されている。

社会条件		ポサーダス市よりガルアペー間は，1日バスが数便あり所要時間約4～5時間である。
	市場	本地区の中間市場はポサーダス市，主なる市場はブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ポサーダス市人口15万，陸路160㎞，パ国エンカルナシオン市人口5万人，陸路160㎞，水路2㎞，ブエルトリコ町人口5千人，陸路24㎞。
	医療・教育	地区内に診療所があり，特約医師が週2日回診し看護婦が常駐している。急患はポサーダス市の病院に護送することになっており，移住地内には救急車1台が配属されている。小学校は州立86小学校が地区中央部にあり，中学校はブエルトリコ町にある。
	治安	ア国警察官1名が常駐し，移住地周辺の治安に当り警察屯所が1ケ所あり，事業団より警備用オートバイ1台が貸与されている。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	33	34	35	36	37	38	39	44	46	47～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	10	16	4	13	32	2	9	1	1	0	19	104	26
	人員	53	86	19	59	175	6	27	6	3	0	60	494	113

（注）(1) 37年ドミニカ転住者12家族72名を含む。　　昭和53年3月末

(2) 現地入植者には辻企業（3社）を1戸として管理人1名。

(3) 退耕者ロッテ購入入植1戸を加え計上した。

(4) 分家完全独立1戸6名を加え計上した。

退耕者の主なる転住先	ブエノス・アイレス州	ミシオネス州	他州	その他	帰国
率（%）	71	20	3	0	6

主なる出身県名	北海道	熊本	広島	東京	長野		その他	合計
戸数	7	5	4	3	3		4	26

総面積	3,110 ha			
ロッテ面積	30 ha内外			
分譲条件および価格	一括払 521,600円 分割払　頭金52千円　4年据置5年分割払　利息19% 2,929 ha			
分譲可能面積				
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	2,752 ha	177 ha	181 ha	0

地権取得	91ロッテ中取得32ロッテ　申請中36ロッテ　未申請23ロッテ
電気：飲料水	昭和49年8月25日電化された（220ボルト）
	飲料水は素掘井戸14～15mの深さで，極めて良質の水を得ることが出来る。
地区内道路	幹線は土道である。
主なる事業団援護施設	小学校1，教員宿舎1，診療所1，警察屯所1
車輌	救急車1
組合・所有施設	組合事務所兼倉庫1
電気組合	配電施設（配線距離　高圧20km　中圧40km）

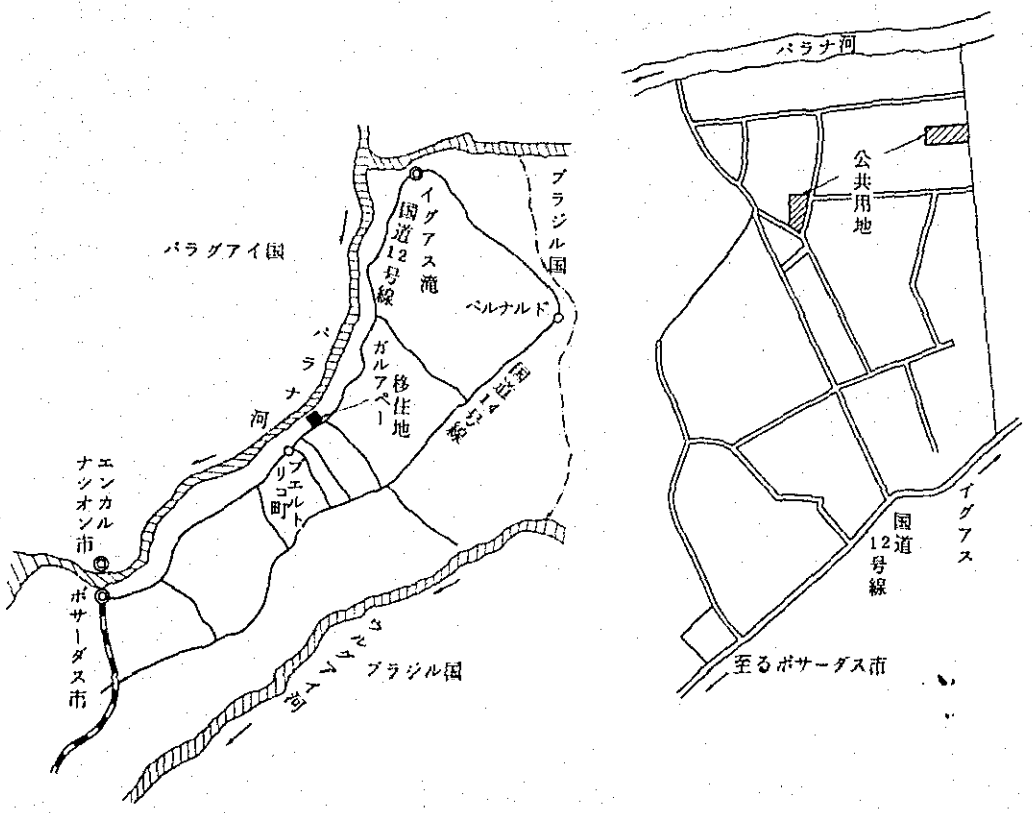
3 営農

主作目	植林，柑橘，タバコ，植林用苗木，油桐
営農状況	柑橘および短期作のタバコが移住地の基幹作物となっているが，営農のより一層の安定を図るため，一部農家では大豆を栽培，さらに植林が営農に組入れられつつある。
農機具等普及状況	トラック0.5台，乗用車0.4台，トラクター0.7台，スプリンクラー0.1台，チェンソー1.3台，揚水ポンプ0.6台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，同支部ガルアペー事業所
	協力機関として，農政庁外部団体のINTA（国立農業技術院）
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	ガルアペー農協を通じ，主にブエノス市であるが，ポサーダス市にも出荷されている。
農家所得（一戸当り平均昭和52年度）	1,540千円（2,013千ペソ）

4 組織活動

自治会	昭和42年から「ガルアペー日本人会」を結成している。
	活動は学校，治安，道路維持の外，会員相互の親睦を計っている。
農協	組合員数20名の「ガルアペー農協」（法定）がある。
電気組合	組合数26名（法定）

5 地 区 略 図



移住地名 ア ン デ ス

1 地 区 概 要

所在地	所 在 地	メンドサ州サンラフェル郡 ANDES, DEPARTAMENTO DE SAN RAFAEL, PROVINCIA MENDOZA
	管 理 者	事業団
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経 緯	アンデス移住地は，ガルアペー移住地に次いで集団移住地として，旧日本海外移住

経緯	経緯	振興K.K.が，昭和34年5月，メンドサ州アトエルスード地区に1,312 *ha*の土地を購入し，亜拓が取得した日本人移住者導入許可条件（1州80家族を限度とする）に基づき，80家族の導入を計るべく設定されたものである。 同移住地一帯は年間雨量250～300 *mm*の半乾燥地帯で，アトエル川から灌漑用水を取り入れ灌漑を行っている典型的な灌漑農業地帯で，ぶどうを主体とし，アルゼンチンにおけるぶどう酒の主産地である。 昭和35年現地入植を皮切りに，昭和38年北米カリフォルニアで，派米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し，併せて昭和41年までに27家族が入植，うち4家族が退耕したが比較的安定率の高い移住地である。 当移住地は気象災害が頻発し，特に霜害，雹害が初期の営農を大きく阻害して来たが，最近ぶどう収穫量の増加と共に災害防除対策への関心も高まり，こゝ数年で飛躍の期待される移住地である。

自然条件	位置	W 67° 50′　S 34° 50′
	地形	標高600 *m*，所々に起伏があるが概して東南に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。
	地質・土壌	埴質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子，頗る細かく粘土分も含まれているが，その含有率は所により異る。弱アルカリ性土壌でPHは7.5～8.0位。
	植生・林相	耐乾性の強い約40～70 *cm*位の灌木類が密生しており，巨木はない。
	気候	1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃，最も寒いのは7.9℃となっている。7～8月頃に1～2回雪の降ることがある。平均年間降雨量280 *mm*。

社会条件	交通	本地区は首都ブエノス・アイレス市より西方880 *km*，州都メンドサ市より南々東330 *km*にある。ヘネラル・アルベアル市より西方14 *km*の地点にあり，ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・ブラッツ町（この間7 *km*は未舗装）レアル・デル・パードレ町サン・ラファエル市に至る道路は舗装されている。 又，ブエノス・アイレス市，メンドサ市に至る鉄道もヘネラル・アルベアル市を起点として通じており，交通便至便である。 なお，メンドサ市へは毎日2回のバス便（所要時間約5時間半）があり，ブエノス・アイレス市へは汽車便（週2回）もあるが，1日2往復（所要時間約15時間）の長距離バスが運行している。 航空便は，サン・ラファエル市まで週3便，所要時間約4時間である。サン・ラファエル市からヘネラル・アルベアル市まで，毎日3回のバス便（所要時間約2時間半）が運行されている。
	市場	本地区の所在するサン・ラファエル郡およびヘネラル・アルベアル郡には，ブドウ酒醸造場が約100，缶詰および乾果工場が約70あり，その加工能力は非常に大きく全国を市場としている。なお，ぶどうの濃縮ジュース（モスト）ぶどう酒は，最近

社会条件	市場	日本向け輸出も行われつつある。 生果は近傍都市で消費される外，貨車およびトラックにてブエノス・アイレス市，コールドバ市方面へ出荷される。
	近傍主要都市	ハイメ・ブラッツ町人口7千，陸路7km，ヘネラル・アルベアル市人口4万，陸路14km，レアル・デル・パドレ町人口5千，陸路25km，メンドサ市人口30万，陸路330km，ブエノス・アイレス市人口3百万，陸路880km。
	医療・教育	医療は事業団特約医がヘネラル・アルベアール市にいて診療にあたっている。病院はハイメ・ブラッツ町，ヘネラル・アルベアル市に総合病院がある外，ヘネラル・アルベアル市には十数軒の開業医院がある。 小学校は移住地入口より2kmにあり，生徒は自転車または徒歩で通学している。なお，ヘネラル・アルベアル市には中学校，商業学校，農業専門学校，看護婦養成学校等がある。
	治安	治安状態は概ね良好，移住地より7km地点のハイメ・ブラッツ町に駐在所があり警察官が常駐している。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	38	39	40	41	42～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	1	14	1	1	0	12	29	18
	人員	5	60	4	5	0	48	122	80

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	メンドサ近郊	ブエノス・アイレス近郊	帰国	その他
率（%）	30	40	20	10

主なる出身県名	香川	佐賀	鹿児島	兵庫	岡山	熊本		その他	合計
戸数	4	3	2	3	2	2		2	18

総面積	1,312ha			
ロッテ面積	10ha（標準ロッテ）			
分譲条件および価格	一括払 120万円 分割払　頭金12万円4年据置5年分割利息19%			
分譲可能面積	1,240ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	542 ha	698 ha	72 ha	0
地権取得	55ロッテ中取得0ロッテ，申請中4ロッテ，未申請51ロッテ			

電気：飲料水	昭和42年に全戸電化されている。家庭用単相交流220 Vを使用。 飲料水は，用水路に流れる灌漑水を地下水槽に貯水して利用している。 天水の利用も可能であり一部利用されている。
地区内道路	幹線は土道である。
主なる事業団援護施設	宿泊所1，深井戸4
車輌	トラック2台，オートバイ1台，給水タンク車1台
組合等所有施設	な　し

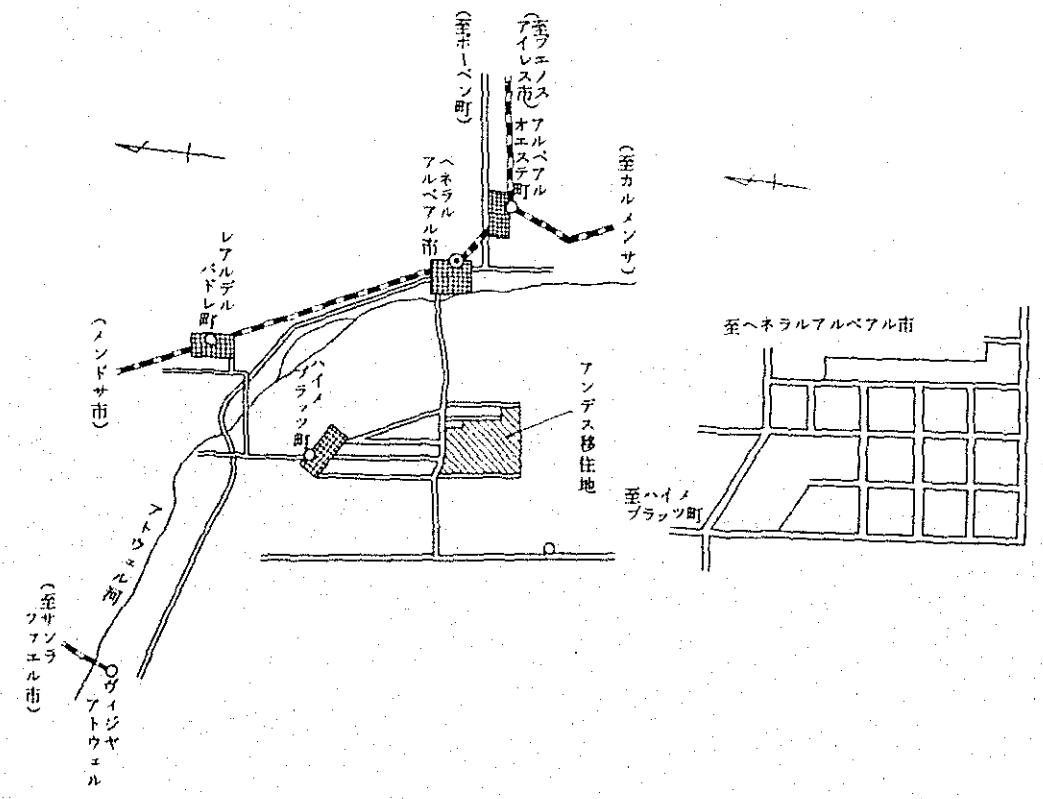
3 営　　農

主作目	ブドウ，アルファルファ，桃，アンズ，スモモ，トマト，イチゴ
営農状況	永年作のブドウが営農の基幹をなし，これにより安定した収益をあげている。さらに半数近くの農家が，トマト，アルファルファ（乾草），イチゴをも栽培しており，一部カンピョウ，メロンの栽培もみられ，冬作として切干大根も有利な作目となっている。 なお，乾燥地帯であることからアルファルファ種子の採取も良く，また冬期の低温のイチゴ苗の育成に適し早出しイチゴ苗の需要が高まりつつある。
農機具等の普及状況	トラクター0.6台，トラック0.4台，動力噴霧機0.8台，乗用車0.4台， （昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブェノス・アイレス支部，同支部アンデス事業所。 協力機関として国立農業技術院（INTA）
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	○ぶどう「日の出ぶどう醸造協同組合」 サンラファエル市，ヘネラル・アルベアール市，ハイメ・プラッツ町各醸造所の外，半官半民のGIOL醸造所と取引されている。 ○トマト レアル・デ・パドレ町，ヘネラル・アルベアル市の生果加工場と取引きされている。 ○桃，アンズ，スモモ 近傍乾果工場と取引きされている。 ○カンピョウ，切干大根 「亜拓」その他ブェノス・アイレス邦人対象でかなりの需要がある。
農家取得（一戸当り平均）（昭和52年度）	860千円（1,125千ペソ）

4 組織活動

自治会	昭和49年アンデス協会が設立され，日語学校の運営，親睦等を目的として活動している外，先輩移住者を含む南部メンドサ日本人会が，古くから結成されていて，会員相互の親睦と共に，アンゼルチン中央日会に加入して当地方邦人の代表機関となっている。
農協	昭和39年5月「コロニアアンデス農業協同組合」（任意）を結成。現在は「日の出ぶどう醸造協同組合」（法定）と改称し，亜国系サン・ラファエル農協の傘下に入り，ブドウの集荷販売を主な事業としている。組合員数12名。また全員「アンデス移住地水利組合」に加入し水利の維持をはかっている。

5 地図略図



移住地名　エスペランサ

1　地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡 LUGAR MORENO, PARTIDO MORENO, Pcia. BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経緯	戦後移住した花卉青年等を対象に，その独立援護の一環として10～15戸（小移住地）の独立用地を事業団が概ねブエノス・アイレス市近郊50㎞内外に一括購入して，雇用契約満了后の青年に予約分譲方式によって分筆分譲して来たものである。 独立用地は，当事業団ならびに独立希望者，亜拓の協力を得て選定を行い，現在までに9カ所の小移住地を設定している。 当移住地は，その第1番目の小移住地である。

自然条件	位置	W 38° 45′　S 34° 50′
	地形	全体として南東に向ってゆるやかな傾斜をなす。 平坦地，標高29～30㎞
	地質：土壌	幾分粘土性のある黒色土，表土の深さ35～50㎝， 排水性良好，地力がありカーネーション栽培に良。 地味は極めて肥沃である。
	植生：林相	牧草原野の一部で，樹木の自然植生は殆ど見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温22.4℃。6～7月が最も寒い，最低平均気温9.5℃。 平均年間降雨量850㎜。

社会条件	交通	国道197号線（舗装道路）を30分毎にバスが運行しており，ホセ・セ・パス，モレーノに通じている。 ホセ・セ・パス，モレーノからブエノス・アイレスまで郊外鉄道線が通じている。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス市（首都）人口800万人，陸路50㎞，ホセ・セ・パス市人口11万，陸路15㎞，モレーノ市人口12万，陸路12㎞。
	医療・教育	医療は近郊のホセ・セ・パス市，モレーノ市の病院，又は個人開業医院がある。 小学校は移住地より1.5㎞に州立小学校がある。隣接地区入植の邦人子弟の中には，ホセ・セ・パスの小学校にバス通学している者が多い。

	治　　安	治安状態は良好。

2　入　植　状　況

全戸現地入植者，12戸49人，この外アンディーノ産組（法人）が1ロッテ購入し，バラ栽培を行っている。

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブエノス・アイレス近郊
率　（%）	100

主なる出身県名	東　京	長　野	神奈川	富　山	その他	合　計
戸　数	2	2	2	2	4	12

総　面　積	37 ha			
ロッテ面積	1.9 ha			
分譲条件および価格	一括払 1,135 千円 分割払頭金 113,500 円，4年据置，5年分割払利息 19 %			
分譲可能面積	35 ha			
分　譲　状　況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除　地
	35 ha	0 ha	2 ha	0
地　権　取　得	18ロッテ中取得4ロッテ，未申請14ロッテ			
電気：飲料水	電化実施中， 飲料水は深井戸 60 m前後で，良質水を豊富に得られる。			
地区内道路	土道である。			
主なる施設車輌	な　し			

3　営　　農

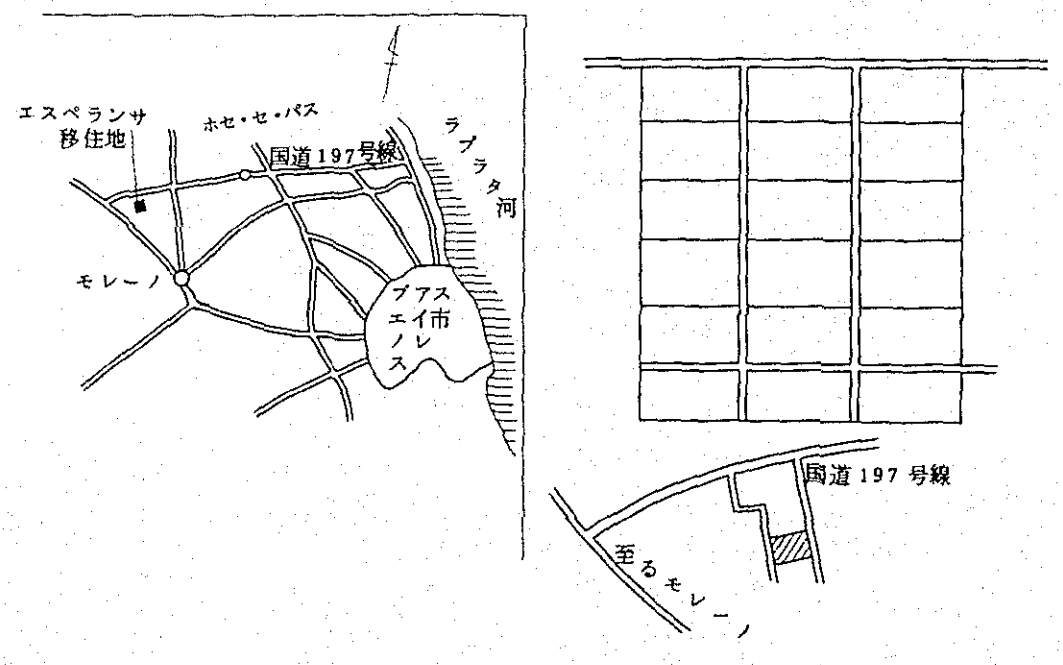
主　作　目	花卉，主としてカーネーション，バラ，イチゴ
営　農　状　況	カーネーション，バラの切花を主体とし，最近ではイチゴの温室内栽培を併せ行う者，菊の電照栽培を取入れる者も出てきている。
農機具等の普及状況	トラック 0.4 台，乗用車 0.6 台，耕耘機 0.7 台，動力噴霧機 0.8 台，発電機 1.0 台，農用冷暖房装置 4.0 台，エンジン 1.0 台，温室 2,133 m^2（昭和52年度調べ 農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関として INTA Jose C. Paz 出張所。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合，ブエノス・アイレス市

農家所得（一戸当り平均）昭和52年度	1,966千円（2,571千ペソ）

4 組織活動

自治会	なし
農協	近傍の「ニッパル花卉組合」（法定）に加入している。

5 地区略図



移住地名　アルマ・フェルテ

1 地区概要

所在地	ブエノス・アイレス州サンビセンテ郡 CUARTEL 8°—GLEW, PARTIDO SAN VICENTE, Pcia. DE BUENOS

所在地		AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照。独立用地の第2号移住地である。

自然条件	位置	W 58° 35′ S 34° 45′
	地形	全体に西に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高27～30 m。
	地質・土壌	表土は粘土性ある黒色土で，有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40 cmあり，花卉栽培に適している。
	植生・林相	牧草原野，自然生育の樹木はない。
	気候	乾期雨期の区分が明確でない。1～2月頃が最も暑く，最高平均気温28.4℃。6～7月が最も寒く，最低平均気温6.0℃。平均年間降雨量890 mm。

社会条件	交通	ブエノス・アイレス市からグレウまでは鉄道，バスが頻繁に往復している至便。グレウ駅からは本地区より200 mの地点まで，バスが10分おきに往復しており道路は舗装されている。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス市人口300万人，陸路35 km，グレウ市陸路3 km
	医療・教育	本地区より約3 kmでグレウの市街中心地に達するので，その途中に小学校，診療所があり利用できる。
	治安	治安状態は良好。

2 入植状況

全戸現地入植者，15戸65人（昭和53年3月末）

退耕者 なし

主なる出身県名	神奈川	その他	合計
戸数	2	13	15

総面積	38 ha
ロッテ面積	2.6 ha
分譲条件および価格	一括払120万円，分割払 頭金12万円，4年据置5年分割，利息19％
分譲状況	分譲済面積 38 ha　全区画分譲済
地権取得	15ロッテ中取得7ロッテ，未申請8ロッテ
電気：飲料水	電化完了

	飲料水は深井戸 60 m程度，掘削すると良質の水が得られる。
地区内道路	土道である。
主なる事業団援護	
施設	なし
車輌	なし
その他	なし

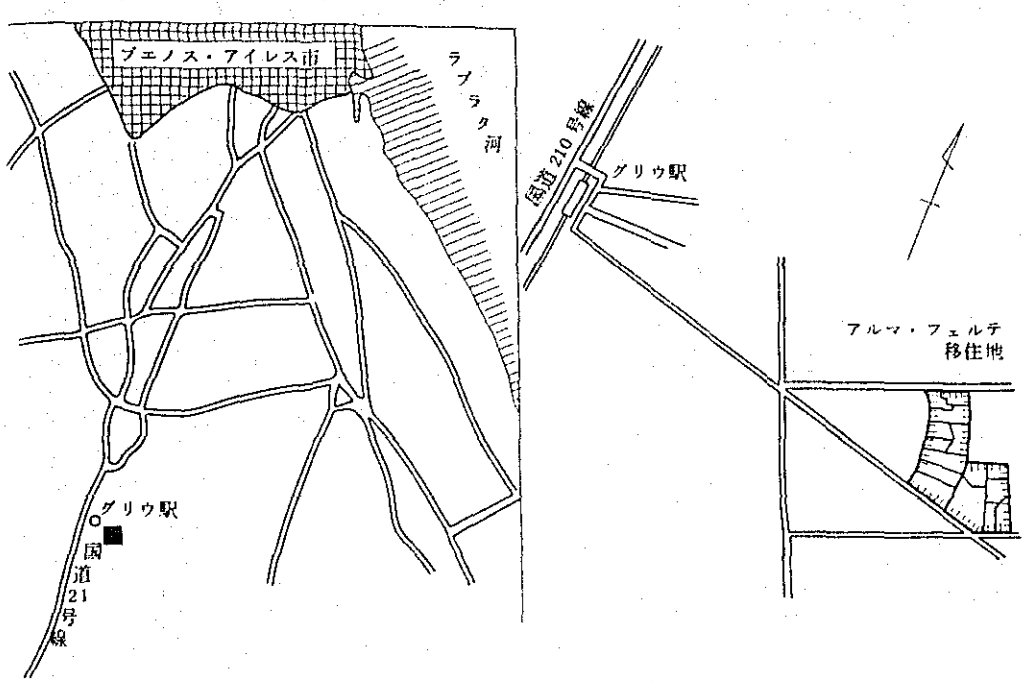
3 営農

主作目	花卉（カーネーション，バラ），イチゴ
営農状況	花卉（カーネーション，バラ，菊）の栽培を主体に，イチゴ栽培を併せ行っている者もあり，営農は順調である。
農機具等の普及状況	トラック 0.3 台，乗用者 0.2 台，トラクター 0.6 台，発電機 0.4 台，動力噴務機 0.8 台，エンジン 1.0 台，温室 3,115 ㎡（昭和 52 年度調べ 一戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関として INTA Florencia Varela 出張所。
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農家所得（一戸当り平均）昭和 52 年度	1,592 千円（2,080 千ペソ）

4 組織活動

自治会	組織だったものはない。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農協	なし

5 地 区 略 図



移住地名　ロ ー マ ・ ベ ル デ

1 地 区 概 要

所在地	所　在　地	ブエノス・アイレス州エスコバール郡 COLONIA LOMA VERDE, DEPARTAMENTO BELEN DE ESCOBAR, Pcia. DE BUENOS AIRES
	管　理　者	事 業 団
	入植開始年度	昭和44年

経緯	経　　緯	エスペランサ移住地を参照，独立用地の第3号移住地である。

自然条件	位　　置	W 58°43′　S 34°21′
	地　　形	平坦地で標高約30 m程度，ゆるやかな傾斜が西に流れている。
	地質・土壌	沖積土地帯であり，表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均40 cm程度で花卉栽培に適している。

自然条件	植生・林相	牧草原野
	気候	乾期雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑く，最高平均気温 29.8℃。6～7月が最も寒く，最低平均気温 3.9℃。年間平均気温 15.9℃。平均年間降雨量 855㎜

社会条件	交通	ブエノス・アイレス市より陸路 56 ㎞である。道路は舗装されており，交通至便。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス市，人口 300 万人，陸路 56 ㎞，エスコバール市より 8 ㎞（国道 9 号線）
	医療・教育	移住地より 8 ㎞でエスコバール市の中心に達するので，市内の小学校，中学校，病院等を利用出来る。
	治安	治安状態は良好

2 入植状況

全戸現地入植者 13 戸 67 人（昭和 53 年 9 月末）

主なる出身県名	東京	青森	神奈川	その他	合計
戸数	2	2	2	7	13

総面積	42 ha
ロッテ面積	2.8 ha
分譲条件および価格	一括払　1,684,500 円 分割払　頭金 168,450 円，4 年据置 5 年分割，利息 19 %
分譲状況	分譲済面積：41 ha 道路市街地等利用地：1 ha 全区分譲済
地権取得	15 ロッテ中取得 6 ロッテ，申請中 1 ロッテ，未申請 8 ロッテ
電気・飲料水	昭和 49 年度に地区内の電化が完成，ブエノス・アイレス州電力局より配電をうけている。 飲料水は深井戸 60 m程度を掘削すると良質の水が得られる。
地区内道路	土道である。
主なる施設・車輌	なし

3 営農

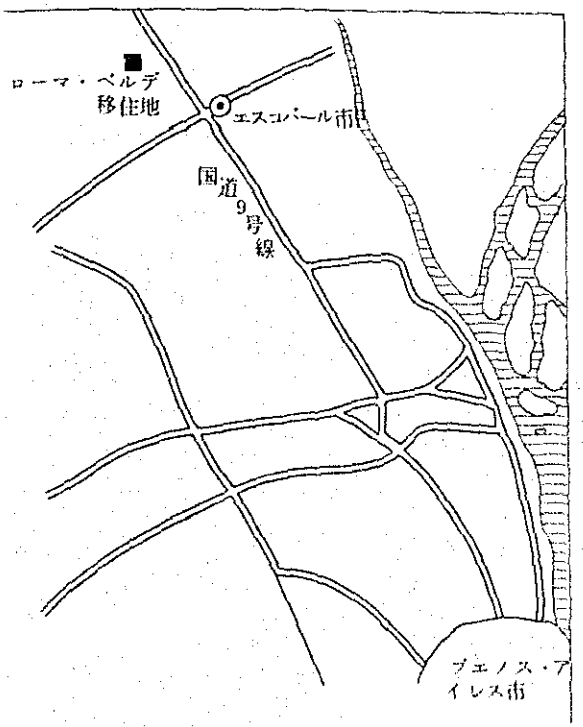
主作目	花卉，養豚
営農状況	バラを主体にカーネーション，イチゴを栽培。
農機具等の普及状況	トラック 0.5 台，乗用車 0.8 台，動噴 1.6 台，耕耘機 0.7 台，揚水ポンプ 1.3 台，

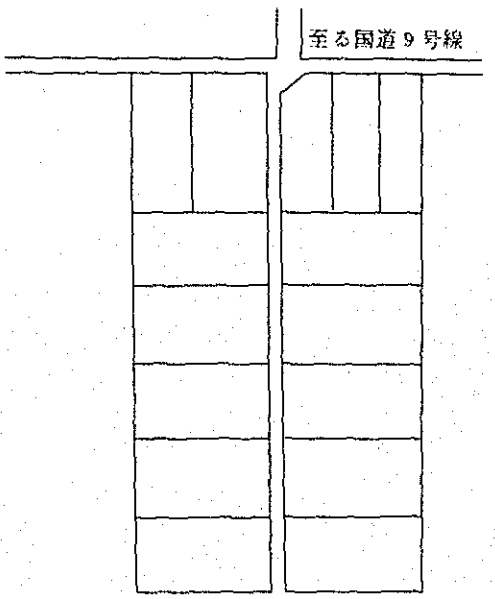
	エンジン1.1台，温室3,390 m²（昭和52年度調べ1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関としてINTA Delta 試験場
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農家所得（1戸当り平均）昭和52年度	2,707千円（3,537千ペソ）

4 組織活動

自治会	組織だったものはない。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農協	なし

5 地区略図





移住地名　マルコス・パス

1　地　区　概　要

所在地	所　在　地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 Km. 49, RUTA No. 200, MARCOS PAZ, Pcia. BUENOS AIRES
	管　理　者	事　業　団
	入植開始年度	昭和45年

経緯	経　　緯	エスペランサ移住地を参照，独立用地の第4号移住地である。

自然条件	位　　置	W 58° 51′　S 34° 53′
	地　　形	東西に約1270 m南北に約1.240 mの地形で，ゆるやかな傾斜が西より東に流れている。標高平均30 m。
	地質・土壌	沖積土地帯であり，表土は黒色の砂壌土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約30 cmであるが，それ以下50 cm程度まで褐色砂壌土であり，花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植生は1本も見られない。
	気　　候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温30.1℃，6～7月頃が最も寒い，最低平均気温4.5℃，平均年間雨量938 mm

社会条件	交　　通	移住地よりマルコス・パス市まで約2.5 kmで，ブエノス・アイレス市とマルコス・パス市間は国鉄およびバス便があり，所要時間は国鉄は約1時間20分，バス約40分，交通至便。
	市　　場	大半がブエノス・アイレス市人口300万人，陸路45 km，マルコス・パス市人口2.5万人
	医療・教育	マルコス・パス市に小学校13校，中学校2校がある。 病院は慈善病院1院，個人病院4院がある。
	治　　安	治安状態は良好

2　入　植　状　況

全戸現地入植者14戸49人（昭和53年3月末）

退耕者　な　し

主なる出身県名	東京	香川	沖縄	千葉	その他	合計
戸数	2	2	2	2	6	14

総面積	40 ha
ロッテ面積	2.9 ha
分譲条件および価格	一括払　150万円 分割払　頭金15万円，4年据置5年分割，利息19％
分譲状況	分譲済面積 40 ha　全区分譲済
地権取得	14ロッテ中取得7ロッテ，未申請7ロッテ
電気・飲料水	昭和48年7月に電化された。飲料水は約50 m程度掘削すると良質の水が得られる。
地区内道路	土道である。
主なる施設車輌	なし

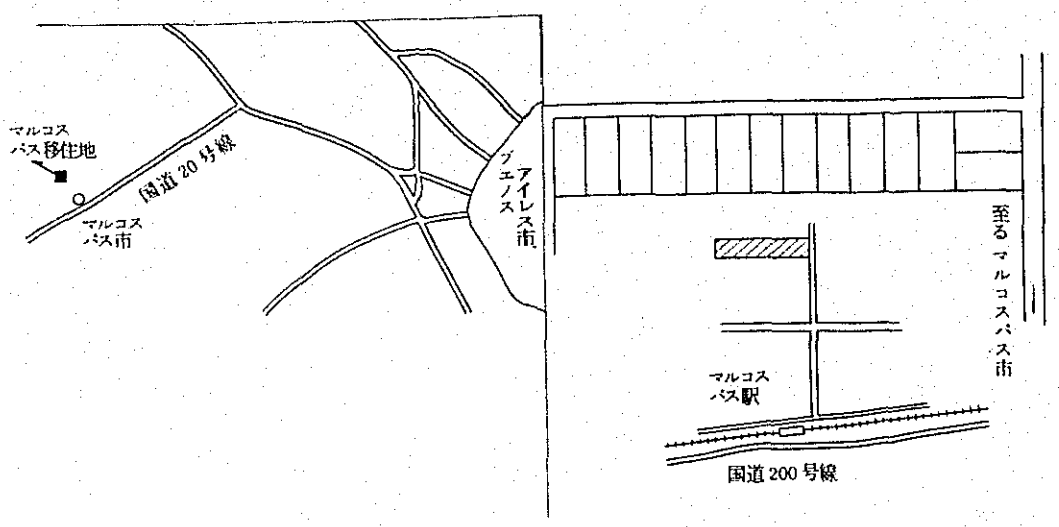
3 営農

主作目	花卉，養蜂
営農状況	カーネーションを主体として営農を行っており，バラ，電照菊の栽培を取入れつつある外一部養蜂もみられる。
農機具等の普及状況	トラクター0.6台，耕耘機0.6台，動噴0.9台，トラック0.5台，温室2,337 ㎡ （昭和52年度調べ一戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農家所得（一戸当り平均）昭和52年度	2,669千円（3,488千ペソ）

4 組織活動

自治会	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農協	なし

5 地 区 略 図



移住地名　エル・パット

1 地 区 概 要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 Km. 41, RUTA NACIONAL, PARTIDO DE BERAZATEGUI, Pcia. DE BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和46年

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照 独立用地の第5号移住地である。

自然条件	位置	W 58°12′　S 34°55′
	地形	全体的にみて，やや波状形の平坦地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。 標高平均 28 m。
	地質・土壌	沖積土地帯であり，表土は若干粘土性のある黒色腐土で，有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均 40 cm，50 cm以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。

自然条件	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温 28.4℃ 6～7月頃が最も寒い，最低平均気温 6.0℃ 平均年間降雨量 893 mm

社会条件	交通	移住地より東方約 1.5 kmの地点には，国道2号線（ブエノス・アイレス～マルデルプラタ）が通っており，両市間ならびにブエノス～ラ・プラタ市間を往復するバスの外南部各都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 国道 41 kmの地点にバス停留所があり，これより北方 5 kmのところにエル・パット駅がある。 バス・鉄道何れによっても，ブエノス・アイレス市までの所要時間は，約1時間程度である。
	市場	大半がブエノス・アイレス市。
	近傍主要都市	エル・パット町陸路 5 km，メルチョール・ロメロ町陸路 17 km，アバスト町陸路 17 km，ラ・プラタ市（州首都）人口 50 万陸路 29 km。 ブエノス・アイレス市人口 300 万人，陸路 41 km。
	医療・教育	移住地より北東にあるエル・パット町に，小学校・診療所がある。
	治安	治安状態は良好，エル・パット町に警察駐在所がある。

2 入植状況

全戸現地入植者 13 戸 64 人（昭和 53 年 3 月末）

退耕者 なし

主なる出身県名	福岡	その他	合計
戸数	3	10	13

総面積	37 ha		
ロッテ面積	2.6 ha		
分譲条件および価格	一括払 162 万円 分割払 頭金 16.2 万円，4年据置 5年分割，利息 19 %		
分譲状況	分譲済面積	道路市街地等利用地	全区分譲済
	34 ha	3 ha	
地権取得	13 ロッテ中取得 5 ロッテ，未申請 8 ロッテ		
地区内道路	土道である。		

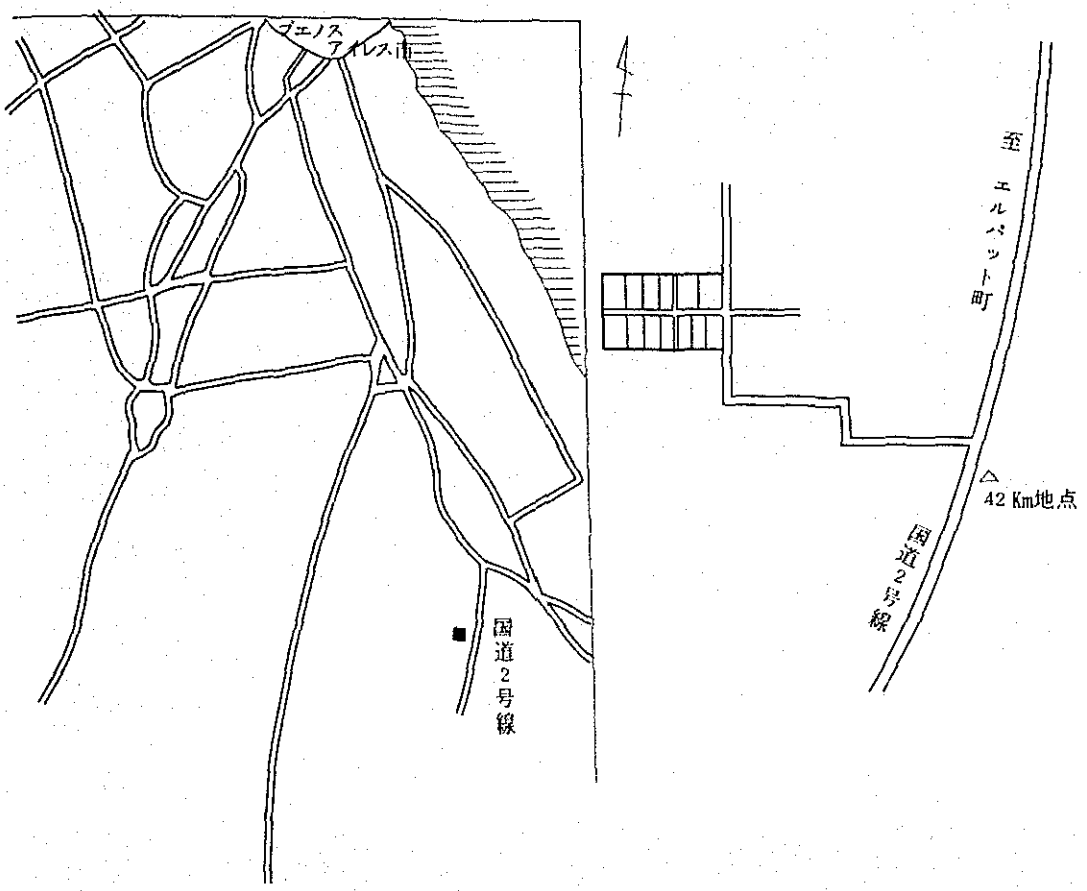
3 営　　農

主作目	花卉，カーネーション
営農状況	カーネーションを主体とした花卉栽培中心の小移住地に比し，営農規模がやや小さいが順調な営農の進展を続けている。
農機具等の普及状況	トラクター0.3台，耕耘機0.3台，動噴1.3台，トラック0.5台，乗用車0.6台，揚水ポンプ1.0台，エンジン0.8台，温室2,940㎡（昭和52年度調べ一戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関としてINTA Florencio Varela出張所
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市，ラ・プラタ市
農家所得（一戸当り平均）昭和52年度	2,654千円（3,467千ペソ）

4 組織活動

自治会	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農協	なし

5 地 図 略 図



移住地名 セ ラ ー ジ ャ

1 地 区 概 要

所在地	所 在 地	ブエノス・アイレス州ピラール郡 BARRIO ZELAYA, PARTIDO DE PILAR, Peia. DE BUENOS AIRES
	資 理 者	事 業 団
	入植開始年度	昭和47年

経線	経 線	エスペランサ移住地を参照，独立用地の第6号移住地である。

自然条件	位置	W 58°52′　S 34°19′
	地形	全体にやや平坦な地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	沖積土地帯で，表土は若干粘土性のある黒色壌土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは 18～28 cmで下層は黒色粘土層である。
	植生・林相	一部に（0.2～0.3 ha）ユーカリの植木があり，放牧中の牛の日除けに利用されている外は全面原生草地である。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温 29.8℃ 6～7月頃が最も寒い，最低平均気温 8.9℃ 平均年間降雨量 855 m。

社会条件	交通	移住地は国道 8 号線と 9 号線の中間地点にあり，東方約 4 kmには州道 25 号線（ピラール市，エスコバール市）が通っており，両市を往復するバスの外ピラール市，エスコバール市地点では，南北都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 ブエノス・アイレスおよびペルガミーノ市を結ぶ鉄道が，移住地の北方を通っており，700 m北方にセラージャ駅がある。 バス・鉄道何れによってもブエノス・アイレス市までの所要時間は，約 1 時間30分程度である。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	セラージャ町人口 4,000 人，陸路 700 m，エスコバール市人口 5 万人，陸路 7 km，ピラール市人口 52,000 人，陸路 10 km，ブエノス・アイレス市人口 300 万人，陸路 52 km
	医療・教育	移住地より北方 700 mにセラージャ町があり，小学校・診療所がある。
	治安	治安状態は良好，セラージャ町に警察駐在所がある。

2　入植状況

全戸現地入植者 11戸 39人（昭和 53年 3月末）

退耕者　なし

主なる出身県名	北海道	福島	その他	合計
戸数	2	2	7	11

総面積	30 ha
ロッテ面積	2.7 ha
分譲条件および価格	一括払　1,444,500円 分割払　頭金 144,450円，4年据置 5年分割，利息 19 %
分譲状況	分譲済面積 30 ha　全区分譲済

地権取得	11ロッテ中取得4ロッテ，申請中1ロッテ，未申請6ロッテ
地区内道路	土道である。
主なる事業団	
援護施設	なし
車輌	なし
組合等所有	
施設	なし
その他	なし

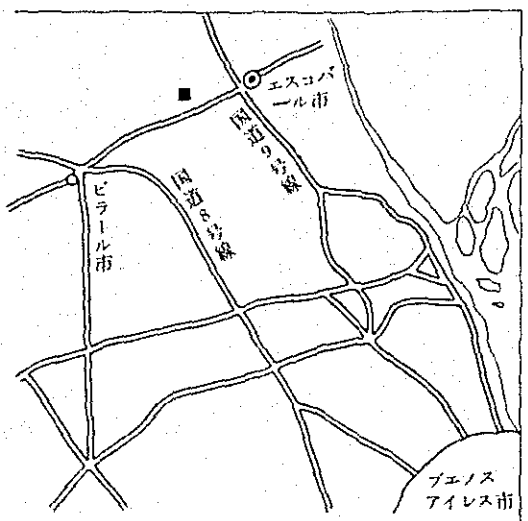
3 営農

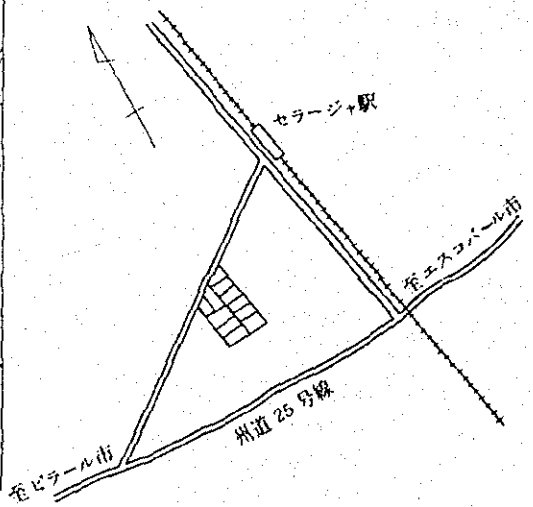
主作目	花卉（カーネーション，バラ）
営農状況	カーネーション・バラを主体とした花卉栽培で，入植の日も浅く営農規模も小さいが，営農は順調な進展を続けている。
農機具等の普及状況	耕耘機0.5台，動噴0.9台，トラック0.3台，乗用車0.6台，エンジン0.9台，揚水ポンプ1.0台，温室2,162㎡（昭和52年度調べ一戸当り平均）
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関としてINTA Delta試験場
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,210千円（2,888千ペソ）

4 組織活動

自治会	組織だったものは無く邦人のグループとして交流親睦を行なっているのみである。
農協	なし

5 地 区 略 図





移住地名　エル・チャニヤール

1 地 区 概 要

所在地	所在地	ネウケン州アニエロ郡 PROVINCIA DEL NEUQUEN DERARTAMENTO AÑELO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和48年

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照。独立用地の第7号移住地である。今日迄の小移住地設定については，花卉市場の将来性に対する懸念あるいは花卉栽培のみならず果樹栽培への希望者もあって，エル・チャニヤール移住地は，ブエノス・アイレス近郊から離れてネウケン州にリンゴを中心とした果樹栽培移住地を設定した。

自然条件	地形	ネウケン河．河床地帯にて耕作可能．河岩市（河の北岸）約4.5 km台地の距離約30 kmの平坦地であり，標高約280 mである。
	地質・土壌	リオ・ネウケンの沖積土壌であり，砂質植壌土ないしは砂質壌土とみられる。色状は灰褐色を示し，垂直分布は約2～3 mであり下方は礫質である。 但し河岸に近いロッテ中には礫の混合している処もある。

自然条件	植生・林相	ハリーヤ，ピーキリン，チャニヤール，サンパア等乾燥地特有の灌木が見られる。 高さ1m程度，又植林以外は自然発生の森林はない。
	気候	1～2月が最も暑い，最高平均気温22.5℃ 6～7月が最も寒い，最低平均気温6.9℃ 平均年間降雨量209mm

社会条件	交通	移住地より約3km地点にビジャ・マンサアノ町があり，移住地より約40kmにネウケン市がある（ビジア・マンサアノ町～ネウケン市）。バスが頻繁に往復しており，所要時間約1時間，ネウケン市より各都市を結ぶ長距離バス，および国鉄が運行している。交通至便。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス人口300万人，陸路1,196km，ネウケン市人口2万人，陸路40km，シポレエティ市人口2万人，陸路46km
	医療・教育	ビジャ・マンサアノ町に小学校と中学校がある。 高等学校，大学校はネウケン市にある。 医療は，簡単な医療施設がビジャ・マンサアノ町にあるが重症患者はネウケン市の病院に行かねばならない。
	治安	治安状態は良好である。

2 入植状況

全戸現地入植者3戸13人（昭和53年3月末）

総面積	76 ha
ロッテ面積	10.9 ha
分譲条件および価格	一括払　416.3万円 分割払　頭金416,300円，4年据置5年分割，利息19％
分譲状況	分譲済面積　　全区分譲済 76 ha
地権取得	7ロッテ中申請中2ロッテ，未申請5ロッテ
電気・飲料水	電化完了 220 V　50サイクル　3相交流である。 飲料水は約10m程度掘削すると水が得られる。
地区内道路	移住地内は砂利道である。
主なる施設車輌	なし

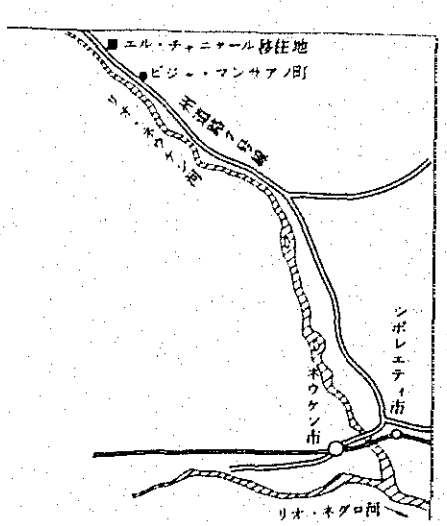
3 営　　農

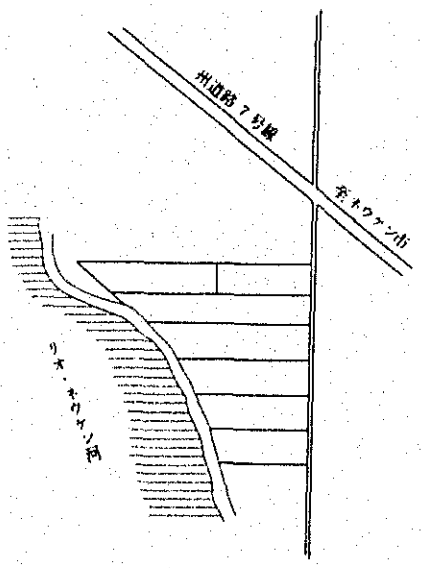
主　作　目	リンゴ，ナシ，アルファルファ
営農状況	リンゴ栽培を主体とした営農を行なっている。 入植後日も浅く，3戸の入植者を除き6戸が未だブエノス・アイレス近郊にて花卉栽培を続けながら，現地に管理人をおき営農を行なう形態を取っている。 リンゴ，アルファルファの生育は順調である。
農機具等の普及状況	トラクター5台，動噴7台，大型トラック3台，小型トラック4台 （注）　ブエノス・アイレス近郊花卉，蔬菜園にて使用中のものを含む。
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部，協力機関として El Chañar 移住地管理事務所。
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	リンゴ出荷組合
農家所得（一戸当り平均）昭和52年度	昭和49年からリンゴの植付を開始した。

4 組織活動

自　治　会	組織だったものはない。
農　　協	な　し

5 地区略図





移住地名　ラ・プラタ

1. 地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州ラ・プラタ郡
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和50年

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照。独立用地の第8号移住地である。

自然条件	地形	ウイルキッサ移住地に隣接する肥沃な土地で全体的に西北西に向って緩い傾斜があるが，ほぼ平坦地で標高約28mである。
	地質・土壌	沖積土地帯で表土は黒色をし，相当の有機質に富み肥沃である。表土は30～40cmを有し，それに続く下層は良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生・林相	2年前までは乳牛飼育の放牧場として利用し，購入時まではトウモロコシの耕作をしている。
	気候	1～2月が最も暑い。最高平均気温 21.2℃ 6～7月が最も寒い。最低平均気温 11.7℃ 年平均気温 15.8℃，平均年間降雨量 1,076mm，降雹 5～9月の間に5～7回程度。
	その他	全体的にほぼ平坦であるが，北東側と西北西側には排水溝を有し，余剰雨水の排水が行なわれる。 また，地表より30m～40mで良質豊富な地下水が得られる為，飲料水及び花卉栽培用の必要水は充分である。

社会条件	交通	バス；入植地の南西1.5kmの地点に国道2号線が通り，ブエノス・アイレス市～ラ・プラタ市間を往復するほか，ローカル線バスもひんぱんに往復している。当地北東側は州道36号に接しておりローカルバス開通の計画がある。 鉄道；ブエノス・アイレス市～ラ・プラタ市を結ぶ鉄道が国道2号線上38kmのところを通過し，付近にエル・パト駅がある。又，ラ・プラタ市～ブランドセン市を結ぶ鉄道沿線上にアバスト駅，メルチョル・ロメロ駅があり，当地より共に約10kmの距離にある。
	公共施設	当地隣接地に州立小学校がある。1.5km離れた国道2号線を横断した地点に銀行，商店街があり，入植者の生活必需品の購入には便利である。大きな病院，中学，大学は約25kmのラ・プラタ市に存在する。
	近傍都市	エル・パト町　当地より西北西方約10km メルチョル・ロメロ町　〃　北東方約10km

社会条件	近傍都市	アバスト町　当地より北東方約１０km ラ・プラタ市　〃　東南方約２５km（人口約５０万人） ブエノス・アイレス市　〃　北西方約４５km（人口約３００万人）
	近傍地区の営農状況	国道２号沿線は，ほとんど工場地帯となっており，国道より約１km離れた地点より農耕地となって花卉，野菜，牧畜が行なわれている。 ポルトガル系，日系の花卉栽培業者及び野菜栽培者が点在し営農に従事している外は牛の放牧が行なわれている。邦人の花卉集団入植地として，近くにウルキッサ，バンデリータ等の植民地がある外，当団の第５小入植地（EL PATO）があり，この地方は優良花卉，特にカーネーションの適地とされている。

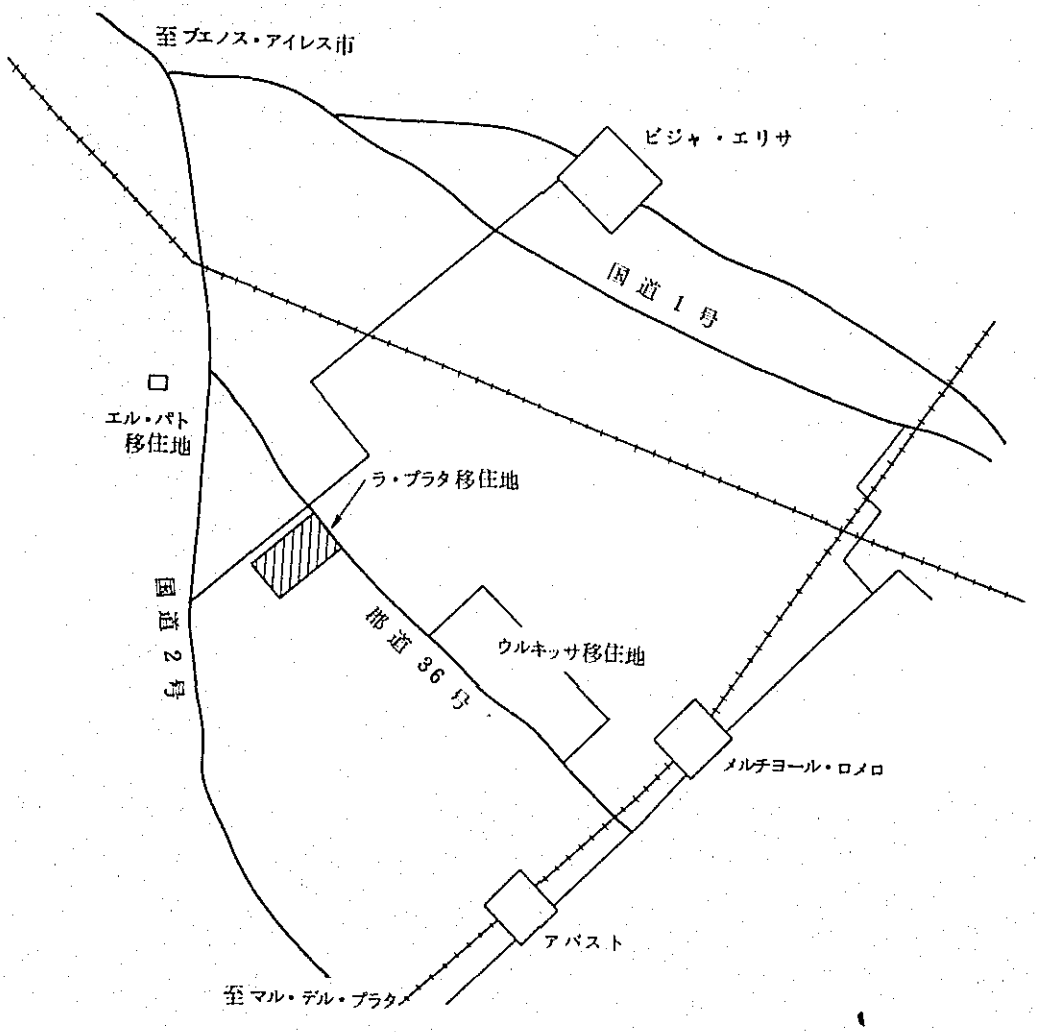
2. 入植状況

全戸現地入植者　３６戸　１５６人　昭和５３年３月末

主なる出身県名	熊本	長崎	その他	合計
戸数	６戸	３戸	２７戸	３６戸

総面積	120 ha
ロッテ面積	2.2 ha
分譲条件および価格	一括払　1,075 千円 分割払　頭金 322,500 円　4年据置5年賦利息１９％
分譲状況	分譲済面積：８８ha 未分譲面積：２４ha 道路市街地等利用地：１３ha
地権取得	３９ロッテ，全ロッテ未取得
地区内道路	
主なる施設	

3. 地 区 略 図


至ブエノス・アイレス市
ビジャ・エリサ
国道1号
エル・パト
移住地
ラ・プラタ移住地
国道2号
県道36号
ウルキッサ移住地
メルチヨール・ロメロ
アバスト
至マル・デル・プラタ

移住地名　グ　レ　ウ

1. 地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州アルミランテ・ブロウン郡 GLEW, PARTIDO DE ALMIRANTE BROWN, PROVINCIA DE BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和52年度

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照 独立用地の第9号移住地である。

自然条件	地形	中心よりやや南西寄りを頂点として，皿を伏せたような形で，四方にゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高平均29m。
	土質・土壌	沖積土壌地帯で，表土は黒色を呈し，可成り有機質に富み肥沃である。表土は40cmを有しそれに続く下層は，良質の粘土層となり花卉栽培に適した土地である。
	植生	牧草原野，自然生育の樹木はない。
	気候	気温　年間平均16.1℃　最高平均22.0℃　最低平均10.5℃，雨量年間1,016 mm 降霜5月～9月の間に平均18回程度

社会条件	交通	ブエノス・アイレス市からグレウ市までは，鉄道，バスが頻繁に往復している。 グレウ駅から，入植地より約500mの地点まで30分毎にバスが往復している。 入植地より約500m地点までの道路は舗装されている。
	市場	ブエノス・アイレス市
	近傍都市	グレウ市　距離約4km ブルサコ市　〃　7km アドロゲ市　〃　10km ブエノス・アイレス市　〃　35km　人口300万
	医療・教育	グレウ市までの途中に診療所がある。近傍都市には医療施設完備。 移住地に隣接する住宅街地区内約2kmのところに小学校がある。
	治安	良好

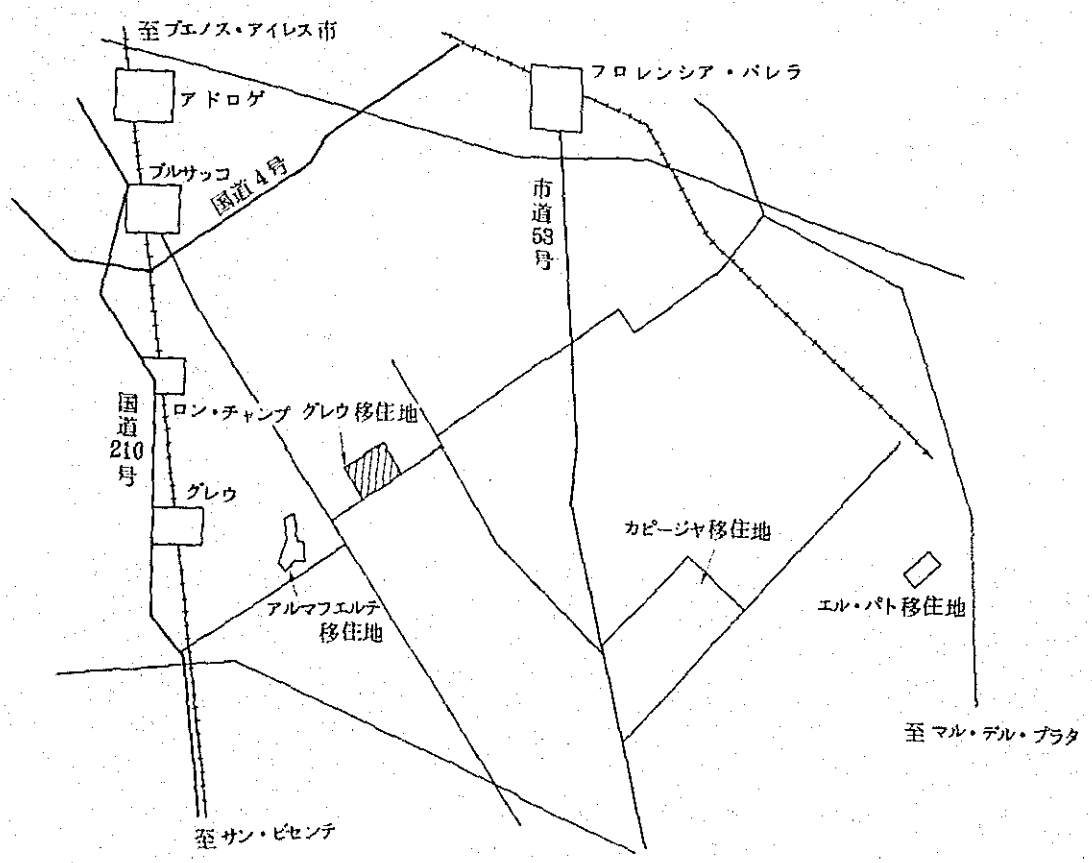
2. 入植状況

全戸現地入植者　19戸

総面積	75 ha
ロッテ面積	2.9 ha
分譲条件および価格	一括払　2,405,500円

分　譲　状　況	分割払　頭金 601,400円　2年据置4年分割利息１９％		
	分譲可能面積　62 ha		
	分譲済面積	未分譲面積	道路公共用地
	5 7ha	5 ha	1 3ha
地　権　取　得	土地代未完済のため１９ロッテ全未取得		

3. 地区略図



ブエノスアイレス市近郊移住地

概　　況

ブエノスアイレス市は，ラ・プラタ河の左岸に展開し，凡そ半径50㎞の範囲内をグラン・ブエノスアイレスと称され，アルゼンチン総人口2,538万人のうち$\frac{1}{3}$に当る835万人が居住している。このグラン・ブエノスアイレスの周辺に，日本人の集団地ならびに当事業団創設の小移住地が散在し，アルゼンチン国政府農事審議会（Consejo Agrario Nacional），あるいはブエノスアイレス州政府創設にかかる移住地，その他個人所有土地の分割分譲地がある。

日本人の主な栽培作目は花卉栽培であり，カーネーション・バラ・菊が多く，この花卉栽培は戦前，北部のエスコバール方面から発展し，戦後フロレンシオバレーラ・ウルキッサ方面にまで拡がりをみせ，小資本，小面積でしかも短期間に安定した収益を得られたため，戦後移住者で特に青年，またボリビア・パラグアイ国からの転住者の独立あるいは再起に最も有利な業種として広まりをみせている。

主な日本人集団地

移住地名または地区名	所在地	日本人入植者数		経営主体
		戸数	人数	
ウルキッサ (Urquiza)	Colonia Urquiza MELCHOR ROMERO, LA PLATA 隣接の個人所有土地分譲地入植者を含む	戸 109	(22) 553人	農事審議会
ラス・バンデリータス (Las Banderitas)	Colonia Las Banderitas CITY BELL, LA PLATA	23	(1) 130	州政府
ビジャ・エリサ (Villa Eliza)	Villa Eliza CITY BELL, LA PLATA	27	(1) 143	個人所有地の分割分譲地
ポルテーニョ (Porteño)	Porteño CITY BELL, LA PLATA	3	11	同上
アルトウーロ・セーギ (Alturo Segui)	ALTURO SEGUI, LA PLATA	7	36	同上
サンタ・モニカ (Santa Monica)	EX Estancia Chica de Deker ABASTO, LA PLATA	36	(4) 179	同上
合計		205	(28) 1,052	

注　（　）内数字は単身者人数を示す。

以上の移住地は，ブエノスアイレス市から凡そ５０㎞概ね南部に位置し，戦後に開発された地帯で，ウルキッサ移住地を除く他の移住地は，雇用青年あるいはガルアペー移住地，またはボリビア・パラグアイ国からの転住者が相当数入植し，日本人集団地を形成して来た。

ウルキッサ移住地は，アルゼンチン国農事審議会の直営移住地であって，アルゼンチン人農業者の独立農創設とブエノスアイレス市ならびにラ・プラタ市へ蔬菜の供給を目的として創設されたもので，アルゼンチン以外にＩＣＥＭ（欧州政府間移住委員会）に100ロッテを留保し，欧州からの移住者の入植を認めた。折しも，１９６１年（昭和３６年）１２月，フロンデイシ大統領訪日の際，アルゼンチン側は派米農業青年制度に着目し，同制度修了者を導入すれば，アルゼンチン農業開発に大いなる貢献を行なうであろうとの期待のもとに，特別措置として派米青年の入植を許可することとなった。最初は９戸（９０ロッテ）であったが，日本側の追加申請により更に３戸（３ロッテ）が認められ，最終的には１３戸が入植することとなった。また本移住地には亜国人と同様に農事審議会に直接申請し，その選考を経て日本人が１３戸入植し合計２６家族で，日本人入植者は移住地の約半分以上を占め，スペイン，イタリー，ポルトガルその他各国系入植者で構成されるウルキッサ移住地では，大きな比重を占めるに至っている。

営農は，蔬菜を目的として創設された移住地であるが，蔬菜の価格が極めて不安定のため，温室による花卉栽培が始まり，農事審議会もこれを認め，現在ではウルキッサを中心とした周辺は，大きな花卉生産地として発展しているものである。

パラグアイ国

〔政　治〕

パラグアイは，１８１１年５月１５日スペインから独立，１８４４年に立憲共和政体となって現在に至っている。この間，ブラジル・ウルグァイ・アルゼンチンを相手どった「三国同盟」戦争（１８６４～１８７０）及び，ボリビアとの「チャコ」戦争（１９３２～１９３５）を経験，不安定な政治が続いた。

１９５４年革命によって，現大統領アルフレド・ストロエスネル将軍が政権を掌握，爾来同大統領は選挙によって５期連続当選，軍部を背景に安定した政局を維持しており，当分の間「ストロエスネル時代」が続くとみられている。親米，反共政策を基調としている。

（行政）　大統領は，国家元首と行政府の長を兼ね，任期は５年間，各任期の６ケ月前に総選挙（直接選挙）により選出される。１９７７年の憲法改正により，同一人物の再選が可能となった。副大統領はおかず，各省大臣１１名が補佐する。地方行政の長は中央政府の任命による。

（立法・司法）　立法府は，上院（３０名）と下院（６０名）に別れ，任期は５年，大統領選挙と同時に選出される。

司法府は，最高裁を頂点に独立しているが，行政府の影響が強い。

（政党）　伝統的に赤党，青党の二大勢力があるが，現在では，赤党の圧倒的勢力下にあり，野党は多分に多目化している。共産党は非合法とされている。

〔経　済〕

農林牧業以外には，ほとんどみるべきものがなく，食肉，木材，大豆等穀類の輸出により外貨を得ている。政府としては，工業化促進のため外資優遇政策を取り入れるとともに，輸送，通信，エネルギー（電力）部門の充実を急いでいる。この内，最も大きなプロジェクトはブラジルとの合併によるイタイプー水力発電所建設工事で，完成すると1,200万ＫＷの電力を生み，パラグアイの取分600万ＫＷの大部分は輸出されることになる。

現在のところ，トイレットペーパーから自動車までを輸入に頼っている。１９７６年度国内総生産（Ｇ．Ｎ．Ｐ）は１人当り約370ドルで，中南米１９ケ国中でも最後発国グループに属しているが，通貨（ガラニー，１ドル＝126 Gs）は安定しており，近隣諸国にみるような急激なインフレはない。

内陸国であること石油・鉱物資源に乏しい等が弱点であるが，広く豊かな国土と水力資源をテコに低開発国からの「離陸」を果そうとしている。

〔社　会〕

パラグアイ国民の中心（約９６％）は，原住民のグァラニー族とスペイン人の混血である。このほかウクライナ人，日本人，メンノ教徒，ドイツ人，韓国人，伯国人，亜国人等々の移住者（約２％）を加え，総人口は，１９７６年末現在で約272万人といわれる。

国語はスペイン語（CASTELLANO）とグァラニー語。宗教は国民の殆んどがカトリック教徒で，大統領はカトリック教徒でなければならないという憲法の規定がある。

国民性は一般にラテン系特有の明るい気性に加え，グァラニー族の強靭さを持ち親しみやすい印象を与える

首都のアスンシオン市は，人口約４４万人の中規模都市，緑が多く，季節にはジャカランダやラパーチョの花が美しい街である。首都以外では伯国との国境，イグアスの滝に近いプレシデンテ・ストロエスネル市（イグアス日本人移住地から約４０km）が，イタイプー発電所建設工事の基地として，最近急激に膨張し且つ，都市機能を整備しつつあるが，他の地方都市は街道筋の集落的形態を脱していない。国民的人気を独占するものはサッカーで，有名チームの試合や，国際試合開催日は競技場やラジオを囲んで熱狂的情景が見られる。サッカーくじ（トトカルチョ）も盛んである。このほか，大衆娯楽としては映画も盛んで，主として北米，メキシコのフィルムが上映されている。ルーレット賭博も公認されているが，これは主に外人観光客を対象としている。

マスコミは，ラジオが主流で，個人宛メッセージも扱うなど，最も重要な情報伝達手段となっている。新聞は朝夕刊各２種が地方へも送られているが，読者は限定されている。テレビは首都１局，エンカルナシオン市に１局あり，輸入フィルムを主に放映している。なお，地域によっては，伯・亜国のテレビも受信できる。

教育は現政権の最も力を入れる政策の１つで，地方村落の小学校々舎落成式にまで大統領自身が出席しているが，小（６年），中（３年），高（３年）のほとんどが二部授業で，地方の小学校は更に複式授業が一般的である。大学は官立と私立の２校のみ。

気候は夏（１１～３月平均気温 31.5℃。最高気温は４２℃を越すこともある。）暑く，冬（６～８月平均気温 14.5℃）は一部に降霜を見ることもある。夏・冬を問わず気温の変化が激しく，１日の温度差２０℃以上に及ぶことも珍しくない。東部地域の年間平均降雨量は 1,500 mm程度である。

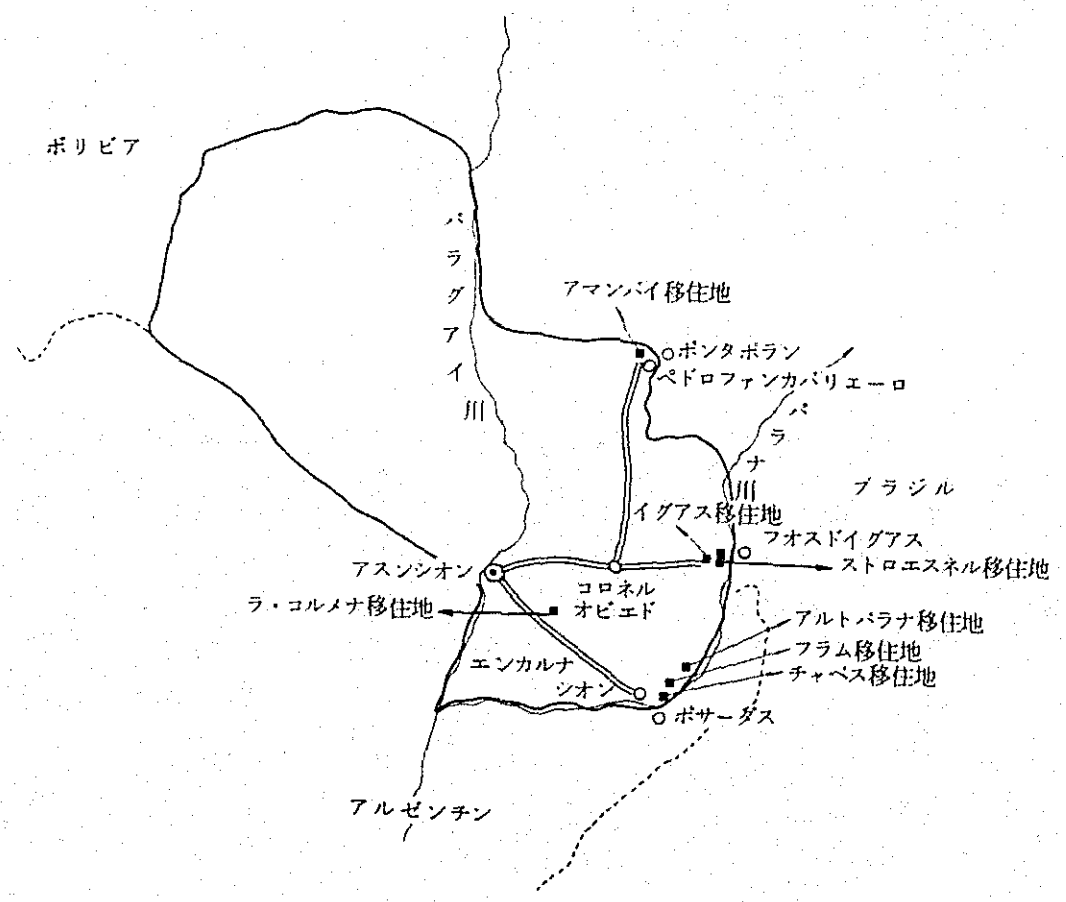
Ⅵ　アスンシオン支部管内

支部機構

- アスンシオン支部（アスンシオン市）
  - エンカルナシオン支所（エンカルナシオン市）
    - アルトパラナ事業所（アルトパラナ移住地）
    - パラグアイ農業総合試験場アルトパラナ分場（アルトパラナ移住地）
  - イグアス事業所（イグアス移住地）
  - パラグアイ農業総合試験場（イグアス移住地）
  - アマンバイ出張所（ペドロファンカバリエーロ市）

管轄地域

パラグアイ国全域



移住地名　フ　ラ　ム

1. 地区概要

所在地	所在地	イタプア県カルメン郡 COLONIA FRAM, JURISDICCION DE CARMEN DEL PARANÁ, DEPARTAMENTO DE ITAPÚA
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和30年

経緯	経緯	海外移住振興会社が，１９５６年（昭和３１年）に現地のフラム土地会社所有地のうち16.057 haを分割購入し造成した移住地である。 （購入価格　26,600千円） この地域への邦人入植は，１９５５年（昭和３０年）フラム土地会社の分譲地に，６家族が入植したのがはじまりである。 その後，１９５６年（昭和３１年）末には広島県沼隅町を中心とした分村的移住，更には，１９５７年（昭和３２年）に，高知県大正町を中心とした数ケ町からなる集団移住が行われる等，５ケ年間で３７１戸を迎え，１９６０年（昭和３５年）代にほぼ満植となった。しかし，その後景気の低迷土地不足等により約半数が国内他地区，アルゼンチン等へ転住し，残留者がその跡地を購入して面積拡張を計り今日に至っている。 入植者のうち，一部はアペレア地方のロシア人移住地の古い耕地を入手し落着いたものもある。

自然条件	位置	W55° 50′ S 27° 10′ エンカルナシオン市の北西３５kmに位置する。
	地形	パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高まり移住地内は比較的起伏に富み，波状形を呈している。 地区内には，数本の小川が流れており，標高は最高２００m最低１８０mで，平均標高は約１９０mである。
	地質・土壌	地質は極めて良好で，玄武岩を母岩とした風化土壌で一般にテーラロシャといわれている赤褐色粘土質土壌である。 低地ではテーラロシャ土層薄く，斜面にあっては，礫層岩盤が散見される。 土壌は表層は植壌土又は植土，下層は植土で粘土粒子であり，一般に微粒である。 土壌構造は透水性通風性良く，pHは5.5程度の弱酸性であである。
	植生・林相	高地は亜熱帯植林（グッタンブー，カナフィスト，ラオ等）が続き，低地は湿地性灌木林及び耐湿草本が繁茂している。 有用材はすでにその殆どが資材として伐り出されておりその量は僅かである。

自然状件	気候	気温はアルトパラナ移住地と大差はない。最高平均気温 29.5℃,最低平均気温15.3℃，年間平均気温22.6℃である。 乾期は１２月～２月の最夏期，雨期は９月～１１月の春先から初夏とされているが，特に明瞭な区分はない。年間平均降雨量は 2,000 mm程度。 降霜・降雹等 降霜：冬期７回～１２回（強度の降霜は年２～３回） 降雹：９月～１１月の春期に２～３回軽度の降雹あり。但し１０年に１度程度の頻度で大降雹あり。 降雪：なし

社会条件	交通	アスンシオン市～エンカルナシオン市間３６５kmで，エンカルナシオン市から移住地中心まで約４５km（国道６号約１８km，国道から移住地約２７km）。 その間国道６号はアスファルト舗装であり，国道入口から砂利舗装道路となっている。 移住地とエンカルナシオン市間には，毎日４往復のバス便が運行されている。（移住地内は幹線を走行）
	市場	エンカルナシオン市が最も近い市場であり，殆どの農産物はエンカルナシオン市で取引されるが，一部青果等は首都アスンシオンまで出荷・販売されている。 また，アルゼンチンとの合弁によるヤシレター発電所建設工事が本格化すると，エンカルナシオン市場はかなり拡大されるものと思われる。
	近郊主要都市	エンカルナシオン市：人口約 4.5 万，移住地中心より約４５km。 ポサーダス市：人口約１５万（アルゼンチン領），エンカルナシオン市パラナ河の対岸で，渡舟約１５分。
	医療・教育	移住地市街地（センター）に当事業団直営診療所（入院可能）があり，医師１名（日本より派遣）看護婦３名，その他２名が常駐している。救急車１台配置。 余程の重症患者でない限り当診療所において治療・手術している。 移住地には，小学校３校，中学校１校あり，それぞれ教員宿舎を設け，優秀教師の確保に努めている。 特に中学校（Liceo Nacional de Fram）は，パ国文部省（２０％）当事業団（８０％）両者の助成金により市街地に建設されたもので，日系子弟中等教育の拠点となっている。（全員寄宿制） また移住地では，移住者子弟の日本語教育を行うため，現地正規授業の余暇，土・日曜を利用して日本語小学校（３校）と中学校（１校）が開設されており，国語教育を中心にそれぞれ地元父兄負担金，及び当事業団助成により運営されている。 なお，現地日語教師を指導するため，昭和４６年度より文部省推せんによる日語教師１名が派遣され，パラグアイ管内の指導にあたっている。
	治安	移住地市街地には，判事事務所があり，判事１，書記１が常駐し民事的な比較的軽

社会条件	治安	易な案件を取扱っている。 重要案件は，事務手続きのみ行い，実際はエンカルナシオン地方裁判所に移行されている。 また警察はサンタローサ，ラパス，富士の3ケ所に屯所が設置されており，各々署長1，兵士4名が常駐し移住地内の治安維持にあたっている。

2．入植状況

入植戸数と人数（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数		47	99	111	37	77	1			1			
	人数		294	495	540	196	397	6			4			
	年度	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
	戸数											83	456	197
	人数											443	2,375	1,106

(注) 単身，呼寄を含まない。

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル	アルゼンチン	パ国内	帰国	その他
%	3	40	38	11	8

主なる出身県名	高知	愛媛	広島	北海道	福岡	徳島	宮城	熊本	東京	鹿児島	その他	合計
戸数	60	27	26	18	17	7	4	6	4	5	23	197

(注) 戸数は非農3戸を含む経営戸数。

総面積	16,056 ha			
1ロッテ平均面積	25 ha			
分譲条件及び価格	25 ha一括払，邦貨160千円。分割払，（4年据置4年均等年賦）202千円。			
分譲可能面積	15,649 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路，河川，市街地等	除地
	15,527 ha	122 ha	407 ha	0
地券取得				
農地	全戸取得			
市街地	39ロッテ中取得35ロッテ，未取得4ロッテ			
電気・飲料水	電気はまだ導入されていない。燈火としては，一般的に石油圧縮ランプが使用されているが，市街地中学校，診療所等公共施設には自家発電による電気が供給されている。 飲料水は各戸，各施設とも井戸水を利用している。			
地区内道路	チャベス移住地よりフラム移住地への幹線および地区内幹線・支線を併せ，道路延長は約180 kmに及んでいる。なお幹線道路は51年度～55年度5ケ年計画により			

	砂利舗装改修中である。
主なる事業団援護施設	小学校3（教員宿舎を含む），中学校1（教員宿舎，寄宿舎を含む），診療所1（医師，看護婦宿舎を含む），判事事務所1，警官屯所3，公民館1，倉庫1，
車輌	救急車1台，治安用オートバイ1台，トラック1台（アルトパラナと共有）
農協等所有	
施設	組合事務所4（チャベス支所は含まず），倉庫5，宿泊所2，稚蚕共同飼育所1
車輌	トラック2台，乗用車3台

3．営農

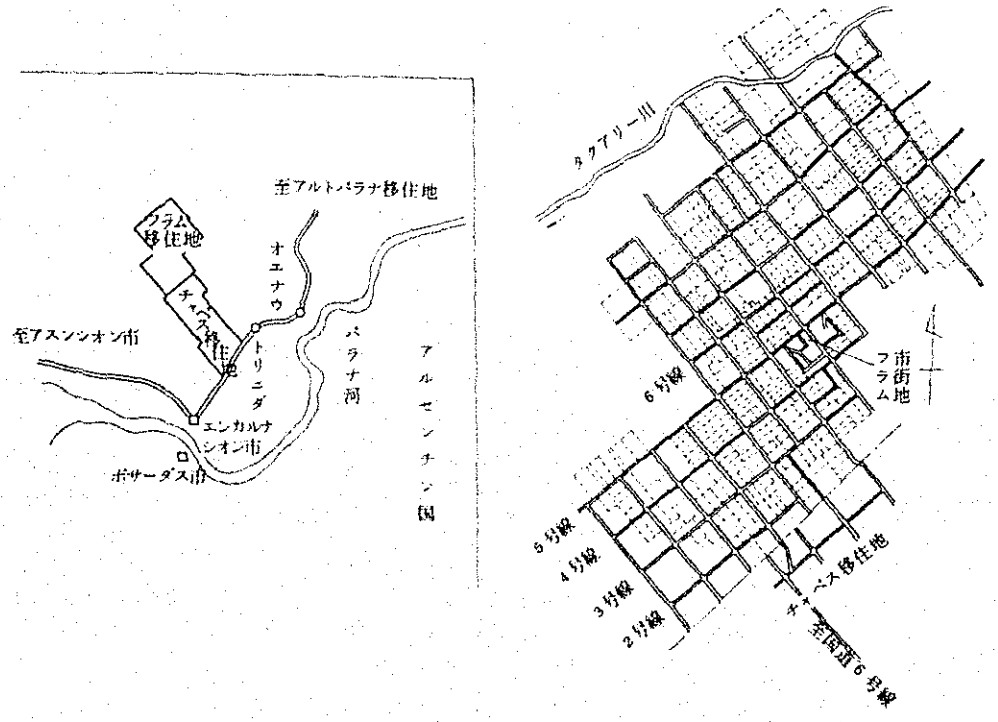
主作目	永年作物：油桐 短期作物：大豆，とうもろこし，小麦 その他：養蚕
営農状況	かって主幹作物は油桐であったが，低価が長く続いたことにしびれをきらしたことと，手っとり早く雑作地を増やすため，これを伐採してしまった者も多く現在の主体は大豆または養蚕と変わってきた。 特に大豆は，もともと日本人移住者がこの国に初めて企業化した作物であるが，イタプア地方の肥沃な土壌によく成育し，その品質の良さと相俟って，パ国における植物油生産の伸びと共に需要が旺盛となり，また機械化による経営規模も拡大され，作付面積は年々増加している。養蚕についても，日本からの乾繭工場進出と同時に導入されて以来年々順調に伸びたが，石油ショック以来，組製品の需要が伸びないため低滞気味である。
農機具等の普及状況	コンバイン0.4台，トラクター1.0台，トラック0.3台，脱穀機0.9台，乗用車0.1台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	移住地内には営農指導機関はないが，当事業団アルトパラナ分場及びエンカルナルオン支所が指導に当っており，また必要に応じパ国側関係当局の指導，協力を受けている。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに市場	生産物はほとんど農協を通して出荷している。 販売先：大豆：輸出（ヨーロッパ方面）または国内搾油会社 油桐：国内搾油会社 蚕：日本からの進出会社
農家所得（昭和52年度一戸当り平均）	3,140千円（1,284千$）

4．組織活動

自治会	フラム自治体 全戸が加入しており，サンタローサ，ラパス，フジ3地区自治会を統合したものである。

農　　協	（主たる業務） 道路補修，諸届事務代行，治安，教育等関係事務，自治体林の育成， その他諸行事の企画，実施等。 以上，業務を中心とした積極的な活動を行っている。 「フラム農業協同組合」（法定）を組織し，販売部，購売部，信用部，利用部，総務部，営農指導部の6部門があり，各部門毎に独立採算制で堅実な運営を行っている。下部組織として移住地を3分して，「フジ支所」「ラパス支所」「サンタローサ支所」の3支所にチャベス移住地内「チャベス支所」がある。 現在チャベス移住地を含み240戸農家で，175戸が組合に加入している。また，昭和50年1月には，レンガ2階建の新庁舎，職員宿舎，倉庫等落成し順調な発展を遂げている。

5、地　区　略　図



移住地名　チャベス

1. 地区概要

所在地	所在地	イタプア県ヘスス・イ・トリニダ郡プレシデンテ・フェデリコ・チャベス COLONIA PRESIDENTE FEDERICO CHAVES, DEPARTAMENTO DE ITAPÚA
	管理者	パ国政府農村福祉院
	入植開始年度	昭和29年

経緯	経緯	昭和28年，パ国政府が貧民救済と農業国として繁栄をはかることを目的として，国内の有望農業地帯であるイタプア県内の民有地を買収し，当時の農業加良局管理のもとに創設されたもので，時の大統領の名前を記念して FEDERICO CHAVES 移住地と命名した。 昭和27年，有限責任ブラジル拓植組合が，ラ・コルメナ移住地に日本人120世帯を導入の枠を取得したが，入植適地が殆どなかったため受入不能の状態であった。当時在パの笠松，石橋氏等は，この状態の打開をかねて，当チャベス移住地に日本人を導入すべく引受機関として「日芭拓植組合」（戦後邦人移住者受入れの組合）を設立し，併行して120家族（各戸当り20ha）受入の枠を取得した。そこで先ず第1陣として昭和28年に，ラ・コルメナ移住地より日本人家族8世帯（戦前移住者）が転住した。その後，昭和29年に日本から第1陣6家族を受入れ，以来昭和34年まで入植した。この地区は他のフラム，アルトパラナ等の事業団造成の移住と異り日芭混合の移住地である。 現在は44世帯に減少しているが転耕の主な理由は土地不足によるものである。 移住者は現在，大豆，養蚕，桐実，牧畜，とうもろこし，棉等で経営を行い営農生活の安定をみるに至っている。

自然条件	位置	W55° 40′　S27° 21′
	地形	パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高まり，移住地内は比較的起伏に富み波状形を呈している。地区内の数本の小川が流れており，標高は最高200 m最低180 mで平均標高190 mである。
	地質・土壌	地質は極めて良好で，玄武岩を母岩とする風化土壌で一般にテーラロシャと言われる赤褐色粘土壌である。低地ではテーラロシャ土層薄く，傾斜面にあっては表面近くに礫層岩盤が散見される。土壌の表層は植壌土または植土，下層は植土で粘土粒子で一般に微粒である。土壌構造は透水性通風性よく，pHは5.5程度の弱酸性である。
	植生・林相	高地は亜熱帯樹木グワクンブ，グワイカ，カナフィスト等が続き，低地は湿地性樹木林及び耐湿草木が繁茂している。用材として利用される樹木類ラパーチョ，ロー

自然条件		ロネグロ，インシェンソ等は，既に建材板材家具等の資材として伐り出されておりその量は少い。
	気候	9月～11月の春先から初夏にかけて雨期，12月～2月の夏期間が乾期と言われているが特に区分はない。冬期の年平均降霜数7～12日，9～11月の春夏期にて2～3回程度の降雹があり降雪はない。最高平均気温29.5℃最低平均気温15.3℃平均年間降雨量2,248㎜。

社会条件	交通	エンカルナシオン市の北東20㎞に位置しているので，交通は至便，道路は舗装されている。
	市場	エンカルナシオン市と対岸ア国ポサーダス市，およびアスンシオン市が主な市場である。
	近傍主要都市	エンカルナシオン市人口約4.5万，陸路20㎞，ア国ポサーダス市人口15万，陸路20㎞，水路2㎞，アスンシオン市人口44万，陸路385㎞。
	医療・教育	移住地内に小学校が2校あり自転車等で通学している。中学校はフラム中学校に寄宿通学，またはエンカルナシオン市内の中学校，高等学校に下宿通学している。医療は隣接のフラム移住地内にある事業団の診療所（日本より派遣医師常住），またはオエナウのドイツ人病院及びエンカルナシオン市の国立病院を利用している。
	治安	移住地内には，カピタンミランダ警察署管轄の派出所があり，警官1名，兵士4名が駐在して治安に当っている。

2．入植状況

	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
入植戸数と人員（内地）	戸数	9	99	21	2								1		1
	人員	62	645	147	10								4		6

	年度	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
入植戸数と人員（内地）	戸数									1		37	171	44
	人員									1		155	1,030	257

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	アルゼンチン国	ブラジル国	パ国内	その他	帰国
率（%）	28	4	57	4	7

主なる出身県名	北海道	和歌山	宮城	山口	熊本	香川	福島	その他	合計
戸数	10	10	5	4	5	2	2	6	44

総面積	68,000 ha
ロッテ面積	20 ha

分譲条件および価格	一括払Ø$ 44,000，　分割払　据置なし　5年均等年賦Ø$ 17,600			
分譲可能面積	65,500 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	65,500 ha	0 ha	2,500 ha	0 ha
地権取得	取得700名　申請中300名　未申請200名			
電気：飲料水	フラム移住地記載事項とほとんど同一			
地区内道路	幹線は砂利舗装支線は盛土である。			
主なる事業団援護施設	小学校2　教員宿舎1　組合事務所兼倉庫1　共同販売所1			
組合等所有施設	フラムと同一農協であるためフラムの項参照			

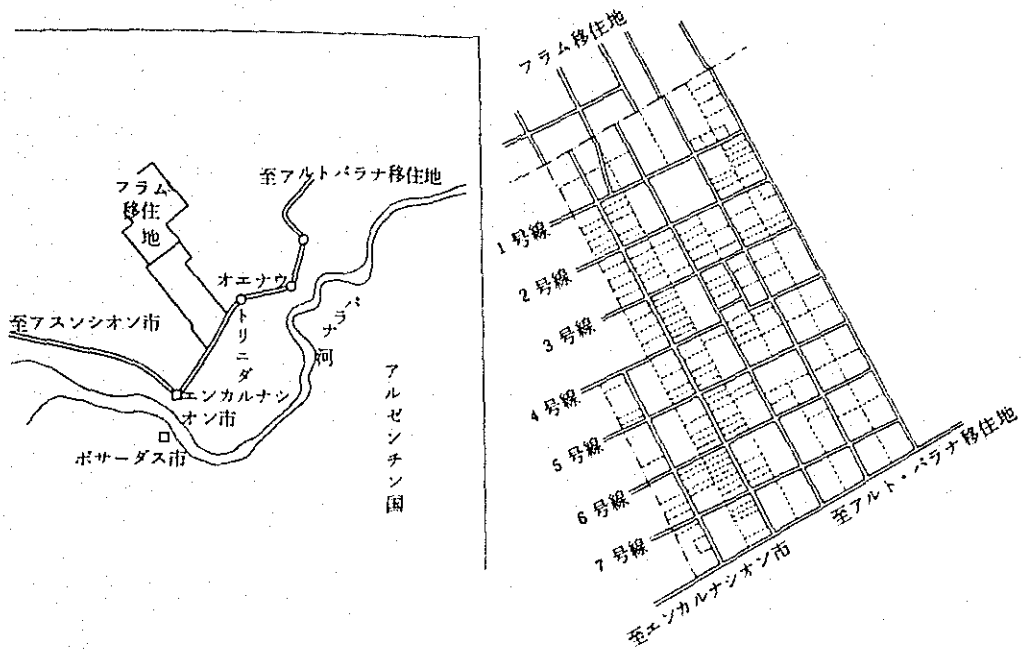
3．営　　農

主作目	大豆，養蚕，油桐，蔬菜
営農状況	フラム移住地とほぼ同じであるが，エンカルナシオンに近いため近郊農業として蔬菜栽培も盛んである。
農機具等の普及状況	コンバイン0.4台，トラクター1.0台，トラック0.4台，動噴機1.3台，脱穀機0.5台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	移住地内には営農指導機関はないが，当事業団アルトパラナ試験場およびエンカルナシオン支所が指導に当っている。また必要に応じパ国側関係当局の指導，協力を受けている。
利用金融機関	銀行，事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	大豆，油桐，蚕は殆ど農協を通じて販売しているが蔬菜，鶏卵等はエンカルナシオンの商店へ個々に直販売している。
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,310千円（945千Ø）

4．組織活動

自治会	チャベス日本人会は，会員相互の親睦と関係機関との連絡ならびに諸行事（映画会，体育会等）の開催を主な仕事として活発に活動している。 入植25周年記念事業（1978年）として事業団の助成により公民館が建設された。
農協	フラム農業協同組合とラ・ポテンシャ園芸農協があるが，ラ・ポテンシャ園芸農協は最近個人出荷が多くなり，現在実質上消滅している。 フラム農業協同組合の組織活動状況は，フラム移住地概況の農協の項参照。

5. 地 区 略 図



移住地名　イ グ ア ス

1. 地 区 概 要

所在地	所在地	アルト・パラナ県ストロエスネル市 COLONIA YGUAZU, Km. 41, S/RUTA INTERNACIONAL, Dto. ALTO PARANA, PARAGUAY.
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和36年

経緯	経緯	フラム・チャベス両移住地に入植した移住者は，自給体制も確立して営農も安定期に入ったので満植の状態にあるため同地区の二・三男青年の今後の対策として，昭和35年旧移住振興K.Kが，マルチン商会所有地を購入造成した移住地である。当移住地には，昭和36年8月第1陣14家族が，フラム・チャベス両移住地から入植した。日本からの移住は，昭和38年が第1陣である。今日まで233世帯が入植定着した。入植者は現在蔬菜に頼っているが，肉牛・養鶏を主として大豆・と

経緯		うもろこし等の雑作を組合せている者が増えている。また，日本資本の農牧会社の設立に刺激され，肉牛飼育の熱が高まり各戸の牧場の造成，肥育牛の導入が進められている。

自然条件	位置	W 55° 15′　S 25° 30′
	地形	標高は最低１８２ｍ最高２９９ｍで，地域の北端をイグアス河，南端近くモンダウ河が流れており，何れもパラナ河にそそいでいる。従って，これら両河川の沿岸部は低地で東西に緩やかなスロープを描く丘陵地である。
	土質・土壌	肥沃な「テーラロシャ」と呼ばれる暗赤色のラテライト土壌が表土を深く占めている。１００～１５０cm位あってその下層は黄赤色又は赤色となる。粘土質が５０％以上あるところが多く適度の雨量がある場合は，土壌は植物にとって最高，雨が降らぬ場合地表面は過度に乾燥し通気性を欠くようになる。自然カンポ（草原）の土壌は砂土，黒泥土で一般に燐酸加里が不足し強酸性である。
	植生・林相	亜熱帯性の樹高３０ｍ前後の樹木が密生しており，低位部の湿地附近は細く樹丈が低い雑木が粗生しているが，台地に向い密生原生林と変化していく。 この亜熱帯林には各種の有用材がみられ，現地名セドロ・ラパーチョ・グワタンブ・ウビラロなどがある。
	気候	大陸性亜熱帯気候圏に属するが，１年間を明確に４季に分けることは適当でない。強いて分けるとすれば，夏１２月下旬～３月，冬６月中旬～９月，気温は７月から１０月は較差が極めて大きい，例えば朝に於て０℃近くの気温が日中に於ては３０℃以上に上昇することもある。最高平均気温 26.5℃　最低平均気温 13.7℃　平均気温 21.7℃　雨量は年間 1,900 mm前後，冬期に年平均５～６回の降霜をみる。 乾雨期の区別も明確でなく，９～１０月雨期　１１～１月乾期と言われる。

社会条件	交通	移住地内に首都アスンシオン市より伯国大西洋岸のパラナグア港まで通じている国際道路があって，両国を結ぶ動脈で完全舗装されている。移住地より西へアスンシオンへの急行バス１日８便（２社）所要時間４時間３０分，普通バスで１日数回，途中のコロネル・オビエド・カーレンズ・ビジャリカに行くことが出来る。又，ストロエネルへのバス便もあり，交通便良好，当移住地の中心部はブラジルとの国境から４１kmの地点にある。
	市場	アスンシオン市が主な市場であるが，伯国との合弁によるイタイプー発電所建設工事の開始により，この方面へも販路がある。
	近郊主要都市	首都アスンシオン市人口４４万陸路２８６km，ビジャリカ人口３千陸路１８０km，コロネル・オビエド人口３万陸路１５５km，カーレンズ人口２千陸路２４km，ストロエスネル人口４万陸路４１km。
	医療・教育	移住地内に診療所（入院可能）があり，日本人医師１名が駐在し簡単な手術も可能である。重症の場合はストロエネル市，またはアスンシオン市の病院に行くことと

社会条件		なる。 救急車1台配置されている。 移住地内に小学校が2校あり，生徒はスクールバス等で通学している。中学校，高等学校は20km先のストロエスネルにバス通学している。また高等学校，大学はアスンシオン市で下宿通学しているが，昭和50年度にはアスンシオン市内に寄宿舎が完成した。
	治安	パ国警察官2名，兵士8名が常駐し，移住地の周辺の治安に当っている。警察署があり，事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。

2．入植状況

入植戸数と人員(内地)	年度	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	13	13	14	9	11	6	10	4	7	7	2	6	12	4	15	138	271	233
	人員	50	57	54	46	48	29	45	11	19	20	6	16	47	17	56	618	1,139	968

(注) 単身，呼寄を含まない。

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブエノス市近郊	伯国	パ国内	その他	帰国
率 (%)	20	10	30	5	35

総面積	87,762 ha			
ロッテ面積	30 haと 60 ha			
分譲条件および価格	30 ha一括払46万円，分割払頭金4.6万円9年据置 5年分割払　利息5% 60 ha一括払92万円，分割払頭金9.2万円9年据置 5年分割払　利息5%			
分譲可能面積	67,901 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	52,404 ha	15,497 ha	2,307 ha	17,554 ha
地権取得	農地：758ロッテ中取得429ロッテ　未取得329ロッテ 市街地：214ロッテ中取得　97ロッテ　未取得117ロッテ			
電気：飲料水	昭和49年8月に中圧の配線が完了し，昭和49年度末に電化された。新規分譲ロッテは電化されていない。飲料水は井戸で深いもので20m，浅いもので6～10mで湧水する。移住地内を流れている小川も水質良好で飲料に適するが，11月～2月頃枯渇する場合がある。			
地区内道路	幹線，支線とも盛土である。			

主なる事業団授護施設	小学校2，教員宿舎3，診療所1，医師宿舎1，看護婦宿舎1，宿泊所1，警察屯所1，警察宿舎1，運転手宿舎1，
車輌	診療車1，トラック2，オートバイ1，スクールバス1，ステーションワゴン1
組合等所有施設	自治会事務所1，自治会集会所1，農協事務所兼販売所1，農協倉庫1，農協車庫1，農協販売所（アスンシオン市）1
車輌	オートバイ1台，トラック3台，ジープ1台，小型トラック1
その他	ブルドーザー2台，トラクター4台，コンバイン1台

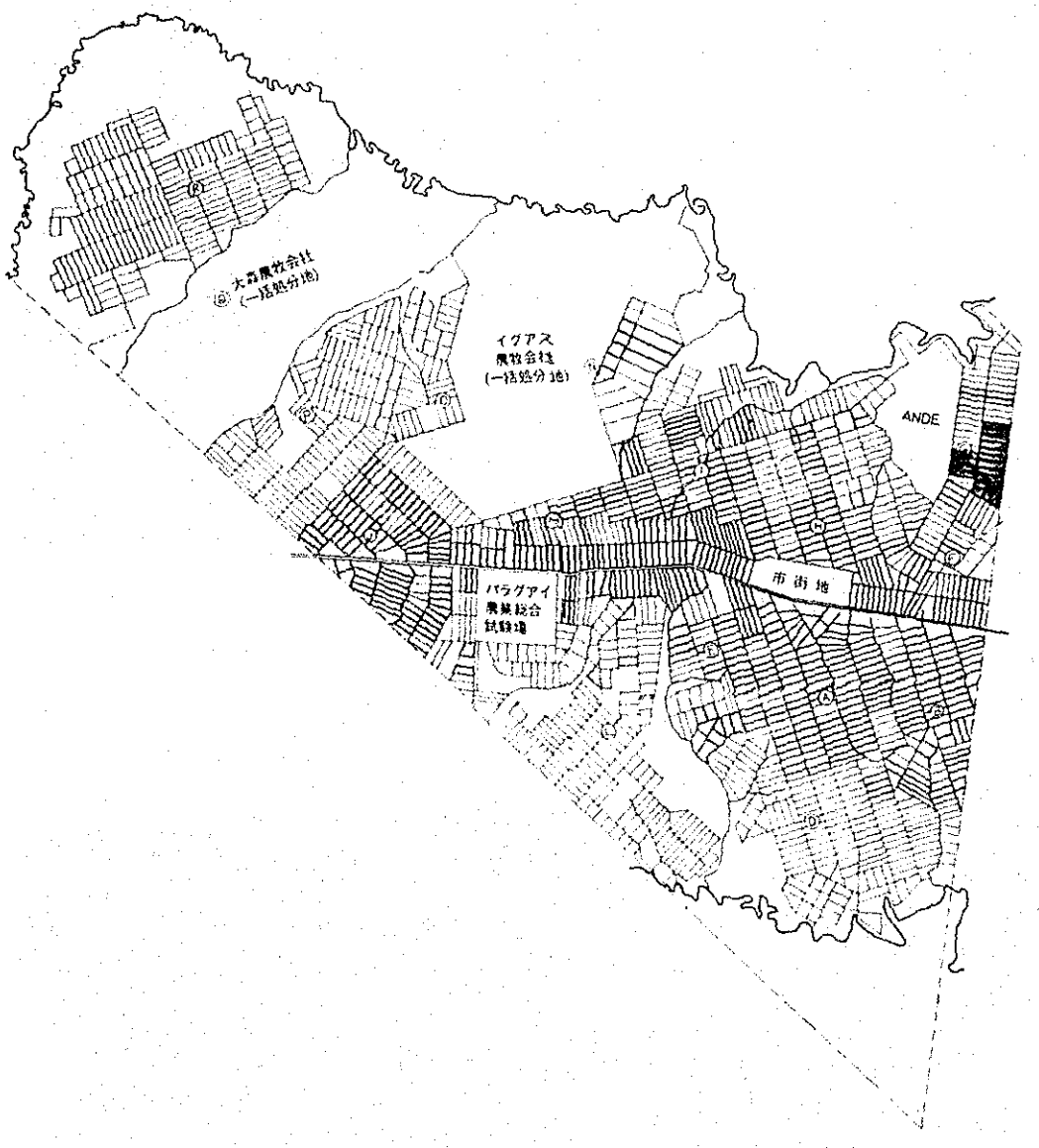
3．営農

主作目	トマト，養鶏，大豆，養豚，肉牛，養蚕，ハッカ
営農状況	道路が良いためアスンシオン，ストロエスネルを市場としてトマト，養鶏が主体であるが，需要に限度があることと価格変動が激しいため，大規模機械化による大豆と肉牛，養蚕等が伸び，主作目が変わって行く傾向にある。
農機具等の普及状況	耕転機0.3台，トラック0.2台，脱穀機0.4台，トラクター0.4台，（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	移住地内にある当事業団のパラグアイ農業総合試験場が指導している。その他協力機関として，隣接ストロエスネル移住地に農牧省の農林学校がある。
利用金融機関	銀行　事業団　農協
主作目の販売取扱機関並びに主市場	生産物の殆どは，農協およびアスンシオン市の商社を通じて販売している。トマトなどの蔬菜，鶏卵，牛，豚等はストロエスネル並びにアスンシオン市，大豆は輸出又は国内搾油会社，繭は日本からの進出企業（ISEPSA）
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	3,350千円（1,370千Ø）

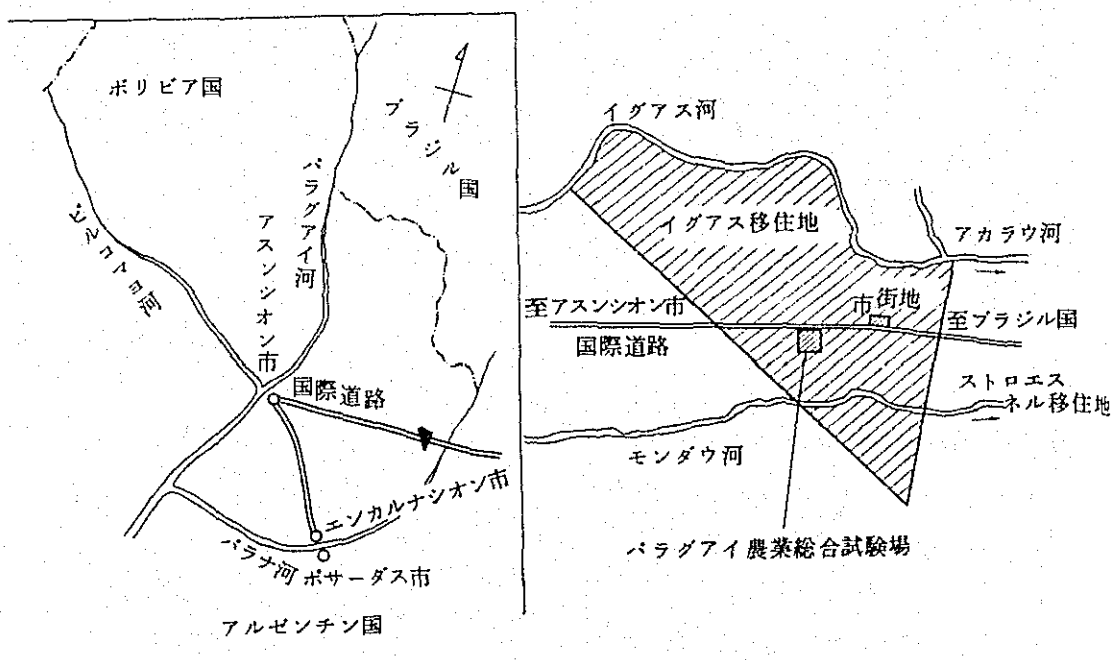
4．組織活動

自治会	イグアス自治会があり，入植者の自主自立的な各種活動のほか，一部行政事務も行っている。自治会構成は道路，治安，教育，営農促進，墓地，電化，文化，校舎建設等の委員会があり活動を行っている。
農協	農協組織としては，従来蔬菜栽培農家を中心とした拓植ジョポイラ農業協同組合と雑作農家を中心としたイグアス機械利用組合の両組合があったが，昭和48年11月1日この両組合が合併し，新たに拓進ジョポイラ農業協同組合（法定）として発足した。 組合加入者も増加しており，経営内容も漸次充実している。

イグアス移住地入植状況（昭和５３年３月３１日現在）



5 地 区 略 図



移住地名　アルト・パラナ

1 地 区 概 要

所在地	所　在　地	イタプア県ベラビスタ郡 COLONIA ALTO PARANÁ, DISTRITO DE BELLA VISTA, Dto. DE ITAPÚA, PARAGUAY
	管　理　者	事業団
	入植開始年度	昭和35年度

経緯	経　　緯	パラグァイ国内における第2の集団移住地として，フラム移住地（アルトパラナ移住地より北西方約50kmに位置）に次ぎ設定したもので，昭和34年4月1日移住振興KKが，Harcastle 植民会社外1名のパラグァイ人より，ピラポ地区約22,200 haの土地を購入したのが当移住地の始まりである。 その後，隣接のカレンズ地区，及びアカカラジャ地区の私有地を引き続き購入し，昭和35年5月現在のアルトパラナ移住地全土地の購入を完了した。同年8月2日，日本より第1陣入植として26家族の移住者を迎えた。 今日のアルトパラナ移住地は，大豆，養蚕，桐実，牧畜，とうもろこし，棉の生産地として，市場に確固たる地歩を固めることに成功した。これらの関係企業が原料

経緯		を求めて移住地内に進出し，パラグァイ資本の搾油会社CAPSAは，市街地近くに工場を建設し操業している。 また，待望の日系搾油会社（イタブア製油商工KK.CAICISA）も，日産処理能力大豆－50屯，桐実140屯の高能率の機械をもって，移住地より80㎞のエンカルナシオンに工場を建設し，昭和45年から操業を開始している。 更に，当移住地の養蚕の有望性を見込んだ日本の二大大手企業（片倉工業及び伊藤忠商事）は，パラグァイ絹糸商工KK.（ISEPSA）を設立し，昭和45年この市街地に乾繭工場を建設した。 なお，昭和51年には生糸工場を建設すべく計画があったが，未だ実現されていない。

自然条件	位置	W 55° 40′　S 27° 5′
	地形	大波状の比較的起伏に富む地形を示し，全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけ傾斜して低くなっている。標高は最高348m最低99m，地区内最大の比高は250 mであるが，全般的には比較的傾斜の多い地形といえる（平均標高約220 m）。
	地質・土壌	当地区の高位部では，土層は一般に厚くテーラロシャ（玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌）が5m～10mに達し，低平な地域（ピラポ川マンドビジュ川の沿岸など）では，一般にテーラロシャの土層薄く，傾斜面にあっては表面近に礫層，軽石または岩盤が散見される。なお概して森林下は膨軟，土壌構造も良く発達して角塊状を成し，そのため透水性は粘土含有が高いに拘らず一般に良い。土層は深く，通常4～5 m以上であり表層は腐植3％位，PHは5～6程度の弱酸性で，可溶態の燐酸の含有は低いが，加里は一般に富む。
	植生・林相	高地は林層が厚く，中には周囲6 m樹高20m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタンブ・グワイカ，カナフィスト等が多く，用材としては有名なラパーチョを始めセドロ，ローロネグロ，インシエンソがあるがその量は少い。グワタンブ・グワイカは軟材であるが，家具材・板材等に用いられる。 低地部は林層が薄く，灌木または耐湿草木が繁茂している。
	気候	一般に6～9月の冬期が雨期，10～5月の夏・春が乾期とされているが特に明確な区分はできない。 冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって，日温度較差は10～15℃冬期の平均降霜日数は7～15日位と見られる。 年間降雨日数は60～90日，雨量は1,500～2,000㎜であって当国最多雨地域に属している。

社会条件	交通	エンカルナシオン市までオエナウ・オブリガード経由75㎞，小型バスで約2時間であり1日8往復のバスの便がある。道路の舗装化工事が進んでいる。
	市場	エンカルナシオン市と対岸アルゼンティン国ポサーダス市，およびアスンシオン市

社会条件		が主な市場である。
	近傍主要都市	オエナウ，オブリガード市街地戸数350戸陸路40km，エンカルナシオン市人口5万陸路75km アルゼンティン国，ポサーダス市人口15万，エンカルナシオン市対岸水路2km アスンシオン市人口44万陸路445km
	医療・教育	移住地内に診療所（入院病室4）があり，日本人医師が駐在し，簡単な外科手術も可能である。エンカルナシオン市に公立病院がある。またオエナウにも総合病院がある。 救急車が1台配置されている。 移住地内に4校の公立小学校があり，校舎はすべて昭和46年，48年，49年，51年にそれぞれレンガ建に建替えられた。 パラグアイ国文部省から5名の教師が派遣され，午前，午後の2部授業を行っている。 なお，公立小学校の休みである土曜日，夏休みを利用して，それぞれの学校で日本語学校が開かれている。日語教師は13名。 中学校は大部分が移住地より40kmのオブリガード市，60kmのフラム移住地内にある中学校，および20kmの農学校にそれぞれ下宿通学している。 高等学校・大学はアスンシオン市で下宿通学しているが，昭和50年度には同市内に寄宿舎が完成した。
	治安	警察署1ケ所，分署が3ケ所ある。署長1名，分署長3名，兵士16名が常駐している。定期パトロールを地区毎に実施している。判事事務所は1ケ所ある。

2 入植状況

単身，呼寄は含まず

入植戸数と人員（内地）	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
	戸数	82	168	40	18	17	2	1						
	人員	437	912	213	95	94	11	4						

48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
			1	1	142	472	290
			5	7	450	2,228	1,668

㊟ 単身，呼寄は含まず

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	アルゼンティン国	ブラジル国	パラグァイ国	イグアス移住地	帰国
率（%）	37		27	11	25

主なる出身県名	岩手	高知	愛媛	北海道	鹿児島	秋田	福岡	宮城	その他	合計
現戸数	66	53	46	22	13	12	18	6	59	290

総面積	84,217 ha
ロッテ面積	30 ha, 60 ha, 300 ha
分譲条件および価格	30ha一括払 38.5万円，分割払 頭金38.5千円，9年据置5年分割払，利息5％ 60ha一括払 77万円，分割払 頭金77千円，9年据置 5年分割払 利息5％ 300ha一括払 385万円，分割払 頭金154万円 据置なし 10年分割払，利息5％
分譲可能面積	73,838 ha
分譲状況	分譲済面積 54,749 ha / 未分譲面積 19,089 ha / 道路市街地等利用地 3,323 ha / 除地 7,056 ha
地権取得	
農地	1,179ロッテ中取得850ロッテ，未取得329ロッテ
市街地	276 〃 185 〃 〃 91 〃
電気：飲料水	電気は，市街地のみISEPSA乾燥工場の発電機（75 KW）が供給，受益者約30戸。その他の農耕地居住者は，自家発電機が普及しつつあり，エンカルナシオン及びポサーダスのTVを視聴するアンテナの数も増えた。 飲料水は，全戸井戸使用で，丘地部の高所では20余mに及ぶところもある。通常数mから12～13 m掘削すると，水質は良くまた豊富である。
地区内道路	幹線，支線とも盛土で良好に整備されている。
主なる事業団援護施設	小学校3，教員宿舎3，診療所1，医師宿舎2，看護婦宿舎1，宿泊所2，警察署1，警察屯所3，判事事務所1，中央公民館1
車輌	救急車1台，スクールバス2台，オートバイ1台，ジープ3台，トラック1台，ブルドーザー1台，グレーダー1台
組合等所有	
施設	農協事務所1，農協支所4，稚蚕共同飼育所1，地区公民館3
車輌	トラック1台，小型トラック3台、農協乗用車1台，トラクター3台，ブルドーザー3台

3 営農

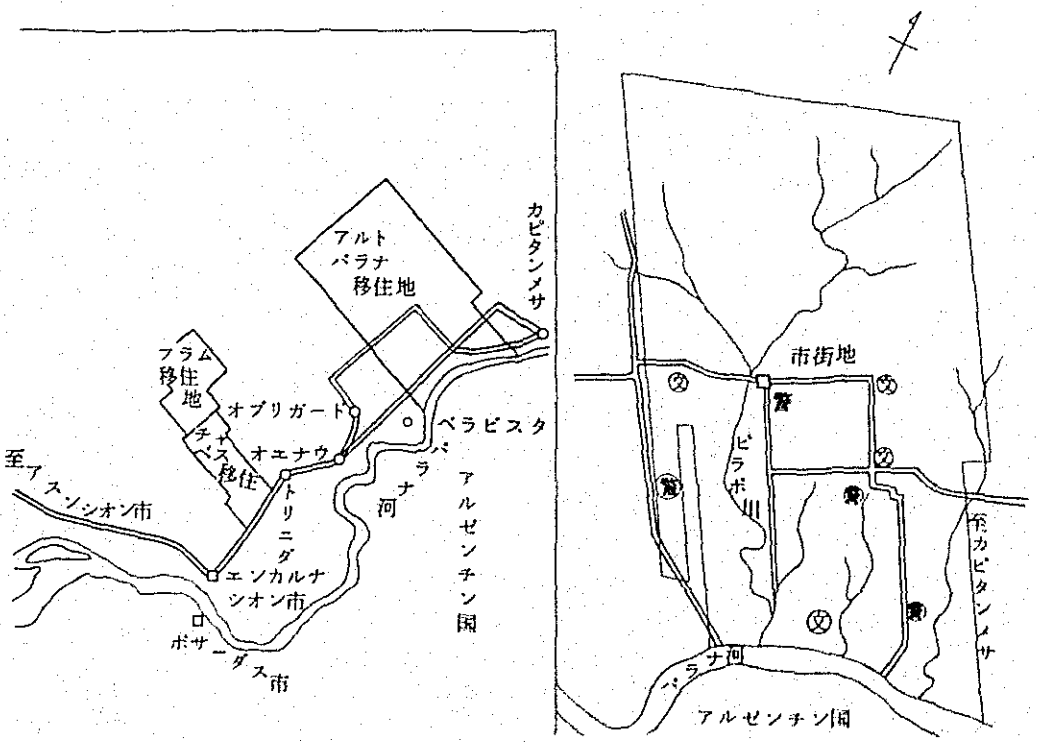
主作目	大豆，養蚕，油桐，トウモロコシ
営農状況	フラム移住地と同じく，大規模機械化による大豆栽培（裏作小麦），または養蚕，および永年作としての油桐と3本柱で，ほぼ順調な営農を行っている。
農機具等の普及状況	脱穀機1.4台，トラック0.4台，トラクター1.0台，コンバイン0.3台（昭和52年度調べ農家一戸当り平均）
営農指導機関	事業団（パラグァイ農業総合試験場アルトパラナ分場）
利用金融機関	銀行，農協，事業団
主作物の販売取扱	組合員は主作物の販売を殆ど全てイタプア中央会を通じて行っている。
機関並びに主市場	大豆は輸出又は国内会社

	繭は進出企業（ISEPSA） 油桐は国内搾油会社
農家所得（一戸当り平均昭和52年度）	2,796千円（1,144千G）

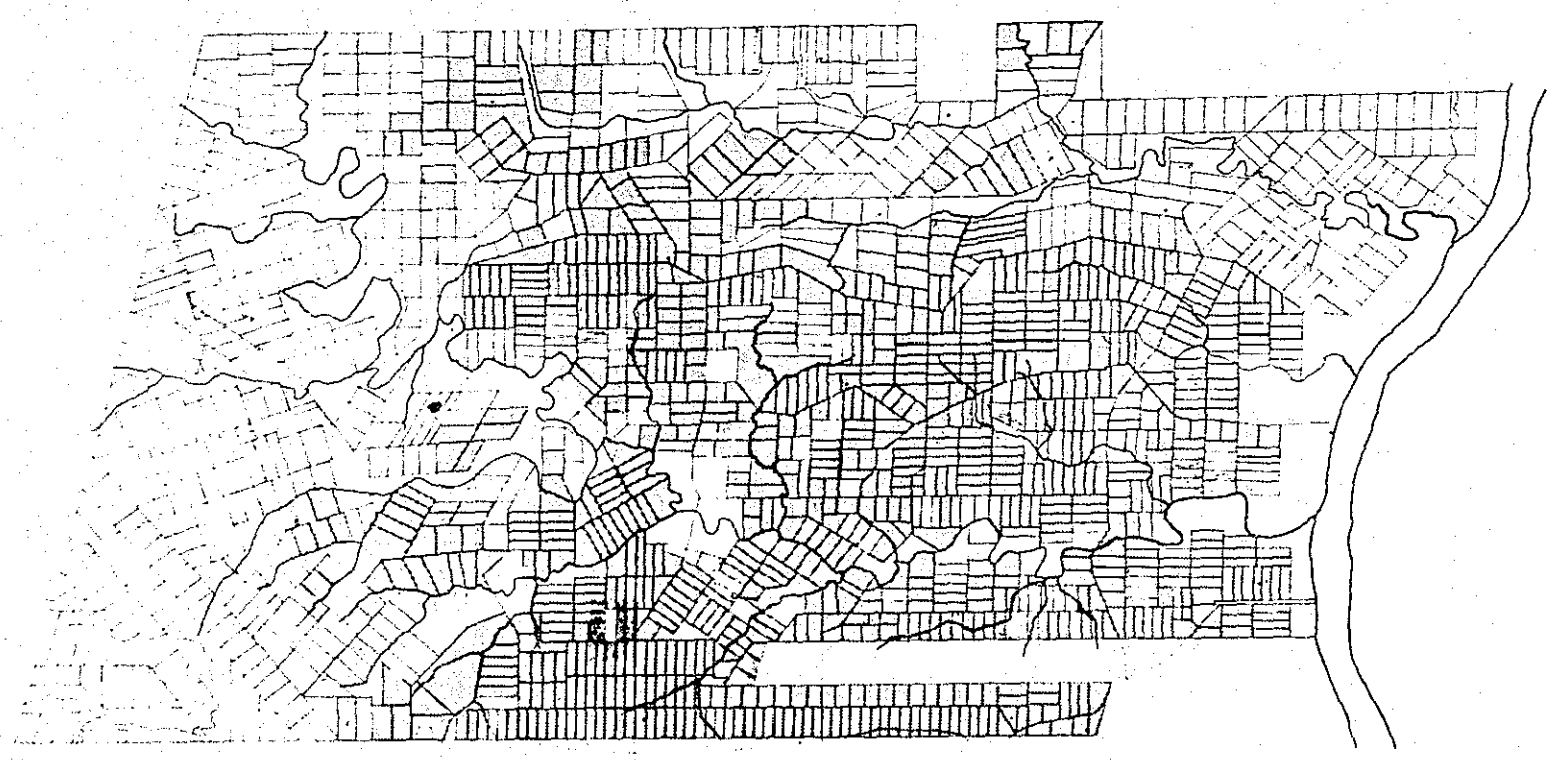
4 組織活動

自治会	ピラポ自治会があり全戸が加入している。主なる業務は道路補修，治安，教育，福利厚生である。自治会の下に設置されている任意団体には，青年団と婦人会体育連盟などがある。
農協	「ピラポ農業協同組合」（法定）を組織し販売部，購買部（第1～第5支所），信用部，運輸部，機械利用部，稚蚕共同飼育部，総務部の7部門があり，各部毎に独立採算制で堅実な運営を行っている。180戸が組合に加入している。他に「アカカラジャ農産組合」（法定）があり販売事業，信用事業を行なっている。 また「イタプア林産組合」（法定）がある。この組合は日パ混合で，当面は台湾桐を植林している。活動は活発である。

5 地区略図



アルトパラナ移住地入植状況（昭和53年3月31日現在）



移住地名　ラ・コルメナ

1　地区概要

所在地	所在地	パラグアリ県コルメナ郡 COLONIA "LA COLMENA", DISTRITO LA COLMENA, DPTO. PARAGUARI, REPÚBLICA DEL PARAGUAY
	管理者	設立当初は「ブラ拓」，現在はパラグアイ政府
	入植開始年	昭和11年

経緯	経緯	1934年（昭和9年），ブラジル拓植組合の専務であった故宮坂国人氏の調査報告に基き，1935年（昭和10年）～36年実地調査し，1936年（昭和11年）ブラ拓は400家族の日本人移住者を導入する目的で，11,000 haの土地を購入した。 同年6月第1回，7月に第2回，第3回と，それぞれブラジルより指導移住者が入植，翌8月に至り日本から直来の第1回入植者11家族81名が到着し，現在のコルメナ42年の歴史の第1歩が記されると共に，日本人の対パラグアイ移住の歴史がはじまった。以後1941年（昭和16年）までの5年間に指導移住者3回，日本から28回と合せて123家族790名が相次いで入植した。

自然条件	位置	W 57°　S 27°
	地形	緩傾斜の丘陵地で森林約60％，草地約40％である。移住地西南の小山脈の分水嶺が境界線となっている。標高平均250 m
	地質・土壌	森林の地質は，主に沖積土の腐植質に富む砂質土壌であるが，低湿地には粘土質の多い所もある。草地は砂質である。
	植生・林相	有用材は開発され殆どない。草地にはCARAGUATAY　TYDYCHO-MOATE等の灌木が自生している。
	気候	冬期（5～8月）は大陸内部の三寒四温的傾向。降霜日数，年間10日前後。夏期（11月～3月）は平均28℃ 雨量は年間50～60日前後で1,500 mm程度

社会条件	交通	首都アスンシオン市より東南131 km地点にあり，移住地よりアカアイまでの28kmは土道で雨天は交通止となる。バスで40分である。アカアイ～アスンシオン間103 kmはアスファルト道路で，バスで2時間20分である。 但し日本からの借款により1978年移住地～アカアイ間のアスファルト舗装が決定している。
	市場	主としてアスンシオン市
	近傍主要都市	ウブチミ人口3,000，小学校，病院，IPS，警察，電話，日用品販売店，旅館あり

社会条件	医療・教育	ウブクイ人口6,000，小学校，病院，IPS，警察，電話，日用品販売店，旅館あり アカアイ人口4,500　同上 （以上，電気・水道はない） カラペグア　人口12,000　同上　但し電気あり パラグアリ　人口20,000　県庁所在地　パラグアリ町 小，中，高校，病院，警察，軍隊，電話，日用品販売店，ホテル等あり 医療・市街地には社会保険（I.P.S）クリニックおよび保健センターがあり，常勤の看護婦1名と医師が巡回しており，主な予防注射は無料である。 また日本人医師1名が1939年（昭和14年）入植以来，日パ両国人に対して献身的に医療業務に当り，特殊な患者を除いて大体移住地内で治療されている。 教育，移住地内に小学校2校（1校は4年制），中学校1校（私立）があり，日系人は義務教育完全就学である。 上級校は殆どアスンシオン市で寄宿。 日語教育は，コルメナ文化協会が主体となって専任教師をおいて実施している。 1969年（昭和44年）日本政府の一部補助を得て，地元負担でレンガ建ての日語校舎が落成した。
	治安	判事々務所と警察署があり，治安は良好である。

2　入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	昭和11	12～16	17		29	30	31～49	50～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	11	102	—		3	6	122		18	262	73
	人員											438

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先　アルゼンチン，ブラジル，アスンシオン，ウルグアイ

主なる出身県名	東京	群馬	福島	長崎	岩手	その他	合計
戸数	9	6	6	5	5	42	73

総面積	11,000 ha（日本人所有地　3,500 ha）
ロッテ面積	当初20 haを1ロッテとしたが，現在の土地所有状態はまちまちである。 （一戸当り平均土地所有面積56 ha）
分譲条件及び価格	10年均等払い（頭金10％） 1ロッテ（20 ha平均）G's　2,000
分譲可能面積	9,100 ha
分譲状況（ha）	分譲済面積：9,100 未分譲面積：0 道路市街地等利用地：1,900

地権取得	地権発給は完了。 近年になってからの分譲はない。土地の売買は個人対個人で行われている。
電気・飲料水	市街地までは1976年に電化された。 飲料水は全戸井戸使用。
地区内道路	管理はコルナメ郡役所が行っているが，土質が砂質土のため雨の度に流亡が激しく，良好とはいえない。
地区内の主要施設	小学校3，分校3計6，中学校1，高等学校1，日語学校1，総合グランド，コルメナ日本人文化会館，診療所，市役所，税務所，銀行，電話局，郵便局，農業普及所，教会，判事々務所，警察署

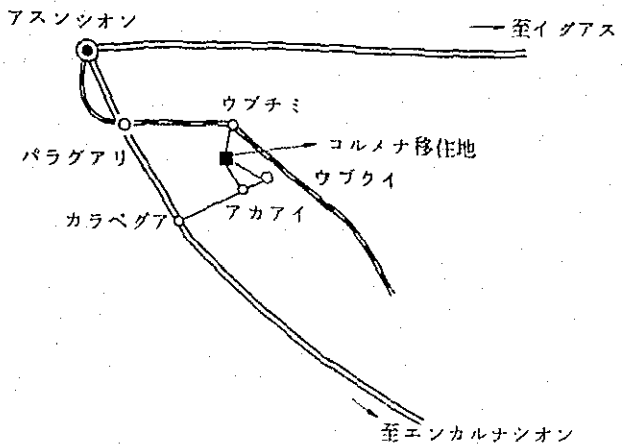
3 営　　農

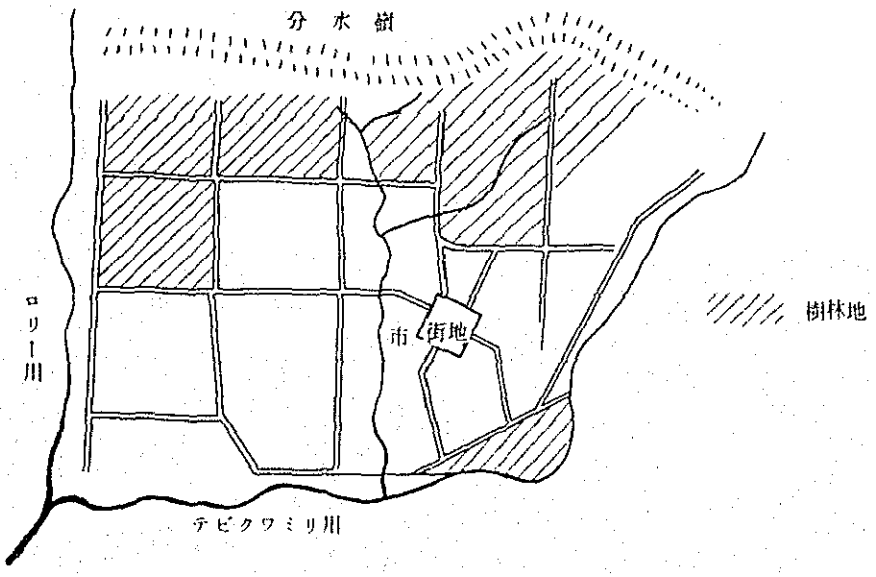
主作目	ブドウ，蔬菜，棉，肉牛
営農状況	永年作ブドウ（加工用）を中心に，地味ではあるが堅実な営農を行っている。 短期作としては棉，およびアスンシオンを市場とした蔬菜栽培を行っている。また近年養蚕が導入され次第に伸びつつある。
農機具の普及状況	耕転機10台，トラクター7台，脱穀機5台
営農指導機関	事業団アスンシオン支部。 またコルメナ農協が若干の営農指導を行っている。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	コルメナ農協，アスンシオン市

4 組織活動

自治会	日系人による自治組織の行政機関はなく，正式にはパラグアイ国行政組織につながっており，その末端の組織としてMunicipalidad de Colmenaがある。 ラ・コルメナ文化協会は日系人の親睦団体として渉外，事業，文化，体育，青年の5部を有し活発に活動を行っている。
農協	ラ・コルメナ農業協同組合　1948年（昭和23年）創立の法定農協，組合員数53名，常勤職員14名（本所，アスンシオン販売所） 販売部・農産加工部・購買部・利用部・信用部より成る。 農産加工部では，ブドウ酒醸造工場をもち，「コルメニータ」という銘柄のブドウ酒をつくっている。イグアス農協とコルメナ農協の2者により，東パラグアイ農協

中央会を結成し，主としてアスンシオンに於けるそ菜販売を受持っている。





移住地名　ストロエスネル

1　地区概要

所在地	所在地	アルト・パラナ県ストロエスネル市 COLONIA P. P. STROESSNER, KM 16, S/RUTA INTERNACIONAL, Dto. ALTO PARANA, PARAGUAY
	管理者	パ国政府内務省
	入植開始年度	昭和36年

経緯	経緯	国境地帯の地域開発，並びにアルト・パラナ県の農業振興を目的として，パ国政府直営で創設した混合移住地である。この移住地の西側に隣接して，事業団直営イグアス移住地がある。日本人の入植は昭和36年頃からフラム，チャベス両移住地の転住者にはじまり，毎年わずかづつ国内の各地から入植し，今日10世帯を算えている。主な作目は蔬菜であるが，雑作・大豆・とうもろこし等も栽培している。 なお，この移住地は一部の面積に植林を義務づけられている。

自然条件	位置	W 54°45′　S 25°30′
	地形	6,700 haのうち8％は森林，残りはアカラウ，モンダウ両河に沿う草地あるいは低湿地帯で，標高はパラナ河に向ってやや傾斜，南北はアカラウ，モンダウ両河に向い傾斜，移住地の中央を走る国際道路は分水嶺をなす。隣接のイグアス移住地よりは高く標高240～350 m，パラナ河沿岸200 m，イグアス移住地よりやや波状地形の波が少ない。
	植林・林相	隣接のイグアス移住地とほぼ同じ。
	気候	隣接のイグアス移住地と同じ。

社会条件	交通	首都アスンシオン市より移住地内，プエルト・プレシデンテ・ストロエスネル市経由伯国大西洋岸のパラナグア港まで通じている国際道路があって，両国を結ぶ動脈で完全舗装されている。アスンシオン市～プ・ストロエスネル市間急行バスが1日8往復，所要時間約5時間。 ブラジル国と国境を接しているので交通の便は良好。
	市場	アスンシオン市，ストロエスネル市が主な市場である。
	交通	首都アスンシオン市人口44万，陸路311 km 移住地市街地～ストロエスネル市陸路16 km，ストロエスネル市人口40,000
	医療・教育	移住地内には，移住地管理事務所をはじめ農協，診療所もあり軽度な病症の場合，診療所を利用しているが，重症者は隣接のイグアス診療所またはストロエスネル市の病院を利用している。

社会条件		移住地内には公立小学校 10 校，私立小学校 4 校，カトリック系中学校 1 校，ストロエスネル市内に公立小学校 4 校，私立小学校 3 校あり，邦人入植者の子弟は殆どバス通学で，設備の整ったコレヒオ・サレシアノ小学校に通学している。コレヒオ・サレシアノ小学校は中学校，高等学校を併設している。
	治安	邦人入植者はほぼルータ沿線 Km.14 地点に住んでおり，集団をなし，しかもプ・ストロエスネル特別区に近いため治安は良好である。

2 入植状況

内地入植者はなし。現在戸数 10 戸で，現地入植者である。

主なる出身県名	広島	北海道	山形	福岡	合計
現戸数	5	3	1	1	10

総積	75,000 ha
ロッテ面積	20 ha～40 ha
分譲条件および価格	頭金　土地代の 20 %
	残金　60 ヶ月の月賦償還
	現在分譲は行なっていない。
分譲可能面積	約 50,000 ha
電気・飲料水	殆どの家庭で自家発電を使用している。
	飲料水は 15 m前後堀削すると良質の水が得られる。
地区内道路	盛土のみ。
主なる事業団援護	
施設	なし
車輌	なし
組合等所有	
施設	拓進ジョポイラ農協と同じ。

3 営農

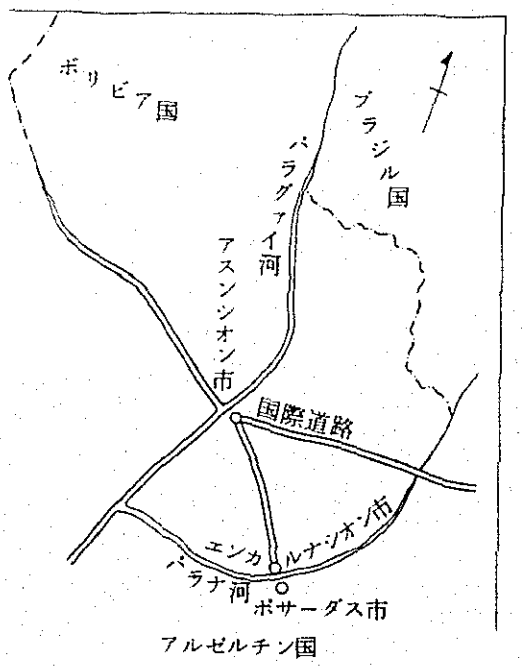
主作目	蔬菜，養鶏，大豆
営農状況	イグアス移住地と同じ。
営農指導機関	事業団パラグアイ農業総合試験場
	協力機関として，農牧省農林学校
利用金融機関	銀行，農協，事業団

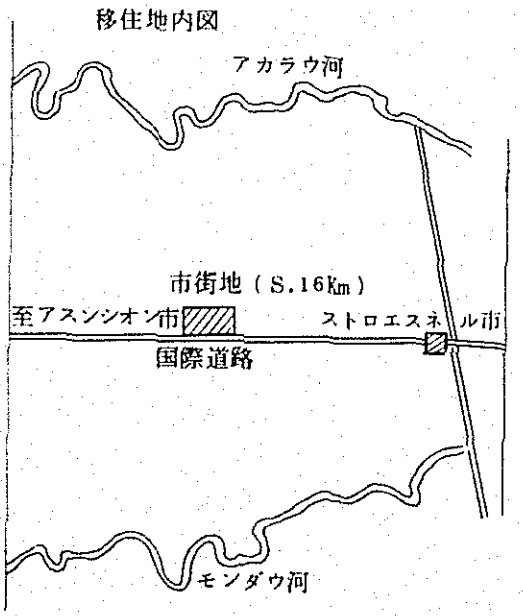
主作物の販売取扱機関並びに主市場	拓進ジョポイラ農協を通じ販売している。

4 組織活動

自治会	日本人移住者等でストロエスネル日本人会を結成しているが，殆ど親睦を目的としている。
農協	隣接のイグアス移住地内にある拓進ジョポイラ農協（法定）に殆ど加入している。

5 地区略図





移住地名　アマンバイ

1 地区概要

所在地	所在地	アマンバイ県ペドロ・フォアン・ガバリェロ市 PEDRO JUAN CABALLERO, DEPARTAMENTO DE AMAMBAY
	管理者	集団独立
	入植開始年度	昭和31年（1956年）

経緯	経緯	アマンバイ地区における日本人入植者は，旧C. A. F. E・会社にコーヒー栽培契約雇傭農として，昭和31年に初めて入植したが，同会社は，人的災害から経営不振に陥り，最後の入植者が入植する頃には脱耕者が続出し，昭和34年には遂に倒産した。その後残留日本人入植者は，同耕地を離れ多くは事業団援助により土地を購入し，自営農として独立した。同地区は，これらの人たちとパ国の他の地域から転住して土地を購入した日本人移住者の集団独立地である。移住者の多くは，永年作のコーヒー栽培に従事しているが，時折，降霜の被害を受け，安定作物とはいい難い。それ以外の主作目としては，養鶏，柑橘類（主としてポンカン），雑作（大豆，マイス，ヒマ等）があり，近年養蚕も導入されるに至った。

自然条件	位置	W 55° 44′　S 22° 32′
	地形	地形はかなり起伏があり，一般に波状ないしは丘陵地形である。
	地質・土壌	テーラロッシャの肥沃地と，低地は黒土の腐土砂土の湿地帯である。
	植林・林相	広葉常緑樹を豊富に包含した原生林である。
	気候	大陸性亜熱帯に属し，昼夜の気温差は，激しい。 雨期　10月～3月　　乾期　4月～9月 年間平均降雨量　1,589.2㎜ 気温平均最高　26.3℃ 気温平均最低　16.7℃ 気温年平均　21.5℃

社会条件	交通	同移住地は，8地区ほどに分かれた移住地で，ペドロ・ファアン・カバリェロ市から4～110㎞間に点在している。ペドロ・フォアン・ガバリェロ市からアスンシオンまで，バスが毎日5便運行，所要時間12～14時間，航空機は週6便（日曜を除く毎日），所要時間1時間20分を有する。コンセプシオン市まで，バスは毎日10～11便で所要時間5時間。
	市場	コーヒーの大部分は輸出向で，それ以外は　国内消費用として現地の商社に販売し

社会条件		ている。 蔬菜，柑橘，鶏卵等はポンタ・ポラン市を含む域内並びに，アスンシオン市が消費市場となっている。
	医療・教育	事業団の嘱託医による巡回診療が年1～2回，また，伯国の援護協会の診療も年1回同地区で実施されており，ペドロ・フォアン・ガバリェロ市には I.P.S 社会保険病院，国立保健病院，キリスト教系病院，個人診療所(5)等がある。 地区内に，小学校3校あるが，移住地内には上級学校がなく，中学以上に進学するには，何らかの形で市内に出なければならないが，昭和49年に寄宿舎が完成した。 ペドロ・フォアン・ガバリェロ市には，小学校は分校を合わせると7校，中学校，高校はそれぞれ3校あり，かつ，小，中，高課程に夜間部もある。
	治安	地区内4カ所に駐在所があり，ペドロ・フォアン市内には，本部の他に2カ所の駐在所がある。 治安は，市内に於いては国境の町特有の事件が時として起るが，移住内への影響はそれほどない。

2 入植状況

単身，呼寄は含まず

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数		54	53	30	0	0	0	0	1	0	6	6	1
	人員													
	年度	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
	戸数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	103	256	183
	人員													978

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住地	パラグアイ国	ブラジル国	ボリビア国	アルゼンチン国	帰国（内地）
率（%）	18	71	0	2	9

主なる出身県名	高知	北海道	熊本	和歌山	広島	福岡	鹿児島	香川	静岡	その他	合計
現戸数	30	32	22	13	13	11	6	7	6	43	183

総面積	8,000 ha
ロッテ面積	平均 142 ha，但し 50％の農家は 20～30 ha
価格	ha当り 10,000～15,000 ØS
地権取得	取得 75名，申請中 15名，未申請 5名
電気・飲料水	ペドロ・ファアン・カバリェロ市は電化されているが，家が散在する移住地内は電化されておらず，小数農家が自家発電装置を有しているにすぎない。

	主として，石油ランプ，プロパンガスにたよっている。
	飲料水はすべて井戸水，もしくは湧水を利用している。
地区内道路	幹線道路は，軍隊もしくは市により整備され，非幹線道路は入植者により整備されているが，雨期には極めて悪い道路状態となる。
主なる事業団援護	
施設	寄宿舎1（アマンバイ日本人会へ無償貸与）
車輌	トラクター（MF 44 HP）1台（アマンバイ農協へ無償貸与）
機械	スピード・スプレーヤー
組合等所有	
施設	精米工場1棟，コーヒー工場（兼乾燥工場）1棟
機械	エンジン3台，火力乾燥機1基，選別機1式，乾繭機2基

3 営農

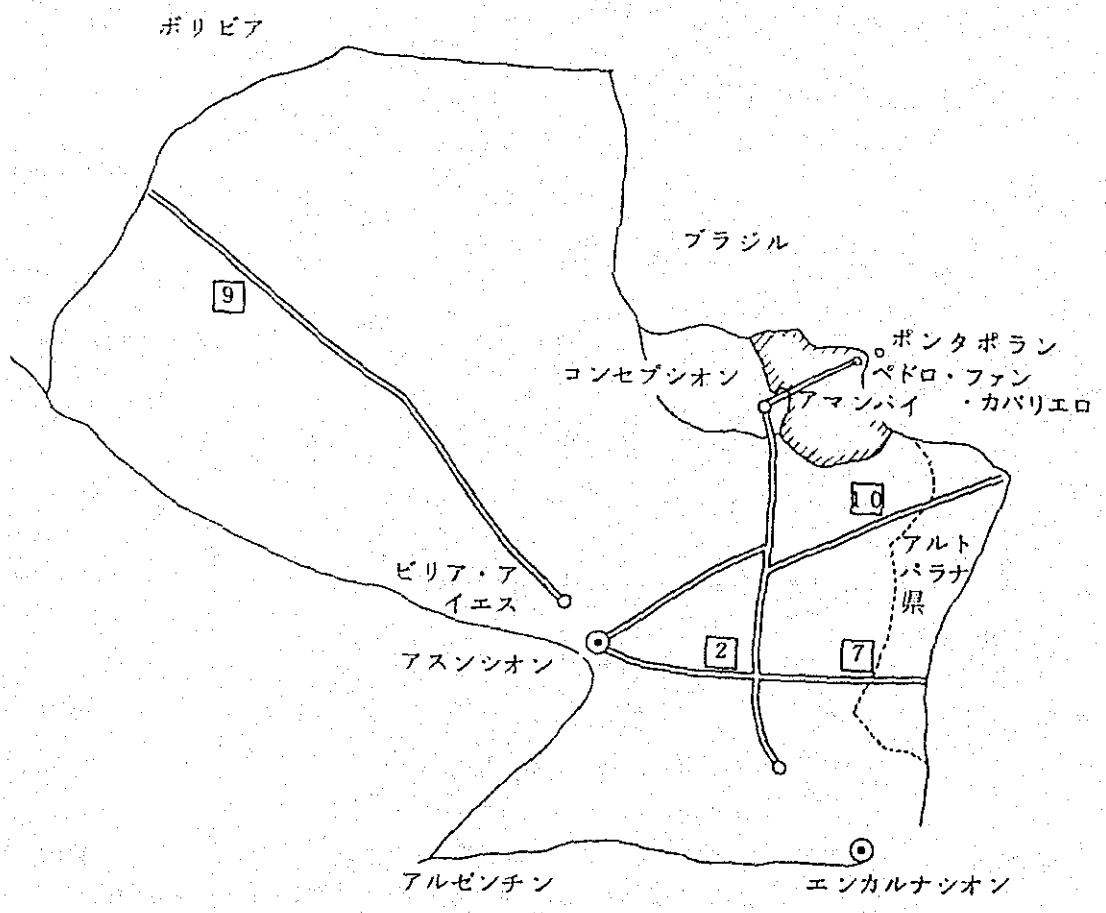
主作目	コーヒー，養鶏，雑作，蔬菜，養蚕
営農状況	過去大部分がコーヒーを主体とした営農を行っていたが，数回の霜害で半減し，現在は，霜害の少ない土地はコーヒー主体，その他は養鶏，雑作，蔬菜，商店との兼業と多種多様である。最近，養蚕が導入され，コーヒー，養鶏と並ぶ3本柱として，主作物が固まってきた。
農機具等の普及状況	トラック1.1台，トラクター0.2台，耕耘機0.7台，乗用車0.3台，動噴機0.7台，（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団アスンシオン支部，同支部アマンバイ出張所
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	コーヒー，繭はほとんど全て農協を通じて販売されているが，その他は庭先売と農協扱と半々である。 コーヒーは精選後，アメリカへ輸出，繭は進出企業（ISEPSA）
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	3,068千円（1,255千$）

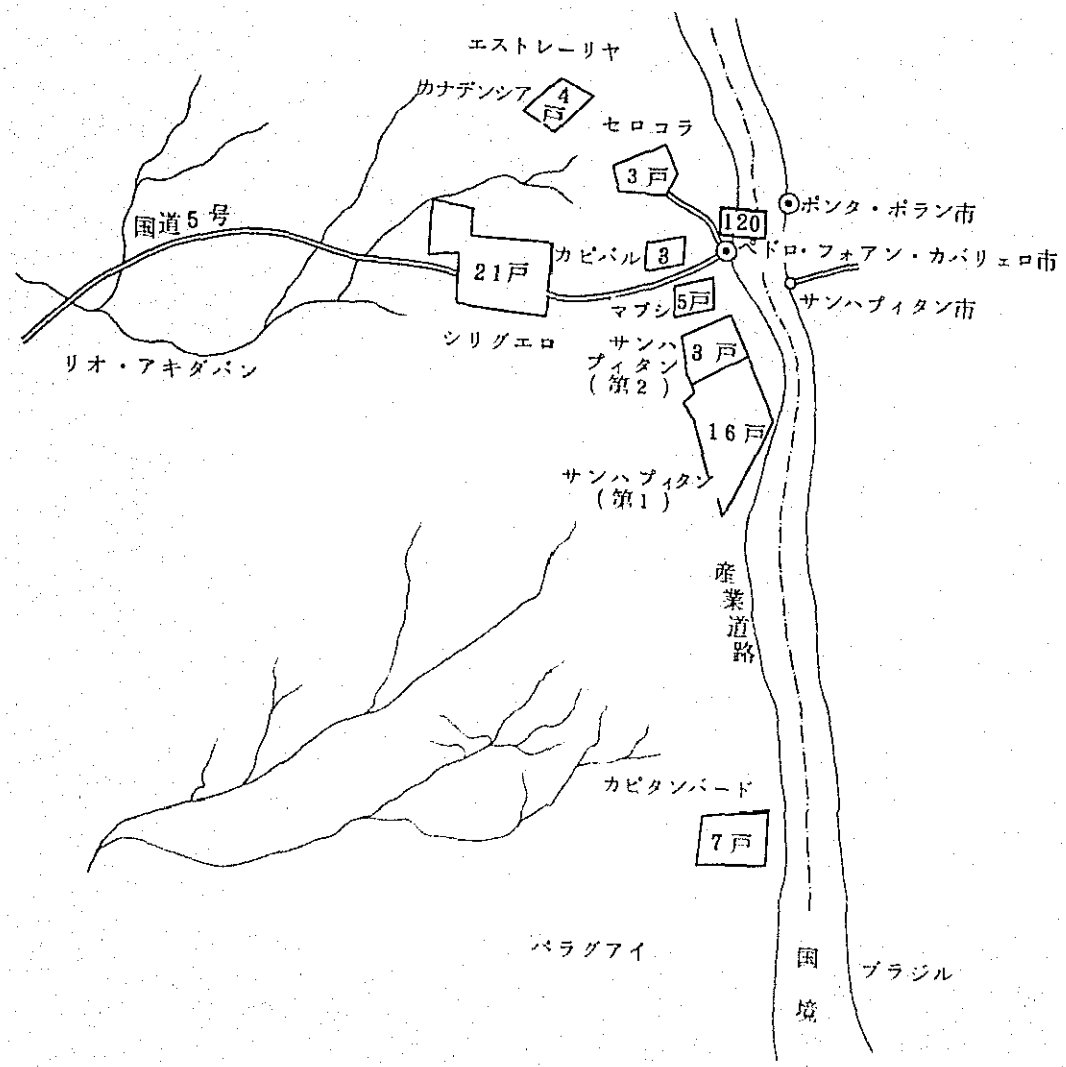
4 組織活動

自治会	アマンバイ日本人会 創立　1970年1月（昭和45年） 会員数　132名 主要事業　現地機関との折衝，大使館業務の取継ぎ 自治，教育，厚生，教育，医療対策，各種行事の主催

農　　協	支　　部　P.J.C. 市に本部があり，7つの支部を有する。 「アマンバイ農協」および「エストレーリヤ農協」の2組合がある。 そのうち，アマンバイ農協は，1961年（昭和36年），ジョンソン耕地独立と同時に創立，一時は組合員100名近くに達したが，その後，移住地営農の不振による退耕，離農によって，また，組合の放慢経営によって脱退者が続出。現在ではわずか40名となったが，手固く堅実に運営，少しずつ過去の債務を返済しつつある。なお，主要事業は，販売，購買事業とコーヒーの乾燥，精選事業，生繭の乾繭事業，機械利用事業（トラクター）もあり，このうち販売事業の主な取扱い生産物は，コーヒー，繭，大豆である。 一方，エストレーリヤ農協は，コーヒーの精選と販売加工のみを目的とした組合で，1969年（昭和44年）に創立，現在組合員は11名である。 1977年事業団と2組合の三者で，開発委員会を設け，地域性を生かした農業の見直しに取組んでいる。

5　地　図　略　図




エストレーリヤ
カナデンシア
4戸
セロコラ
3戸
国道5号
120
ポンタ・ポラン市
21戸
カピバル
3
ペドロ・フォアン・カバリェロ市
マブシ
5戸
サンハブィタン市
シリグエロ
サンハブィタン（第2）
3戸
リオ・アキダバン
16戸
サンハブィタン（第1）
産業道路
カピタンバード
7戸
パラグアイ
国境
ブラジル

ボリビア国

〔政　治〕

ボリビアは1825年独立以来現政権まで政変につぐ政変のため豊富な資源を擁しながら，国運が遅々として発展しない一方，チリとの太平洋戦争による敗北のため海岸線を失い内陸国となり，またパラグアイとのチャコ戦争により有望な石油地帯を失った上，厖大な人的物的損失を蒙ったため国力は極度に疲弊した。

オバンド，トーレス両政権時代には労働組合，学生等極左勢力の伸長によって著しく左傾したが，これを不満とする軍部は民族革命運動党（MNR），ボリビア・ファランヘ社会党（ＦＳＢ）二大政党の支持を得て，1971年（昭和46年）8月バンセル政権を誕生させた。同政権は政治的に反共を基盤とするナショナリズムを標榜し，経済的には私企業活動の尊重，外交的には親米，親自由主義諸国等を基本路線とし，約7年間政権を維持した。

かくの如き状況を受け，民主化路線を対外的に実証すべく，国外に亡命していた左翼政党の指導者等をも迎えて1978年7月9日"民主的"な大統領選が実施され，僅少の差で与党のファン・ペレダ・アスプン将軍が当選した。が，野党各派は選挙に不正干渉があったとしてこの無効を叫び，サンタ・クルース市を中心に反乱が起きたためペレダ支持派はクーデターにより政権を取り，ペレダ将軍が自ら大統領に就任した。同大統領は自分が普通の軍人独裁者でないことを示すためにも最大限の努力を傾注しており法制の自由化に努め，ボリビアを一層民主的国家にすると約束するとともに，1980年に選挙を実施すると述べる等穏健政治路線を歩んでいる。

政体は立憲共和制で1826年以来何度も憲法改正があり，現行憲法は1967年（昭和42年）改正されたものである。大統領は国の元首であると同時に行政府の首班である。地方行政は9州にわけられている。国会は閉鎖されているが，27名の上院と102名の下院とからなる。

〔経　済〕

ボリビアは豊かな鉱物資源に恵まれた国であり，錫については世界の3大生産国の1つである。鉱産物輸出は錫，原油，亜鉛，銀，アンチモン等でボリビアの輸送総額の88％（1974年）を占めるにかかわらず，国内総生産に対する鉱業のシェアーは，20％に過ぎず，国民の60％は農業に従事し，国内総生産への寄与率は著しく低い。全土の80％を占める高原，渓谷地帯は，零細なミニフンディオ（零細土地所有制度を指す）で新技術が不足し，平原地帯は約３０万７千平方キロメートルのうち耕作面積は約８万平方キロメートルである。１９６５～７０年間の農業はマイナス成長であったが，其の後７４年まで5.3％で拡大してきており，これはサンタクルース地区の綿花，米，砂糖，牛肉生産の伸長に基因する。

鉱業部門は規模により①国有化された大規模なもの（生産の50％）②中規模の22の民間企業（25％）③約2,500の小規模経営に分けられる。鉱業開発の最大の阻害要因は資金不足であったが近年安定政権に支えられて外資の流入が活発化し，特に石油部門の伸びが著しい。

工業部門には未だ見るべきものが無い。国内総生産の14％を占めるに過ぎず，極めて初期の発展段階にとどまっている。

総じて，バンセル政権誕生以降の経済成長には目ざましいものがあり，国内総生産の成長率は実質６％を上廻り，国内貯蓄の伸びと資本の増大によって高レベルに達している。長期安定政権と当を得た経済政策の展開，加えて石油価格の上昇により海外からの投資も著しく増大した。

〔社　会〕

インカや植民地時代から近代にまで引継がれてきた厳しい階級制度のために，教育は一部の支配層だけのものであった。かっては原住民のほとんどは農村地域で伝統的生活様式に固執し，自給自足の経済から脱け出ようとしない。彼らは自家製の粗末な衣服をまとい，馬鈴薯，とうもろこし，バナナ，米を主食としていた。その住居も一般に極めて貧弱であった。

これに比べ，都市の生活はより近代的である。都市住民のほとんどはヨーロッパ風の衣服をまとい，その食・住生活も西欧化されている。

つまりボリビアでは，前近代的文化と西欧的文化とが溶け合うことなく共存しているのである。1952年（昭和27年）革命後，各地に開設された農村学校と成人教育によって，かっては60％と言われた文盲率も急速に改善されてきている。殊に近年トランジスタ・ラジオの普及は，広いアンデス高原に散在する原住民に耳からの教育が行われるようになった。なかでも鉱山地帯や，ラ・パス市近辺の農村の若い世代には新しい教育を受けよりよい生活を求めようとする気運が生れつつある。

初等教育は義務制で5年，中等教育は3年，高等教育は4年，大学は5～7年である。

〔総括概況〕

国土面積（㎢）		1,098,581
人　口（1976年推定）		5,790,000
年間人口増加率（1965～74）		2.6％
人口密度（1976年㎢当り）		5.3人
出生率（1970～75，1,000人当り）		44　人
死亡率（　〃　〃　）		19.1人
首　都：ラパス　人口（1974）		697,480　人
経済活動人口（1975）		35.4％
貨　幣：$b．ペソボリビアノ	米合衆国弗換算　$／$b	20
年間国民所得額　1人当り（1976）		382 US$
国民総生産（1976）		2,416百万ドル
経済成長率（1976）		6.7％
国　語：スペイン語		

（出典：Almanaque Mundial 1978
但し，国民所得，国民総生産，経済成長率の項は外務省資料を参照）

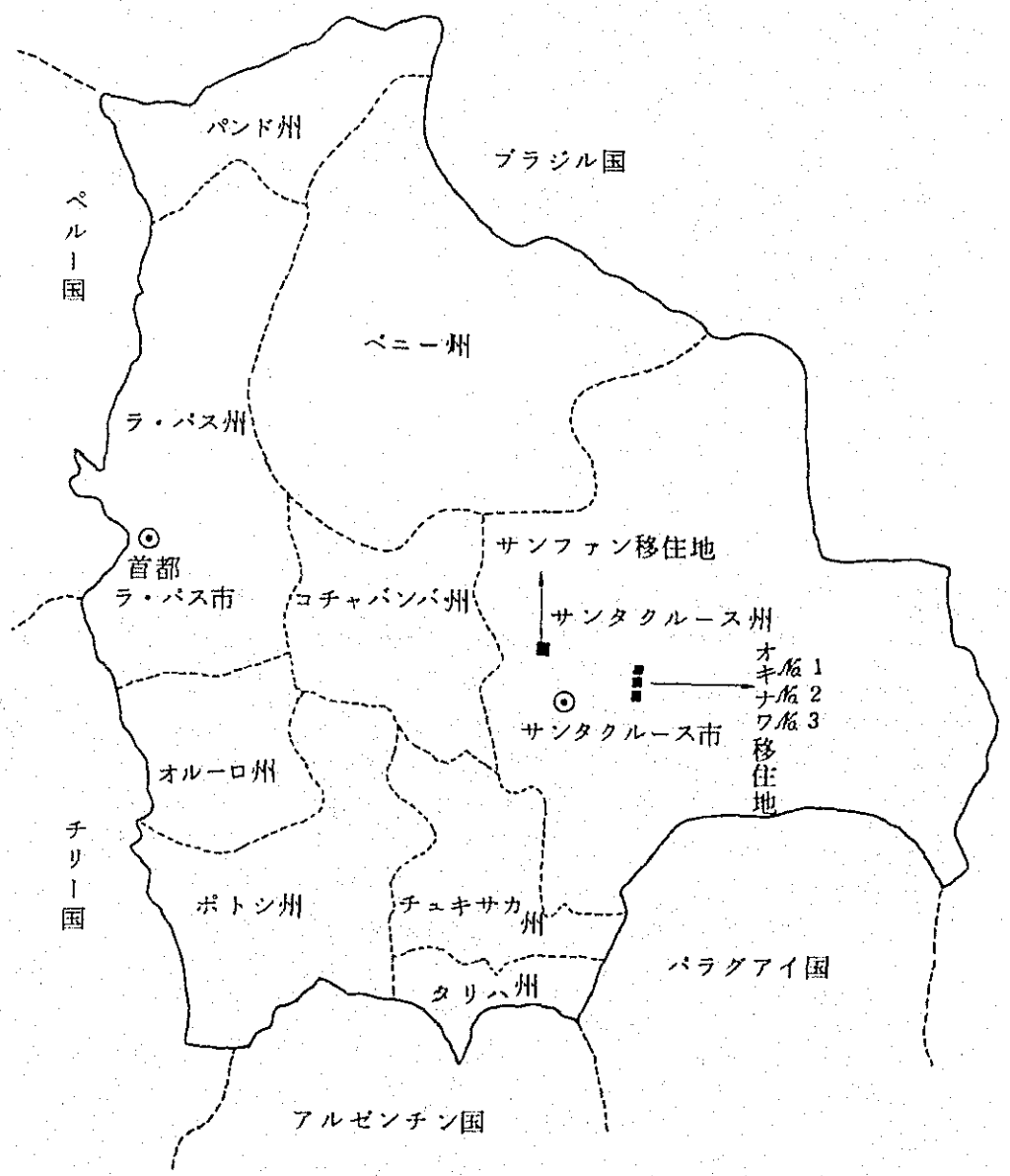
注．ペレダ将軍は1978年11月の政変により失脚、ダビド・パディーリャ陸軍中将が政権を握った（54年1月）

サンタ・クルース支部管内

支部機構

サンタ・クルース支部（サンタ・クルース市）

- サンファン事業所　（サンファン移住地）
- サンファン試験農場　（　〃　）
- オキナワ事業所　（オキナワ第２移住地）
- ヌエバ・エスペランサ（オキナワ第２移住地）



移住地名　サンファン移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンタ・クルース州イチロー郡サン・カルロス村 COLONIA SAN JUAN DE YAPACANI, CANTON SAN CARLOS, PROVINCIA ICHILO, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和30年（1955年）

経緯	経緯	戦後の移住は，1953年（昭和28年）ボリビア政府が当時兼轄していた在ペルー日本公使館に対し，日本移住者を歓迎する旨の意向を表明したことが動機となった。 これに対し，日本政府は早速具体化するため種々検討の結果，翌1954年（昭和29年）ボリビア政府と直接交渉を行うとともに，現状把握のため現地調査団を派遣した。その結果，ヤパカニ河沿いの国有地が移住地適地と決められ，これが現在のサンファン移住地である。 1955年（昭和30年）に最初の移住者（西川移民）17戸88名がサンファン移住地の一角に入植した。以来1973年（昭和48年）9月（最終入植）までに，28次に亘り323家族1,648人が入植した。入植初期の段階には，立地条件の不良等々の理由もあったので多くの脱耕者があり，これらの転耕者の多くは伯国，亜国等へ転住した。 入植者の経営は当初の焼畑式の陸稲栽培に頼っていたが，最近逐次永久耕地化がなされ大型機械化陸稲栽培，養鶏の導入および大豆栽培が盛んになっている。 現在ほぼ営農は安定をみるに至っている。

自然条件	位置	W 63° 51′　S 17° 21′
	地形	大部分は平坦で小川により浅谷がほぼ南から北に走っている。
	土地・土壌	沖積層台地で砂土，植土が混交，PH 4.5～5.6
	植生・林相	ビボシ等の熱帯樹木が繁茂し直径30cm以上のものが1ha当り200～250本程度，樹高平均20m。
	気候	雨期12～3月，乾期5～9月，気温平均最高29.0℃，平均最低19.9℃，平均年間降雨量2,000mm

	交通	首都ラ・パス市より陸路サンタ・クルース市1,028km，空路ラ・パス市～サンタ・クルース市約50分，サンタ・クルース市より移住地入口まで約125kmの国道が通じており完全舗装されている。この国道はヤパカニ河を渡りコチャバンバ市に通じ

社会条件		る計画で現在工事は進行中である。 移住地内道路は全ロッテに通じている，サンタ・クルース市より移住地センター（地区内 12 km地点）まで1日4往復のバス便がある。
	市　　場	サンタクルース市が最も近い市場であり，この他にコチャバンバ市，ラ・パス市が産米の主な販売市場となっている。 将来は，ヤパカニ河を渡りボ国第2の都市コチャバンバ市に通じる最短道路が完成すると一段と，市場が拡充される。
	近傍主要都市	サンタクルース人口は 25 万人，陸路 140 km，モンテーロ市人口 3 万人，陸路 86 km，コチャバンバ市人口 20 万，陸路 630 km
	医療・教育	移住地センターに診療所（入院可能）があり，日本医師が駐在し開腹手術も可能であり，余程の重症でない限りサンタクルース市の病院に行く必要はない。救急車1台が配属されている。 移住地センターに小学校1校，中学校1校があり，生徒は自転車，スクールバスで通学している。義務制で6歳以上の者が入学し期間は小学校5年，中学校3年，高校4年（ボ国学制）である。他に私立の日系幼稚園（園児50名）もある。
	治　　安	ボ国警察官が常駐し，移住地周辺の治安に当っている。移住地内 12 km地点および 26 km地点に，警察屯所があり，設備は完備している。事業団より警備用オートバイ各1台が貸代されている。

2. 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	17		46	88	1	5	111	18	19		1		3
	人員	88		252	438	1	31	626	98	80		6		7

年度	43	44	45	46	47	48	49	50	52	現地入植者	合計	定着数
戸数	6	3	1		1	3	1	3	1		328	214
人員	6	10	1		1	3	1	3	1		1,653	1,176

昭和53年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率（%）	28	26	20	5	21

主なる出身県名	長崎	福岡	北海道	高知	東京	熊本	その他	合計
戸数	107	24	16	10	8	7	42	214

総面積	27,132 ha
ロッテ面積	50 ha
分譲条件および価格	無償，現在は時価により売買されている。
分譲可能面積	26,750 ha
分譲状況	分譲済面積 26,750 ha / 未分譲面積 0 / 道路市街地等利用地 450 ha / 除地 132 ha
地権取得	全地権取得済
電気：飲料水	電気は自家発電（220ボルト使用），普及率約3.1％，現在ボ国政府による電化工事実施中である。飲料水は3 m～10 m（平均7 m）の深さで水を得ることが可能であり，自家堀り井戸で賄っている。一部の家庭では打込井戸を使用している。
地区内道路	幹線は砂利道，支線は盛土である。
主なる事業団援護施設	小学校1，中学校1，教員宿舎2，診療所1，医師宿舎1，看護婦宿舎1，警察屯所2，組合事務所1，組合クラブ1，共同販売所1
車輌	救急車1，治安用オートバイ2，トラック2，ブルドーザ2，広報車1
組合等所有施設	飼料配合工場（付搾油施設），サンタクルス事務所（1977.12完成）
車輌機材等	スクールバス1，大型トラック4，小型トラック3，他2，ブルドーザー1

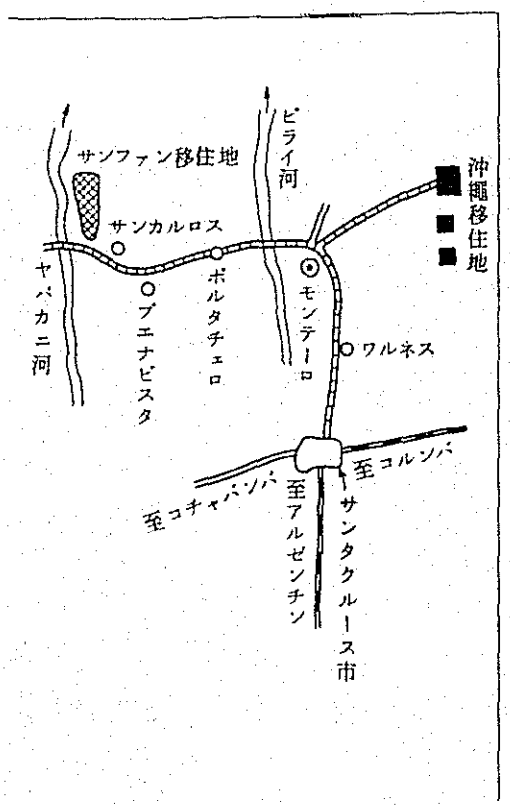
3. 営農

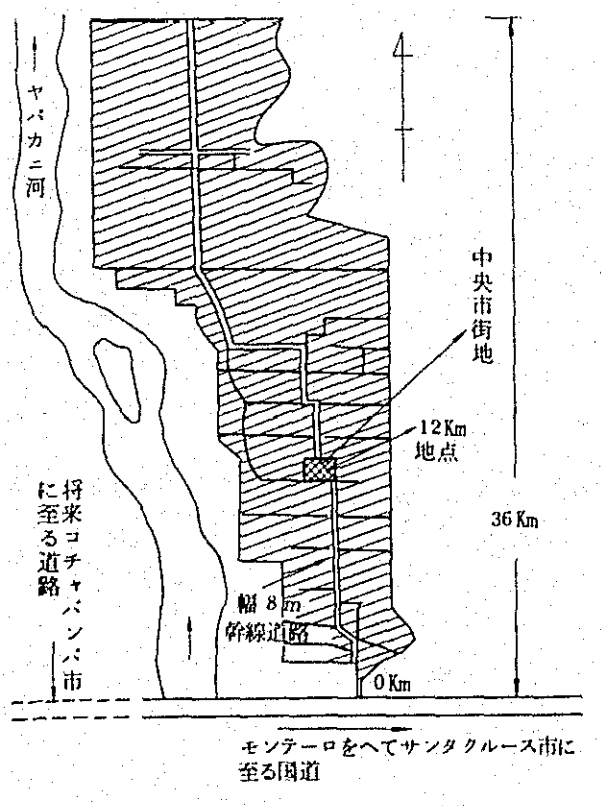
主作目	養鶏，陸稲，大豆
営農状況	入植来の米作偏重から脱却し，養鶏，大豆を3本柱として資金の蓄積を行ない，将来はこれを牧畜へと還元すべく営農の進展を図っている。
農機具等の普及状況	トラクター0.7台，コンバイン0.2台，プラウ0.6台，運搬用機械0.3台，精米機0.2台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団サンファン試験農場が担当し，主に基幹作物の試験を実施しつつ指導を行っている。また必要に応じ，事業団のヌエバエスペランサ畜産試験農場の協力があるほか，随時，モンテーロ市近郊にあるボ国側のサベドラ試験場の協力を受けることができる。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物販売取扱機関並びに主市場	サンファン農牧総合協同組合 サンタクルース，コチャバンバ，ラ・パス
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,729千円（177,210 $b）

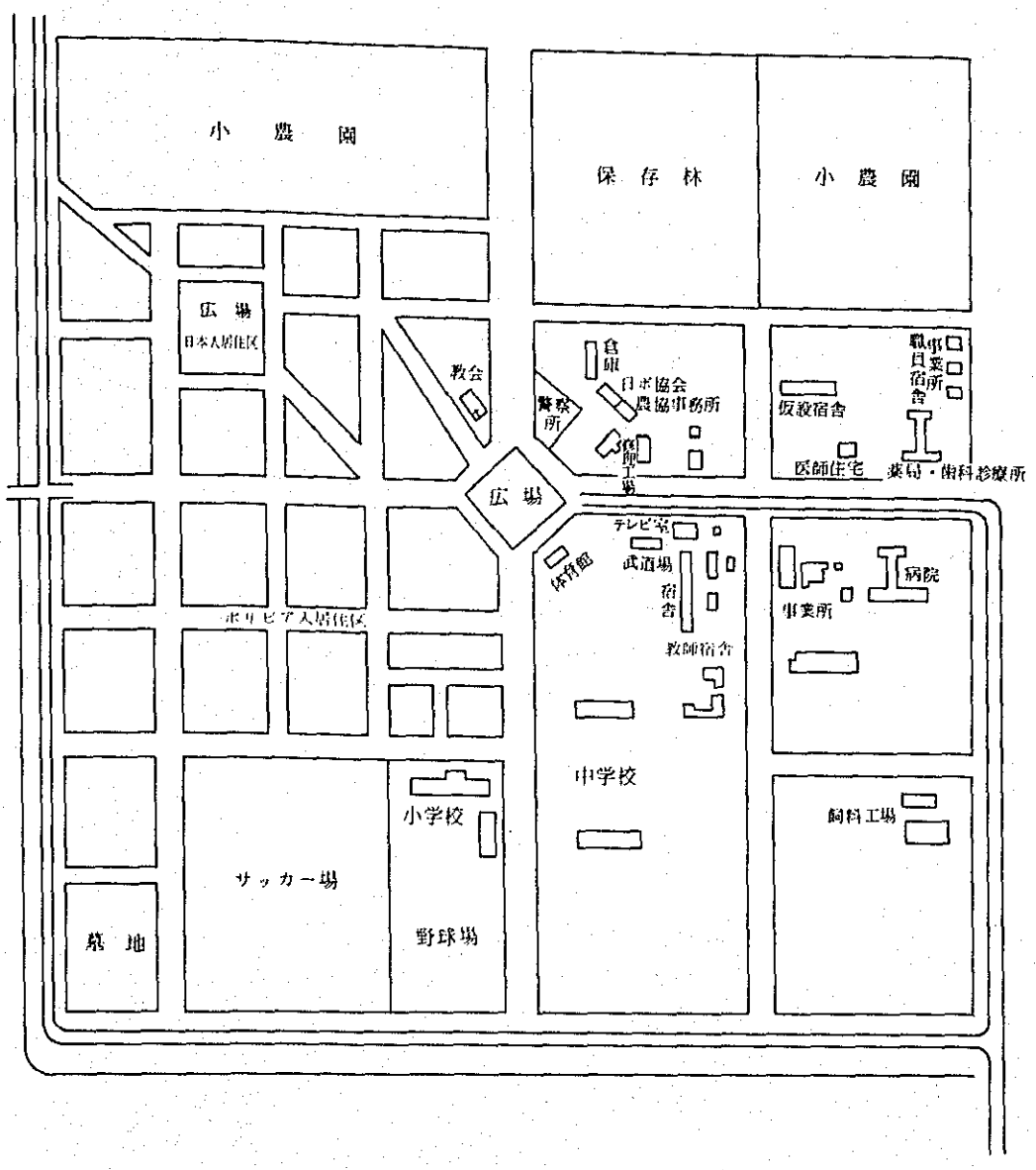
4. 組 織 活 動

自　治　会	「サンファン日ボ協会」（1977年4月設立：1977年8月1日法人格取得）を組織し，教育，土木，治安の事業を行っている。 自治会は，西川，中央，栄町，富士，ビクトル，共励，大和の7区に区分され，それぞれ区長が置かれている。他にサンファン連合青年会，サンファン連合婦人会があり，それぞれ地区全域で活動を行っている。
農　協	「サンファン農牧総合協同組合」（法定）を組織し，管理部，購販売部，機械利用部，修理部，輸送部，及び飼料配合部があり，堅実な運営を行っている。 現在，組合員159戸（農家数163戸）従業員50名（他に常時20名前後の人夫を雇用），サンククルス市，ラパス市に出張所を有す。
搾油兼飼料工場	養鶏ブームに伴ない，大豆の搾油ならびに飼料配合事業を1973年（昭和48年）7月に開始した。同年9月より本格操業に入り，現在月産700トンの配合飼料を組合員に供給している。附属施設として1,660トン貯蔵可能のサイロを有す。 従業員は，日本人5，ボ国人21，計26名の他常時20名前後の臨時人夫により，搾油部門では月～土曜連続終夜操業により，移住者の需要に応えている。

5. 地 区 略 図






小農園
保存林
小農園
広場
日本人居住区
教会
倉庫
日ボ協会
農協事務所
警察所
職員宿舎
事業所
仮設宿舎
医師住宅
薬局・歯科診療所
広場
テレビ室
体育館
武道場
宿舎
教師宿舎
病院
事業所
ボリビア人居住区
中学校
飼料工場
小学校
サッカー場
野球場
墓地

移住地名　オキナワ第1移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンタクルース州ワルネス郡ロス・チャコス村 CANTON LOS CHACOS, PROVINCIA WARNES, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者	事業団・昭和42年7月以降（1967．7以降）
	入植開始年度	昭和34年（1959年）

経緯	経緯	昭和28年，ボリビア国リベラルタ市の沖縄出身の在留邦人は，「古今未曽有の大戦争の激戦地になった沖縄の同胞を援護することは人道上の必然的義務である」，という趣旨のもとに沖縄県人のボリビア移住促進計画が開始され，「うるま農産組合」を結成して，ボ国政府に働きかけ，昭和27年サンタクルース県に国有地の払下げを受け，移住地を創設したのが「うるま植民地」である。琉球政府より調査員を派遣，ボ国政府と交渉し移住地の調査を実施した結果，移住開始が確定した。この「うるま植民地」には，昭和29年8月第一陣278名，同年9月第二陣127名が入植したが，間もなく病名不明の熱病が流行し犠牲者も出たため，地区の移転を計画し，ボ国政府と折衝し，昭和30年同県のパロメティーリャへ全員移転した。しかし移って見たもののここでは付近地主の反対，定着条件に欠けること等があり，三転して昭和30年現在地に移転を開始翌年9月移転を完了した。 さらに，第2の移住地候補についてボ国政府に交渉し，その結果南方22㎞のワポモーというところに移住地を得た。前の移住地をオキナワ第1移住地といい，これをオキナワ第2移住地とした。そして昭和36年12月には，オキナワ第2移住地の南方16㎞から始まる地点にさらにオキナワ第3移住地を得た。 この間，沖縄からの移住は引続き行われたが転耕者も多く出ている。 昭和34年1月，琉球政府の「ボリビア移住地駐在事務所」が開設され，又昭和38年6月「琉球海外移住公社ボリビア出張所」が開設された。 この移住地は，従来琉球政府が経営主体となり指導，援護を行っていたが，昭和42年7月沖縄県の祖国復帰にさきがけて事業団に移管し今日に至っている。 当初の営農は陸稲が中心であったが，最近は肉牛飼育熱が高まっているほか，綿花栽培，養鶏さらに大豆，とうもろこし等の雑作栽培が盛んになっている。

自然条件	位置	W 62° 55′　S 17° 10′
	地形	リオグランデ河およびパイロン河にはさまれた平坦地。 標高 319 m～307 m
	地質・土壌	リオグランデ，パイロン川沖積層（泥，粘土，砂土から成る） 植，植壌，壌土および微砂質壌土砂質土。PH 4.5～6.5

自然条件	植生・林相	北部は，樹高10～15mのアホー，サパイモーシ，ブランキリョ，モタクー，オチョオ，南部は，クーチ，クルパウなどの濶葉樹に大別される。浸水地帯の再生林では，二次的にサウヤが密生している。草生は禾本科が多いが亜熱帯草も多い。
	気候	雨期10～3月，乾期4～9月，気温平均最高29.0℃，平均最低20.1℃，平均年間降雨量775mm

社会条件	交通	首都ラ・パス市より陸路サンタ・クルース市経由1,124km。空路ラ・パス市～サンタ・クルース市約50分。サンタ・クルース市より北方の第1移住地まで約96kmで国道が通じており，完全舗装されている。バスの便は頻繁にあり所要時間約2時間
	市場	サンタクルース市，ラ・パス市が主な市場で，このほかにもモンテーロ市が近い市場としてある。輸出向の綿もサンタクルース市で取引されている。
	近傍主要都市	サンタクルース市人口25万，陸路96Km。モンテーロ市人口は3万，陸路42km。
	医療・教育	移住地内に第一分院があり，医師が駐在し入院も可能であり殆ど治療出来る。 病状によっては中央診療所（第2移住地）より日本人医師が出張している。 救急車1台配属されている。 移住地内にコロニア沖縄第1小中学校（小学5年，中学3年）があり生徒は自転車，スクールバスで通学，高校生はモンテロ，またサンタクルース（同市には学生寮がある。）に寄宿し通学している。
	治安	ボ国警察官（署長1兵2）が常駐し，移住地内外の治安に当っている。治安事務所があり施設は完備している。事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。

2. 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	153	39		44	91	81	58	72	81	36	23			
	人員	405	122		214	437	453	309	482	509	198	102			

年度	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	現地入植者	合計	定着数
戸数	11	6	1		4		1		3	4	2	710	113
人数	26	34	5		19		1		15	7	6	3,344	680

（注）オキナワ移住地　第1，第2，第3合計　　昭和53年3月末

農耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率（%）	48	17	12	3	20

主なる出身県名	沖縄							合計
現戸数	113							113

総面積	21,800 ha
ロッテ面積	50 ha
分譲条件および価格	無　償。現在は時価により売買されている。
分譲可能面積	21,600 ha
分譲状況	分譲済面積 21,600 ha / 未分譲面積 0 / 道路市街地等利用地 200 ha / 除地 0 ha
地権取得	全戸地権取得済
電気：飲料水	電気は自家発電（220ボルト）を使用，現在はわずかに市街地の数軒が点灯しているにすぎないが，CREによる市街地電化が1978年に完了する予定。 飲料水は，各戸に深井戸が掘削されている。 約100 m以上掘削すると自噴の可能性あり，水質も良好である。
地区内道路	移住地中央部に国道が貫通（モンテーロ～ロス・トロンコス間）しており，舗装されている。地区内は盛土である。
主なる事業団援護施設	小学校2，医師宿舎1，治安事務所1
車輌	救急車1，スクールバス1，治安用オートバイ1
組合等所有施設	精米所1，組合事務所兼売店1，小学校3，診療所1
車輌	トラクター2

3. 営　　農

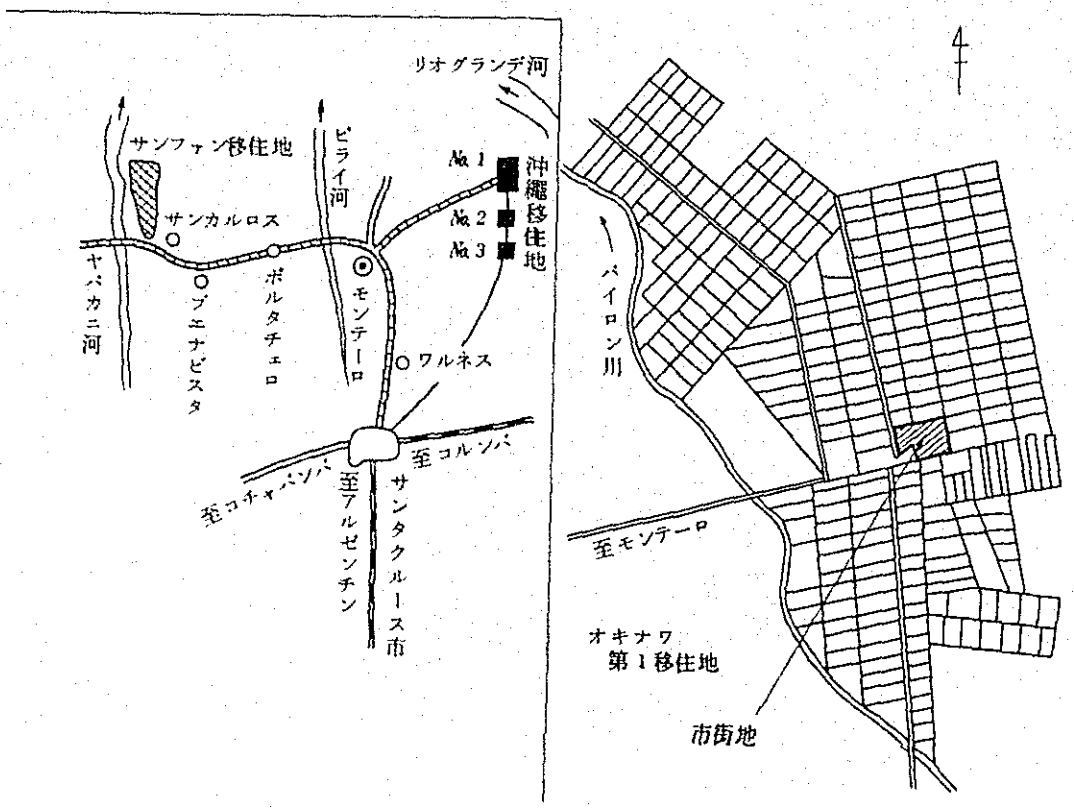
主作目	綿，大豆，とうもろこし，牧畜（肉牛），養鶏
営農状況	雨量が少ないという地域の特性を生かし，牧畜及び綿作が営農の基幹作目となっているが，さらに，とうもろこしの自給による，養鶏も盛んである。また，さとうきびは販売権を持つ一部農家で栽培されている。長年に亘り移住地の基幹作目であった陸稲は降雨の不安定性，価格の不安定等から，現在は自家用程度しか栽培されていない。
農機具等の普及状況	脱粒機0.2台，動力噴霧機0.6台，トラック0.2台，トレーラー0.9台，播種機0.4台，トラクター0.7台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ヌエバエスペランサ畜産試験場が担当し，主に基幹作目の試験および指導を行っている。また，必要に応じモンテーロ市近郊にあるボ国側のサーベドラ試験場，並びに当団サンファン試験農場から協力を受けている。
利用金融機関	銀行・事業団

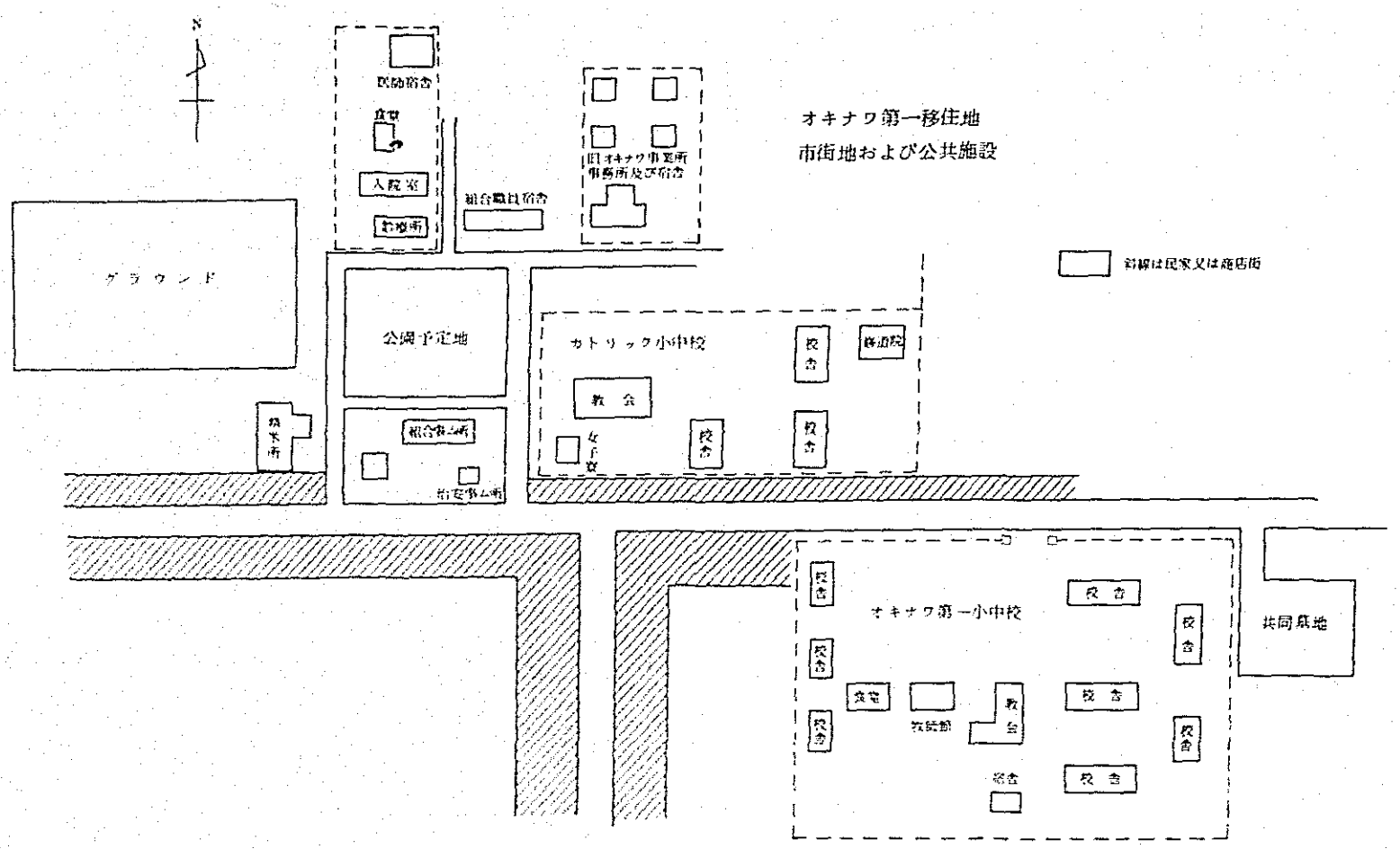
主作物の販売取扱機関並びに主市場	コロニア沖縄農牧総合組合（CAICO） サンタクルース，コチャバンバ，ラ・パス，ブラジル，日本，他（綿）
農家所得 （一戸当り平均昭和52年度）	2,773千円（180,060 $ b）

4. 組織活動

自治会 農協	一時自治会を結成したが現在は農協に業務を統合し解散した。 「コロニア沖縄第1農業協同組合」（任意）がある。 オキナワ移住地各単協は任意組合であるが，これらを統括した組合即ちコロニア沖縄農牧統合協同組合（略称CAICO）（法定組合）がある。 主なる業務は， 1. 繰綿工場の運営 2. 農産物の購販売 3. 診療所の運営 従って各移住地の単協は，CAICOの支所的性格となっている。またオキナワ第1，第2，第3移住地は，農協と自治会の完全分離は行っておらず，農協内に専属職員を配置し，行政問題を処理しているが，三移住地を統合したオキナワ移住地自治体が53年度に発足の予定となっている。

5. 地 区 略 図


リオグランデ河
サンファン移住地
ビライ河
No 1
沖縄移住地
No 2
No 3
サンカルロス
ヤバカニ河
ブエナビスタ
ボルタチェロ
モンテーロ
ワルネス
至コルンバ
至コチャバンバ
至アルゼンチン
サンタクルース市
バイロン川
至モンテーロ
オキナワ
第1移住地
市街地


オキナワ第一移住地
市街地および公共施設
N
医師宿舎
食堂
入院室
診療所
組合職員宿舎
旧オキナワ事業所
事務所及び宿舎
グラウンド
公園予定地
組合事務所
治安事務所
カトリック小中校
教会
校舎
普通校
オキナワ第一小中校
食堂
教師館
教会
宿舎
共同墓地

移住地名　オキナワ第2移住地

所在地	所在地	サンタクルース州ワルネス郡ヌエバエスペランサ村 CANTON NUEVA ESPERANZA, PROVINCIA WARNES, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者	事業団・昭和42年7月以降（1967・7月以降）
	入植開始年度	昭和34年（1959年）

経緯	経緯	オキナワ第1移住地参照 昭和34年，ボ国移民受入委員の活躍により沖縄からの移住者受入地として，ボ国政府より土地の払下げを受けた移住地である。入植は，昭和34年第1移住地からの転住者を第1陣として，今日まで181世帯が入植したが現在は73世帯が定着している。 従来，陸稲を主体とし，飼料作目のトウモロコシを間作または裏作とした営農が続けられてきたが，昭和47年度から綿作栽培が始まった。現在は養鶏，牧畜，さらに雑作（大豆，とうもろこし）栽培も盛んである。 これと併行して同年第2移住地に繰綿工場が建設され，3月操業が開始された。

自然条件	位置	W62°55′　S17°20′
	地形	リオグランデ河およびパイロン河にはさまれた平坦地 標高319～348 m。
	地質・土壌	リオグランデ川沖積層，植土約25％，植壌土・微砂壌土約50％，砂質・砂壌土約25％，PH5.5～6.5。
	植生・林相	一般にブランキリョ・サパイモーシ，コモモシ，パーロサント，カリカリが多く樹高10～15 mであるが，低湿地帯では矮性化しており樹高5～10 mと低い。草はクラパター（野性パイナップル）ウンギーリョ（ガマの木）が多い。 一般地には，森林地に多肉植物，再生林に禾本科植物が多く植生している。
	気候	雨期10～3月，乾期4～9月，気温平均最高30.4℃，平均19.2℃，平均年間降雨量966 mm

	交通	サンタ・クルース市よりメノニータ経由で62 km，盛土道路および砂利舗装で所要時間約1時30分

社会条件	市場	また，オキナワ第1移住地経由で116 km，サンタクルース市に通じることも出来る。オキナワ第1移住地同様，サンタクルース市が最も近い市場であり主な販売市場となっている。
	近傍主要都市	サンタクルース市人口25万，陸路62 km
	医療・教育	移住地内に中央診療所があり，日本医師が診療を担当している。手術および入院は可能であり余程の重症でない限りサンタクルース市の病院に行く必要はない。 救急車1台配属されている。 学校は，ヌエバ・エスペランサ小中学校があり生徒は自転車またはスクールバスで通学している。高校生は，第1移住地と同じ。
	治安	オキナワ第1移住地同様，ボ国警察官（署長1，兵1）が常駐し，移住地内外の治安に当っている。治安事務所があり施設は完備している。事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。

2. 入植状況

入植戸数と人員はオキナワ第1移住地参照

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率（%）	70	16	4	0	10

主なる出身県名	沖縄	新潟	長崎	神奈川			合計
現戸数	70	1	1	1			73

総面積	16,744 ha			
ロッテ面積	50 ha			
分譲条件および価格	無償。現在は時価により売買されている。			
分譲可能面積	16,171 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	14,944 ha	1,227 ha	573 ha	0
地権取得	取得済290ロッテ			
電気：飲料水	電気は導入されていないが，第1移住地と同様工事中である。 飲料水はオキナワ第1と同様である。			

地区内道路	移住地内の幹線は砂利舗装，支線は盛土道である。
主なる事業団援護	
施設	小中学校2，管理用宿舎1，医師宿舎2，教師宿舎2，治安事務所1
車輌	救急車1，スクールバス1，オートバイ1
組合等所有 施設	診療所1，組合事務所及び売店1，製材所1
車輌	グレーダー1台
CAICO 所有	繰綿工場（直営工場） ジープ1台，コンプレッサー1台，トラクター1台，小型トラック1台

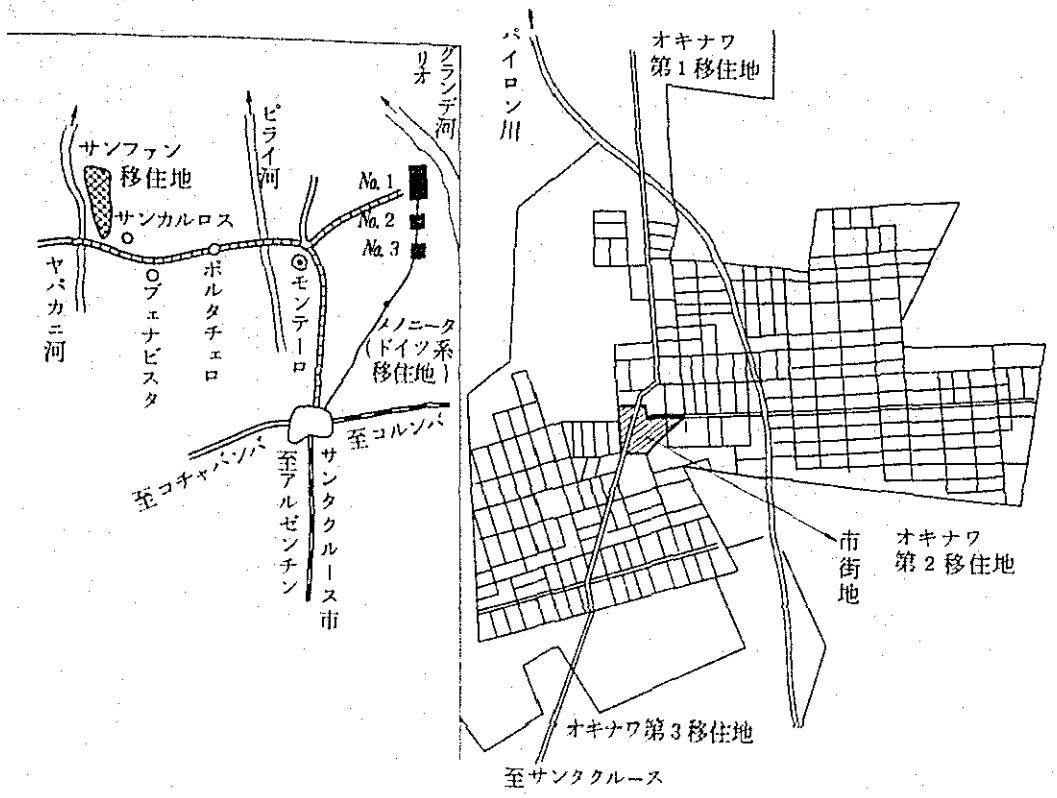
3. 営農

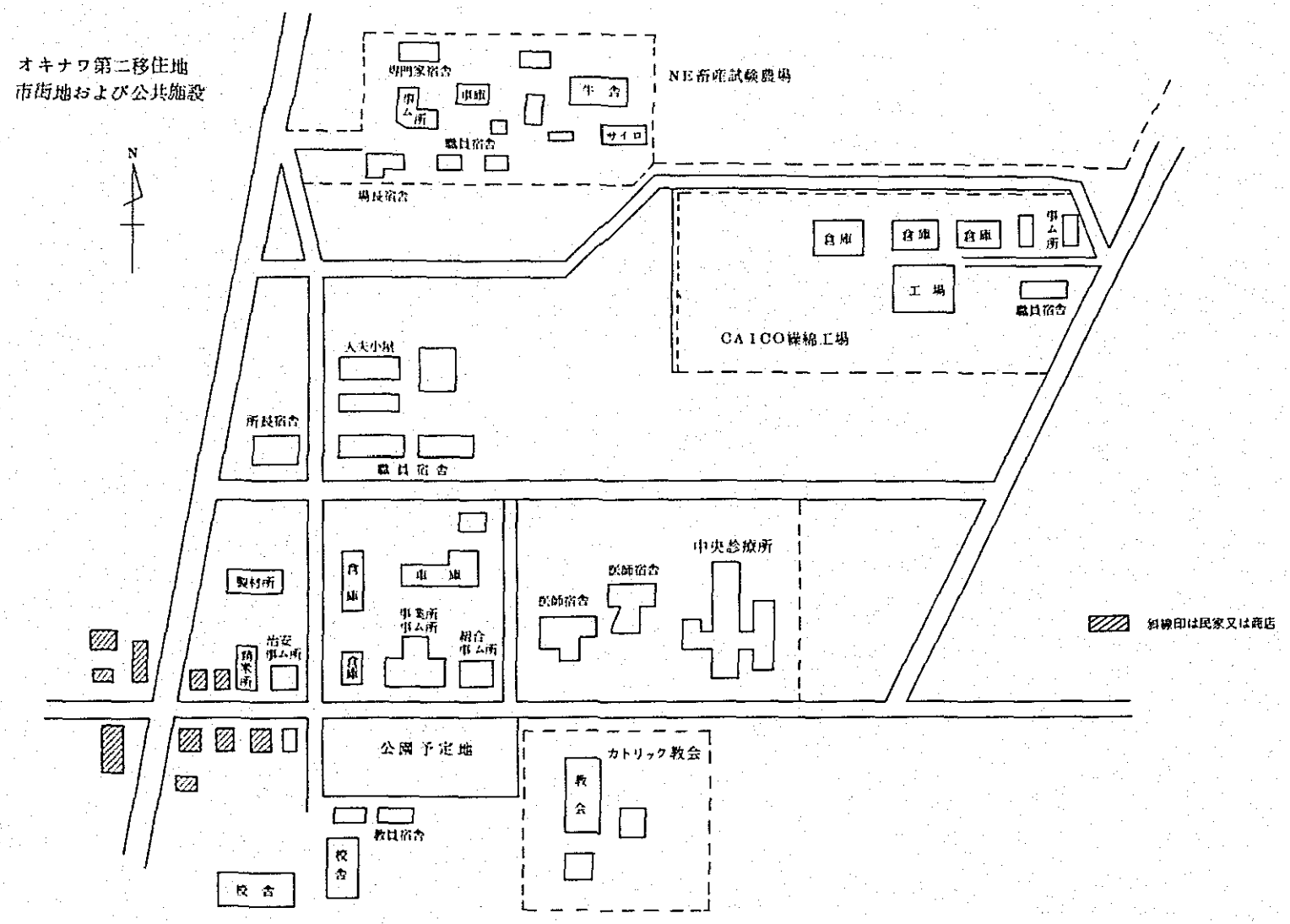
主作目	牧畜（肉牛），養鶏，雑作（トウモロコシ，大豆），棉。
営農状況	現在，養鶏，牧畜が営農の基幹となっており，自給飼料用を兼ね雑作も盛んである。 棉作は未だ比重が少ない。
農機具等の普及状況	トラクター0.3台，トラック0.1台，トレーラ0.3台，エンジン0.6台 （昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	オキナワ第1移住地と同じ。
利用金融機関	銀行，事業団。
主作物の販売取扱機関並びに市場	オキナワ第1移住地と同じ。
農家所得 （1戸当り平均昭和52年度）	1,378千円（89,489 $ b）

4. 組織活動

自治会	なし，農協が代行している。
農協	「第2コロニヤ沖縄農業協同組合」（任意）がある。 その他，オキナワ第1と同じ。

5. 地 区 略 図


サンファン
移住地
サンカルロス
ヤバカニ河
ブェナビスタ
ポルタチェロ
ピライ河
モンテーロ
クランデ河
リオ
No. 1
No. 2
No. 3
メノニータ
(ドイツ系
移住地)
至コルソバ
至コチャバンバ
至アルゼンチン
サンタクルース市
パイロン川
オキナワ
第1移住地
市街地
オキナワ
第2移住地
オキナワ第3移住地
至サンタクルース


オキナワ第二移住地
市街地および公共施設
N
NE畜産試験農場
専門家宿舎
事ム所
車庫
牛舎
サイロ
職員宿舎
場長宿舎
倉庫
倉庫
倉庫
事ム所
工場
職員宿舎
CAICO綿工場
人夫小屋
所長宿舎
職員宿舎
製材所
倉庫
車庫
事業所
事ム所
倉庫
組合
事ム所
治安
事ム所
病院
医師宿舎
医師宿舎
中央診療所
斜線印は民家又は商店
公園予定地
カトリック教会
教会
教員宿舎
校舎
校舎

移住地名　オキナワ第3移住地

所在地	所在地	サンタクルース州ワルネス郡モンテクリスト村 CANTON MONTE CRISTO, PROVINCIA WARNES, DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者	事業団，昭和42年7月以降（1967．7以降）
	入植開始年度	昭和37年（1962年）

経緯	経緯	オキナワ第1移住地参照。 オキナワ第2移住地に引続いて，昭和35年にボ国政府より払下げを受けた移住地である。入植は昭和37年から始まり，今日までに131世帯が入植した現在は45世帯となっている。 この移住地の営業はオキナワ第1及び第2移住地とほぼ同様である。

自然条件	位置	W 62° 55′　S 17° 31′
	地形	リオクランデ河およびパイロン川にはさまれた平坦地。 標高332～384 m
	地質・土壌	リオグランデ川沖積層，植土，植壌土約80％，壌土，砂質壌土砂質土約20％，PH 5.5～6.5
	植生・林相	クルパウ，タヒーボ，モラーウ，クータ，クセー，イチトリキ，ワヤカン，ブランキリョが多く樹高10～15 m。低湿地または湿地には草性ガラパター，アロシーリヨが目立つ。 森林，再生林はオキナワ第1，第2と大差はない。
	気候	雨期10～3月，乾期4～9月，気温はほぼ第2移住地と同様，平均年間降雨量960 mm

社会条件	交通	サンタクルース市よりメノニータ経由で44 km，盛土道路で所要時間約1時間。
	市場	オキナワ第1，第2移住地同様，サンタクルース市が最も近い市場であり，主な販売市場となっている。
	近傍主要都市	サンタクルース市人口25万，陸路44 km
	医療・教育	移住地内に第3分院があり第2移住地の中央診療所が管轄しており日本医師が中央診療所より回診している。 学校は，第2移住地の小中学校にスクール，バスで通学している。高校生は第1と同じ。

社会条件	治安	オキナワ第1，第2移住地と同様ボ国警察官（署長1，兵1）が常駐し移住地周辺の治安に当っている。 治安事務所があり施設は完備している。 事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。

2. 入植状況

入植戸数と人員はオキナワ第1移住地参照

退耕者の主たる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率（%）	31	33	3	13	22

主なる出身県名	沖縄						合計
現戸数	45						45

総面積	8,333 ha			
ロッテ面積	50 ha			
分譲条件および価格	無償。現在は時価で売買されている。			
分譲可能面積	3,129 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	8,129 ha	ha	204 ha	ha
地権取得	取得済 118 ロッテ			
電気：飲料水	電気は導入されていないが，第1移住地と同様工事中である。 飲料水はオキナワ第1，第2と同様である。			
地区内道路	移住地内の幹線は砂利舗装であるが，支線は盛土道である。			
主なる事業団援護施設	移住者宿泊所1，教師宿舎1，治安事務所1			
車輌	オートバイ1台			
組合等所有施設	組合事務所及び売店1，小学校1，製材所1，診療所1			
車輌	小型トラック1台			
その他				

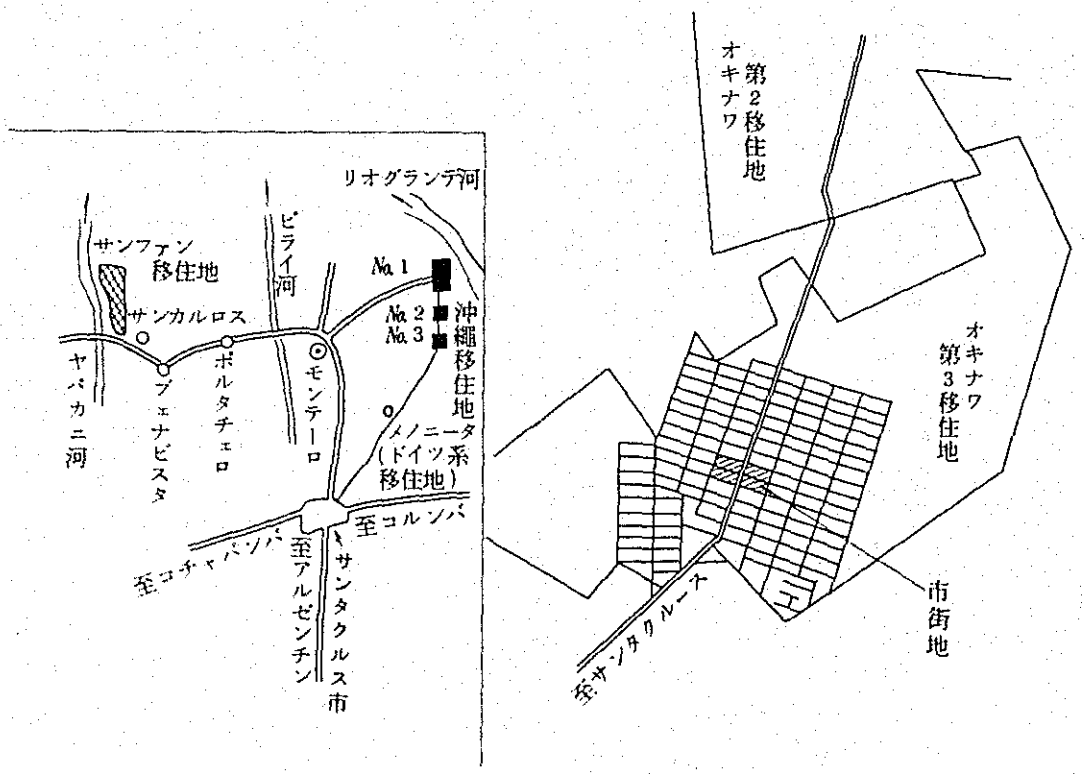
3. 営　　農

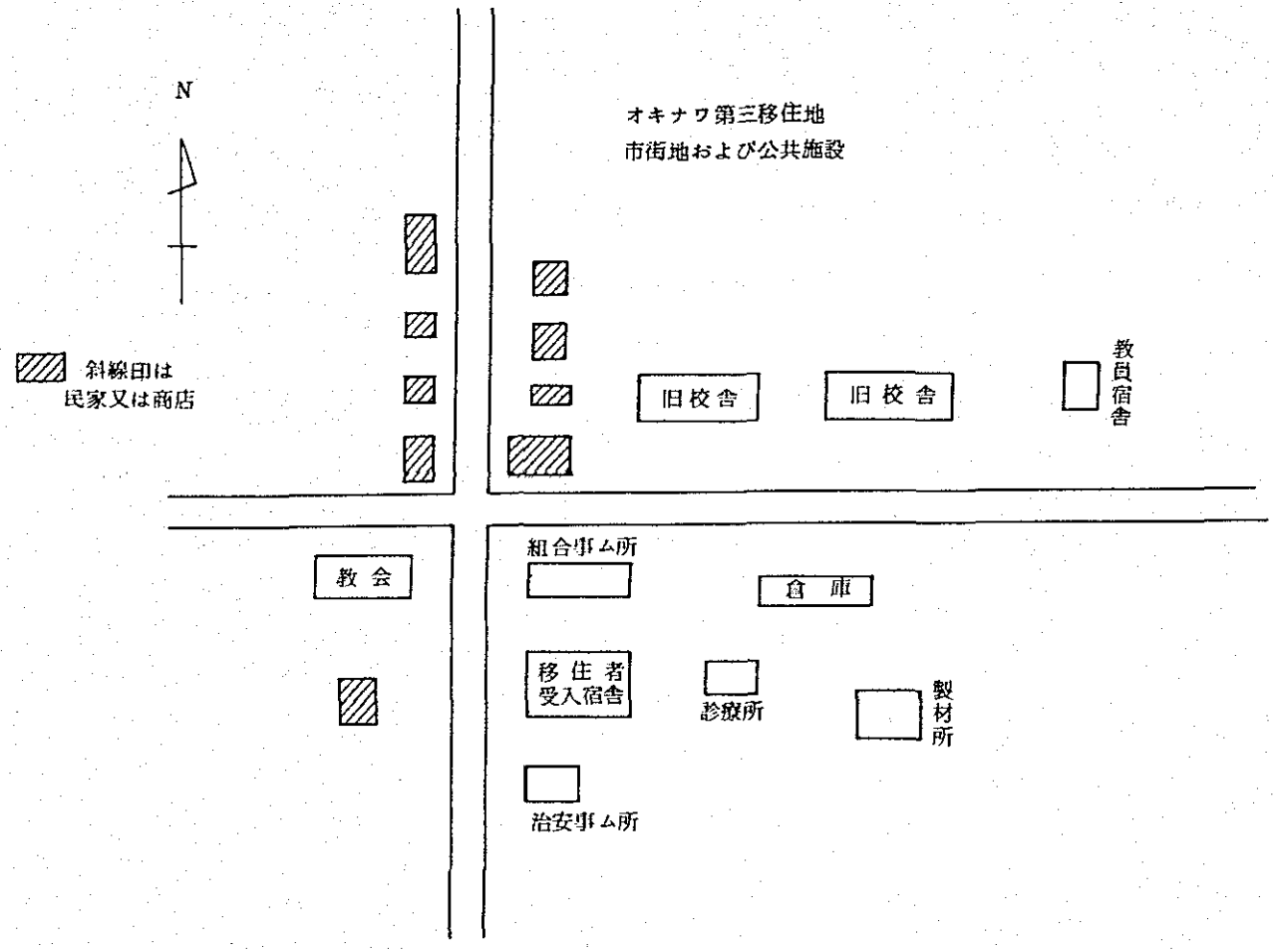
主作目 営農状況	棉，雑作（大豆，トウモロコシ），牧畜，養豚，養鶏，さとうきび 雨量が少ないという地域の特性を生かし，牧畜および棉作，雑作が営農の基幹作目となっている。さらに，とうもろこしの自給による養豚，養鶏も盛んである。また販売権を持っている一部農家ではさとうきび栽培が行われている。
農機具等の普及状況	トラクター0.5台，トラック0.2台，トレーラー0.7台，揚水ポンプ0.7台，薬剤散布機0.5台（昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	ヌエバエスペランサ畜産試験農場が担当し，主に基幹作目の試験および指導を行っている。また必要に応じモンテーロ市近郊にあるボ国側のサドベラ試験場並びに当団サンファン試験農場から協力を受けている。
利用金融機関	銀行，事業団
主作物の販売取扱機関並びに市場	コロニア沖縄牧総合協同組合（CAICO），サンタクルース，コチャバンバ，ラ・パス，ブラジル，日本，他（綿）
農家所得 （1戸当り平均昭和52年度）	1,924千円（124,908 $ b）

4. 組織活動

自治会	なし，農協が代行している。
農協	「第3コロニヤ沖縄農業協同組合」（任意）がある。 その他オキナワ第1と同じ。

5. 地 区 略 図


リオグランデ河
サンファン
移住地
ビライ河
No 1
No 2
No 3
沖縄移住地
サンカルロス
ヤバカニ河
ブェナビスタ
ポルタチェロ
モンテーロ
メノニータ
(ドイツ系
移住地)
至コルソバ
至コチャバンバ
至アルゼンチン
サンタクルス市
第2移住地
オキナワ
オキナワ
第3移住地
市街地
至サンタクルース


N
オキナワ第三移住地
市街地および公共施設
斜線印は
民家又は商店
旧校舎
旧校舎
教員宿舎
教会
組合事ム所
倉庫
移住者
受入宿舎
診療所
製材所
治安事ム所

〔政　　治〕

ラファル・レオニダス・トルヒーリョ将軍が1930年（昭和5年）に大統領に推挙されて以来32年にわたる独裁政治は，半植民地的地位にあったこの国に一応近代国家としての体系を築き上げた。その反面，独裁者共通の独断専行，反対派の徹底的弾圧，警察国家として民衆の抑圧，強権政治をおこなったので国内に不満が高まり，しばしば反政府運動が醸成された。加えて，1935年（昭和10年）6月，ベネズエラ大統領暗殺未遂事件がからみＯＡＳ（米州機構）20ケ国からド国に対し経済封鎖が行われ，更に，1961年（昭和36年）5月には日本人導入の提唱者であったトルヒーリョ将軍暗殺事件が勃発し，彼の死後，政情の混乱を招いたが，このような重大な事態を収拾すべき指導者に恵れず，政局は混乱した。これが「ドミニカ革命」であり遠くはトルヒーリョ独裁の余影による政治的・社会的混乱から発した特権階級と自由職業，農民労働大衆との対決が原因であった。

その後，米軍の介入，米州機構平和軍の創設とその駐留などの紆余曲折の後，事態を終結せしめるための妥協が成立し，臨時大統領としてガルシア・ゴドイが就任し，ドミニカの内乱に終止符を打つこととなった。しかし，左右勢力の対立による政情不安は依然として続き，米州平和軍の存在により内乱の再発を避け，1966年（昭和41年）6月に大統領選挙を施行し，中道右派のバラゲールが当選し，同年7月立憲大統領が就任した。1974年（昭和49年）5月16日に行われた大統領選挙にも出馬し，三選を達成した。

その後，本年（７８年）5月に総選挙が行われ大方の予想を裏切って野党のドミニカ革命党（ＰＲＤ）が勝利を収め，アントニオ・グスマン党首が大統領に選ばれた。8月16日正式に就任した同大統領は，私有財産の保護，外国投資の奨励，憲法で保証された権利を守る法廷の開設，人権の尊重などを掲げている。

ドミニカは，三権分立主義に基いた共和国である。議会は2院制で上院は各県及び首都圏より各1名，下院は住民5万人につき1名である。政党は8党が公認されている。

〔経　　済〕

ドミニカ経済は，トルヒーリョ独裁政権の崩壊後，同国をめぐる不安定な政治情勢や主要輸出産品である砂糖の世界市場価格が落ちこんだためもあり停滞を続け，内乱発生前の1963.64年（昭和38.39年）の平均経済成長率は5.8％であった。1965年（昭和40年）4月の内乱発生により1億ドル以上の物的損失を被り，1965・66年（昭和40・41年）の2年間の経済成長率は全くストップしたが，米国の経済援助を受け一応危機を脱した。その後，干ばつのためもあり農業生産は振わず，経済成長率は年々2％の停滞を続けた。1969年（昭和44年）に農産物，特に砂糖の大増産で国内総生産は12.2％増となり，その後も平均9.8％の成長を続けた。1974年における国民総生産は3,791百万ドルで，経済成長率は5.4％を達成している。同国では，人口の半分は農業人口であり，輸出総額7,161百万ドル中砂糖，コーヒーだけで376百万ドルを占める（1976年実績）近年，生産が著しく増加しているのはタバコであり，新しい品種と栽培方法が導入され，また，ピーナッツ・とうもろこし・トマト・米の生産も増加している。気候風土は牧畜に適しており，牧牛も盛んである。製造工業については，初期の軽工業の域を脱していない。しかし，何といっても，この国の重要産業は製糖業である。

〔社　　会〕

面積は5万5,600㎢，人口は484万である。公用語はスペイン語で，国民の大部分がカトリック教徒である。スペイン文化の影響は，次第に薄れ，アメリカ文明の強い影響を受けており，人種的には白人と黒人の混血が

大半を占め，人種差別は余り見受けられない。人口は都会に集中している。政府は文盲撲滅・職業専門教育に力を入れており，義務教育は日本式の小学校が6年，中学校が2年である。高等学校は4年でそれから大学に進むことになっている。首都以外の地方では，施設のみならず教員の質と数が不足している。芸術一般についてスペイン文化が根底になっているが，上層階級は米国生活様式をとり入れ，下層階級は米国映画・TVの影響でアメリカ化が促進されている。文学的には，目立ったものは見当たらない。国民はスペイン気質，アフリカ的性質，アメリカ化が混ざり合わさった気質を加味している。

※注　親日家であったトルヒーリョ将軍の死に伴い，移住者の間にも動揺を来たし，遂に集団帰国，他国への転住となった。これが，所謂ドミニカ集団転住である。日本政府はこれらの転住者に特別救済措置をとることにより，事態の収拾を図った。この結果，帰国者は自費帰国者を含め133家族672名，南米転住者70家族377名，ドミニカ残留者は276名となった。

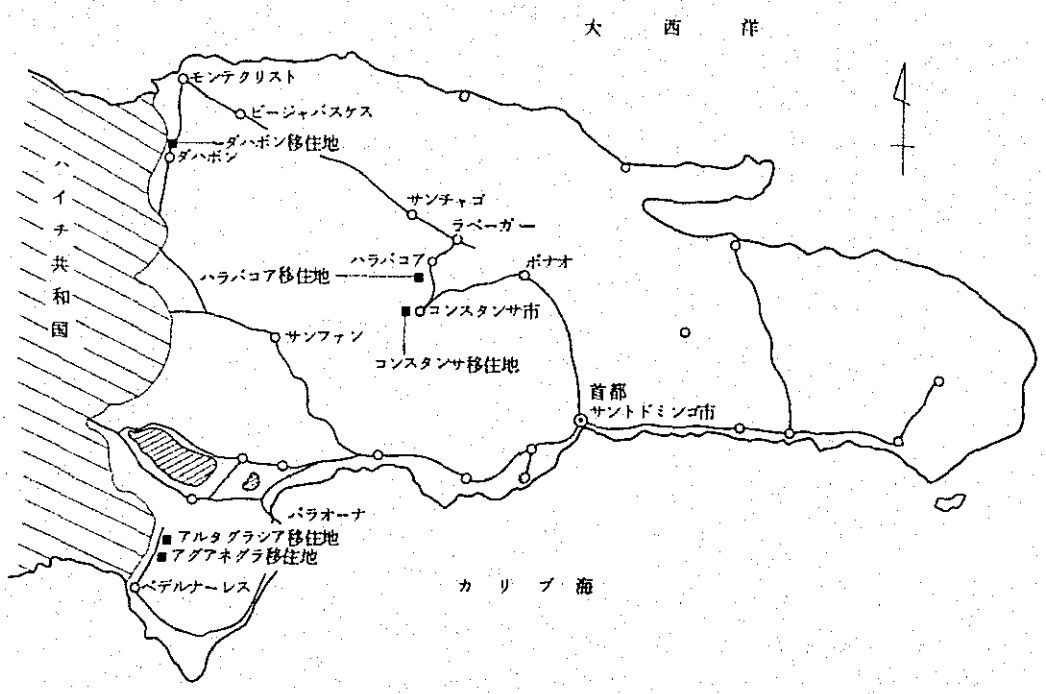
サント・ドミンゴ支部管内

支部機構

サント・ドミンゴ支部（サント・ドミンゴ市）

管　　轄

ドミニカ国全域



移住地名　ダ　ハ　ボ　ン

1 地区概要

所在地	所在地	ダハボン県ラ・ビヒア COLONIA LA VIGIA, DAJABON
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和31年（1956年）

経緯	経緯	国境地帯開発のため創設された国営移住地で，1956年（昭和31年）7月29日，28戸，185名の日本人移住者が，初めて入植した。しかし，募集要項どおりの土地配分がなされなかったこと，灌漑水の絶対量が不足したこと，さらに，動乱等により転出者が続出し，かっては日本人大移住地として，最盛期には58戸が入植したが現在は7戸まで減少している。営農主体は，米作と一部蔬菜の組み合せによる農業を行っているが，毎年水不足に悩まされているため，営農状況は一般に低い方である。

自然条件	位置	′W 71° 40′　N 19° 31′
	地形	一部小丘を除き概ね平坦であるが，南から北へわずかな傾斜をなしている。
	地質・土壌	酸性暗色の埴壌土または埴土であるが，河沿低地帯は肥沃である。
	植生・林相	樹木は繁茂しているが，河沿いより離れるに従い，乾燥地帯特有の幹の細い葉の小さい灌木材となっている。
	気候	最高平均気温（8月頃）28.4℃最低平均気温（1月頃）22℃夏季は相当に暑いが，夜は比較的涼しく凌ぎ易い。平均年間降雨量1,200～1,300㎜1月～3月は乾季で，降雨量は極端に少い。

社会条件	交通	移住地より東方2.5㎞地点に，ダハボン～モンテクリスト間のアスファルト道路があり，移住地からこれらの町へは随時乗合タクシーが連結している。ダハボン市～サントドミンゴ市間（300㎞）には，定期バスが1日2回運行している。
	市場	ダハボン市及びサンチャゴ市が主な市場である。
	近傍主要都市	ダハボン市（人口9,500人），南東6.5㎞，モンテクリスト市（人口10,700人）北北東35㎞。
	医療・教育	地区内には医療施設がないが首都サント・ドミンゴ市は各種医療施設が完備してお

	り，当団特約医をおいている。※（また最近，外務省で大学医学部員を派遣し，移住者の健康相談を実施している。） 学校は，地区に小学校，ダハボン市に小学校，中学校併用の初等校（８年）と高校がある。
治　　安	ダハボン市の警察管下におかれている。

2　入　植　状　況

入植人員（内地）		30	31	32～52	現地入植者	合　計	定着数
戸数	戸　数		58	0	3	61	7
	人　員		338	0	22	360	27

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	パラグァイ国	ドミニカ国内	帰　国	その他
率（%）	13.8	1.7	48.2	36.2	

主なる出身県名	高　知	福　島	山　口	福　岡			合　計
戸　数	2	2	2	1			7

総　面　積	1,200 ha
ロッテ面積	6 ha
分譲条件および価格	無償，土地は入植８年後に無償譲渡
分　譲　状　況	分譲済面積：1,200 ha 未分譲面積： 道路市街地等利用地： 除　地：
地　権　取　得	全戸取得済
電気：飲料水	電気は導入されていない。自家発電機による。飲料水は共同水道、燃料はプロパンガス。
地区内道路	地区内道路は，舗装されていないがきわめて良好。
主なる事業団援護施設	灌漑用深井戸（エンジン，ポンプ付）1
組合等所有施設	野　球　場

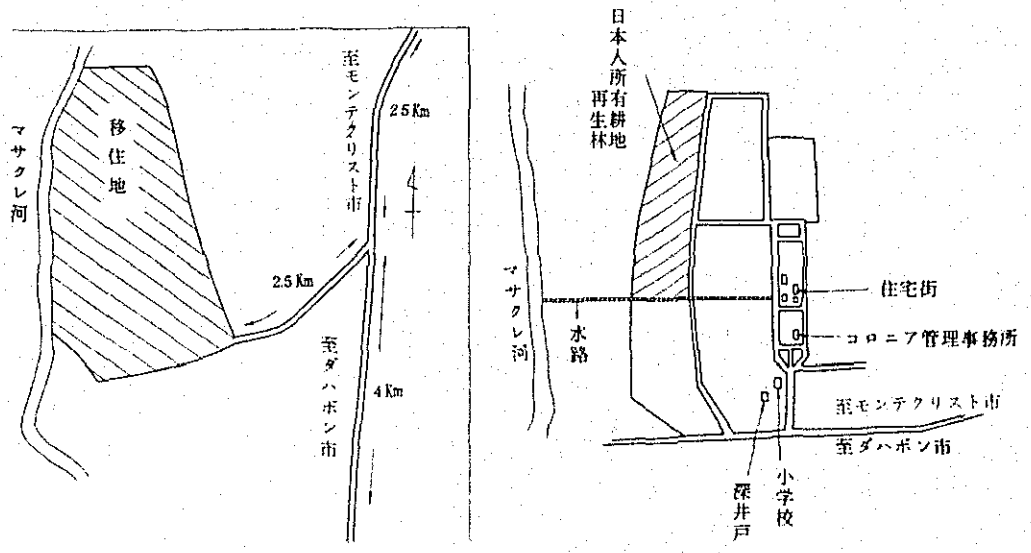
3 営　　農

主　作　目	水稲，蔬菜 水稲2期作が主体で，一部農家において蔬菜葉たばこの作付がおこなわれている。当移住地の営農上の問題は，水稲作付期の水不足であるが，昭和47年度深井戸の試掘がおこなわれ，水量，水質とも良好な結果を得て，水稲作のほか，蔬菜，葉たばこ，牧畜等に営農の転換をはかりつつある。昭和52年度の調査によれば，一農家平均耕作面積水田13.3 ha，畑0.3 ha，樹園地1.9 ha，放牧地2.5 ha農業粗収入は6,008千円である。農業依存度23％，農家1戸当り家族労働人数2.7人
農機具等の普及状況	精米機0.3台，トラクター0.1台，発動機0.3台，乗用車0.4台，耕転機1.4台，トラック0.9台，揚水ポンプ0.13台 （昭和52年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部
利用金融機関	銀　行
主作物の販売取扱機関並に主市場	ドミニカ食糧公団，民間精米所への個人売渡し。 蔬菜は地元ダハボン市及びサンチャゴ市。
農家所得（一戸当り平均昭和52年度）	1,447千円（4,699 RD$）

4 組織活動

自治会	ダハボン日本人会を結成している。
農協	昭和49年灌漑用深井戸管理にあたる水利組合が結成された。

5 地区略図



移住地名　コンスタンサ

1 地区概要

所在地	所在地	ラ・ベーガ県コンスタンサ COLONIA JAPONESA CONSTANZA, LA VEGA
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和31年（1956年）

経緯	経緯	昭和31年に初めて日本人移住者17家族120名が入植したが，それ以前には，スペインからの移住者も入植している。当地は蔬菜を充足するため設定した蔬菜園芸移住地で，最初の土地配分が狭少のため転住者を募って土地を確保し，土地問題は解決したが，ハラバコア移住地が蔬菜をつくることによって生産過剰となり，また連作による地力消耗ならびに投機的作付によって行き詰まり，トルヒーリヨ将軍暗殺後，帰国ならびに南米転住者が続出した。現在の入植戸数は11戸となっている。高原蔬菜栽培の適地を生かした集約型農業の営農収支は比較的良好で，投機的ニンニク作のみで高値をねらう農業もなくなり，また一昨年から北米ニューヨーク向輸出が順調に推移し，近年徐々に営農基盤を築きつつある。

自然条件	位置	W 70° 40′　N 18° 55′
	地形	この国の中央部セントラル山脈内のコンスタンサ盆地にあり，標高 1,200 m の高原地帯である。
	地質・土壌	土壌は黒色又は黒褐色の埴土で酸性である。
	植生・林相	樹木は松が一般に多いが乱伐が激しく，減少の一途をたどっている。
	気候	年間平均 20 度前後で風光明媚の景勝の地である。 気温最高平均 25.8 ℃，最低平均 10.9 ℃，年平均 18.3 ℃ 雨期 5～10 月，乾期 11 月～4 月，年間平均降雨量 1,060 mm

社会条件	交通	乗合タクシーが一般の交通機関となっており，ラ・ベーガ～サントドミンゴ間は乗合バスが数多く運行している。
	市場	トラック輸送でラ・ベーガ，サンチャゴ，サントドミンゴの各市場に出荷している。またスーパーマーケットに直接販売する大手生産者もいる。輸出用サヤエンドウは，ニューヨーク中国料理用として，輸出業者へ出荷している。
	近傍主要都市	ハラバコア市人口 11,000 人，北東 43 km，サンチャゴ市人口 241,000 人，北 92 km，ラ・ベーガ市人口 45,000 人，北東 48 km，サント・ドミンゴ市人口 110 万人，南東 140 km
	医療・教育	地区内に医療施設はない。地区外のコンスタンサ市には公立病院 1，公立保健所 1，私立病院 2 がある。 地区内に学校はないがコンスタンサ市に小学校，中学校併用の初等校と高校(夜間)がある。
	治安	コンスタンサ市の警察管下におかれている。

2 入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数		29	1		5	0	13	48	11
	人員		188	7		25	0	62	282	53

昭和 53 年 3 月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	ボリビア国内	ドミニカ国内	帰国	その他
率(%)	22.6	6.5	25.8	41.9	3.2

主なる出身県名	鹿児島	山口	福岡						合計
戸数	7	3	1						11

総面積	900 ha
ロッテ面積	5 ha
分譲条件および価格	無償，土地は入植10年後無償譲渡
分譲状況	分譲済面積 900 ha / 未分譲面積 / 道路市街地等利用地 / 除地
地権取得	取得 6名，未申請 5名
電気：飲料水	全戸都市電気でありTV，ラジオ，電気冷蔵庫等をおいている。燃料はプロパンガス。飲料水は都市水道である。
地区内道路	幹線は住宅地区まで完全舗装されており，地区内道路は舗装されていないが雨天の際も途絶することなく良好である。
主なる事業団援護施設	なし
組合等所有施設	なし

3 営農

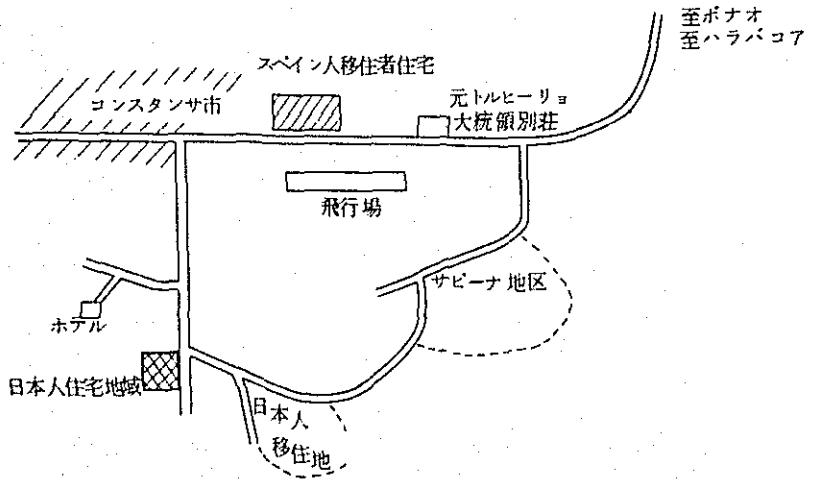
主作目	トマト，ニンニク，玉ねぎ，馬鈴薯，キャベツ，サヤエンドウ等の蔬菜類
営農状況	標高1,200 mの高原地帯で蔬菜栽培の適地であるため蔬菜集約型農家の営農収支は良好である。またバラ，菊，カーネーション等の花卉栽培専門の入植者もおり，経営は安定している。 昭和52年度の調査によれば，一農家平均耕作畑面積は5.2 ha，農業粗収入16,590千円，農業依存度は100％，農家1戸当り家族労働人数3.5人
農機具等の普及状況	トラクター0.5台，耕耘機0.8台，動力噴霧機1.1台，トラック1.1台，乗用車0.4台，揚水ポンプ1.0台 （昭和52年度農家調査）
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並びに主市場	業者に直売と，市場へ個人出荷，サント・ドミンゴ市のスーパーマーケットへの直売の3つがある。

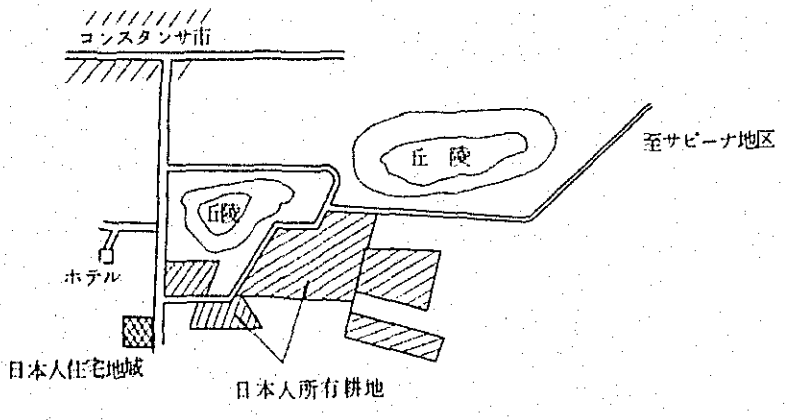
農家所得（一戸当り平均）（昭和52年度）	5,659千円（18,372 RD $）

4 組織活動

自治会	コンスタンサ日本人会を結成している。
農協	なし

5 地区略図





移住地名　ハ　ラ　バ　コ　ア

1　地区概要

所在地	所在地	ラ・ベーガ県 COLONIA JAPONESA JARABACOA, LA VEGA
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和32年

経緯	経緯	中央セントラル山脈内のハラバコア盆地に位置し，気候にめぐまれ交通の便もよい。1957年（昭和32年）コンスタンサ移住地より転住者13戸により入植が初まった。野菜指定移住地でトマト，ナスを主作とし，気候が良い理由で転入者は多く一時は86家族までとなったが，市場の伸び悩みと水路の完成によって水稲が栽培されるようになり，当初の蔬菜移住地は水稲移住地に変ぼうした。 ここでも過剰入植と動乱から転出者が続出，現在は14戸となっている。営農状況は水稲（2期作）を中心とした一部蔬菜作で徐々に向上している。

自然条件	位置	W 70° 38′　N 19° 07′
	地形	セントラル山脈内の標高600～700 mの谷間の台地で傾斜が多い。
	地質・土壌	表土40～50 cmで黒褐色の壌土または埴壌土で酸性。 石灰岩質の礫が多く含まれている所もある。
	植生・林相	本地区周辺は，樹高20 m以上の木からなる森林地帯であり，椰子類が多く含まれている。
	気候	雨期5～10月，乾期11～4月，年間平均降雨量1,456 mmで年間平均しているが特に5月が最も多い。 最高気温29.3 ℃，最低平均16.3 ℃，年平均22.8 ℃

社会条件	交通	国土の中央に位置し，各主要都市に最も近く交通も至便である。 移住地は首都サント・ドミンゴ市北西155 km，サンチャゴ市南々東49 km，ラ・ベーガ市北西29 km地点にあり，当地区はハラバコア市の南0.5 kmの町はずれに在る。ハラバコア市は最近，特に避暑別荘地として急速に開発が進められている。
	市場	ドミニカ食糧公団，民間精米所への個人売渡し。蔬菜はサンチャゴ市，サント・ドミンゴ市

社会条件	近傍主要都市	サント・ドミンゴ市人口110万人，南東155km，サンチャゴ市人口24.1万人，北々西49km，ラ・ベーガ市人口4.5万人，南東29km，ハラバコア市人口1.1万人，北0.5km
	医療・教育	地区内に医療施設はない。隣接のハラバコア市には公立病院1，私立病院2がある。またハラバコア市には，小学校・中学校併用の初等校と高校がある。移住者子弟のために日本語学校も開かれている。
	治安	ハラバコア市の警察管下におかれている。

2 入植状況

入植人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41～52	現地入植者	合計	定着数
戸数	戸数			13	3								0	70	86	14
	人員			68	17	2				2		1	0	333	423	54

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	パラグァイ国	アルゼンチン国	帰国	その他
率（%）	14.3	28.6		57.1	

主なる出身県名	鹿児島	福島	熊本	徳島	その他	合計
戸数	4	3	2	2	3	14

総面積	470 ha
ロッテ面積	4.6 ha
分譲条件および価格	無償，土地は入植10年後無償譲渡
分譲状況	分譲済面積：470 ha／未分譲面積：／道路市街地等利用地：／除地：
地権取得	取得7名，申請中3名，
電気・飲料水	全戸都市電気であり，TV，ラジオ・冷蔵庫等を所有している。飲料水は都市水道を利用し，燃料は各戸プロパンガスを使用している。
地区内道路	地区内道路は舗装されていないが，雨天の際も途絶することなく通行は可能である。
主なる事業団援護施設	なし
車輌	トラクター1，トラック1

機　　材	揚水ポンプ1，発動機1，カッター1
組合等所有施設	な　し
車輌機材等	な　し

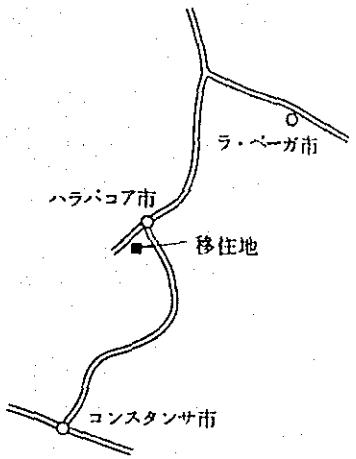
3 営　　農

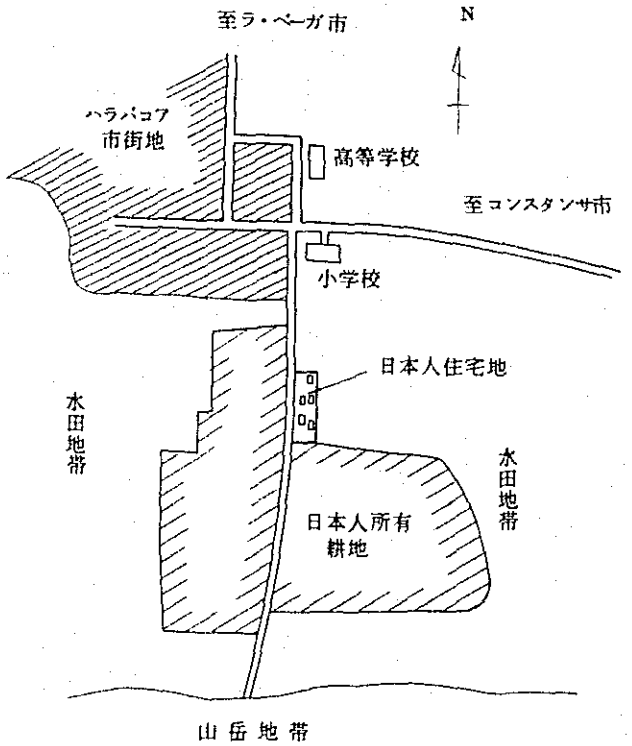
主　作　目	水稲，蔬菜
営農状況	水稲（2期作）を中心として，農家によって一部蔬菜の作付が見られ，漸次多角経営化しつつある。昭和52年調査によれば，農家平均作付面積，水田7.1ha，畑1.6ha，農業粗収入は7,197千円である。農業依存度85％農家1戸当り家族労働人数2.9人
農機具等の普及状況	トラック0.6台，耕耘機2.7台，精米機0.6台，動噴機1.6台 （昭和52年度・農家調査）
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部
利用金融機関	銀　行
主作物の販売取扱機関並に主市場	ドミニカ食糧公団への出荷，民間精米所への個人販売，蔬菜は庭先販売 サンティアゴ，サント・ドミンゴ市場へ出荷
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,701千円（8,769 RD$）

4 組織活動

自治会	ハラバコア日本人会を結成しておりまとまりが良い。
農　協	ハラバコア日本人農業協同組合を設立し，共同乾燥場（籾，コーヒーの乾燥及び販売）を運営している。

5 地 区 略 図





移住地名　　アグアネグラ（アルタグラシアを含む）

1 地 区 概 要

所在地	所　在　地	ペデルナーレス県アグアネグラ　同アルタグラシア COLONIA AGUAS NEGRAS, PEDERNALES COLONIA LA ALTAGRACIA, PEDERNALES
	管　理　者	ドミニカ政府
	入植開始年度	昭和33年

経緯	経緯	本移住地は，この国の最西南のハイチとの国境にあり，コーヒー栽培移住地に指定され，1958年（昭和33年）5月28日と同年6月26日の2回に亘り，コーヒー栽培の目的で入植した。同地区は早くからハイチ人，ドミニカ人によってコーヒーが栽培されていた。コーヒー栽培は山岳地帯が主であるため，土地は1戸当り200タレアの配分であるが，僻地かつ立地条件が劣り急傾斜，岩石が多いことからも成果を上げないうちに大量の帰国移住者を出した。 現在残る2家族は，これら転出者の農地を買い増して大規模にコーヒー栽培を行っており，今日なお新植をつづけている。

自然条件	位置	W 71° 42′　N 18° 08′
	地形	標高6～700 mに位置して，平坦地は殆んどなく，雨期は急流の通路となる。
	地質・土壌	黒褐色または褐色の埴土および埴壌土で酸性であり，表土は概して浅い。
	植生・林相	
	気候	気温，最高平均29.5℃，最低平均16.4℃，年平均22.9℃ 雨期5～10月，乾期11～4月，年間平均降雨量914 mm

社会条件	交通	移住地より南方30 kmにペデルナーレス市があり，ここよりパラオーナまでは乗合タクシーの便がある。また，サント・ドミンゴ市方面へは，常時乗合タクシーが往復している。
	市場	主に輸出であるが一部国内にも出荷している。
	近傍主要都市	ペデルナーレス市；人口5,300人，南30 km，パラオーナ市；人口37,000人，東160 km，サント・ドミンゴ市；人口110万人，東360 km
	医療・教育	地区内には小学校，ペデルナーレス市には小学校，中学校，高校がある。 地区には医療施設がないが，ペデルナーレス市には国立病院がある。
	治安	ペデルナーレス市警察管下におかれている。

2　入植状況

入植戸数と人員（内地）	年度	30	31	32	33	34	35～52	現地入植者	合計	定着数
	戸数				57		0	5	62	2
	人員				315		0	25	340	6

昭和53年3月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ドミニカ国内	帰国	その他
(%)	23.2	19.6	12.5	41.1	3.6

主なる出身県名	鹿児島	北海道								合計
戸数	1	1								2

分譲条件および価格	無償，土地はアグアネグラ入植10年後，アルタグラシア同8年後に無償譲渡
分譲状況	分譲済面積 116.36 ha / 未分譲面積 / 道路市街地等利用地 / 除地
地権取得	取得2名 （交付済）
電気・飲料水	飲料用として井戸水を使用している。電気は自家発電機による。
地区内道路	道路は概して管理されていない。 ペデルナーレス市からは一部舗装してある。

3 営農

主作目	コーヒー
営農状況	コーヒーの単作営農を行っている。
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部。
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並に主市場	パラウーナ市仲買人との個人取引。
農家所得（一戸当り平均 昭和52年度）	2,400千円（10,000 RD $）推定。

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし